

2005年度

履修要綱

白鷗大学 発達科学部

発達科学科 児童教育専攻
スポーツ健康専攻

2005年度
(平成17年度)
vol.2

2005年度

履修要綱

発達科学部
発達科学科
児童教育専攻
スポーツ健康専攻

I 教育目標

II 教育課程

III 児童教育専攻 履修の規準

IV スポーツ健康専攻 履修の規準

V 教員免許状および
各種資格取得の概要

VI 履修の手続き

VII 試験および成績

VIII 講義内容

児童教育専攻・スポーツ健康専攻

共
I群：外国語科目
II群：教養科目

児童教育専攻

児
III群：基本科目
IV群：専門科目
V群：教育関係科目
実習科目・小学校教職課程科目

スポーツ健康専攻

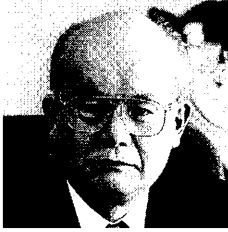
ス
III群：基本科目
IV群：専門科目
V群：教育関係科目
実習科目

索引 教員別科目索引(50音順)

IX 学内配置図

2005(平成17)年度 年間行事予定表

前		期 (4 月 1 日 ~ 9 月 2 5 日)							
		お も な 行 事 予 定							
4 月						1	2	4月 4日(月) } 新生ガイダンス 在学生ガイダンス 健康診断 学生生活・履修相談日 (※詳細は別途お知らせします) 5日(火) 入学式 8日(金) } 新生オリエンテーション(宿泊) 9日(土) } 12日(火) } 13日(水) } 前期授業開始 29日(金) } みどりの日 30日(土) } 全学休業日	
		3	4	5	6	7	8		9
		10	11	12	13	14	15		16
		17	18	19	20	21	22		23
		24	25	26	27	28	29		30
5 月		1	2	3	4	5	6	7	5月 2日(月) 開学記念日振替(休講) 3日(火) 憲法記念日 4日(水) 国民の休日 5日(木) こどもの日 スポーツ大会(未定)
		8	9	10	11	12	13	14	
		15	16	17	18	19	20	21	
		22	23	24	25	26	27	28	
		29	30	31					
6 月				1	2	3	4		
		5	6	7	8	9	10		11
		12	13	14	15	16	17		18
		19	20	21	22	23	24		25
		26	27	28	29	30			
7 月					1	2	7月 18日(月) 海の日 20日(水) 前期授業終了/月曜授業振替日 21日(木) } 補講期間 23日(土) } 25日(月) } 前期定期試験期間		
		3	4	5	6	7		8	9
		10	11	12	13	14		15	16
		17	18	19	20	21		22	23
		24	25	26	27	28		29	30
8 月		1	2	3	4	5	6	8月 6日(土) } 8日(月) 夏期休業開始 8日(月) } 集中講義期間 (※詳細は別途指示します)	
		7	8	9	10	11	12		13
		14	15	16	17	18	19		20
		21	22	23	24	25	26		27
		28	29	30	31				
9 月				1	2	3	9月 19日(月) 敬老の日 23日(金) 秋分の日 24日(土) 夏期休業終了 26日(月) 後期授業開始 24日(土) }		
		4	5	6	7	8		9	10
		11	12	13	14	15		16	17
		18	19	20	21	22		23	24
		25	26	27	28	29		30	



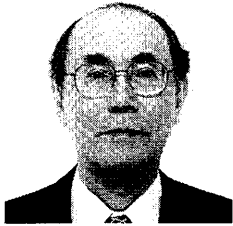
大学とは何をする所か

学長 小山宙丸

諸君は、今青春の真只中にいる。その只中にいる諸君は、その青春の意味をあまり考えないかも知れない。けれども青春は人生の花の時期なのだ。その花の時の中心を形づくるのが、大学時代だ。大学では、高校時代と違って、自分で決めてゆくことが、ぐんと多くなる。これは当然で、社会人になる第一歩なのだ。受身でいてはいけない。大学のうわすみだけをなめて、時間を過ごしてしまうのは、大変残念だ。大学は、諸君がみずから問題を立ててそれに取り組むなら諸君の問題に応じて、いくらでも応えてくれるところなのだ。サークルやスポーツにも全力でぶつかって行って欲しい。大学の諸機関をフルに利用し、時に応じて、青年期の大事な4年間をそこに身をおく大学とは何だろうか、何をするとところだろうかを考えて欲しいのだ。大学時代の大事なことに多くの人が、過ぎてしまっから気づく。花は愛惜に散るのだ。

大きく眼を開くと、現在我々は新世紀の、そして更に新千年紀の初頭に立っている。しかし、その幕開けを迎えたのはニューヨーク、アフガニスタンの悲劇であった。そしてこの問題の原因となったパレスティナは相変わらず混迷を続け、戦争はイラクに拡がり、今やテロは世界に拡がるようとしている。さらに国の内外に天災・地災が次々と起こって、本当に多くの人々を苦しめている。

我々は、国内、国外のこのような情報をキチンと受け止めながら着実に、沈着に自分の勉学を進めていかなければならない。そして十分に力をつけて、一人の自立する社会人となって、諸君の出番を待っている世の中に、あるいは更なる研学に進出して欲しいのだ。



大学時代にこんな力を身につけよう

発達科学部長 馬場 将 光

新入生諸君、入学おめでとうございます。白鷗大学のスタッフの1人として心から歓迎いたします。

諸君の生きる21世紀には世界と日本の社会は大きく変わっていきます。情報化、国際化、人口の急増、貧富の格差の拡大、環境、人の身体と心の健康といったさまざまな問題が問われてきます。諸君はそういった問題1つひとつを慎重にかつ大胆に解決していかなければなりません。そのために、学生諸君にはこんな能力を大学時代に身につけて欲しいと思っています。

1つは、社会人になるための基礎的・基本的な知識・技術を身につけるということです。これはスポーツでいえばどんな種目にも耐える基礎的な体力を身につけるようなものです。

2つは、学習した知識・技術をまとめるあるいはつなげる能力を身につけるということです。これは獲得した断片的な知識をつなぎ1つの図形を描くことに似ています。この図形は固定的なものではなく、知識や経験を積み重ねる間に絶えず変化していくものです。1口でいえば、知識をつなぎ合わせて図形なり物語りを作るようなものです。

3つは、国際化時代に対応して日本語以外になにか1つ外国語の能力を身につけるということです。それからパソコンの使用能力を身につけるということです。今や外国語の能力とパソコン力は自動車免許証と同じくらい重要なものになっています。それなくしては生きていくことができなくなっています。社会が想像以上に大きく変わってきていることに注目する必要があります。

4つは、人はじつに多種多様でありますから、そうした人になにかを教える教師という職業につくためにはマニュアル通りに行動するのではなく、相手の変化に対応できるしなやかな判断力とそれを支える専門的な知識・技術を身につけるということです。1口でいえば、お客の注文と好みに応えてなんの料理でも造れる料理人のようになるということです。

5つは、発達科学部の教育理念である「人の心と身体の健康」を達成できるように日々精進してほしいということです。これは、言うは易しいですが、実行することはなかなかむずかしいものです。まず手始めに規則正しい生活をするところから始めてみてはいかがでしょうか。そしてゆとりがあったら、笑いやユーモアの精神を身につけてほしいと思っています。笑いやユーモアはすばらしい文化なのです。

そして4年後に諸君が本学を卒業する時には、大人社会に十分適応できる自立した1人の人間に成長し、たくましくなっていることを期待しています。そのために本学のスタッフは全員が協力して諸君をサポートしていく覚悟です。

諸君の奮闘を心から期待しています。

目 次

I	教育目標	1
	1. 教育目標	
II	教育課程	5
	1. 単位の計算	
	2. 単位の認定・評価	
	3. 授業科目の区分・性格等	
	4. 履修年次	
	5. 年間最高履修登録単位数	
	6. 進級について	
	7. 修業年限および在学年限	
	8. 卒業要件	
III	児童教育専攻 履修の規準	11
	1. 児童教育専攻 《2004年度以降入学》	
	(1) I群：外国語科目	
	(2) II群：教養科目	
	(3) III群：基本科目	
	(4) IV群：専門科目	
	(5) V群：教育学関係科目	
	(6) 自由選択科目	
	(7) 実習科目および小学校教職課程科目	
	(8) 他大学・他学部・他専攻等履修科目	
	(9) 随意科目	
	(10) 再履修について	
	2. 開設科目・履修年次・卒業要件表（発達科学部発達科学科児童教育専攻）	
	3. 児童教育専攻 卒業・資格別所要単位数	
IV	スポーツ健康専攻 履修の規準	25
	1. スポーツ健康専攻 《2004年度以降入学》	
	(1) I群：外国語科目	
	(2) II群：教養科目	
	(3) III群：基本科目	
	(4) IV群：専門科目	
	(5) V群：教育学関係科目	
	(6) 自由選択科目	
	(7) 実習科目	
	(8) 他大学・他学部・他専攻等履修科目	
	(9) 随意科目	
	(10) 再履修について	

2. 開設科目・履修年次・卒業要件表（発達科学部発達科学科スポーツ健康専攻）
3. スポーツ健康専攻 卒業・資格別所要単位数

V 教育職員免許状および資格の概要 37

1. 教育職員免許状および資格の概要
 - (1) 教育職員免許状（一般的な教員免許状）
 - (2) 保育士資格
 - (3) 社会福祉士受験資格
2. 取得できる教員免許状および資格の種類
3. その他の資格
 - (1) 認定心理士
 - (2) レクリエーション・インストラクター

VI 履修登録の手続き（履修登録および履修確認） 43

履修科目の決定から履修登録まで

1. 履修登録に際しての注意
2. オンライン履修について

VII 試験および成績 49

1. 試験について
2. 成績の評価・発表について
3. 卒業発表

VIII 講義内容 57

- 共（発達科学科共通科目）、Ⅰ群：外国語科目、Ⅱ群：教養科目 62
- 児（児童教育専攻科目）、Ⅲ群：基本科目、Ⅳ群：専門科目、Ⅴ群：教育学関係科目 131
- 実習科目、小学校教職課程科目 211
- ス（スポーツ健康専攻科目）、Ⅲ群：基本科目、Ⅳ群：専門科目、Ⅴ群：教育学関係科目 216
- 実習科目（2005年度開講なし）

索（教員別科目索引 50音順） 279

IX 学内配置図 283

2005（平成17年度）時間割作成表 289

I 教育目標

1. 教育目標

発達科学部は人間の成長、発達にかかる諸課題と、それに深く関わるスポーツ、健康について総合的に学べる履修構成となっている。本学部では次の三点を教育目標としている。

第一は教養と専門知識のバランスを考慮しながら、将来の多様な職業と結びついた、実践的な教育を重点的に行うことである。それにより卒業後にただちにプロフェッショナルとして自立した指導者として活躍できる人材を輩出する。

第二は地域社会に貢献することである。地域にとって有用な情報、人材の発信基地あるいはネットワークの中心としての機能を担うことである。

第三はコミュニケーション能力の高い学生を育てることである。職業人、指導者、また地域の生活者として、他者と強調しながら専門的知識を最大限に伝達できるよう語学力、情報処理能力のみならず、プレゼンテーション能力や対人スキルにも優れたコミュニケーション能力の高い人材の育成を目指している。これらの教育目標を達成するために、人間の誕生から老齢期までの常に発達し続ける人間そのものを対象に複雑かつ多岐にわたる問題を保育、福祉、教育、健康、スポーツといった複眼的視点から分析、検討できる学生を育成する為の履修科目を設定している。また、本学部は免許、資格課程は設置しているが、これは履修する学生諸君全員に対し約束するものではない。この課程を履修する場合、このことを十分理解した上で、履修の各段階、自分自身の将来設計を大切に考えて欲しい。

教職員はこの教育目標達成の為にサポート、アドバイスを惜しまない。

以上

II 教育課程

—— 単位制と単位について ——

本学における授業科目の履修については、文部科学省の「大学設置基準」に定められた単位制に基づいて行われる。単位制とは、所定の科目を履修することにより、それらの科目ごとに定められている単位を順次取得し、原則として4ヶ年の在学期間のうちに卒業に必要な単位を修得する制度である。

単位制における単位とは、その科目を修得するのに必要な学修時間を示したものであるが、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。単に授業を受けるだけでなく、教室において行われる学修指導に留意し、授業の準備のための学修時間をも重視しながら、自主的に研究を進める必要がある。

こうして単位を集積し、卒業の要件を満たしていくことになる。

従って、卒業の要件を満たしていくうえでの、最も基本的な事項なので、単位制についての正しい理解が要求される。

1. 単位の計算

単位の計算

本学では1コマの授業を90分で行い、これを2時間とし大学設置基準に基づき、本学の学則により次の範囲で単位を計算している。

- ① 講義及び演習については、15時間～30時間までの範囲の授業時間数をもって1単位とする。
- ② 実験・実習及び実技については、30時間～45時間までの範囲の授業時間数をもって1単位とする。

(注)・半期授業回数を15回として計算した場合
・通年授業回数を30回として計算した場合

授業形態別の単位に対する学修時間

授業形態	授業科目の区分	週1回の授業 (1コマ90分)	1単位に対し45時間の学修時間が必要 単位(学修必要時間)	授業回数	週1回の授業に対する学生の授業時間外の学修時間
講義科目	基本科目：授業15時間で1単位	半期授業	2単位(90時間)	15回	4時間
		通年授業	4単位(180時間)	30回	
	別に定めた科目：授業30時間で1単位	半期授業	1単位(45時間)	15回	1時間
		通年授業	2単位(90時間)	30回	
演習科目	基本科目：授業30時間で1単位	半期授業	1単位(45時間)	15回	1時間
		通年授業	2単位(90時間)	30回	
	別に定めた科目：授業15時間で1単位	半期授業	2単位(90時間)	15回	4時間
		通年授業	4単位(180時間)	30回	
	週2回の科目	通年授業	4単位(180時間)	60回	1時間(週2回で2時間)
及び実験・実習 実技科目	基本科目：授業45時間で1単位	学外での実習	2単位(90時間)	実習の種類により異なる 仮に1日8時間で計算すると11.3日間	
			4単位(180時間)	実習の種類により異なる 仮に1日8時間で計算すると22.5日間	
	別に定めた科目：授業30時間で1単位	半期授業	1単位(45時間)	15回	1時間
		通年授業	2単位(90時間)	30回	

(授業形態や授業内容、授業開講期間等によって単位数が異なる。)

2. 単位の認定・評価

単位の認定

単位の認定は、原則として出席状況及び定期試験の結果によるが、授業時間中の筆記試験・レポートの提出・平素の学修状況等も含めて、判定する授業科目もある。

成績の評価

学業成績の評価は、次のようになる。

判定	合 格					不 合 格	失 格	
	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	再試験合格	59点以下	欠席多	試験・レポート等放棄
評価	S	A	B	C 1	C 2	D	H 1	H 2

3. 授業科目の区分・性格等

授業科目の区分

児童教育専攻	
I群-A	外国語科目（必修）
I群-B	外国語科目（選択）
II群	教養科目
III群-A	基本科目（必修）
III群-B	基本科目（選択必修）
IV群	専門科目
V群	教育学関係科目

* 卒業所要単位には含まれない科目

実習科目*
小学校教職課程科目*
随意科目*

スポーツ健康専攻	
I群-A	外国語科目（必修）
I群-B	外国語科目（選択）
II群	教養科目
III群-A	基本科目（必修）
III群-B	基本科目（選択必修）
IV群	専門科目
V群	教育学関係科目

* 卒業所要単位には含まれない科目

実習科目*
随意科目*

科目区分の性格

授業科目の性格は、次のように区分される。

- (1) 必修科目：必ず履修しなければならない科目
- (2) 選択必修科目：定められた一定の範囲の中から、必要な単位数や科目数だけ必ず履修しなければならない科目
- (3) 選択科目：履修するかどうかを自由に選択できる科目
- (4) 実習科目：卒業所要単位には含まれないが、各種資格取得のために必要な実習科目
- (5) 小学校教職課程科目：卒業所要単位には含まれないが、小学校教職免許状取得者に必要な科目
- (6) 随意科目：卒業所要単位数には含まれない科目

セメスター制

1年間に複数学期に分割し、授業科目を学期（セメスター）毎に完結する授業形態をいう。各学期が15週程度の2学期制（前期・後期）の伝統的なセメスター制や、3学期制・4学期制等のセメスター制もある。定期試験や成績発表は学期ごとに行われる。セメスター制科目でも履修登録は年度始めに、前期分と後期分を一括して行う。

開講期間等

半期科目…前期又は後期で授業を開講する。
 通年科目…1年間を通して授業を開講する。
 集中講義…1日に数コマ集中して授業を行ったり、宿泊等で開講する。

4. 履修年次

履修年次 授業科目により、履修できる年次が決められている。これらの科目については、高学年の学生が低学年の授業科目を履修することはできるが、低学年の学生が高学年の授業科目を履修することはできない。
科目の性質によりステップを踏んで履修した方が学修効果が上がるものがあるため、『履修要綱』を参照し、学修手順に十分配慮して履修することが望ましい。

5. 年間最高履修登録単位数

年間最高履修登録単位数

年間最高履修登録単位数とは、1年間に科目の履修登録ができる単位の上限を示す。すなわち、各年次において1年間に表記の単位を超えて履修登録はできない。よって、卒業までの4年間に於いて、計画的な履修登録が望まれる。但し、実習科目、児童教育専攻の小学校教職課程科目、及び随意科目の履修単位は含まれない。

発 達 科 学 科				
1年次	2年次	3年次	4年次	合 計
43単位	40単位	40単位	40単位	163単位

6. 進級について

進級要件 進級要件は特に定めない。従って、休学等の場合を除き、4年次まで進級する。4年間で卒業の要件の単位を充足できない場合は、4年次に留まることになる。

7. 修業年限および在学年限

修業年限 修業年限は4年とする。
在学年限 在学年限は、特別な場合を除き8年とする。〔『学則』参照のこと。〕

8. 卒業要件

卒業認定 4年間以上在学し、学納金を完納し、次の科目区分の群ごとの卒業所要単位数を充足した者は、教授会の議を経て、学長より卒業の認定を受ける。卒業の認定を受けた者には、卒業証書が授与されるとともに、“学士（発達科学）”の学位が与えられる。

科目区分		児童教育専攻	スポーツ健康専攻
卒業 所要 単位	I群-A 外国語科目（必修）	4単位	4単位
	I群-B 外国語科目（選択）	12単位	12単位
	II群 教養科目		
	III群-A 基本科目（必修）	1単位	1単位
	III群-B 基本科目（選択必修）	10単位	10単位
	IV群 専門科目	72単位	72単位
	V群 教育学関係科目		
自由選択		25単位	25単位
合計		124単位	124単位
実習科目		（注1）	（注1）
小学校教職課程科目		（注2）	
随意科目		（注3）	（注3）

（注1）希望する免許・資格等の該当実習科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

（注2）小学校教職免許状希望者のみ履修可。卒業所要単位には含まれない。

（注3）全学部共通随意科目。卒業所要単位には含まれない。

★注意：卒業する時まで入学時のカリキュラム（教育課程）が適用されるため、該当入学年度のカリキュラム・時間割等の資料を参照すること。

Ⅲ 児童教育専攻

履修の規準

—— 各科目の履修方法について ——

発達科学部の授業科目は、卒業に必要なⅠ群～Ⅴ群及び資格取得に必要な実習等科目によって科目区分されている。Ⅰ群～Ⅴ群ごとに卒業に必要な単位数が決められている。

これに従って単位を修得しなければ、卒業要件を満たすことはできない。

「Ⅱ教育課程－ 8. 卒業要件」(参照)

ここでは、授業科目とその単位や履修年次および卒業するために必要な単位数などを表で表示している。どれも基本的かつ重要な事項のため、かならず熟読すること。

1. 児童教育専攻 《2004年度以降入学》

児童教育専攻 卒業所要単位

科目区分		卒業所要最低単位
I群-A	外国語科目（必修）	4単位
I群-B	外国語科目（選択）	12単位
II群	教養科目	
III群-A	基本科目（必修）	1単位
III群-B	基本科目（選択必修）	10単位
IV群	専門科目	72単位
V群	教育学関係科目	
自由選択		25単位
合計		124単位
実習科目		（注1）
小学校教職課程科目		（注2）
随意科目		（注3）

（注1）希望する免許・資格等の該当実習科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

（注2）小学校教職免許状希望者のみ履修可。卒業所要単位には含まれない。

（注3）全学部共通随意科目。卒業所要単位には含まれない。

(1) I群：外国語科目

I群の外国語科目は「I群-A」と「I群-B」の2つに分類される。

I群-A：外国語科目（必修）……英会話科目。計2科目4単位が必修。

I群-B：外国語科目（選択）……英語及び英語以外の第二外国語科目の開設群で全て選択科目となるが、「II群」と合わせて12単位以上修得すること。

(2) II群：教養科目

II群の教養科目は全て選択科目となるが、「I群-B」と合わせて12単位以上修得すること。

(3) III群：基本科目

III群の基本科目は「III群－A」と「III群－B」の2つに分類される。

III群－A：基本科目（必修）……………1科目1単位必修。

「フレッシュマンセミナー」は文献資料の収集・整理・分析等の方法を学び、情報技術を体得し、教員や他の学生と討論したり準備が必要となる科目である。①大学の学習システムを理解すること。②「学ぶこと」の意味と方法を探ること。③キャンパスライフを豊かに送るために必要な情報を収集すること。④「読む」「書く」「発表する」など基本的能力を身につけることを目的とする。

担当教員はクラス担任を兼ねるので、4年間継続して学生の学習や個人的な悩み事の相談、進路相談などにも応じている。担当教員の研究室を積極的に訪ね、コミュニケーションを図ること。

III群－B：基本科目（選択必修）……専門の基本となる科目。8科目の中から選択し、10単位以上修得すること。

(4) IV群：専門科目

・IV群の専門科目及びV群の教育学関係科目より選択し、72単位以上修得すること。

・「課題研究A」「課題研究B」および「卒業研究」について

課題研究・卒業研究ともに選択科目であるが、ゼミ形式による指導教員との緊密な人間関係を構築することは、学問上の指導のみでなく、人としての生き方を学ぶ点においても、学生にとって得るところが多い。また、卒業後の進路決定にも指導教員が積極的に関われる点で履修を勧める。

しかし指導できる学生の人数には限りがあるため、選考の際は、条件を設け履修者を決定する。後期に実施される説明会で選考方法や指導内容および履修形態等の詳細な説明を行う。

・「課題研究A」「課題研究B」科目

4年次の卒業研究の前提となる科目である。A・B両科目あるいは、どちらかの一方を選択することも可能である。また、同じ教員のA・Bを継続受講する場合と、A・Bをそれぞれ異なる教員で受講する分割履修の場合があるが、科目の性質上、3年次にA・Bとも同じ教員の継続履修が望ましい。

履修にあたっては、2年次までに62単位以上修得していることを条件とし、担当教員が面接やレポートなどにより独自に選考を行う。

・「卒業研究」科目

卒業研究履修時には、課題研究A・Bとも修得済みであることを条件とする。したがって課題研究と卒業研究を4年次に同時履修することは原則として認めない。また課題研究での研究内容が前提となっているため、原則として課題研究と同一教員による指導であることが望ましい。

それぞれの専門分野によって、卒業研究の名に値するテーマを各自で決めて、担当教員の指導のもと、卒業論文の作成が中心となる。またその研究成果を複数の教員によって評価する。

(5) V群：教育学関係科目

IV群の専門科目及びV群の教育学関係科目より選択し、72単位以上修得すること。

(6) 自由選択科目

卒業所要単位にあるように、卒業するためにはI群～V群における科目群に必要な卒業所要単位数を修得しなければならない。各必要単位を合計すると99単位となる。卒業の要件の単位は124単位のため、残り25単位を自由選択単位として修得しなければならない。

この25単位には、①I群～V群の卒業所要単位を超えて修得した単位及び、②他大学・他学部・他専攻履修で修得した単位を充てることができる。

①②のうち何を選択履修するかは自由であるが、まず所属専攻において何について勉強・研究したいのか、関心を深めたい分野は何であるのかをしっかりと見極めて、与えられた「自由」を十分に生かした4年間の学業プランを練るよう心がけること。

(7) 実習科目および小学校教職課程科目

- ・この科目は卒業所要単位には含まれない。
- ・教育職員免許状や各種資格取得のための実習及び、それらに係わる科目のうち卒業所要単位として加算されない科目である。免許や資格取得希望者は該当科目を修得しないと取得ができなくなるので注意すること。

《児童教育専攻》

科 目 群	該 当 資 格 種 類
実 習 科 目	小学校一種
	幼稚園一種
	保 育 士
	社会福祉士受験資格
小学校教職課程科目	小学校一種

- ・希望する資格関係科目以外は履修できない。履修方法の詳細は別配付の「2004年度（平成16年度）・2005年度（平成17年度）入学生対象 教育職員免許状および資格取得の手引き」を参照のこと。

(8) 他大学・他学部・他専攻等履修科目

他大学、他学部・他専攻等の授業科目の履修で修得した単位については、教授会の議を経て30単位を限度として卒業要件単位に認められることがある。

但し、発達科学部はそのうち他学部・他専攻履修は自由選択科目として25単位を上限とする。

《他大学履修》

ア. 放送大学

単位互換協定に基づき、『特別聴講学生』として放送大学の科目のうち本学指定科目の履修ができる。

放送大学の出願手続きは、前年度内に行われるため既に本学経由で手続きを完了した者のみの履修となる。

イ. 交換留学制度

オーストラリア（ブリスベン）にある「グリフィス大学」と交換留学を行っている。募集要項を掲示するので、希望者は所定期間内に志願し、手続きをすること。

《他学部・他専攻履修》

所属専攻で開講されていない科目とするが、履修は開講先の所属生が優先となるため、科目によって履修条件や人数制限等がある場合や事前登録が必要となる場合などがある。

(注) 平成17年度の該当科目や履修手続き方法の詳細は、年度始めに掲示やガイダンス等で確認すること。

- ・履修年次、単位、授業内容等は、開講先の学部・学科（専攻）の履修要綱を参照のこと。
- ・授業に関する連絡事項や試験等の連絡は、開講先の学部・学科（専攻）の掲示板を確認すること。

(9) 随意科目

卒業所要単位として算入されない科目。

年間最高履修登録単位数に含まれない科目であるため、講義内容に興味・関心がある場合は履修できる。

履修制限をすることがあるため、掲示等に注意すること。

平成17年度 開講科目

科 目	単 位	年 次	担 当 者	摘 要
海 外 研 修	2	1～	(後日掲示する)	

(10) 再履修について

2年次以降に係わる履修

再履修とは 履修の結果「不合格」「失格」となった科目を再度履修すること。
必修科目は必ず履修しなければならないが、選択科目は別の科目を履修してもよい。

再履修方法 高学年の学生は、低学年配当科目より授業科目を履修できる。
詳細については4月のガイダンスで説明するが、各科目の再履修方法の概要は次のとおりである。

※未修得の学生も再履修者と同様の手続きが必要になる場合やクラスを指定する場合があるので、掲示や4月のガイダンス等でよく確認すること。

I群：外国語科目 1クラスの人数に制限があるため、学務課の指示に従うこと。
再履修クラスを設定したり、クラスに組み入れる場合には先着順で事前登録を実施する場合がある。

II群：教養科目 開講科目の中から、不足単位分を修得する。別科目を選択してもよい。

III群：基本科目 (必修) 再履修者の人数に応じて、再履修クラスを開講する場合がある。特別に指示がない場合には、下級年次生の「時間割」に従って履修する。
(選択必修) 特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
同科目群内の選択必修科目であれば、別科目に変更してもよい。

IV群：専門科目 ・特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
・課題研究、卒業研究関係科目は、事前に選考を受けなければならない。

上記以外の科目 実習科目…再履修は原則認めない。

2. 開設科目・履修年次・卒業要件表（発達科学部発達科学科児童教育専攻）

（2004年度以降入学学生）

*各種資格関係科目

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	小学校一種	幼稚園一種	保育士	社会福祉士
			必修	選択						
I群-A	外国語科目 (必修)	通年 英会話Ⅰ	2		1	4単位	*	*	*	卒必
		通年 英会話Ⅱ	2		2		*	*	*	卒必
I群-B	外国語科目 (選択)	通年 英語Ⅲ		2	2・3・4	I群-B 及び II群より 12単位				
		通年 英語Ⅳ		2	1・2・3・4					
		通年 英語Ⅴ		4	1・2・3・4					
		通年 英語Ⅵ		4	1・2・3・4					
		通年 英語Ⅶ		4	1・2・3・4					
		通年 英語Ⅷ		4	2・3・4					
		通年 ドイツ語Ⅰ		4	1・2・3・4					
		通年 ドイツ語Ⅱ		4	2・3・4					
		通年 ドイツ語Ⅲ		4	2・3・4					
		通年 ドイツ語Ⅳ		4	2・3・4					
		通年 フランス語Ⅰ		4	1・2・3・4					
		通年 フランス語Ⅱ		4	2・3・4					
		通年 フランス語Ⅲ		4	2・3・4					
		通年 フランス語Ⅳ		4	2・3・4					
		通年 スペイン語Ⅰ		4	1・2・3・4					
		通年 スペイン語Ⅱ		4	2・3・4					
		通年 スペイン語Ⅲ		4	2・3・4					
		通年 スペイン語Ⅳ		4	2・3・4					
		通年 中国語Ⅰ		4	1・2・3・4					
		通年 中国語Ⅱ		4	2・3・4					
通年 中国語Ⅲ		4	2・3・4							
通年 中国語Ⅳ		4	2・3・4							
半期 コリア語		2	2・3・4							
II群	教養科目	半期 歴史学A		2	1・2・3・4					
		半期 歴史学B		2	1・2・3・4					
		半期 地理学A		2	1・2・3・4					
		半期 地理学B		2	1・2・3・4					
		半期 倫理学A		2	1・2・3・4					
		半期 倫理学B		2	1・2・3・4					
		半期 哲学A		2	1・2・3・4					
		半期 哲学B		2	1・2・3・4					
		半期 文学A		2	1・2・3・4					
		半期 文学B		2	1・2・3・4					
		半期 美学A		2	1・2・3・4					

*各種資格関係科目

III
児童教育

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	小学校 一種	幼稚園 一種	保育士	社会福祉士 資格	
			必修	選択							
II群	教養科目	半期	美学B		2	1・2・3・4					
		半期	社会学A		2	1・2・3・4					
		半期	社会学B		2	1・2・3・4				*	
		半期	法学A		2	1・2・3・4				*	
		半期	法学B		2	1・2・3・4					
		半期	統計学A		2	1・2・3・4					
		半期	統計学B		2	1・2・3・4					
		半期	心理学A		2	1・2・3・4					
		半期	心理学B		2	1・2・3・4					
		半期	社会心理学A		2	1・2・3・4					
		半期	社会心理学B		2	1・2・3・4					
		半期	環境科学A		2	1・2・3・4					
		半期	環境科学B		2	1・2・3・4					
		通年	数学A		4	1・2・3・4					
		通年	数学B		4	1・2・3・4					
		半期	物理学A		2	1・2・3・4					
		半期	物理学B		2	1・2・3・4					
		半期	生物学A		2	1・2・3・4					
		半期	生物学B		2	1・2・3・4					
III群-A	基本科目(必修)	半期	フレッシュマンセミナー	1		1	1単位	卒必	卒必	卒必	卒必
III群-B	基本科目(選択必修)	半期	教育総論		2	1・2・3・4	10単位			*	
		半期	教育原理		2	1・2・3・4		*	*	*	
		半期	教育課程論		2	3・4		*	*	*	
		半期	教育制度論		2	1・2・3・4		*	*		
		半期	比較教育論		2	2・3・4		*	*		
		半期	教育哲学		2	2・3・4					
		半期	教育心理学概論		2	1・2・3・4		*	*	*	
		通年	コンピュータ実習		2	1・2・3・4		*	*	*	
IV群	専門科目(児童教育専攻主科目) 保育内容	半期	保育内容研究(健康)		2	3・4		*			
		半期	保育内容研究(人間関係)		2	2・3・4		*			
		半期	保育内容研究(環境)		2	3・4		*			
		半期	保育内容研究(言葉)		2	3・4		*			
		半期	保育内容研究(音楽表現)		2	3・4		*			
		半期	保育内容研究(美術表現)		2	3・4		*			
		半期	保育内容研究(身体表現)		2	2・3・4		*			
		半期	保育内容演習(健康)		1	3・4		*	*		

*各種資格関係科目

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	小学校一種	幼稚園一種	保育士	社会福祉士	
			必修	選択							
III 児童教育	保育内容	半期	保育内容演習(人間関係)	1	2・3・4	IV群及び V群より 72単位		*	*		
		半期	保育内容演習(環境)	1	3・4			*	*		
		半期	保育内容演習(言葉)	1	3・4				*	*	
		半期	保育内容演習(音楽表現)	1	3・4				*	*	
		半期	保育内容演習(美術表現)	1	3・4				*	*	
		半期	保育内容演習(身体表現)	1	2・3・4				*	*	
	技能関連	通年	ソルフェージュ	2	1・2・3・4			*	*	*	
		通年	歌唱表現	2	2・3・4						
		通年	音楽実技Ⅰ(基礎)	2	1・2・3・4			*	*	*	
		通年	音楽実技Ⅱ(こどもの音楽)	2	2・3・4						
		通年	音楽実技ⅢA(応用)	2	3・4						
		通年	音楽実技ⅢB(応用)	2	4						
		半期	リトミック入門	1	2・3・4			*	*		
		通年	リトミック応用	2	3・4						
		通年	造形	2	1・2・3・4			*	*	*	
		通年	絵画表現法	2	2・3・4			*	*	*	
		半期	造形教材研究	1	1・2・3・4						
		半期	基礎デザイン	2	1・2・3・4						
		通年	スポーツと健康	2	1・2・3・4			*	*	*	
		通年	子どもの体育	2	2・3・4			*	*	*	
	福祉	半期	社会福祉	2	1・2・3・4					*	*
		半期	社会福祉B	2	1・2・3・4					*	*
		半期	児童福祉	2	1・2・3・4					*	*
		半期	児童福祉B	2	1・2・3・4					*	*
		通年	社会福祉援助技術論Ⅰ	4	1・2・3・4						*
		通年	社会福祉援助技術論Ⅱ	4	2・3・4						*
		半期	社会福祉援助技術演習	2	2・3・4					*	
		通年	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	1・2・③・4						◆
		通年	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	2・3・④						◆
		通年	保育原理Ⅰ	4	1・2・3・4					*	
		半期	保育原理Ⅱ	2	2・3・4					*	
		半期	養護原理	2	2・3・4					*	
		半期	養護内容	1	2・3・4					*	
半期		乳児保育	2	2・3・4				*			
半期		障害児保育	1	3・4				*			
半期	家庭支援論	2	3・4				*				

○の年次で履修

◆該当資格希望者のみ履修可能

*各種資格関係科目

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	小学校一種	幼稚園一種	保育士	社会福祉士 受験資格	
			必修	選択							
IV群 専門科目(児童教育専攻主科目)	福祉	通年	医学一般	4	3・4	IV群及び V群より 72単位				*	
		通年	小児保健	4	1・2・3・4				*		
		半期	小児保健実習	1	2・3・4				*		
		半期	小児栄養演習	2	3・4				*		
		半期	比較保育論	2	3・4						
		通年	社会保障論	4	3・4					*	
		半期	公的扶助論	2	2・3・4					*	
		半期	介護概論	2	3・4					*	
		通年	障害者福祉論	4	2・3・4					*	
		通年	老人福祉	4	2・3・4					*	
		半期	地域福祉	2	2・3・4					*	
		半期	福祉施設経営論	2	1・2・3・4						
		半期	ケアマネジメント論	2	3・4						
		半期	福祉デザイン	2	1・2・3・4						
	半期	福祉計画論	2	2・3・4							
	心理	半期	発達心理学	2	2・3・4			*	*	*	*
		半期	青年心理学	2	1・2・3・4					*	
		通年	環境心理学	4	1・2・3・4						
		半期	認知心理学	2	1・2・3・4						
		半期	臨床心理学	2	2・3・4					*	*
		半期	精神保健学	2	1・2・3・4					*	
		半期	親子関係の心理	2	1・2・3・4						
		通年	心理学基礎実験	2	1・2・3・4						
		半期	心理測定法	2	1・2・3・4						
		半期	心理学研究法	2	1・2・3・4						
	教科教育	通年	心理学実験調査法	2	1・2・3・4						
		半期	教育の測定と評価	2	3・4						
		半期	国語概説	2	2・3・4			*	*		
		半期	社会科概説	2	2・3・4			*			
		半期	算数概説	2	2・3・4			*	*		
		半期	理科概説	2	2・3・4			*			
		半期	生活科概説	2	2・3・4			*	*		
		半期	家庭科概説	2	2・3・4			*			
半期		国語科教育法	2	3・4		*					
半期	社会科教育法	2	3・4		*						
半期	算数科教育法	2	3・4		*						

III
児童教育

*各種資格関係科目

III
児童教育

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	小学校 一種	幼稚園 一種	保育士	社会福祉 資格士
			必修	選択						
IV群	教科教育	半期	理科教育法		2	3・4		*		
		半期	生活科教育法		2	3・4		*		
		半期	音楽科教育法		2	3・4		*		
		半期	図画工作科教育法		2	3・4		*		
		半期	家庭科教育法		2	3・4		*		
		半期	体育科教育法		2	3・4		*		
	関連科目	半期	美術史		2	1・2・3・4				
		半期	造形文化論		2	1・2・3・4				
		半期	英語であそぼう		2	3・4				
		半期	児童文学		2	1・2・3・4		*	*	
		半期	おもちゃ論		2	2・3・4				
		集中	野外運動A		2	1・2・3・4				
		集中	野外運動B		2	1・2・3・4				
		集中	救急法		2	1・2・3・4				
		集中	レクリエーション実技		1	2・3・4				
		集中	レクリエーション実習(◆レ)		1	2・3・4				
		半期	課題研究A		2	3・4				
		半期	課題研究B		2	3・4				
通年	卒業研究		8	4						
V群	教育学関係科目	半期	教師論		2	2・3・4		*	*	
		半期	幼児教育論		2	2・3・4			*	
		半期	道德教育の研究		2	2・3・4		◆	◆	
		半期	特別活動の研究		2	2・3・4		◆		
		半期	教育方法論Ⅰ		2	2・3・4		*	*	*
		半期	教育方法論Ⅱ		2	2・3・4		*	*	
		半期	生徒指導論		2	2・3・4		◆	◆	
		半期	教育相談		2	2・3・4		◆	◆	
		通年	総合演習		2	2・3・4		◆	◆	◆
		半期	日本国憲法		2	1・2・3・4		*	*	*
自由選択		I群～V群科目及び他専攻、他学部科目				25単位				
卒業所要単位						124単位				

◆該当資格希望者のみ履修可能
(◆レ) …レクリエーション・インストラクター

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	小学校 一種	幼稚園 一種	保育士	受験 資格	社会福祉士
			必修	選択							
実習科目 ・該当の実習を履修	半期	教育実習の事前事後指導(幼稚園)		1	3~4	・卒業単位に含めない		◆			
	半期	教育実習の事前事後指導(小学校)		1	3~4		◆				
	実習	教育実習(幼稚園)		4	3~4			◆			
	実習	教育実習(小学校)		4	4		◆				
	半期	保育実習の事前事後指導		1	2~4				◆		
	実習	保育実習Ⅰ		4	2~4				◆		
	実習	保育実習Ⅱ		2	3~4				◆		
	実習	保育実習Ⅲ		2	3~4				◆		
	通年	社会福祉援助技術現場実習指導		4	3~4						◆
	実習	社会福祉援助技術現場実習		4	③~4						◆
小学校 教職課程科目 ・小学校教職免許希望者のみ履修可	半期	初等国語		2	3・4	・卒業単位に含めない	◆				
	半期	初等社会科		2	3・4		◆				
	半期	初等算数		2	3・4		◆				
	半期	初等理科		2	3・4		◆				
	半期	初等生活科		2	3・4		◆				
	半期	初等家庭科		2	3・4		◆				
	半期	初等教材研究A(言語・文化系)		2	4		◆				
	半期	初等教材研究B(生活・人間系)		2	4		◆				
	半期	初等教材研究C(表現・実技系)		2	4		◆				
随意科目	海外研修		2	1・2・3・4	・卒業単位に含めない						

○の年次で履修

◆該当資格希望者のみ履修可能

3. 児童教育専攻 卒業・資格別所要単位数

科目区分		卒業	小学校一種	幼稚園一種	保育士	社会福祉士 受験資格
I群-A	外国語科目(必修)	4	4	4	4	4
I群-B	外国語科目(選択)	12	12	12	12	12
II群	教養科目					
III群-A	基本科目(必修)	1	1	1	1	1
III群-B	基本科目(選択必修)	10	10	10	10	10
IV群	専門科目	72	72	72	72	72
V群	教育学関係科目					
自由選択		25	25	25	25	25
卒業合計単位		124	124	124	124	124
実習科目(注1)			5	5	7	8
小学校教職課程科目(注2)			4			
随意科目(注3)						
各種資格別所要合計単位			133	129	131	132

(注1) 希望する免許・資格等の該当実習科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

(注2) 小学校教職免許状希望者のみ履修可。卒業所要単位には含まれない。

(注3) 全学部共通随意科目。卒業所要単位には含まれない。

IV スポーツ健康専攻

履 修 の 規 準

—— 各 科 目 の 履 修 方 法 に つ い て ——

発達科学部の授業科目は、卒業に必要なⅠ群～Ⅴ群及び資格取得に必要な実習等科目によって科目区分されている。Ⅰ群～Ⅴ群ごとに卒業に必要な単位数が決められている。

これに従って単位を修得しなければ、卒業要件を満たすことはできない。

「II教育課程－8. 卒業要件」(参照)

ここでは、授業科目とその単位や履修年次および卒業するために必要な単位数などを表で示している。どれも基本的かつ重要な事項のため、かならず熟読すること。

1. スポーツ健康専攻 《2004年度以降入学》

スポーツ健康専攻 卒業所要単位

科目区分		卒業所要最低単位
I群-A	外国語科目(必修)	4単位
I群-B	外国語科目(選択)	12単位
II群	教養科目	
III群-A	基本科目(必修)	1単位
III群-B	基本科目(選択必修)	10単位
IV群	専門科目	72単位
V群	教育学関係科目	
自由選択		25単位
合計		124単位
実習科目		(注1)
随意科目		(注2)

(注1) 希望する免許に開設された科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

(注2) 卒業所要単位には含まれない。

(1) I群：外国語科目

I群の外国語科目は「I群-A」と「I群-B」の2つに分類される。

I群-A：外国語科目(必修)……英会話科目。計2科目4単位が必修。

I群-B：外国語科目(選択)……英語及び英語以外の第二外国語科目の開設群で全て選択科目となるが、「II群」と合わせて12単位以上修得すること。

(2) II群：教養科目

II群の教養科目は全て選択科目となるが、「I群-B」と合わせて12単位以上修得すること。

(3) III群：基本科目

III群の基本科目は「III群-A」と「III群-B」の2つに分類される。

III群-A：基本科目（必修）……………1科目1単位必修。

「フレッシュマンセミナー」は文献資料の収集・整理・分析等の方法を学び、情報技術を体得し、教員や他の学生と討論したり準備が必要となる科目である。①大学の学習システムを理解すること。②「学ぶこと」の意味と方法を探ること。③キャンパスライフを豊かに送るために必要な情報を収集すること。④「読む」「書く」「発表する」など基本的能力を身につけることを目的とする。

担当教員はクラス担任を兼ねるので、4年間継続して学生の学習や個人的な悩み事の相談、進路相談などにも応じている。担任教員の研究室を積極的に訪ね、コミュニケーションを図ること。

III群-B：基本科目（選択必修）……専門の基本となる科目。8科目の中から選択し、10単位以上修得すること。

(4) IV群：専門科目

・IV群の専門科目及びV群の教育学関係科目より選択し、72単位以上修得すること。

・「課題研究A」「課題研究B」および「卒業研究」について

課題研究・卒業研究ともに選択科目であるが、ゼミ形式による指導教員との緊密な人間関係を構築することは、学問上の指導のみでなく、人としての生き方を学ぶ点においても、学生にとって得るところが多い。また、卒業後の進路決定にも指導教員が積極的に関われる点で履修を勧める。

しかし指導できる学生の人数には限りがあるため、選考の際は、条件を設け履修者を決定する。後期に実施される説明会で選考方法や指導内容および履修形態等の詳細な説明を行う。

・「課題研究A」「課題研究B」科目

4年次の卒業研究の前提となる科目である。A・B両科目あるいは、どちらかの一方を選択することも可能である。また、同じ教員のA・Bを継続受講する場合と、A・Bをそれぞれ異なる教員で受講する分割履修の場合があるが、科目の性質上、3年次にA・Bとも同じ教員の継続履修が望ましい。

履修にあたっては、2年次までに62単位以上修得していることを条件とし、担当教員が面接やレポートなどにより独自に選考を行う。

・「卒業研究」科目

卒業研究履修時には、課題研究A・Bとも修得済みであることを条件とする。したがって課題研究と卒業研究を4年次に同時履修することは原則として認めない。また課題研究での研究内容が前提となっているため、原則として課題研究と同一教員による指導であることが望ましい。

それぞれの専門分野によって、卒業研究の名に値するテーマを各自で決めて、担当教員の指導のもと、卒業論文の作成が中心となる。またその研究成果を複数の教員によって評価する。

(5) V群：教育学関係科目

IV群の専門科目及びV群の教育学関係科目より選択し、72単位以上修得すること。

(6) 自由選択科目

卒業所要単位にあるように、卒業するためにはⅠ群～Ⅴ群における科目群に必要な卒業所要単位数を修得しなければならない。各必要単位を合計すると99単位となる。卒業要件単位は124単位のため、残り25単位を自由選択単位として修得しなければならない。

この25単位には、①Ⅰ群～Ⅴ群の卒業所要単位を超えて修得した単位及び、②他大学・他学部・他専攻履修で修得した単位を充てることができる。

①②のうち何を選択履修するかは自由であるが、まず所属専攻において何について勉強・研究したいのか、関心を深めたい分野は何であるのかをしっかりと見極めて、与えられた「自由」を十分に生かした4年間の学業プランを練るよう心がけること。

(7) 実習科目

- ・この科目は卒業所要単位には含まれない。
- ・教育職員免許状取得のための実習科目のうち卒業所要単位として加算されない科目で、免許状取得希望者は該当科目を修得しないと取得ができなくなるので注意すること。

《スポーツ健康専攻》

科目群	該当資格種類
実習科目	中学校一種（保健体育）
	高等学校一種（保健体育）

- ・希望する資格関係科目以外は履修できない。履修方法の詳細は別配付の「2004年度（平成16年度）・2005年度（平成17年度）入学生対象 教育職員免許状および資格取得の手引き」を参照のこと。

(8) 他大学・他学部・他専攻等履修科目

他大学、他学部・他専攻等の授業科目の履修で修得した単位については、教授会の議を経て30単位を限度として卒業要件単位に認められることがある。

但し、発達科学部は、そのうち他学部・他専攻履修は自由選択科目として25単位を上限とする。

《他大学履修》

ア. 放送大学

単位互換協定に基づき、『特別聴講学生』として放送大学の科目のうち本学指定科目の履修ができる。

放送大学の出願手続きは、前年度内に行われるため既に本学経由で手続きを完了した者のみの履修となる。

イ. 交換留学制度

オーストラリア（ブリスベン）にある「グリフィス大学」と交換留学を行っている。募集要項を掲示するので、希望者は所定期間内に志願し、手続きをすること。

《他学部・他専攻履修》

所属専攻で開講されていない科目とするが、履修は開講先の所属生が優先となるため、科目によって履修条件や人数制限等がある場合や事前登録が必要となる場合などがある。

(注) 平成17年度の該当科目や履修手続き方法の詳細は、年度始めに掲示やガイダンス等で確認すること。

- ・履修年次、単位、授業内容等は、開講先の学部・学科（専攻）の履修要綱を参照のこと。
- ・授業に関する連絡事項や試験等の連絡は、開講先の学部・学科（専攻）の掲示板で確認すること。

(9) 随意科目

卒業所要単位として算入されない科目。

年間最高履修登録単位数に含まれない科目であるため、講義内容に興味・関心がある場合は履修できる。

履修制限をすることがあるため、掲示等に注意すること。

平成17年度 開講科目

科 目	単 位	年 次	担 当 者	摘 要
海 外 研 修	2	1～	(後日掲示する)	

(10) 再履修について

2年次以降に係わる履修

再履修とは 履修の結果「不合格」「失格」となった科目を再度履修すること。
必修科目は必ず履修しなければならないが、選択科目は別の科目を履修してもよい。

再履修方法 高学年の学生は、低学年配当科目より授業科目を履修できる。
詳細については4月のガイダンスで説明するが、各科目の再履修方法の概要は次のとおりである。

※未修得の学生も再履修者と同様の手続きが必要になる場合やクラスを指定する場合があるので、掲示や4月のガイダンス等でよく確認すること。

I群：外国語科目 1クラスの人数に制限があるため、学務課の指示に従うこと。
再履修クラスを設定したり、クラスに組み入れる場合には先着順で事前登録を実施する場合がある。

II群：教養科目 開講科目の中から、不足単位分を修得する。別科目を選択してもよい。

III群：基本科目 (必修) 再履修者の人数に応じて、再履修クラスを開講する場合がある。特別に指示がない場合には、下級年次生の「時間割」に従って履修する。
(選択必修) 特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
同科目群内の選択必修科目であれば、別科目に変更してもよい。

IV群：専門科目 ・特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
・課題研究、卒業研究関係科目は、事前に選考を受けなければならない。

上記以外の科目 実習科目…再履修は原則認めない。

2. 開設科目・履修年次・卒業要件表（発達科学部発達科学科スポーツ健康専攻）

（2004年度以降入学学生）

* 資格関係科目

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	教職免許状(保健体育)					
			必修	選択			中 一 種	高 一 種	中高 一 種			
I群-A	外国語科目 (必修)	通年 英会話Ⅰ	2		1	4 単位	*	*	*			
		通年 英会話Ⅱ	2		2		*	*	*			
I群-B	外国語科目 (選択)	通年 英語Ⅲ		2	2・3・4	I群-B 及び II群より 12 単位						
		通年 英語Ⅳ		2	1・2・3・4							
		通年 英語Ⅴ		4	1・2・3・4							
		通年 英語Ⅵ		4	1・2・3・4							
		通年 英語Ⅶ		4	1・2・3・4							
		通年 英語Ⅷ		4	2・3・4							
		通年 ドイツ語Ⅰ		4	1・2・3・4							
		通年 ドイツ語Ⅱ		4	2・3・4							
		通年 ドイツ語Ⅲ		4	2・3・4							
		通年 ドイツ語Ⅳ		4	2・3・4							
		通年 フランス語Ⅰ		4	1・2・3・4							
		通年 フランス語Ⅱ		4	2・3・4							
		通年 フランス語Ⅲ		4	2・3・4							
		通年 フランス語Ⅳ		4	2・3・4							
		通年 スペイン語Ⅰ		4	1・2・3・4							
		通年 スペイン語Ⅱ		4	2・3・4							
		通年 スペイン語Ⅲ		4	2・3・4							
		通年 スペイン語Ⅳ		4	2・3・4							
		II群	教養科目	通年 中国語Ⅰ			4	1・2・3・4				
				通年 中国語Ⅱ			4	2・3・4				
通年 中国語Ⅲ				4	2・3・4							
通年 中国語Ⅳ				4	2・3・4							
半期 コリア語				2	2・3・4							
半期 歴史学A				2	1・2・3・4							
半期 歴史学B				2	1・2・3・4							
半期 地理学A				2	1・2・3・4							
半期 地理学B				2	1・2・3・4							
半期 倫理学A				2	1・2・3・4							
半期 倫理学B				2	1・2・3・4							
半期 哲学A				2	1・2・3・4							
半期 哲学B				2	1・2・3・4							
半期 文学A		2	1・2・3・4									
半期 文学B		2	1・2・3・4									
半期 美学A		2	1・2・3・4									

*資格関係科目

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	教職免許状(保健体育)		
			必修	選択			中 一 種	高 一 種	中高 一 種
II群	教養科目	半期 美学B		2	1・2・3・4	I群一B 及び II群より 12単位			
		半期 社会学A		2	1・2・3・4				
		半期 社会学B		2	1・2・3・4				
		半期 法学A		2	1・2・3・4				
		半期 法学B		2	1・2・3・4				
		半期 統計学A		2	1・2・3・4				
		半期 統計学B		2	1・2・3・4				
		半期 心理学A		2	1・2・3・4				
		半期 心理学B		2	1・2・3・4				
		半期 社会心理学A		2	1・2・3・4				
		半期 社会心理学B		2	1・2・3・4				
		半期 環境科学A		2	1・2・3・4				
		半期 環境科学B		2	1・2・3・4				
		通年 数学A		4	1・2・3・4				
		通年 数学B		4	1・2・3・4				
		半期 物理学A		2	1・2・3・4				
		半期 物理学B		2	1・2・3・4				
		半期 生物学A		2	1・2・3・4				
		半期 生物学B		2	1・2・3・4				
III群-A	基本科目(必修)	半期 フレッシュマンセミナー	1		1	1単位	卒必	卒必	卒必
III群-B	基本科目(選択必修)	半期 教育総論		2	1・2・3・4	10単位			
		半期 教育原理		2	1・2・3・4				
		半期 教育課程論		2	3・4				
		半期 教育制度論		2	1・2・3・4		*	*	*
		半期 比較教育論		2	2・3・4				
		半期 教育哲学		2	2・3・4				
		半期 教育心理学概論		2	1・2・3・4				
		通年 コンピュータ実習		2	1・2・3・4		*	*	*
IV群	専門科目(スポーツ健康専攻主科目)	実技理論・実習	半期 実技理論・実習 陸上運動Ⅰ		1	1・2・3・4	*	*	*
			半期 実技理論・実習 陸上運動Ⅱ		1	1・2・3・4	*	*	*
			半期 実技理論・実習 器械運動Ⅰ		1	1・2・3・4	*	*	*
			半期 実技理論・実習 器械運動Ⅱ		1	1・2・3・4	*	*	*
			集中 実技理論・実習 水泳		1	2・3・4	*	*	*
			半期 実技理論・実習 柔道		1	2・3・4	*	*	*
			半期 実技理論・実習 ダンスⅠ		1	1・2・3・4	*	*	*
			半期 実技理論・実習 ダンスⅡ		1	1・2・3・4	*	*	*

IV
スポーツ

IV
スポーツ

*資格関係科目

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	教職免許状(保健体育)		
			必修	選択			中 一 種	高 一 種	中高 一 種
IV群 専門科目(スポーツ健康専攻主科目)	実技理論・実習	バスケットボール		1	1・2・3・4	IV群及び V群より 72単位	*	*	*
	実技理論・実習	バレーボール		1	2・3・4		*	*	*
	実技理論・実習	野球(ソフトボール)		1	2・3・4		*	*	*
	実技理論・実習	テニス		1	1・2・3・4		*	*	*
	実技理論・実習	ラグビー		1	2・3・4		*	*	*
	実技理論・実習	サッカー		1	1・2・3・4				
	実技理論・実習	体づくり運動		1	2・3・4		*	*	*
	体育原理			2	1・2・3・4		*	*	*
	体育心理学			2	2・3・4		*	*	*
	体育経営管理学			2	2・3・4		*	*	*
	体育社会学			2	2・3・4		*	*	*
	スポーツ産業論			2	3・4				
	スポーツ行政論			2	2・3・4		*	*	*
	運動学Ⅰ			2	1・2・3・4		*	*	*
	運動学Ⅱ			2	1・2・3・4		*	*	*
	スポーツコーチング総論			2	2・3・4		*	*	*
	レクリエーション理論Ⅰ			2	2・3・4				
	レクリエーション理論Ⅱ			2	2・3・4				
	競技スポーツ理論			2	1・2・3・4				
	体育測定評価			2	2・3・4				
	生理学			2	2・3・4		*	*	*
	運動生理学Ⅰ			2	2・3・4		*	*	*
	運動生理学Ⅱ			2	2・3・4		*	*	*
	集中	公衆衛生学		2	1・2・3・4		*	*	*
	半期	学校保健Ⅰ		2	1・2・3・4		*	*	*
	半期	学校保健Ⅱ		2	1・2・3・4		*	*	*
	半期	精神保健学		2	1・2・3・4		*	*	*
	半期	発育発達学		2	2・3・4				
	半期	トレーニング論		2	2・3・4				
	半期	トレーニング実習Ⅰ		1	2・3・4				
	半期	トレーニング実習Ⅱ		1	3・4				
	半期	スポーツ医学Ⅰ		2	3・4				
半期	スポーツ医学Ⅱ		2	3・4					
集中	スポーツリハビリテーション論		2	2・3・4					
半期	解剖学		2	3・4					

IV
スポーツ

*資格関係科目

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	教職免許状(保健体育)		
			必修	選択			中 一 種	高 一 種	中高 一 種
IV群	専門科目 (スポーツ健康専攻主科目)	関連科目	半期	造形文化論	2	1・2・3・4			
			半期	英語であそぼう	2	3・4			
			半期	児童文学	2	1・2・3・4			
			半期	おもちゃ論	2	2・3・4			
			集中	野外運動A	2	1・2・3・4			
			集中	野外運動B	2	1・2・3・4			
			集中	救急法	2	1・2・3・4			
			集中	レクリエーション実技	1	2・3・4			
			集中	レクリエーション実習 (◆レ)	1	2・3・4			
			半期	課題研究A	2	3・4			
			半期	課題研究B	2	3・4			
			通年	卒業研究	8	4			
V群	教育学関係科目	半期	教師論	2	3・4	IV群及び V群より 72単位	*	*	*
		半期	教育本質論	2	1・2・3・4	◆	◆	◆	
		半期	教育心理学	2	1・2・3・4	◆	◆	◆	
		半期	体育科教育法Ⅰ	2	3・4	*	*	*	
		半期	体育科教育法Ⅱ	2	3・4	*	*	*	
		半期	保健科教育法	2	3・4	*	*	*	
		半期	体づくり運動指導法	2	2・3・4	*	*	*	
		半期	道德教育の研究	2	2・3・4	◆	◆	◆	
		半期	特別活動の研究	2	2・3・4	◆	◆	◆	
		半期	教育工学	2	2・3・4	◆	◆	◆	
		半期	生徒指導Ⅰ	2	2・3・4	◆	◆	◆	
		半期	生徒指導Ⅱ	2	2・3・4	◆	◆	◆	
		通年	総合演習	2	2・3・4	◆	◆	◆	
		半期	日本国憲法	2	1・2・3・4	*	*	*	
自由選択	I群～V群科目及び他専攻、他学部科目				25単位	/			
卒業所要単位						124単位	/		

◆該当資格希望者のみ履修可能
(◆レ)…レクリエーション・インストラクター

科目区分	開講	授業科目の名称	単位数		履修年次	卒業所要単位	教職免許状(保健体育)		
			必修	選択			中一種	高一種	中高一種
実習科目 ・該当の実習を履修	半期	教育実習の事前事後指導(保健体育)		1	3~4	・卒業単位に含めない	◆	◆	◆
	実習	教育実習(中学校)		4	4		◆		◆
	実習	教育実習(高等学校)		2	4			◆	
随意科目		海外研修		2	1・2・3・4	・卒業単位に含めない	/		

◆該当資格希望者のみ履修可能

3. スポーツ健康専攻 卒業・資格別所要単位数

科目区分		卒業	中一種 (保健体育)	高一種 (保健体育)	中一種・高一種 (保健体育)
I群-A	外国語科目(必修)	4	4	4	4
I群-B	外国語科目(選択)	12	12	12	12
II群	教養科目				
III群-A	基本科目(必修)	1	1	1	1
III群-B	基本科目(選択必修)	10	10	10	10
IV群	専門科目	72	72	72	72
V群	教育学関係科目				
自由選択		25	25	25	25
卒業合計単位		124	124	124	124
実習科目(注1)		/	5	3	5
随意科目(注2)		/	/	/	/
資格別所要合計単位		/	129	127	129

(注1) 希望する免許に開設された実習科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

(注2) 全学部共通随意科目。卒業所要単位には含まれない。

V 教育職員免許状および資格の概要

1. 教育職員免許状および資格の概要

本学では、学部ごとに取得できる教育職員免許状および資格（以下「免許・資格」という。）の種類が異なる。発達科学部で取得できる免許・資格の一覧は、次頁に示す通りであるが、ここでは時代のニーズをも含めてその概要説明を行う。

(1) 教育職員免許状（一般には教員免許状）

学校教育法第一条に規定されているすべての国公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校、養護学校および幼稚園（以下「学校」という。）の教育職員（教諭、助教諭、養護教諭および講師）になるには、原則として教育職員免許法に定められた教員免許状が必要である。

教員免許状は、免許法に定められた「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の単位を取得し、教育実習を終了し、義務教育教員免許の場合は介護等体験実習の証明書を添えて、都道府県の教育委員会にその授与を申請してはじめて取得できる。

義務教育教員免許の取得希望者については、教育実習の他に最低7日間の介護等体験が義務付けられている。これは、養護学校等および社会福祉施設での介護等の体験を通じて教員としての資質の向上を図り、義務教育の充実を期することを目的としている。

公立小学校、中学校、高等学校の教員を目指す場合は教員採用試験、公立幼稚園の教員を目指す場合は公務員採用試験に合格することが必要である。試験合格にはより高度の学習が求められるため、本学教員の指導下での努力を期待している。

(2) 保育士資格

保育士は児童福祉法に規定されている資格であり、保育士の業務としては、「児童の保育」と「保護者に対する保育指導」の2つが定められている。子育てについての唯一の専門職である保育士は、保育という営みを通して子どもの育ちを援助するとともに、その保護者に子育ての生きた知恵を発信していく立場にある。地域社会における子育ての支援はもとより、子どもと子育てにやさしい社会づくりなど、保育士の活躍に大きな期待が寄せられている。

児童教育専攻で保育士資格の所定の単位を修得した者は、卒業時に保育士となる資格を有するが、保育士資格を申請し、保育士登録名簿に登録されて初めて、保育士の名称を用いて勤務することができる。

(3) 社会福祉士受験資格

社会福祉士資格は国家資格である。資格取得のためには、能力、知識、技能を磨いて、国が実施する社会福祉国家試験に合格することが必要である。

しかし、試験合格の為に、より高度の学習が求められる。

「社会福祉士及び介護福祉士法」によると、社会福祉士とは「専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことを業とする者」とされており、具体的には福祉事務所等の福祉行政職員、社会福祉施設の相談員などとして活躍することが期待されている。

児童教育専攻で受験資格を取得するためには、「社会福祉士及び介護福祉士法」に定める受験資格要件を満たしていることが必要となる。

また、本学は同法七条一に定める大学であり、履修科目の名称の読み替えについても認定済みである。

2. 取得できる教員免許状および資格の種類

本学部では免許・資格を取得する課程を置いている。それぞれの免許・資格の意義、性格、役割をふまえ、各自が自分の将来のキャリアを熟慮したうえで、全力を傾けて一つの免許・資格の取得を目指すべきである。

しかしながら、それぞれの免許・資格には関連性の高いものもあるので、それらについては複数の免許・資格を目指すほうが適切な場合もある。なお、本学部で取得できる免許・資格の組合せは、下記の通りである。

【発達科学部 発達科学科 児童教育専攻】

取得できる免許・資格の組み合わせ*	
A	小学校教諭一種免許状
B	幼稚園教諭一種免許状
C	保育士資格
D	社会福祉士受験資格
E	小学校教諭一種免許状 ・ 幼稚園教諭一種免許状
F	幼稚園教諭一種免許状 ・ 保育士資格
G	保育士資格 ・ 社会福祉士受験資格

* 複数の免許・資格を取得する場合に、当該の免許・資格が最短修業年限で取得できることを保証するものではない。必ずしも卒業と免許・資格取得が両立しないことがあるので、十分に留意すること。

【発達科学部 発達科学科 スポーツ健康専攻】

取得できる免許・資格	
①	中学校教諭一種免許状（保健体育）・高等学校教諭一種免許状（保健体育）
②	高等学校教諭一種免許状（保健体育）

〔注〕

- ・履修方法の詳細は別配付の「2004年度（平成16年度）・2005年度（平成17年度）入学生対象 教育職員免許状および資格取得の手引き」を参照のこと。
- ・本学卒業後、在学中に所属した専攻で取得可能な免許・資格に係る科目が一部未修得者に限り、本学の科目等履修生として許可された場合、未修得科目を履修することができる。ただし制限等がある為、科目等履修生では取得できない資格、履修制限のある科目については実習指導室、年間履修単位数の制限、履修期間の期限等については学務課で確認すること。

3. その他の資格

(1) 認定心理士

認定心理士（正式名称：社団法人日本心理学会認定心理士）とは、大学・大学院において所定の心理学科目を修得することにより取得できる資格で、社団法人日本心理学会から授与される。この資格を取得すれば、「心理学」という名称のつかない学部・学科を卒業していても、心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得していることが証明される。

児童教育専攻で心理学関連科目の所定単位を修得した者は、卒業後に日本心理学会に申請することにより認定心理士の資格が取得できる。なお、在学中に所定の条件を満たした者は、卒業見込みの学年度に仮認定証を申請することができる。

〔注〕

- ・履修方法の詳細は別配付の「2004年度（平成16年度）・2005年度（平成17年度）入学生対象 教育職員免許状および資格取得の手引き」を参照のこと。

(2) レクリエーション・インストラクター

レクリエーション・インストラクターは、(財)日本レクリエーション協会の認定する最も基礎的な資格である。本学部は同資格の課程認定校として承認されているため、在学中に所定の科目を履修することにより資格取得が可能となる。

日本レクリエーション協会は、我が国のレクリエーション関連の団体の中で最も歴史と実績を有する団体で、各都道府県、市区町村のレクリエーション協会や各種目・領域団体を傘下に持つ大規模な組織である。文部科学省認可の財団法人であり、平成5年に特定公益増進法人として認定されている。

このような同協会の認定する資格であるレクリエーション・インストラクターは、「レクリエーション活動に関する基本的な知識と技術指導の方法を習得し、質の高いレクリエーション・サービスの提供が可能な人材」であることを全国的に保証する資格である。

卒業後の進路に関わらず、近い将来、学校教育や児童教育をはじめ生涯学習の様々な場面でレクリエーション指導の必要に迫られる可能性は高い。また資格取得の過程で、学外で実際にレクリエーションの現場に関わることもこの資格の大きな特徴である。

〔注〕

- ・履修方法の詳細は別配付の「2004年度（平成16年度）・2005年度（平成17年度）入学生対象 教育職員免許状および資格取得の手引き」を参照のこと。

VI 履修の手続き

(履修登録および履修確認)

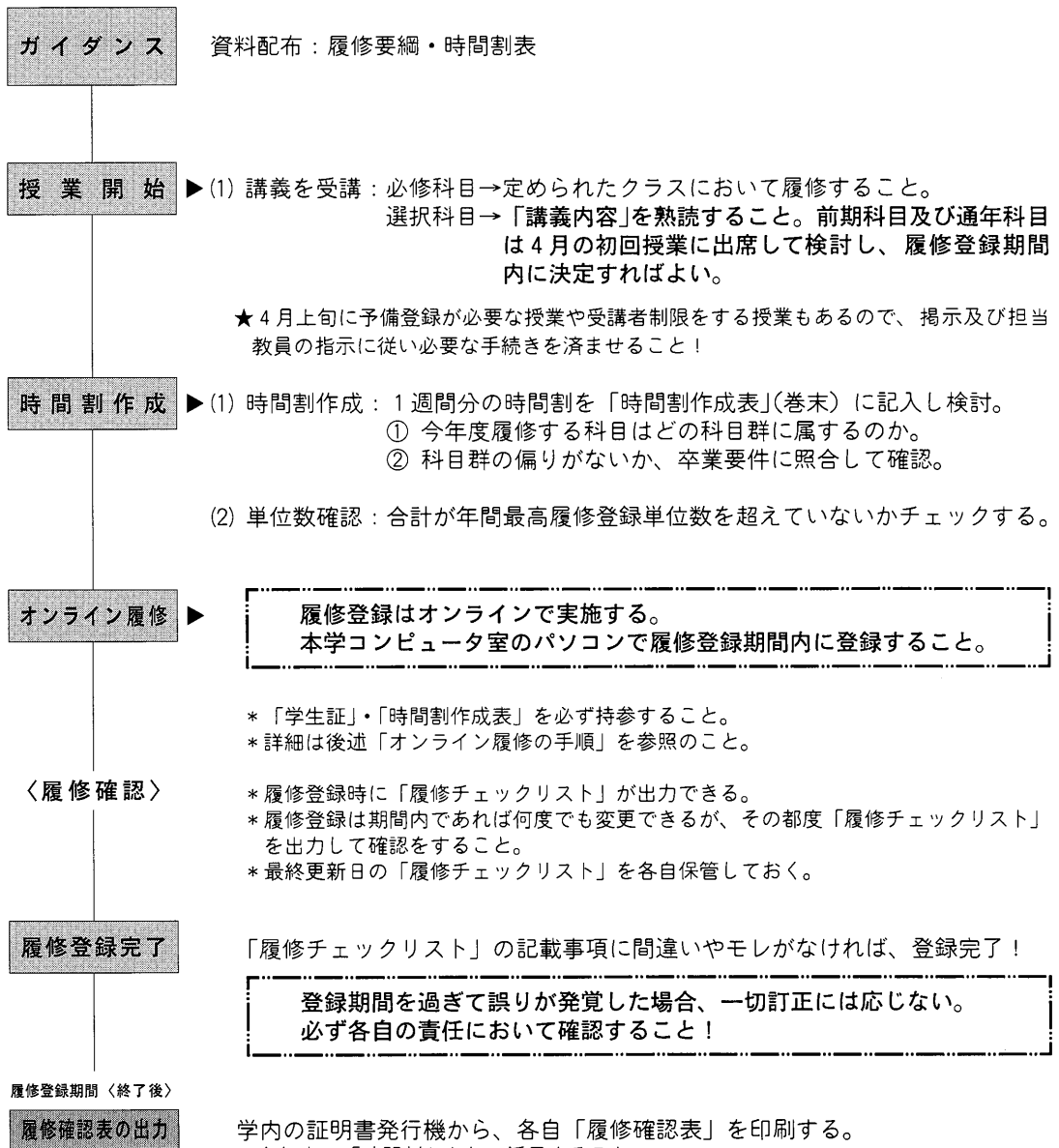
—— 履修登録について ——

履修登録とは、授業を受けて単位を修得するために、その年度の始めに受講計画をたてて履修する（受ける）科目を登録する手続きをいう。この登録をしないと授業を受けることはもちろん、その科目の試験を受けることもできないし、単位も認定されない。

また、履修確認とは、各自登録した内容に間違いがないかどうかを確認することをいう。これを怠って、不備や間違いをそのままにしておくと、受講及び受験資格がなくなるばかりか、卒業認定に重大な影響を及ぼし兼ねない。

従って、この履修登録とは年度始めの重要な手続きといえる。怠って1年間を無駄にしないよう特に注意すること。

履修科目の決定から履修登録まで



1. 履修登録に際しての注意

- (1) 授業時間割は、年度始めに配布・掲示する。
その年度に履修する科目は、通年・前期・後期・集中科目にかかわらず、全て年度始めに履修登録し、併せて履修確認を完了すること。
- (2) 定められた期間内に履修登録を行わなかったり間違っただけの登録をすると、その年度の授業・試験を受ける資格もなくなる。従って単位認定されない。
- (3) 一度登録した科目は、履修登録期間を過ぎると訂正及び変更（追加・削除）することはできない。
- (4) 同開講期・同一時間に二つ以上の科目を登録、履修することはできない。
- (5) 原則として担当教員が異なっている場合、同一名称の科目を重複して履修することはできない。
- (6) 同一日の本校舎と東キャンパスとの授業については、移動時間の必要上連続した時限の履修は不可能であるため、その場合の履修登録は認められない。ただし、昼休みをはさむ場合を除く。
- (7) 「実習科目」「小学校教職課程科目（児童教育専攻のみ）」「随意科目」の単位は、卒業所要単位に含まれない。
- (8) 履修登録の完了は学費納入が前提である。

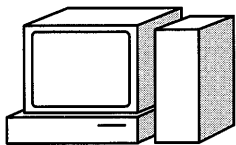
* 履修登録前に「開講科目・履修年次・卒業要件表」および「時間割」と「時間割作成表」とで科目群ごとの卒業所要単位を十分に確認し、今年度履修すべき科目の間違いないよう履修登録すること。
* 2年次生以降は「成績通知表」も併せて参照し、取得しなければならない科目及び単位数の確認をした上で、履修登録を行うこと。
* 登録を間違えると、免許・資格が取得できないばかりでなく卒業ができないことになりかねないため、履修登録の際は細心の注意が必要である。

2. オンライン履修について オンライン履修登録の手順（流れ）の詳細は、次頁を参照のこと！

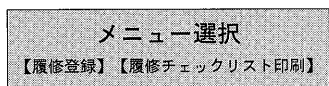
- (1) 登録期間：年度始めに掲示する。
- (2) 登録場所：学内のコンピュータ室
* 授業優先につき、オンライン履修に使用可能なコンピュータ室が時間により異なる。
* パソコン台数に限りがあるので、必ず事前に「時間割作成表」を完成させておくこと。
オンライン履修の際は、これを持参し短時間で登録作業を完了すること。
- (3) 持参する物：
 - ① 「学生証」……………* 取り扱いに十分注意し、各自責任をもって管理すること。
 - ② 「時間割作成表」…*「履修要綱」巻末の用紙を切り離し、個人時間割を作成。
- (4) 履修制限科目について
 - ① 受講者指定科目
クラス指定・学籍番号指定の“必修科目”や学年指定科目等、事前に受講対象者が限定されている科目については、対象者のみ履修が可能。
 - ② 抽選科目ほか
受講者数に上限を設けている科目があるが、制限方法は科目によって異なる。これら科目の履修方法は、掲示で各自確認の上、必要な手続きを完了しないと履修登録できない。
 - ③ 免許・資格取得のための関係科目等
免許・資格取得希望者のみが受講できる科目は、免許・資格取得希望の諸手続きを完了している学生のみ履修可能。

オンライン履修登録の手順

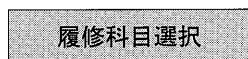
『学生証』を持参しないと登録できない。 1. 事前準備 (全員対象)



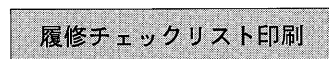
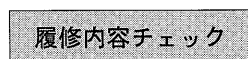
『学生証』を置く



《抽選結果の表示》



エラー修正や変更が
なくなるまで繰り返す!



登録期間があり、パソコン台数にも限りがあるので、パソコンに向かいながら時間割を考えることのないよう、事前に巻末の「時間割作成表」を作成しておく。

2. 履修登録 (全員対象)

操作手順

- (1) パソコン脇の〈ICカード読取機〉の上に『学生証』を置く。
- (2) 【履修登録】を選択する。

- (3) 履修する科目を画面から選択する。

今年度履修する全科目 (通年・前期・後期・集中開講の必修・選択必修および選択科目) を入力する。
選択が完了したら【次】ボタンをクリックする。

注意

次画面の「履修内容チェック」ボタンを押す前に終了すると、登録内容は全て消える。

- (4) 【履修内容チェック】ボタンをクリックする。

登録内容にエラーがないかチェックされる。
・登録内容が正しい場合、履修チェックリストの印刷可能。〈(5)へ〉
・登録内容にエラーがある場合、画面上の【履修チェックエラー】欄にエラー内容が表示される。
・エラー内容を確認し、履修科目を選択し直すこと。

- (5) 【履修チェックリスト】の印刷ボタンをクリックする。

履修チェックリストが印刷される。登録内容に間違いがないか再度確認すること。
履修チェックリストが正しく履修登録を行った証明となるので、各自保管しておくこと。

----- 履修確認期間の終了 -----

履修確認表印刷

学内の証明書発行機から、所定期間内に各自「履修確認表」を印刷する。
*今年度の「時間割」として活用すること。(一定期間後は有料)

VII 試験および成績

児童教育専攻
スポーツ健康専攻 共通項目

年度はじめに履修登録した科目の単位の認定を受けるためには、定期試験を受験しなければならない。ここでは、試験の種類・方法・受験資格等について記してある。また、試験の結果はどのようにして知らせるかなどについても説明してあるので熟読のこと。

1. 試験について

- 試験の種類**
- (1) 前期定期試験：前期末に実施する試験
 - (2) 後期定期試験：後期末・学年末に実施する試験
 - (3) 追 試 験：『試験規則』に基づき、やむを得ない事情で定期試験を受験できなかった場合に実施することがある。
 - (4) 再 試 験：『試験規則』に基づき、不合格科目に対して実施することがある。
 - (5) そ の 他：科目によっては必要に応じて随時試験を行うこともある。

- 試験の方法**
- (1) 筆記試験
 - (2) レポート（論文）
 - (3) 実技・実験・実習 等

※ 定期試験の期間に実施されるのは主に筆記試験を対象としており、その他の評価方法による場合は、担当の先生より指示を受けること。

受験資格 次の要件を満たさなければ受験資格がない。

- (1) 年度始めに受験科目の履修登録をしている
- (2) 授業料、その他学納金を期日までに納入している
- (3) 試験開始後30分以内に着席している
- (4) 学生証を所持している
- (5) 受験する授業科目に2/3以上出席している

これは不可抗力による欠席の可能性を考慮してのことであり、
1/3まで欠席してもよいということではない。

※ 上記以外の場合でも、その他の理由により受験資格に欠格がある場合には、受験を認めない。

- 受験の注意**
- (1) 受験科目：履修登録した授業科目に限る。
未登録の授業科目を受験しても単位の認定にはならない。
 - (2) 受験会場：必ず指定された教室で受験すること。
 - (3) 学生証携帯：必ず『学生証』を携帯し、試験監督者が確認し易い位置（通路側）に置く。

〔学生証を忘れた場合〕

「仮学生証交付願」に必要事項を記入し、1,000円の証紙を貼付して学務課に願い出て、「仮学生証」の交付を受けてから受験する。
ただし、発行は当該試験期間内1回限りとする。（当該試験期間内有効）

- (4) 遅刻及び退出：遅刻 — 試験開始から30分間
退出 — 試験開始から40分以降 } は認める。
監督者の指示があるときはその指示に従うこと。
- (5) 答案記入事項：年次・クラス・学籍番号・氏名・その他 必要事項を明記する。未提出、無記名の答案は全て無効となる。
- (6) 出席カード：マークシートは必ずHBまたはBの鉛筆を使用すること。

- (7) 机上許可の物：学生証・筆記用具（ペンケース・下敷きは不可）
 その他 監督者が特に許可したもの
 ノート・参考書等の持込みが許されている授業科目を受験する時は、必ず自分のものを使用しなければならない。
 ポケットベル・携帯電話の電源は必ずOFFにしておくこと。

(8) 不正行為：不正行為があった場合、ただちに退出を命じ答案は没収する。
 当期試験科目を無効とする。
 また、学則に基づき訓告、停学および退学の懲戒処分をする。
 注) 試験中の貸借は不正行為とみなす。

- (9) その他：試験場内における全てのことについては、監督者の指示に従って行動しなければならない。

試験時間割

原則として、試験期間の1週間前に掲示板・本学ホームページに発表する。
 平常授業時間割の時間帯・教室・曜日と異なることがあるので、注意すること。
 掲示発表後、時間割の変更が生じた場合、掲示発表の時間割を変更・訂正するので、受験前には必ず再度確認をすること。

レポート

科目により平常授業中や試験期間内にレポート提出が求められることがある。
 提出にあたり次の事項を遵守し、決められた日時に必ず提出のこと。
 また、一度提出されたレポートは一切返却しない。

- (1) 作成上の注意：レポートは試験に準ずるもので、独力で作成すべきものである。
 従って、不正行為については筆記試験と同様に扱う。
- (2) 綴じ方：必ず所定の表紙（学務課窓口）を付け、『授業科目名』『論題』
 学籍番号・氏名を黒か青のペンで明記する。
 （自分で紐またはホチキスで綴じた完全なものを提出すること。）
- (3) 提出先：科目担当教員に提出するものと、学務課に提出するものがある。
 （学務課提出の場合）
 ・本校舎開講科目 …本校舎学務課提出
 ・東キャンパス開講科目…東キャンパス学務課提出

〔学務課提出〕提出期限日の午後1時5分締切。以後一切受付ない。

《レポートの綴じ方、表紙記入例》


- 記入項目は全て黒または青のペンで記入する事
- 記入欄には全て記入にモレのないようにする事
- 学務課提出の場合は、レポート提出届を切り離さずに提出する事

《所定レポート表紙》

- 児童教育専攻…オレンジ
- スポーツ健康専攻…イエロー

「横書き」の場合は上部を綴じること。

氏名	曜日	姓	科名
姓	名	先生	
レポート題			
綴じ日 20 年 月 日 () 時			
白鶴大学 児童科学部 発達科学科 学 学務課窓 氏名 住所 電話番号			



レポート提出届	レポート提出届(学生控)
提出日 提出時間 提出場所 提出者	提出日 提出時間 提出場所 提出者

「縦書き」の場合は右側を綴じること。

追 試 験 定期試験当日、本人の病気・天災・交通事故・就職試験・忌引その他やむを得ない事由により、受験できなかった者に対しては、追試験を行う。

- (1) 願出期限：当該科目の試験の翌日から、2日以内（但し、日祝祭日を除く）
- (2) 添付書類：当該試験欠席の事由を裏付ける第三者の証明書
例) 医師の診断書、電車・バスの遅延証明書、就職試験受験証明書、二親等以内の親族の死亡による忌引の場合は葬祭通知書か証明書など
- (3) 受験手続：願出期限内に上記の証明書を添え、学務課に「追試験願届」を提出し、受験の許可を受ける。
なお、1科目につき受験料3,000円を納入しなければならない。
※ 受験時に、学生証と共に「追試験願控」を提示のこと。
- (4) 受験日程：掲示発表
- (5) 成績評価：得点の8割とする。
- (6) その他：追試験の追試験は行わない。

再 試 験 (1) 白鷗大学試験規則

第7条 卒業所要単位の全部を満たすのに足りない単位数が8単位以内である4年生（留年生を含む。）は、次の各号のすべてに該当する科目に限り、かつ卒業所要単位の全部を満たすのに最低限必要な科目数に限り、申請により、再試験を受けることができる。

- (1) その年度に登録された科目であること
- (2) 「D」評価となった科目であること
- (3) 各学部教授会が再試験の受験を認めていない科目ではないこと

2 再試験は、年1回、学年末に実施する。
3 再試験における成績評価は、最高6.9点とする。

- (2) 願出期間：掲示発表
- (3) 受験手続：願出期日に学務課に受験を申し出て、「再試験願」を受け取り必要事項を記入して、受験の許可を受ける。
なお、1科目につき受験料6,000円を納入しなければならない。
受験時に、学生証と共に「再試験願（学生控）」を提示のこと。
- (4) 受験日程：掲示発表
- (5) 成績評価：合格点に達した場合は、C評価となる。
- (6) その他：再試験の再試験は行わない。

【再試験の対象とならない科目】（平成17年4月現在）

		児童教育専攻		スポーツ健康専攻		
A 欄		スポーツと健康 小児保健実習 心理学基礎実験 心理学実験調査法 レクリエーション実技 レクリエーション実習 フレッシュマンセミナー 野外運動A 野外運動B 課題研究A 課題研究B 卒業研究	実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習	陸上運動Ⅰ 陸上運動Ⅱ 器械運動Ⅰ 器械運動Ⅱ 水泳 柔道 ダンスⅠ ダンスⅡ バスケットボール バレーボール 野球（ソフト） テニス	実技理論・実習 実技理論・実習 実技理論・実習 レクリエーション実技 レクリエーション実習 フレッシュマンセミナー 野外運動A 野外運動B 課題研究A 課題研究B 卒業研究	
	A 欄 以 外 科 目	<ul style="list-style-type: none"> ・他学部・他専攻等科目のうち、当該の学部、専攻等が再試験の対象としていない科目 ・放送大学科目（放送大学で再試験を受験し合格した場合でも、本学では再試験対象外の科目となるため単位認定にはならない） ・実習科目 ・小学校教職課程科目（児童教育専攻のみ） ・随意科目 				

2. 成績の評価・発表について

単位の認定 単位の修得は、定期試験の結果によるが、授業科目によっては教室における授業時間中の筆記試験・レポートの提出・平常の学修状況等により、総合的に考慮して判定することがある。

単位認定条件 試験受験資格に、原則として授業への出席（2/3以上）が挙げられているように、単位の認定は、授業への出席を条件とする。
また、学納金が完納されない場合は受験しても単位の認定は認められない。

成績評価

判定 評価	合格					不合格	失格	
	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	再試験合格	59点以下	欠席多	試験・レポート等放棄
	S	A	B	C1	C2	D	H1	H2

成績発表 (1) 成績結果：本年度履修科目の成績結果は、「成績通知表」により通知する。
“不合格・失格科目（D/H評価）”のみは、学生情報端末で確認し、出力できる。発行時期などの詳細は掲示で確認すること。

通年科目の単位付与は、前期及び後期の成績を総合して判定し、評価を付して学年終了時に与える。従って、半期のみ履修しても、単位は与えられない。

- (2) 通知表の配布：前期科目は9月下旬に各自で証明書発行機より出力すること。
（一定期間は無料）
後期科目を含む今年度の成績は、2月中旬（予定）に保護者住所宛に送付すると共に、2月下旬に各自で証明書発行機より出力できる。
- (3) その他：「成績通知表」は、次年度の履修登録の資料となるので、大切に保管しておくこと。紛失した場合は、証明書発行機（有料）で出力すること。

* 「成績通知表」で科目群ごとの卒業所要単位が、充足されているかを確認すること。
単位合計のみの確認では不十分。科目の偏りに特に注意すること!

成績調査 「成績通知表」で評価内容を確認し、万一評価に疑問がある場合には、学務課に申し出て、成績調査を申請することができる。「成績調査申請書」を受け取り、必要事項を記入、所定期間内に提出すること。日程等の詳細は、掲示する。
ただし、この調査は学生に成績変更の「交渉権」を認めるものではない。

実施期間：（前期科目）9月下旬、（後期・通年科目）2月下旬を予定。
対象科目・評価：その年度に履修登録された「全科目」「全評価」

3. 卒業発表

卒業発表 卒業判定会議終了後、卒業決定者を掲示にて発表する。〔3月中旬予定〕
卒業保留者については保護者にその旨を通知する。
卒業決定者は、卒業式に出席し、卒業証書・学位記の授与を受けること。
(電話による問い合わせには一切応じない)

VIII 講義内容

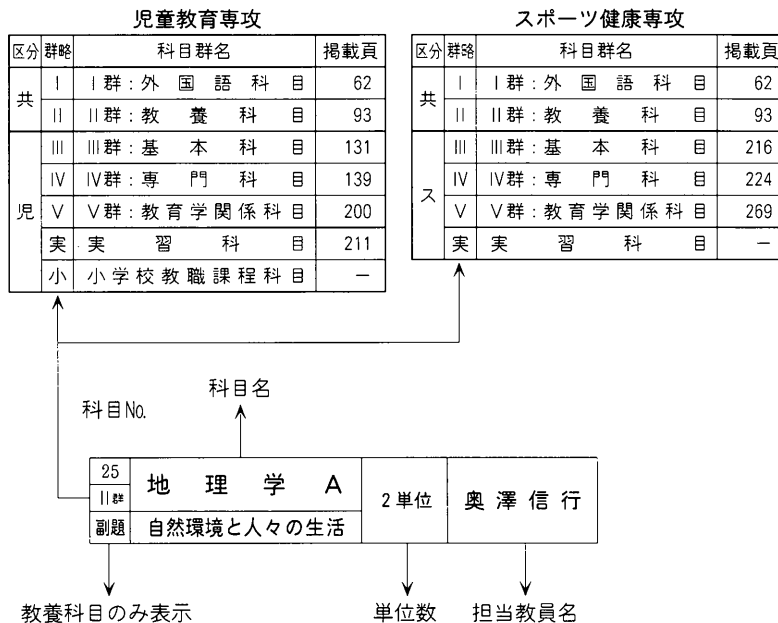
共

児

ス

索

《「講義内容」表題の見方》



- ・クラス指定科目の履修クラスは、アルファベット又は○付数字で示しています。
- ・担当教員が複数の場合、科目によって専攻別あるいはクラス指定での履修となります。

《科目群ごとの「目次」の見方》

- ・科目群ごとに「目次」を作成しています。該当するカリキュラムの「目次」を参照して下さい。

《「教員別科目索引」の見方》

- ・教員が50音順に記載されています。教員名から科目の頁を引くことができます。
- ・担当科目は記載頁順に並んでいます。

児童教育専攻・スポーツ健康専攻

共	I群：外国語科目 II群：教養科目
---	----------------------

児童教育専攻

児	III群：基本科目 IV群：専門科目 V群：教育関係科目 実習科目・小学校教職課程科目
---	--

スポーツ健康専攻

ス	III群：基本科目 IV群：専門科目 V群：教育関係科目 実習科目
---	--

索	教員別科目索引(50音順)
---	---------------

2004年度以降入学生

共(発達科学科共通科目)。 I群：外国語科目, II群：教養科目 目次

科目区分	科目No.	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考
I群-A	1	英会話Ⅰ	G. T. ハマダ J. S. 津野田 L. J. ラインボールド J. カーシャンマン	62 64 65/66 67	1	・卒業必修科目 児童教育専攻のみ担当 スポーツ健康専攻のみ担当
		英会話Ⅱ	G. T. ハマダ L. J. ラインボールド J. カーシャンマン	68 70/71 72		
I群-B	外国語科目 (必修)	3 英語Ⅲ	J. S. 津野田	73	2・3・4	
		4 英語Ⅳ	M. M. リオン	74	1・2・3・4	
		5 英語Ⅴ	宮里恭子	75	1・2・3・4	
		6 英語Ⅵ	W. スミダ	76	1・2・3・4	
		7 英語Ⅶ	小林正人	77	1・2・3・4	
		8 英語Ⅷ	新川清治	78	2・3・4	
		9 ドイツ語Ⅰ	的場哲朗	79	1・2・3・4	
		10 ドイツ語Ⅱ	石川悦久	80	2・3・4	
		11 ドイツ語Ⅲ	石川悦久	81	2・3・4	
		12 ドイツ語Ⅳ	的場哲朗	82	2・3・4	
		13 フランス語Ⅰ	C. アマン	83	1・2・3・4	
		14 フランス語Ⅱ	C. アマン	84	2・3・4	
		15 フランス語Ⅲ	C. アマン	85	2・3・4	
		15 フランス語Ⅳ	C. アマン	85	2・3・4	
		16 スペイン語Ⅰ	高橋節子	86	1・2・3・4	
		17 スペイン語Ⅱ	高橋節子	87	2・3・4	
		18 スペイン語Ⅲ	高橋節子	88	2・3・4	
		18 スペイン語Ⅳ	高橋節子	88	2・3・4	
		19 中国語Ⅰ	何 秋平	89	1・2・3・4	
		20 中国語Ⅱ	平木真快	90	2・3・4	
		21 中国語Ⅲ	平木真快	91	2・3・4	
		21 中国語Ⅳ	平木真快	91	2・3・4	
22 コリア語	宋 台植	92	2・3・4			
II群	教養科目	23 歴史学A	村尾元忠	93	1・2・3・4	
		24 歴史学B	村尾元忠	94	1・2・3・4	
		25 地理学A	奥澤信行	95	1・2・3・4	
		26 地理学B	奥澤信行	96	1・2・3・4	
		27 倫理学A	的場哲朗	97	1・2・3・4	
		28 倫理学B	的場哲朗	98	1・2・3・4	
		29 哲学A	渡辺 忠	99	1・2・3・4	
		30 哲学B	渡辺 忠	100	1・2・3・4	
		31 文学A	向井千代子	101	1・2・3・4	
		32 文学B	針生 進	102	1・2・3・4	

共

科目区分	科目No	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考		
II群	教 養 科 目	33	美学A	益田勇一	103	1・2・3・4		
		34	美学B	益田勇一	104	1・2・3・4		
		35	社会学A	山本厚太郎	105	1・2・3・4		
		36	社会学B	山本厚太郎	106	1・2・3・4		
		37	法学A	河原文敬	107	1・2・3・4		
		38	法学B	宮原 均	108	1・2・3・4		
		39	統計学A	沖津 直	109	1・2・3・4		
		40	統計学B	沖津 直	110	1・2・3・4		
		41	心理学A	伊東孝郎	111	1・2・3・4		
				神戸文朗	112			
				中谷陽子	113			
		42	心理学B	伊東孝郎	114	1・2・3・4		
				神戸文朗	115			
				中谷陽子	116			
		43	社会心理学A	細田一秋	117	1・2・3・4		
		44	社会心理学B	細田一秋	118	1・2・3・4		
		45	環境科学A	細野英夫	119	1・2・3・4		
		46	環境科学B	細野英夫	120	1・2・3・4		
		47	数学A	黒澤和人	121	1・2・3・4		
		休	数学B	—	—	1・2・3・4		平成17年度休講
		48	物理学A	師 啓二	122	1・2・3・4		
49	物理学B	師 啓二	123	1・2・3・4				
50	生物学A	上田高嘉	124	1・2・3・4				
51	生物学B	上田高嘉	125	1・2・3・4				

共

1 I 群	英 会 話 I	2 単 位	G. T. ハマダ
クラス 児童教育 C E F G H, スポーツ B			

〔講義目的〕

Course Objectives: This course will be a communicative English courses targeted for all students to use and experience English firsthand by using English to understand English and to develop their English ability by focusing on the following primary learning skills:

1. Reading short stories that teach moral lessons for all students to understand and apply to their development of character: knowledge of contents; vocabulary, grammar, and expression
2. Listening and speaking tasks: conversations; discussions in pairs and groups; speech
3. Creative writing through students' own thoughts and feelings: activate present and past experiences; originality
4. Active character-related, role-playing, including supplemental dialogs: teamwork through dramatization

This course will be taught to all students who plan to become early childhood and primary education teachers, sports trainers, and recreation instructors and need to know and develop their abilities and potentials by remembering what are essential in educating themselves to become people of good character.

〔講義内容〕

Course Contents: It is so important for all students to be able to use their body, mind, and spirit in harmony with one another while learning; after all, they are the three main parts that comprise the "self." *Teaching our complete "self" by learning what is good, by loving what is good, by knowing what is good, and by doing what is good will lead us to become a person of good character.* Major themes to develop good character traits will be taught, explained, discussed, and practiced communicatively and interactively using the above four skills to reach the desired objectives.

〔講義のすすめ方〕

Course Progress: Firstly, students must change their attitude about "making mistakes is bad." The reason to be shy or non-responsive in class because of this false thinking is no answer to learning. Therefore, the teacher welcomes mistakes as an opportunity for students to re-think for themselves, change any negative attitudes or feelings they may have, make proper adjustments and corrections, and begin to challenge the various tasks in a new and better way with the teacher's help.

Secondly, students are required to complete two consecutive years of English conversation classes to graduate; and because of its length of time, students will have many opportunities to learn what is necessary for themselves as well as the students they will teach in the future.

The course aims to help, direct, motivate, encourage, and develop all students to maintain a higher degree of the English language with more understanding, skills, and confidence than they had before beginning the course. Students are always encouraged to ask their teacher for assistance on any difficult problems and assignments in and out of class.

〔教 材〕

Course Materials: Students are required to purchase the textbook CULTIVATING THE SEEDS: An English Communicative Learning Textbook on Good Character Growth in their first class of instruction. The cost per textbook is ¥2,000.

〔成績評価の方法・基準〕

Course Grading: Grading will be based on how well each student completes the four primary skills of the course objectives at the end of the year. Excessive absences without an excusable reason for all early childhood, primary, and sports education students will terminate in their failure of the course. The school's official form stamped and approved stating in writing the reason a student will

be absent from a certain class period will be the only acceptance for not being present in class.

** A special note of importance to all sports players and their respective coaches: the teacher highly recommends that all coaches urge their student-players (s-p) to attend English classes regularly without failure. There should not be excuses for player-students (p-s) missing any classes because of a lack of interest, fatigue, or simple laziness. Both “s-p” and “p-s” are the same person, except one is looked at by the coach’s point of view and the other is looked at by the teacher’s point of view as to its importance.*

[履修のポイント・注意点]

Course Recommendation: Regular attendance is a must as students are informed to know what is required of them every week. Skipping any classes will be detrimental to the students’ learning and final outcome. Students must bring their listening ears, speaking voices, clear minds, and active bodies to be used in class every week. Please don’t forget them at home, OK? It is also recommended to bring a notebook to every class.

[科目内容の位置付け]

[前提・関連科目(科目間関連の内容)]

Course Sequence and English-related Subjects: English Conversation I and II will give students many opportunities to use their oral and aural skills for communication, to learn new things, and to make proper adjustments as we go along.

1	英 会 話 I	2単位	ジョイス S.津野田
群			
クラス 児童教育BD			

Purpose of the course:

The purpose of this course is to develop students' English speaking, listening and understanding skills. While the primary focus of the course will be speaking and listening, a holistic approach will be taken to integrate reading, writing, and knowledge of basic grammar. Students will be assisted in recognizing basic vocabulary used in the field of their study, which is early childhood education and care, as well as in practical everyday English conversations.

Approach:

Each class session will be a combination of lecture and laboratory approach to rigorous training in conversational and listening skills. Students are expected to fulfill weekly assignments and to come prepared to participate actively in conversational exercises. Students will be encouraged to use the language without feeling apprehensive about not speaking grammatically correct or perfectly pronounced English.

Evaluation and grading:

Regular attendance and participation in class and laboratory speaking and listening practices will be a major part of the evaluation and grading. Periodic and final oral examinations will be used to determine the individual student's progress. Students will be graded on the basis of individual efforts, progress and improvements, and not on comparison with other students.

Textbooks;

To be announced later.

〔講義目的〕

〔講義内容〕

英語で話し、聴き、理解する力を伸ばすのがこのコースの目的である。話すこと聴くことにまず重点をおくが、読み書きや基礎文法とも結びつけるため、全体観的なとらえ方で授業が進められる。実際の日常会話はもちろんのこと、保育・幼児教育の専門分野でよく使われる基本語彙についても認識するよう指導される。

〔講義のすすめ方〕

授業は毎回、講義と、会話・リスニングの徹底した訓練実習、この二つを組み合わせで行われる。学生は、毎週与えられる宿題を済ませ、会話練習に積極的に参加する用意をして授業に臨むことが期待される。文法的な正確さや発音の完全さを気にしすぎず、話すように奨励される。

〔成績評価の方法・基準〕

出席率、教室および話し聴く訓練実習での積極的参加の度合いが、成績のおもな評価基準となろう。また、定期的な試験と、学年末口答試験により、その学生の達成度が判断される。他の学生との比較ではなく、各自の努力の度合い、進歩と改善に基づき査定される。

〔教 材〕

追って通知

1 群	英 会 話	2単位	L. J. ラインボールド
クラス 児童教育A			

Overview

The goal of this course is to enable students to be able to converse in English in various settings, situations, and transactions. Objectives include developing confidence in expressing oneself and increasing working vocabulary. Students will be instructed to develop awareness, schema, and learn communication strategies.

Course Contents

Lesson plans are focused around listening and speaking activities. Activities in class will include group projects to enable students to work together as a team and students will be introduced to critical thinking skills and logical thinking through discussion. Students will participate in making meaningful exchanges using pair work and group work activities. Each unit will have a brief presentation of grammar, a listening task centered around the language point, and extensive oral and aural practice. At the same time, students will learn to recognize relaxed spoken English, fast speech, increase their vocabulary and develop cognitive skills.

Textbooks

Fifty-Fifty: Book One, Second Edition

Warren Wilson and Roger Barnard, Longman
Whaddaya Say?: Guided Practice in Relaxed Speech- Second Edition

Nina Weinstein, Pearson Education

Supplementary reading

Childcare English

Naoko Akamatsu, Yoko Hisatomi, Houbunshorin

Student Evaluation

Grades on this course will be determined by the following criteria:

Regular attendance 30%- If a student misses more than 1/3 of classes, he/she will fail the course. Being more than five minutes late for class three times will count as one absence. Being late for more than 20 minutes is considered one absence.

Active participation 20%- The more you speak in English, the better your grades. Mistakes are good. They show that you are trying and learning.

Homework grades/quizzes 10%-- No late homework. If you are absent, call your friend and ask about the assignment.

Two final assignments (to be decided) 40%. Late assignments will be penalized unless there is a valid reason.

Message to students

Remember that this is YOUR class. The more that you put in, the more that you will get out of it. The more you speak, write and think in English, the more confidence you will have. Take charge of your own learning!!

1	英 会 話 I	2単位	L. J. ラインボールド
1群	クラス スポーツD		

Overview and Objectives

English I is an integrated skills course with speaking and listening activities and some reading and writing workshops. Key grammar structures and vocabulary are introduced to give students a solid foundation on which to grow in English. Students will receive instruction on developing awareness, schema, and learning various communication strategies. The goal is to enable students to feel comfortable speaking English for various communicative purposes.

Course Contents

This course is designed for you to participate in making meaningful exchanges using pair work and group work activities. Each unit will have a brief presentation of grammar, pronunciation, speaking, listening, reading and writing exercises. Controlled pair-work activities will help students succeed in speaking from the beginning and build confidence and motivation. Activities in class will include group projects to enable students to work together as a team and students will be introduced to critical thinking skills and logical thinking through discussion.

Textbook

Advantage

Dale Fuller and Timothy Kiggell, MacMillan Languagehouse

Supplementary reading

Childcare English

Naoko Akamatsu, Yoko Hisatomi, Houbunshorin

Student Evaluation

Grades on this course will be determined by the following criteria:

Regular attendance 30%- If a student misses more than 1/3 of classes, she will fail the course. Being more than five minutes late for class three times will count as one absence. Being late for more than 20 minutes is considered one absence.

Active participation 20%- The more you

speak in English, the better your grades. Mistakes are good. They show that you are trying and learning.

Homework grades/quizzes 10%-- No late homework. If you are absent, call your friend and ask about the assignment.

Two final assignments (to be decided) 40%. Late assignments will be penalized unless there is a valid reason.

Message to students

Remember that this is YOUR class. The more that you put in, the more that you will get out of it. The more you speak, write and think in English, the more confidence you will have. Take charge of your own learning!!

1 I群	英 会 話 I	2 単位	J. カーシャンマン (前期:Rebecca Mece)
クラス スポーツAC			

Course goals

This course will help students develop greater confidence, fluency, and accuracy in all areas of English usage with a special emphasis on using English for communicative purposes. English will be studied and practiced in the context of the professional goals for which students are preparing themselves. The culmination of the course will be a simulation of an international conference where English is the conference language.

Course objectives

Students in this course will

- * build receptive English skills and vocabulary through a wide variety of listening activities
- * build fluency in productive English skills through participation in a wide variety of communicative activities
- * demonstrate growing skill in comprehension of unedited spoken English
- * demonstrate growing skill in using English for communicative purposes
- * work collaboratively with classmates to build, practice, and use English
- * plan and participate in a simulation of an international professional conference
- * report increased confidence and pleasure in using English

Procedures

This class will follow a generally regular routine of warm-up, review, introduction of new material, and time for individual and group work. Primary emphasis will be on listening and speaking activities, but other English skills will be utilized as well. For example, reading short simple texts is an excellent means of building vocabulary and awareness of how English speakers use specific grammatical patterns.

Texts

A variety of materials will be used for study in this class. These include a basic textbook as well as materials provided by the teacher, materials collected and created by the students themselves, and materials available in libraries and online.

Grading

If you attend class faithfully, think positively, and practice regularly, you can improve your English skills. These are the main qualities that will be necessary to successfully complete this course. Good attendance is more than just sitting in class. It also means having a positive attitude, trying to use English, and working cooperatively with classmates. Good attendance and active participation are the major components of your course grade.

It is difficult to improve a skill that we use only once a week. Small homework tasks will be assigned to help you review work done in class and prepare for the work of the next class. These tasks will help you and your teacher see your progress.

Class activities will consist of both individual and group tasks. In most cases, completion is more important than quality. When quality is extremely poor, you will have time to redo an assignment. The final class project will be to plan and carry out a simulation of an international education conference. Participation in this conference is required in order to pass this course; however, the instructor will assist with every step of the project.

Grades will be determined based on these criteria:

Attendance and participation	40%
Homework	20%
Individual tasks	20%
Class project	20%

Expectations for Students

This class will be conducted wholly in English. The instructor understands that it is her responsibility to make the language of the classroom comprehensible for her students. At the same time, students bear the responsibility for trying to appreciate, understand, and work within the English environment that the class offers.

Since language learning is a skill, it cannot be acquired without practice. The instructor will plan class time to include numerous opportunities for language practice. Students are expected to take full advantage of these opportunities to practice understanding and using English in an active way.

2	英 会 話 II	2 単 位	G. T. ハマダ
I 群			
クラス 児童教育③④⑥、スポーツ①			

〔講義目的〕

Course Objectives: This course will be a communicative English courses targeted for all students to use and experience English firsthand by using English to understand English and to develop their English ability by focusing on the following primary learning skills:

1. Reading short stories that teach moral lessons for all students to understand and apply to their development of character: knowledge of contents; vocabulary, grammar, and expression
2. Listening and speaking tasks: conversations; discussions in pairs and groups; speech
3. Creative writing through students' own thoughts and feelings: activate present and past experiences; originality
4. Active character-related, role-playing, including supplemental dialogs: teamwork through dramatization

This course will be taught to all students who plan to become early childhood and primary education teachers, sports trainers, and recreation instructors and need to know and develop their abilities and potentials by remembering what are essential in educating themselves to become people of good character.

〔講義内容〕

Course Contents: It is so important for all students to be able to use their body, mind, and spirit in harmony with one another while learning; after all, they are the three main parts that comprise the "self." *Teaching our complete "self" by learning what is good, by loving what is good, by knowing what is good, and by doing what is good will lead us to become a person of good character.* Major themes to develop good character traits will be taught, explained, discussed, and practiced communicatively and interactively using the above four skills to reach the desired objectives.

〔講義のすすめ方〕

Course Progress: Firstly, students must change their attitude about "making mistakes is bad." The reason to be shy or non-responsive in class because of this false thinking is no answer to learning. Therefore, the teacher welcomes mistakes as an opportunity for students to re-think for themselves, change any negative attitudes or feelings they may have, make proper adjustments and corrections, and begin to challenge the various tasks in a new and better way with the teacher's help.

Secondly, students are required to complete two consecutive years of English conversation classes to graduate; and because of its length of time, students will have many opportunities to learn what is necessary for themselves as well as the students they will teach in the future.

The course aims to help, direct, motivate, encourage, and develop all students to maintain a higher degree of the English language with more understanding, skills, and confidence than they had before beginning the course. Students are always encouraged to ask their teacher for assistance on any difficult problems and assignments in and out of class.

〔教 材〕

Course Materials: Students are required to purchase the textbook CULTIVATING THE SEEDS: An English Communicative Learning Textbook on Good Character Growth in their first class of instruction. The cost per textbook is ¥2,000.

〔成績評価の方法・基準〕

Course Grading: Grading will be based on how well each student completes the four primary skills of the course objectives at the end of the year. Excessive absences without an excusable reason for all early childhood, primary, and sports education students will terminate in their failure of the course. The school's official form stamped and approved stating in writing the reason a student will

be absent from a certain class period will be the only acceptance for not being present in class.

** A special note of importance to all sports players and their respective coaches: the teacher highly recommends that all coaches urge their student-players (s-p) to attend English classes regularly without failure. There should not be excuses for player-students (p-s) missing any classes because of a lack of interest, fatigue, or simple laziness. Both “s-p” and “p-s” are the same person, except one is looked at by the coach’s point of view and the other is looked at by the teacher’s point of view as to its importance.*

[履修のポイント・注意点]

Course Recommendation: Regular attendance is a must as students are informed to know what is required of them every week. Skipping any classes will be detrimental to the students’ learning and final outcome. Students must bring their listening ears, speaking voices, clear minds, and active bodies to be used in class every week. Please don’t forget them at home, OK? It is also recommended to bring a notebook to every class.

[科目内容の位置付け]

[前提・関連科目(科目間関連の内容)]

Course Sequence and English-related Subjects: English Conversation I and II will give students many opportunities to use their oral and aural skills for communication, to learn new things, and to make proper adjustments as we go along.

2	英 会 話 II	2 単 位	L. J. ラインボールド
1 群	クラス 児童教育①②		

Objectives

English II focuses on listening and speaking proficiency and the goal is to enable you to become more comfortable speaking English for various communicative purposes. Objectives are developing confidence in self-expression and increasing working vocabulary.

Course Contents

This course is designed for you to participate in making meaningful exchanges using pair work and group work activities. Each unit will have a brief presentation of grammar, a listening task centered around the language point, and extensive oral and aural practice. At the same time, you will learn to recognize relaxed spoken English, fast speech, increase your vocabulary and develop cognitive skills.

We will study one half to one chapter per week (sometimes we will progress at a faster pace). You should try to speak fluently in various settings and situations.

Required textbooks:

Fifty-Fifty Book Two: An Intermediate Course in Communicative English-Second Edition

Warren Wilson and Roger Barnard, Longman
Whaddaya Say?: Guided Practice in Relaxed Speech- Second Edition

Nina Weinstein, Pearson Education

Student Evaluation

Grades on this course will be determined by the following criteria:

Regular attendance 30%- If a student misses more than 1/3 of classes, he/she will fail the course. Being more than five minutes late for class three times will count as one absence. Being late for more than 20 minutes is considered one absence.

Active participation 20%- The more you speak in English, the better your grades. Mistakes are good. They show that you are trying and learning.

Homework grades/quizzes 10%-- No late

homework. If you are absent, call your friend and ask about the assignment.

Two final assignments (to be decided) 40%. For late assignments, points will be deducted from your grade unless there is a valid reason.

Message to Students

You are all invited to make requests or suggestions on how or what you want to study. This is your class so make it a course that is meaningful for you! The more that you put in, the more that you will get out of it. The more you speak, write and think in English, the more confidence you will have. Take charge of your own learning!!

2	英 会 話 II	2単位	L. J. ラインボールド
1群			
クラス スポーツ②③			

Objectives

English II focuses on listening and speaking proficiency. The goals are to help you become more comfortable speaking English for various communicative purposes.

Course contents

This course is designed for you to participate in making meaningful exchanges using pair work and group work activities. Each unit will have a brief presentation of grammar, a listening task centered around the language point, and extensive oral and aural practice. At the same time, you will learn to recognize relaxed spoken English, fast speech, increase your vocabulary and develop cognitive skills. You should try to speak fluently in various settings and situations

We will study one half to one chapter per week (sometimes we will progress at a faster pace). You are all invited to make requests or suggestions on how or what you want to study.

Required textbook:

Fifty-Fifty Book One: A Basic Course in Communicative English, Second Edition

Warren Wilson and Roger Barnard, Longman

Student Evaluation

Grades on this course will be determined by the following criteria:

Regular attendance 30%- If a student misses more than 1/3 of classes, he/she will fail the course. Being more than five minutes late for class three times will count as one absence. Being late for more than 20 minutes is considered one absence.

Active participation 20%- The more you speak in English, the better your grades. Mistakes are good. They show that you are trying and learning.

Homework grades/quizzes 20%-- No late homework. If you are absent, call your friend and ask about the assignment.

Two final assignments (to be decided) 30%.

For late assignments, points will be deducted from your grade unless there is a valid reason.

Message to Students

This is your class so make it a course that is meaningful for you! Remember that this is YOUR class. The more that you put in, the more that you will get out of it. The more you speak, write and think in English, the more confidence you will have. Take charge of your own learning!!

2	英 会 話 II	2 単位	J. カーシャマン (前期:Rebecca Mace)
1 群 クラス 児童教育⑥			

Course goals

This course will help students develop greater confidence, fluency, and accuracy in all areas of English usage with a special emphasis on using English for communicative purposes. English will be studied and practiced in the context of the professional goals for which students are preparing themselves. The culmination of the course will be a simulation of an international conference where English is the conference language.

Course objectives

Students in this course will

- * build receptive English skills and vocabulary through a wide variety of listening activities
- * build fluency in productive English skills through participation in a wide variety of communicative activities
- * demonstrate growing skill in comprehension of unedited spoken English
- * demonstrate growing skill in using English for communicative purposes
- * work collaboratively with classmates to build, practice, and use English
- * plan and participate in a simulation of an international professional conference
- * report increased confidence and pleasure in using English

Procedures

This class will follow a generally regular routine of warm-up, review, introduction of new material, and time for individual and group work. Primary emphasis will be on listening and speaking activities, but other English skills will be utilized as well. For example, reading short simple texts is an excellent means of building vocabulary and awareness of how English speakers use specific grammatical patterns.

Texts

A variety of materials will be used for study in this class. These include a basic textbook as well as materials provided by the teacher, materials collected and created by the students themselves, and materials available in libraries and online.

Grading

If you attend class faithfully, think positively, and practice regularly, you can improve your English skills. These are the main qualities that will be necessary to successfully complete this course. Good attendance is more than just sitting in class. It also means having a positive attitude, trying to use English, and working cooperatively with classmates. Good attendance and active participation are the major components of your course grade.

It is difficult to improve a skill that we use only once a week. Small homework tasks will be assigned to help you review work done in class and prepare for the work of the next class. These tasks will help you and your teacher see your progress.

Class activities will consist of both individual and group tasks. In most cases, completion is more important than quality. When quality is extremely poor, you will have time to redo an assignment. The final class project will be to plan and carry out a simulation of an international education conference. Participation in this conference is required in order to pass this course; however, the instructor will assist with every step of the project.

Grades will be determined based on these criteria:

Attendance and participation	40%
Homework	20%
Individual tasks	20%
Class project	20%

Expectations for Students

This class will be conducted wholly in English. The instructor understands that it is her responsibility to make the language of the classroom comprehensible for her students. At the same time, students bear the responsibility for trying to appreciate, understand, and work within the English environment that the class offers.

Since language learning is a skill, it cannot be acquired without practice. The instructor will plan class time to include numerous opportunities for language practice. Students are expected to take full advantage of these opportunities to practice understanding and using English in an active way.

3 群	英 語 III	2単位	ジョイス S. 津野田
----------	---------	-----	-------------

Purpose and Content of the Course
(講義の目的と内容)

This is an elective course for students who wish to strengthen their English abilities. It is assumed that these students have taken basic courses in English (reading, writing, listening, speaking, grammar) prior to enrolling in this course. At the beginning of the class a survey and a simple pre-test will be given in order to determine each student's English capacity.

The focus of this course will be on developing and maintaining students' ability and willingness to express themselves and to communicate coherently with colleagues and others in practical and survival settings. Students will be assisted in gaining and reviewing basic English grammar and in adding to their recognition of basic vocabulary used in professional settings related to students' major fields, i.e. education or sports.

Approach (講義のすすめ方)

Weekly lessons will consist of review of basic vocabulary, grammar, and/or sentence and paragraph structures, along with interactive class exercises in expressions and conversations between the teacher and students and among student teams. While a holistic approach will be taken, emphasis will be on developing oral and written English fluency, along with encouraging personal attitudes that promote greater self-responsibility and initiative, self-confidence as learners, and willingness to take risks and to try.

Evaluation and grading
(成績評価の方法、基準)

Attendance will be strictly monitored. Students are expected to complete assigned homework and to come prepared for each weekly lesson. Students will be evaluated on the basis of their active participation in classroom exercises, and on their scores on

quizzes and tests. Final examination or a semester wrap-up project will be used to assess students' achievement.

Texts (教材)

To be announced later.

[講義目的]

[講義内容]

英語力を強化したい学生のための選択コースである。受講するためには、英語の基礎コース(読み書き、聴解、会話、文法)を取りおえていることが必要。講義の開始にあたって、学生各自の英語力を知るために簡単なテストと調査を行う。

この講義の焦点は、自らすすんで自己表現し、実際的あるいは必要に迫られた状況下で、コミュニケーションを図れる積極的な姿勢と、英語の能力を維持し発達させるところにある。英文法の基礎を身につけ復習し、学生の専攻(教育、スポーツ等)に関連する専門的な基礎語彙を増加させるための援助が与えられる。

[講義のすすめ方]

毎週の講義は、基礎語彙・文法・英作文の復習、また教室における教員及び学生間あるいはチーム間でおこなう、会話および表現の、相互的な練習から成る。全体的なアプローチが取られるが、書く力及び口頭で表現する力を発展させることに主眼が置かれる。同時に、学習者としての自己確信、リスクを負うことをいとわず試みる積極性、自己責任、先取性を促進する等の姿勢を持つことが奨励される。

[成績評価の方法・基準]

出席は厳しく記録される。与えられた宿題を完成し、毎週の講義には準備して臨むことが期待される。成績は、教室での討議への積極的参加の度合い、小テスト、定期試験の点数、などに基づいて評価される。学年末試験あるいは学期末に与えられる総括プロジェクトも、学生の達成度を査定するのに使用される。

[教 材]

追って通知

4 群	英 語 IV	2 単位	M. M. リオン
----------	--------	------	-----------

Course Objectives

English IV will provide additional training for other English courses. You will learn to better understand the spoken language of English. By training your ear to hear connected speech or run-on words, as well as English expressions and slang, you will become a more skilled listener and also be able to use idioms appropriately.

You will also learn to work effectively in peer groups, share your opinions and ideas, and present and evaluate speeches.

Course Contents

Starting with simple speaking and listening topics, the textbook gradually progresses into complex or multi-tasking topics. Many of the tasks are culturally identifiable with the Japanese culture, and will not seem completely foreign to the students.

Course Progress

This course will be conducted in English, with a short daily pronunciation practice by means of singing or reading poetry. Guidelines for class discussion or small group work (peer/instructor-led conversational practice) will be announced daily.

Course Materials

Textbook: Helgesen, M./Brown, S. "Active Listening", Cambridge Univ. Press Printed material distributed by instructor to be kept in a folder. All students are responsible to bring this folder and to take notes in class.

Course Evaluation

Grades will weigh heavy in student's classroom/group participation, involvement and contribution. The grading for these classroom activities are based on observation by the instructor, therefore daily attendance is essential.

Individual presentations and oral tests are lesser percentages in the total grade.

Course Recommendation

Students are recommended to have some conversational skills before entering this course, due to the large degree of participation that is expected of them.

Student's responsibilities will be given in a written format on the first day of class.

Course Sequence

English IV will utilize the knowledge gained in English I, II and III, giving the student confidence in merging these courses into the next higher level.

Related Subjects

Similar to comments under "Course Sequence"

5 1st	英 語 V	4単位	宮里 恭子
----------	-------	-----	-------

〔講義目的〕

異文化理解をテーマに、リーディングやディスカッションを通して考察していく。

〔講義のすすめ方〕

授業では、リーディングを主に取り扱う。前半は主教材のテキストとハンドアウトを使って読解を行う。後半は主にグループでのディスカッションなどを通して自分の意見を発表しあう場とする。

〔教 材〕

「Discover Your Own Culture:自文化再発見」
Wayne Sumida、宮里恭子著 英宝社
ハンドアウトも配布するのでファイルを用意しておくこと。また、英和・和英辞典を必ず携帯すること。

〔成績評価の方法・基準〕

テスト 2 回（定期試験中に実施）	約40%
エッセイ（小論文） 3～4 回	30%
ディスカッション、その他	20%
授業態度（出席率・遅刻・授業貢献度を考慮）	10%

〔履修のポイント・注意点〕

- ※毎回始業時に出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなし、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。欠席が総授業回数の 1/3 を超えた場合は定期試験の受験資格がなくなるので、十分気をつけてもらいたい。
- ※ディスカッションを毎回行うので、積極的に自分の意見を述べるだけでなく、他人の意見にも真剣に耳を傾ける姿勢をもってもらいたい。
- ※リーディング部分の予習が前提となるので、欠かさずに自宅学習すること。

〔科目内容の位置付け〕

中級レベル：基本的なリーディングができることを前提とする。

6 部	英 語 VI	4 単位	W. スミダ
----------	--------	------	--------

〔講義目的〕

This is an elective writing course for the student who would like to develop his or her writing skills. It is hoped that by the end of the course the student will have an increased confidence in his or her ability to express ideas and opinions in written English.

This is a computer-based writing course. Students taking this course will be asked to use a computer and resources available on the Internet to complete work assignments. Students should know how to do a website search on the Internet, be familiar with the word processing program Microsoft Word, and know how to save and send files.

〔講義内容〕

The emphasis will be on working with the concept of writing as a process. From the initial stage of getting an idea to the final re-write leading to a finished product, writing is an exercise that requires re-evaluation and revision. Students will be asked to consider the steps to take as they work toward producing a finished piece of writing.

〔講義のすすめ方〕

Students will be asked to write on themes that are related to their own life experiences.

There will be an extensive amount of writing to complete in the course. Students taking the course should expect to work hard to complete all of the required assignments.

Each student will put together a webpage to display his or her work, along with photos. This will be an opportunity to work on developing computer skills along with writing skills.

Students must be able to work independently and use self-initiative. Students are expected to ask questions when they need to clarify the requirements for any writing assignment.

All assignments and due dates will be posted in the Internet-based classroom.

〔教 材〕

There is no textbook for this class. All information necessary for the class will be available in the Internet-based classroom.

〔成績評価の方法・基準〕

Final grades will be based on the following :

Attendance	10%
Reports	40%
Webpage	20%
Discussion Board	15%
Instant-Message Board	15%
	<hr/> 100%

〔履修のポイント・注意点〕

The course will be conducted entirely in English. There will not be any translation of English to Japanese by the teacher. This may be a first-time experience for some and may require that the learner change his or her perspective as to what language learning is about. Students working in this challenging environment will be expected to take the initiative in trying to improve his or her English language skills. Students can expect support from the teacher and classmates, but improvement will come only through individual persistence and effort.

Students should come to class with the understanding that questions about the material contained in the lesson are always welcome. The sincere negotiation of meaning that results between teacher and student or between students when trying to answer these questions will be an additional opportunity for communication. There may be failures to communicate, but there will also be successes, and all participants in the classroom should realize that this is true for communication in any language. Teacher and students will work together to improve the rate of success and therefore understanding, as the year progresses.

The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm. Only through active involvement will the student be able to benefit personally from this course and make a positive contribution to the class. In addition, the student will be asked to take responsibility for his or her study and to help others do the same by cooperating with others in the class. This is not a lecture-style course.

〔科目内容の位置付け〕

This course is for the student who would like to improve his or her writing skills. By actually working to produce a finished product in writing, it is hoped that the student writer will come to a better appreciation of the effort necessary to do this.

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

English reading courses are an excellent complement to this writing course. Extensive reading can help the student to become better acquainted with how messages are conveyed in print and can also help students to improve their vocabulary.

7 英 語 VII	4単位	小林 正人
----------------	-----	-------

〔講義目的〕

英語の音声の特徴や、日本語と英語の音声の違いを学びながら、実際に聴き取りと発音の練習をすることで、理解力と理解してもらえる力を向上させることを目指します。

〔講義内容〕

IPA（発音記号）をマスターしよう
Speech Analyzer による音声の分析
自分の発音を分析しよう
アクセント、イントネーションとリズム
単語がつながって起きる変化
音の変化を法則化すること
音組織から見た日本語と英語の違い
注意すべき母音、子音の発音
読み方を注意すべき単語
接辞と発音の変化
アメリカ英語の方言

〔講義のすすめ方〕

授業は、英語の音声についての講義の部分と、聴き取り練習、発音練習、音声分析といった作業や実習の部分から成ります。聴き取りや音のスペクトル分析、宿題提出などではコンピュータを使用します。

〔教 材〕

『LDC アメリカ英語読み上げ辞典 インターネット版』やラジオドラマ、ビデオなどを使用。詳細は初回にお知らせしますが、インターネット上の教材はコース・ウェブページを通して配布します。ヘッドホンなど機材についても初回に連絡します。

〔成績評価の方法・基準〕

出席点 50%（聴き取りと発音練習がこの科目の中心となるため、出席に大きな比重がかけられています。）
予復習 25%
試 験 25%

〔履修のポイント・注意点〕

実習など参加しなければ学べない内容が多いので、出席が重要です。やむをえず欠席する場合は、事前または直後に連絡して指示を受けてください。

〔科目内容の位置付け〕

Oral関係の科目（英語Ⅰ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅸ）は英語のネイティブスピーカーによる科目のため、この科目で学んだことを日々の授業で活かせるはずですが、また、TOEIC や TOEFL、英検にも聴き取りが課せられていることから、これらの資格試験対策科目を補う科目として位置付けられています。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

英語とコンピュータのどちらに関しても、特別な知識は必要としません。

8	英 語	VIII	4単位	新川 清 治
1群				

〔講義目的〕

英語コミュニケーション能力を客観的に示す世界的指標となっているTOEICにおいて、600点レベルを目指す。

〔講義内容〕

パート毎に出題傾向に即した問題を扱う。Part VIIに関しては、自分で読む努力をすること自体が重要で、その努力なく、解説を聞いてもほとんど意味がない。従って、小テストを行い、質問を受け付ける形で対応する。

〔講義のすすめ方〕

前期のリーディングは、模擬テスト→解説という形で授業を進め、毎回、事前に指定した範囲の小テストを行う。後期のリスニングは模擬テスト→不正解の問題に対する学生自身による解説の作成・提出→質問への対応という形で授業を進める。

〔教 材〕

未定。掲示を出すので、初講日までに購入しておくこと。

〔成績評価の方法・基準〕

小テスト・課題の提出 40%
定期試験 60%

〔履修のポイント・注意点〕

ただ講義を聴くだけでは、多少、知識が増えたとしても、その定着は望めないし、読解力、聴解力に関しては、実際に自分で読み、聞くことが重要なので、効果がほとんど期待できない。自宅で学習する意欲のないものは履修しないでもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕

TOEIC試験対策中級レベル。

9 I 群	ド イ ツ 語 I	4 単 位	的 場 哲 朗
----------	-----------	-------	---------

〔講義目的〕

ドイツ語を正しく発音し、基本的な文法をしっかりと身につけ、簡単な会話ができるようになることがこの授業の目的です。

〔講義内容〕

語学につきものの、発音・文法・会話に力をいれますが、同時に、ドイツ人の生活の中で言葉を理解するようにつとめたいと思います。町の中、友人たちとの語らい、旅行、大学の生活、買い物、音楽などの流行、映画、恋愛・結婚観、宗教観。意外と私たち日本人と同じところがありますし、まったく違っているところもあります。ドイツ人の好きな車の色は何色でしょう。海水浴場はどんなふうになっているのでしょうか。電車の乗り方は？大学の入学試験は？日本人のことをどう思っているのでしょうか。旧東独の人たちが意外に金持ちで大きな家に住んでいることも知っていますか。そんな話もたくさんしたいと思います。

〔講義のすすめ方〕

- 1、正しいドイツ語の発音を覚えましょう。よい発音ができれば、よく聞き取れます。基本的にローマ字読みですし、カタカナで発音を書いても十分に通じます。わたしたち日本人に難しい発音は少ないので、しっかりと身につけることにします。
- 2、ビデオなどを使ってドイツの都市を実際に訪れている気持ちになりますが、文法事項だけはきっちりと覚えましょう。ドイツ人は真面目。何よりも文法は大切なのです。
- 3、簡単なシチュエーション（ホテルや駅、レストランなど）を設定し、実際にドイツ語で会話をしてみましょう。
- 4、簡単なドイツ語（地図・旅行ガイド・時刻表・ゴミの捨て方・大学の講義要項など）を理解できるようにしましょう。
- 5、ドイツ映画を鑑賞します。

〔教 材〕

特に指定しません。適宜、資料を配付する予定です。

辞書は購入して下さい（初級より中級程度の辞書がよい）。授業で指示します。

〔成績評価の方法・基準〕

授業で行う小テストと定期試験の成績（平均60点以上）、これに出席状況を加味して決定する。

〔履修のポイント・注意点〕

絶対に遅刻や欠席をしないこと。私語をしないこと。しかし、発音は大きな声ですること。分からないことはすぐに質問して解決しておくこと。テレビやラジオでドイツ語を聴くこと。

10	ド イ ツ 語 Ⅱ	4単位	石川悦久
I群			

〔講義目的〕

一応、ドイツ語Ⅰを履修した学生を対象にしますが、ドイツ語Ⅰでの既習文法事項のうち重要事項の復習、および補足を要すると思われる文法事項についての再説を組み入れながらドイツ語の更なる習得を図る。その上でドイツ語の平易な読み物、よく知られたドイツ歌曲にも触れるなどして、ドイツないしはドイツ文化の一端を垣間見られるようにしたいと考えている。

〔講義内容〕

前半は、文法事項のついたレーゼブーフをテキストにして、ドイツ語基本文法を確認しつつドイツ語文章を読んでいく。その際、英語と比較してドイツ語に特徴的な点、例えばドイツ語発音、格変化、人称語尾変化、枠構造の文型等に留意しながらドイツ語の基本を再確認する。

後半は、読み物中心にドイツ語を通じてドイツ文化の一端に触れられるようにしたいと考えている。

〔講義のすすめ方〕

前半は、原則的にテキストに即し適宜補足説明を加えていく。その際、発音重視の観点から、学生一人一人に単語・語句・語形変化・文章等を発音してもらいドイツ語の感覚を養ってもらおう。かつ、小テスト形式を導入して、既習事項の筆記による確認を図る。

後半は、ドイツ語文章の読解を中心に、担当者を決めて訳読していき、適宜補足説明を加える。

〔教 材〕

テキストは改めて指示する。他の教材については適宜プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

平常点と試験の結果を総合的に考慮して評価する。語学は日頃の努力の観点から、出席状況と授業中の態度および小テストを重視する。

割合的には平常50%、試験50%の配分で成績評価を考えている。

〔履修のポイント・注意点〕

語学の修得は日々の努力の積み重ねである。したがって、欠席や遅刻は原則許されないものとする。出席状況を重視する所以である。既習事項の復習に努めてもらいたい。そして、積極的に授業に参加してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕

一応ドイツ語Ⅰを終了し、更にドイツ語Ⅲに進むための中級程度レベル。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

更にドイツ語Ⅲに進み、より本格的にドイツおよびドイツ文化に触れるためにドイツ語Ⅲの履修が勧められる。

11 群	ド イ ツ 語 Ⅲ	4 単 位	石 川 悦 久
-----------	-----------	-------	---------

〔 講義目的 〕

ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、基本文法は異文化の問題としてどこまでも付きまとう難解さを秘めている。そこで随時文法説明を補足するが、主眼はドイツ語原文を通じて直接ドイツおよびドイツ文化の一端に触れることにある。

ドイツ文化の誇る文学、音楽、哲学、思想等枚挙にいとまがない諸分野のうちからいくつかを取り上げ、ドイツ語原文を通じてその発想法に直接触れることを心がけたい。

なおドイツ音楽特にバッハとモーツァルトをこよなく愛する担当者の趣味が入るが、カンタータやオペラの一節を教材として使うことも考えている。

〔 講義内容 〕

ドイツの作家でありながら亡命生活を経験し、祖国ドイツを外から客観視する経験をもつトーマス・マンの講演を通じてドイツおよびドイツ文化の持つ諸問題を読み取る。

内容的にはドイツのみならず背景としてのヨーロッパ文化の問題にも触れられ、格好の読み物だと考えられます。その意味からドイツ語を通じてのドイツおよびヨーロッパの入門書ともいえる。

ちなみに日本語訳も出ているはずですが。

〔 講義のすすめ方 〕

原則的に担当者を決めてテキストを訳読し、適宜補足説明を加えていく。その際、内容により自由討論や意見交換することも考えられる。

ただし、必要に応じては適宜重要文法単元の補足をしていくつもりでもある。

〔 教 材 〕

トーマス・マン：ドイツとドイツ人

他の教材については、適宜プリントを配布する。

〔 成績評価の方法・基準 〕

平常点と試験の結果を総合的に考慮して評価する。語学は日頃の努力の観点から、出席状況と授業中の態度を重視する。

割合的には平常50%、試験50%の配分で成績評価を考えている。

〔 履修のポイント・注意点 〕

授業に欠席せず、訳読担当文の準備に励み、授業に積極的に参加してもらいたい。

〔 科目内容の位置付け 〕

ドイツ語Ⅱを発展させて更に上級レベルを目指すものであるが、語学学習の観点を超えて更に法律・政治・歴史・哲学・文学等への橋渡しになるものと位置づけたい。

〔 前提・関連科目(科目間関連の内容) 〕

語学としては、ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、内容的には、思想、文学、歴史、哲学、比較文化等などにも関連する。

12 I群	ドイツ語IV	4単位	的場哲朗
----------	--------	-----	------

〔講義目的〕

一応、ドイツ語の実力を付けることを目指しますが、それにとどまらず、ニーチェ、キルケゴール、デヒルタイ、フッサール、ハイデガー、ヤスパーズ、ウィットゲンシュタイン、サルトルなどの現代思想、それからフロイトやユングなどの深層心理学や宗教、ヨーロッパの歴史などに関心をもつ学生も、さらには、大学時代に何か大きな刺激を受けたいと思っている学生諸君も、大いに歓迎します。

今年は、昨年に続いて、ニーチェの『ツアラツーストラはこのように語った』を読みます。

ドイツ語の苦手な人は、すでに翻訳もたくさん出ていますので、翻訳を使って結構です。授業では、ドイツ語のほか英語・フランス語・日本語のテキストも準備します。

一冊の哲学書をじっくりと読んでいく。そうすれば、ひとりでのドイツ語の力が養われていくだけでなく、同時に、その哲学の背後に生きているドイツ人の生き方・考え方・価値観、歴史観等がより具体的に見えてきます。

合宿もあります。ぜひ参加して下さい！昨年は福島県猪苗代の青年の家に三泊四日（宿泊代無料）しました。

〔講義内容〕

ニーチェの『ツアラツーストラはこのように語った』をドイツ語でゆっくりと味わいます。ただ翻訳するだけでなく、内容をわかりやすく説明しますから、面白いと思います。今年は「市場の蠅」から読み始めます。

ニーチェが現代に与えた影響の大きさは計り知れないものがあります。「神は死んだ」、超人、ニヒリズム、永劫回帰などの彼の言葉は皆さんもどこかで耳にしたことがあるかと思えます。現代文明はその始まりから病気ではないか。ソクラテスもイエスも人間も！——彼はそんな刺激的な思想を主張しますが、しかし同時に彼の文章や箴言は大変面白い深く、なかなかの名文です。そうした名文も味わってみることにしましょう。

〔講義のすすめ方〕

ユックリと楽しくリラックスして授業を進めていきます。毎回、翻訳担当者を決めて、訳読する形を取りますが、文法や単語にこだわらず、自由な会話を楽しみたいと考えています。ですから、少人数を希望します。

夏休みには、他大学（お茶の水女子大学・成蹊大学・早稲田大学など）の学生と一緒に合同合宿（三泊四日）を行います。これを機会にたくさんの友人を作して下さい。

〔教材〕

テキスト：Friedrich Nietzsche, Also sprach Zarathustra, Reclam.

翻訳：理想社・岩波文庫他多数あり

〔成績評価の方法・基準〕

自分の分担箇所を訳読すれば単位はもらえます。

〔履修のポイント・注意点〕

授業に出席して、訳読を担当、議論に積極的に参加して下さい。

〔科目内容の位置付け〕

一応、ドイツ語Ⅱ・Ⅲを発展させてドイツ語上級の力を養成するとしておきますが、倫理学、哲学、心理学、歴史、政治などに関心をもつ学生も大歓迎します。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

語学の知識としてはドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ、ドイツ語Ⅲ、内容の理解としては美学A、哲学、哲学概論、倫理学、倫理学概論、心理学や歴史学などが関連します。こうした前提に立たなくても、広く現代文化の問題に関心をもつ学生なら大歓迎します。

13	フランス語Ⅰ	4単位	C. アマン
1群			

〔講義目的〕

フランス語入門：簡単なフランス語を読んだり話したり書いたりする能力を養う：挨拶、自己紹介あるいは他人の紹介（名前、住所、出身、言語 等）、住まいや環境について話す。

仕事や自分の一日について叙述する。
フランスや自国について話す 等。

〔講義内容〕

日常の会話とフランスの文化についての短いテキスト。

文法事項はフランス語検定試験の5級にでてくる項目をカバーしていますから、希望者には試験準備の補習をします。

〔講義のすすめ方〕

- 本文や会話のプレゼンテーション
- 理解したかどうかを確認する
- 本文や会話中に出てくる単語、文法の練習問題
- 学習したことの応用

〔教材〕

教科書は未定
辞書は未定

〔成績評価の方法・基準〕

- 小テスト（年度中3回あるいは4回）
- 試験（定期試験期間中1回）
- 授業中の努力

〔履修のポイント・注意点〕

- 出席を重視する、遅刻厳禁
- 授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強ができる。
- クラスの授業態度によっては名簿順の固定座席にすることもある。
- 学生は各自が必ず自分のノートを作成すること。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

フランス語 Ⅱ



Yoshio : Bonjour.

Sophie : Bonjour.

Y : Je m'appelle Yoshio Kato. Et vous?

Vous vous appelez comment?

S : Je m'appelle Sophie Dubois.

14 群	フランス語 II	4単位	C. アマン
-----------	----------	-----	--------

〔講義目的〕

フランス語の入門編を終えた学生を対象に、話し言葉を中心にして、簡単なフランス語が話せたり聞き取れたりすることを目標とする授業です。

〔講義内容〕

フランス語 I で勉強してきた項目を生かして、実際にフランス語を話しながら使ってみましょう。助言する、過去について話す、予定していることを言う、依頼する、描写するなど。

文法事項はフランス語検定試験の4級ででてくる項目をカバーしていますから、希望者には試験準備の補習をします。

〔講義のすすめ方〕

学生と学生あるいは学生と教師とのやりとりはできるだけフランス語で行います。

毎回の授業でフランス語を聞いたり話したりするつもりのでないひとはご遠慮ください。

〔教 材〕

教科書：未定

辞 書：未定

〔成績評価の方法・基準〕

授業への参加態度と口頭試験；宿題

小テスト（年に3回あるいは4回）

試験（年末試験）

〔履修のポイント・注意点〕

自分のノート／単語帳を作成することです。席順は自由ですが、お互いの顔が見えるように、U字型に机を並べます。

積極的にフランス語を話して、間違っても通じれば良いという考え方を持ってください。

〔科目内容の位置付け〕

日本人だけでなく外国の多くのひとも、外国語に興味を持ちながらも違和感を感じています。外国語は耳と口を通して学び、下手か上手かは別にして、通じるように話すとういった違和感を越えることができます。

フランス語検定試験受験者には適切なアドバイスあるいは特別なレッスンを行います。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

フランス語 I、フランス語 III、IV

15	フランス語Ⅲ	4単位	C. アマン
I群	フランス語Ⅳ	4単位	

〔講義目的〕

フランス語ⅠとⅡを終えた学生を対象に、短い文章を勉強することを目標としています。とくに翻訳、読解練習、フランス語で授業でとりあげた文章について自分の意見をのべることができるように、聞き取りから文の作り方までいろいろな練習をします。

〔講義内容〕

フランスのシャンソン、映画、日常の文化への入門

〔講義のすすめ方〕

会話あるいは文章をもとにして、その言葉使い、言葉の背景からフランスの文化と生活を紹介します。

〔教材〕

教科書：未定

辞書：Shogakukan Dictionnaire français-japonais.

小学館プログレッシブ仏和辞典、3,500円

〔成績評価の方法・基準〕

授業への参加態度、宿題

〔履修のポイント・注意点〕

出席を重視して授業に積極的に参加することです。

自分のノート／単語帳を作成することです。席順は自由ですが、お互いの顔が見えるように、U字型に机を並べます。

〔科目内容の位置付け〕

外国の文化、言葉使いの学習を通して、外国についての知識、考え方を深めて自分の国と比べることができるようになります。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

フランス語Ⅰ、Ⅱ

16 課	ス ペ イ ン 語 Ⅰ	4 単 位	高 橋 節 子
-----------	-------------	-------	---------

〔講義目的〕

- ①スペイン語が正しく発音できるようにすること。
- ②スペイン語文法の初歩の初歩を学ぶこと
(時制は現在形のみ、命令、再帰動詞など)
- ③単語を300前後覚えること。

〔講義内容〕

スペイン語Ⅰはあくまでも入門で本当の勉強はその後の選択科目としてのスペイン語Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを自主的に選択することから始まると考えています。入門なので、単なる知識の詰め込みにならずに、スペイン語の全体像をつかみ、言語を学ぶとはどういうことなのかを語っていきたいと思っています。また、現代スペイン事情や中南米の様子なども時間が許す限り伝えていくつもりです。(ただ、実際にはなかなか時間がなく、そこまでできないのが現状ですが)

〔講義のすすめ方〕

- ①出席及び復習を兼ねた小テスト(成績には直接関係ありませんが参考にします)
- ②文法のポイントの説明
- ③単語の発音と意味
- ④例文の提示(すべて口頭で行いますのでみなさんはそれを聞き取って書いてください)
- ⑤プリントの練習問題
- ⑥西作文(スペイン語の作文)を黒板に書いてもらい検討する。
- ⑦ビデオを見て、重要表現を説明し、内容を検討する。

〔教 材〕

高橋が作成したプリントを使用します。プリントはきちんとまとめておくように各自工夫してください。また、聞き取りや口語的な表現にも慣れてもらうように、ビデオ教材(Viaje al Español)を平行して使用します。みなさんの読解能力が上がってきたら会話部分の訳を宿題として課します。

辞書はどれでもかまいませんが、最初の授業でいくつか紹介するつもりです。

〔成績評価の方法・基準〕

15分から20分程度の授業内試験を9～10回実施して、平均6割以上を合格とします。定期試験期間中には試験を行いません。6割に

やや足りない場合には、小テストの結果、宿題、出席状況、授業態度などを総合的に判断して評価します。

授業内試験は回数が多いので大変そうですが、範囲が狭いのでそれほど負担にならないと思います。かえってしっかり復習ができるので、次の段階の足固めとなり知らず知らずのうちに実力がついてくることとなります。

試験に欠席した場合には次の試験時に2回分の試験を同時に受けてもらいます。

〔履修のポイント・注意点〕

例年前期は、おしゃべりが多い、遅刻して騒々しく教室に入ってくる、携帯がなる、ジュースを飲む、と授業態度があまりよくないのですが、後期になると一変します。これは一つには大学の授業がどういうものか分かってくるといってもありますが、最大の要因は授業態度が悪い学生が途中で脱落し、授業に出てこなくなることが大きいと思います。欠席、遅刻はもちろんのこと、集中して授業を受けていないとすぐに分からなくなってしまいますので注意して下さい。

また、単語の量がどんどん増えて行きます。授業中の例文はすべて口頭で与えられますから、単語が分からないと書き取ることもできなくなってしまいます。予習はする必要はありませんが、復習は必ずするようにして下さい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はありません。授業に出席し、ふつうに勉強していれば何ら問題のない授業内容です。

興味のある人には、NHKのラジオ講座やテレビ講座をお勧めします。図書館にもスペイン語の視聴覚教材が置いてありますので利用してください。

備考

高橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。

(<http://www.hakuoh.ac.jp/~takataka/>)

17 I群	スペイン語Ⅱ	4単位	高橋節子
----------	--------	-----	------

〔講義目的〕

- ①多少長い文でもすらすら読めるようになること。
- ②スペイン語文法の基礎を修得すること。
- ③単語の量を増やすこと
スペイン語Ⅰでは初歩の初歩しか扱っていないので、スペイン語Ⅰを終了した方にはできるだけ多くスペイン語Ⅱも受講して頂いて、スペイン語の基礎を学んでほしいと思います。若い時に自主的に学んだ知識は、たとえ忘れてしまったようでも脳の深い部分に残っているものです。

〔講義内容〕

スペイン語Ⅰで学んだ時制は現在形だけでしたが、スペイン語Ⅱでは残りの時制（点過去、線過去、現在完了、未来、等）を重点的に学んでいきます。時制の数が多く、活用も複雑になるのでマスターするのに苦労すると思いますが、少しずつ習得していきましょう。

コミュニケーション能力の大部分は実は単語量で決まります。基礎語彙の500語をマスターすれば辞書を引く回数が半減して、語学のおもしろさが見えてきます。スペイン語では頻度数上位1000語で81.0%が理解可能ですから、初心者は文法よりもむしろ単語の習得に励んだ方がいいという意見もあるくらいです。授業では、単語の習得を目的としたクイズ形式の質問もたくさんする予定です。

〔講義のすすめ方〕

- ①出席と復習を兼ねた小テスト
- ②文法のポイントの説明
- ③単語の学習
- ④ビデオを見てどのような状況で会話が交わされているかを理解する。
- ⑤意味を考える。
- ⑥読みの練習
- ⑦練習問題
- ⑧次回予定のビデオを見て、どのような状況で会話が交わされているのかだいたい理解し、予習の際の参考にする。

〔教材〕

昨年副教材として使用したビデオ教材の続き（Viaje al Español 2）を使います。この教材は量が多いので、文法的に重要な項目を

扱っている課を中心に授業を進めて行きます。初心者にとって予習は難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。三人くらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認してもらいます。

〔成績評価の方法・基準〕

各課終了時に行う単語の小テストを評価の対象とします（50%）。テストには単語を重点的に出題する予定です。それ以外に、出席状況、予習内容、課題の提出などを総合的に評価します（50%）。授業が週一回と少ないので、前期一回後期一回ビデオ教材の中から課題をだす予定です。

〔履修のポイント・注意点〕

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習（＝自主学習）が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。

〔科目内容の位置付け〕

昨年度スペイン語Ⅰを終了した人が主な対象者となりますが、以前スペイン語Ⅰを終了してblankがある人も歓迎します。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目はスペイン語Ⅰ。ただし、スペイン語Ⅰが未修得でもラジオ講座などで知識を補っていきなりスペイン語Ⅱを受講してもかまいません。

備考

高橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。

(<http://www.hakuo.ac.jp/~takataka/>)

18	スペイン語Ⅲ	4単位	高橋節子
I群	スペイン語Ⅳ	4単位	

〔講義目的〕

スペイン語文法の基礎を一通り終了し、さらに学習を続けたいひとのための講座です。具体的には

- ①長い文がすらすらと読めるようにすること
- ②重要な文法事項の復習・定着
- ③語彙を増やし定着させることを目標とします。

〔講義内容〕

- ①文法事項（特に動詞の活用）の定着
- ②語彙を増やす。
- ③スペイン語を聞いて理解する。
- ④スペイン語を聞き取る。
- ⑤スペイン語での質問に答える練習

〔講義のすすめ方〕

1. ビデオを用いる場合（スペイン語Ⅱの講義の進め方参照）
2. テキストを用いる場合。
 - ①出席と復習を兼ねた小テスト
 - ②文法のポイントの説明
 - ③単語の発音と意味
 - ④読みの練習
 - ⑤テキストの意味を考える
 - ⑥プリントの練習問題

〔教 材〕

前期はビデオ教材を使用する予定です。どのビデオを使うかはまだ未定です。後期はスペイン語学習者用に書き下ろされた探偵小説を読む予定です。これは語彙が厳選されていますので、単語の量を増やすにはもってこいだと思います。そのつどプリントを配布しますので、もしやむを得ない事情で欠席する場合には、次の授業時まで研究室に取りにきて下さい。

〔成績評価の方法・基準〕

基本的には授業開始時に行う小テストを評価の対象とします。それ以外に、出席状況、予習内容、課題の提出などを総合的に判断して評価します。授業が週一回と少ないので、前期一回、後期一回課題をだす予定です。

〔履修のポイント・注意点〕

週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習（＝自主学習）が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かって、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。予習は場合によっては難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意しますので、それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。三人くらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はスペイン語Ⅰ。スペイン語Ⅱは終了していることが望ましいのですが、終了していなくても自分である程度補えば十分に理解可能な内容にするつもりです。まだ、スペイン語Ⅱを履修した後blankがある人も歓迎します。少人数のクラスになりますので、アットホームな雰囲気の中かで充実した授業になるとと思います。

備考

高橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。

(<http://www.hakuoh.ac.jp/~takataka/>)

19	中国語 I	4単位	何秋平
群			

〔講義目的〕

1. 中国語の発音の勉強。
2. 簡単な中国語会話の訓練。
3. 基本的な中国語の文法を把握するための勉強。

〔講義内容〕

1. 中国語の発音や音に関する勉強。
2. 生活に密接な関係のある単語の暗記。
3. 中国語の一般的な例文の解説。
4. 簡単な会話練習。具体的には自己紹介、あいさつ、買いもの、電話をかける、道をたずねる、病院で医者に見てもらう時の話、本を借りるなどを含む。
5. 辞典を引きながら短い文章を読む能力を養成。

〔講義のすすめ方〕

1. 発音の練習は指導の下でくり返して進めていきます。
2. テキスト中の会話や例文をよく読むことにより完全暗記。
3. 一年間の授業が終了の時にテキスト中の短い文章を読める。

〔教 材〕

1. 《初学漢語》光生館
2. プリント、授業進行にあわせて配布。
3. 辞典《プログレッシブ中国語辞典》小学館

〔成績評価の方法・基準〕

1. 定期試験（前後期）
2. 小テスト
3. 出席率
4. 中国語検定協会試験準四級合格者

〔履修のポイント・注意点〕

1. 授業に遅刻なしで出席すること。
2. 個人が普段の練習を重視すること。
3. 授業後講義した内容をよく復習すること。
また、授業前、講義する予定の部分を前もって目を通すこと。

〔科目内容の位置付け〕

中国語学習の初級課程

20	中国語 II	4単位	平木真快
1期			

〔講義目的〕

本講は、①中級文法を理解する②中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う、以上2項目を達成することを目的とする。

②手を使う：理解したことは文字化しなさい。沢山書けば書いただけ力はつく。語学は量だ。沢山読んで、聞いて、書いて、口を動かし、マメに辞書をひいて下さい。

〔講義内容〕

語学は中級から俄然面白くなる、というのが私の持論。

質：深みのある内容、複雑な文法構造。

量：予習のし甲斐のある分量。

質量ともに、存在感のある内容を読解する快感に酔おうではないか。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

(1)前提科目：日本語。

母国語の習得に限りない興味を抱かない者は、外国語の学習に向かない。母国語に対する言語感覚の鋭さは、外国語の上達に比例する。

(2)関連科目：学術・芸術・実用の諸知識等全域に及ぶ。

〔講義のすすめ方〕

全員起立・礼→出欠→音読→簡化字を当用漢字に変換する→和訳→文法解釈→全員起立・礼。

〔教材〕

中級読物・中国児童読物選、大内田三郎編
白帝社 ¥1,400

〔成績評価の方法・基準〕

(試験成績が70%) + (出欠が25%)
+ (ノート成績が5%) = 100%
総合成績60点以上を合格とする。
テストは年間2回実施する。

〔履修のポイント・注意点〕

(1)履修要領：

- ①原文と発音記号をノートに写す。
- ②辞典を頼りに、自力で和訳する。訳せなくても無理に訳して下さい。
- ③授業中に、誤訳の訂正及び加筆をする。

(2)注意事項：

- ①授業は定刻開始。
- ②点呼の際、返事なき者は欠席とする。
- ③遅刻3回=欠席1回。
- ④教室での着帽・授業中の飲食・私語は非常識。

〔科目内容の位置付け〕

外国語は、関連学科の基礎を成すものであって、これ無くしては研究を主体的に展開することはできない。道具としての語学をマスターする方法は2つある。

①頭を使う：単語の意味と発音を確認してから、文の構造を分析する。

21	中国語 III	4単位	平木真快
I類	中国語 IV	4単位	

〔講義目的〕

本講は、①中級文法を理解する②中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う、以上2項目を達成することを目的とする。

②手を使う：理解したことは文字化しなさい。沢山書けば書いていただけ力はつく。

語学は量だ。沢山読んで、聞いて、書いて、口を動かし、マメに辞書をひいて下さい。

〔講義内容〕

語学は中級から俄然面白くなる、というのが私の持論。

質：深みのある内容、複雑な文法構造。

量：予習のし甲斐のある分量。

質量ともに、存在感のある内容を読解する快感に酔おうではないか。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

(1)前提科目：日本語。

母国語の習得に限りない興味を抱かない者は、外国語の学習に向かない。母国語に対する言語感覚の鋭さは、外国語の上達に比例する。

(2)関連科目：学術・芸術・実用の諸知識等全域に及ぶ。

〔講義のすすめ方〕

全員起立・礼→出欠→音読→簡化字を当用漢字に変換する→和訳→文法解釈→全員起立・礼。

〔教材〕

「中国寓話選」、久保田美年子編、白帝社
¥1,550

〔成績評価の方法・基準〕

(試験成績が70%) + (出欠が25%)

+ (ノート成績が5%) = 100%

総合成績60点以上を合格とする。

テストは年間2回実施する。

〔履修のポイント・注意点〕

(1)履修要領：

①原文と発音記号をノートに写す。

②辞典を頼りに、自力で和訳する。訳せなくても無理に訳して下さい。

③授業中に、誤訳の訂正及び加筆をする。

(2)注意事項：

①授業は定刻開始。

②点呼の際、返事なき者は欠席とする。

③遅刻3回=欠席1回。

④教室での着帽・授業中の飲食・私語は非常識。

〔科目内容の位置付け〕

外国語は、関連学科の基礎を成すものであって、これ無くしては研究を主体的に展開することはできない。道具としての語学をマスターする方法は2つある。

①頭を使う：単語の意味と発音を確認してから、文の構造を分析する。

22	コリア語	2単位	宋台植
----	------	-----	-----

〔講義目的〕

近ごろハングル学習が盛んである。日本と韓国はもっとも近い隣国である。両国の間では、政治、経済の交流はもとより、文化、学術、スポーツ、観光などあらゆる分野でさかに行われている。また企業の国際化、多国籍化が進み、会議や商談の際に依頼するコリア語通訳の需要も高まっている。その勢いは今後さらに広がるであろう。

この講座は、初心者向けのコリア語（韓国語・朝鮮語）の学習である。コリア語の文字ハングルは、母音10、子音14の24文字の組合せによって構成された表音文字である。その組合せは実に合理的に出来ており、この24文字の発音と組合せ方さえ覚えてしまえば簡単に読み、書きできる。またコリア語は、日本語とその構造がよく似ており、親しみやすい外国語である。授業では文字と発音、基本単語、基礎語句を学習し、平易な会話ができるように進める。

〔講義内容〕

- ◎ハングルの母音10、子音14文字および母音複合11、子音複合5の発音
- ◎ハングルの組合せ方、書き方、読み方
- ◎基本単語、基礎語句
- ◎平易な文章の読み、書き、日本語訳
- ◎会話練習

〔講義のすすめ方〕

授業は文字と発音、基本単語、基礎語句に重点をおき、ハングルの読み、書き、日常生活の身近な会話の練習をする。更に平易な文章の読み、書き、日本語訳の練習をくりかえす。

またおりにふれてソウルのイテウォン、ミョンドンの話や時事解説もする。

〔教材〕

教科書 「韓国語」（教育部国際教育振興院編）入手方法は後に指示する。

参考書 辞書 ポータブル韓日辞典
（三修社）3,000円
語学の学習で辞書を引くのは重要なことであるが、特にコリア語は日本語とその構造がよく似ており、わずかな場合を除けば、単語を引いて日本語順に並べればコリア語になる。

それだけに辞書は絶対に欠かせない。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価はテスト1回（学期末定期試験）とするが、学習への取りくみ方、努力など日頃の学習活動も評価の対象となる。

〔履修のポイント・注意点〕

発音と会話をくりかえし、「耳で知ってもらおう」。これは自身の耳で聴き、確かめるしかない。

〔科目内容の位置付け〕

初心者向けの基礎的内容、教養科目

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特に前提・関連科目はないが授業は週2回です。時間割に注意して下さい。

23	歴史学 A	2単位	村尾元忠
副題	歴史とは何か		

〔講義目的〕

歴史とは何か。歴史は何を目的としているのか。歴史を学ぶということはどのような意味があるのか。こうした疑問に対して、先人達はどのようなことを考えていたかを知り、自らの歴史の見方を育てることを目的とする。

〔講義内容〕

ヘロドトス、トゥキュディデス、司馬遷、リヴィウス、イブン＝ハルドゥーン、モンテスキュー、ヴォルテール、ヒューム、ヘルダー、ニープーア、ヘーゲル、ランケ、ドロイゼン、ブルクハルト、マルクス、マックス＝ウェーバーなど主として西洋の歴史家（哲学者を含む）の歴史の見方を紹介する。

〔講義のすすめ方〕

- 1、歴史は偶然か必然か
- 2、歴史は繰り返す
- 3、歴史は鑑である
- 4、王朝は興亡する
- 5、野蛮から文明への進歩
- 6、歴史学は認識の学
- 7、歴史は過去ではない
- 8、生産構造の矛盾からの解放

以上の8項目の表題を立てて、概ね古代から近代へと時代をおいながら視点の移り変わりを概説する。

〔教材〕

特に教材は使わない。参考図書類は講義中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

表題のうちきりの良いところで講義ノートの整理を主目的とした小レポートを課す。小レポートは5回を予定している。成績評価は3回以上提出した者について行う。評価は回数に50%、まとめ方の巧拙の平均点を50%の配分で行う。

〔履修のポイント・注意点〕

普段は「歴史とは何か」などということは考えてみないかもしれない。この機会に、自ら歴史を創ることに参加しているものとして、自らにその問いを発してみることが重要である。そして、より深く考えていた人たちの言葉に接して少しでも自らを高めてみよう。演

習ではないが、期末の試験やレポートで評価するスタイルをとらないので、少なくとも3回小レポートが提出できるよう、出席して講義を聴くこと。

〔科目内容の位置付け〕

これは人文科学としての歴史学である。教養を高めるといことは人間性を高めるということである。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

高等学校の世界史を選択していれば馴染みのある人名や事件が出てくるが、これは必ずしも受講の前提ではない。この講義で馴染めばよいことである。関連科目については「他の学問は歴史学の材料に過ぎない」(14世紀イスラムの歴史家イブン＝ハルドゥーン)という言葉で言い尽くされている。

24	歴 史 学 B	2単位	村 尾 元 忠
群			
副題	物 語 と 歴 史		

〔講義目的〕

物語の世界と歴史の世界の別を認識するとともに、物語の扱い方を通して歴史学の方法に触れる。

〔講義内容〕

太平記は物語であるが、南北朝時代を知るには貴重な史料である。その太平記の中から以下の表題に従って数人の人物をとりあげて歴史的考察を加える。

- 1、理世安民の政（後醍醐天皇）
- 2、犬田楽は関東の亡ぶるもの（北条高時）
- 3、尺鉄の資なくして義兵を揺かす（護良親王）
- 4、死を善道に守る（楠木正成）
- 5、天下を君と君との御争に成すべし（足利尊氏）
- 6、血気の勇者（高師直）
- 7、娑婆羅（佐々木導誉）
- 8、野伏

〔講義のすすめ方〕

太平記の記事を読み、関連する史料に拠ってその実像を確認していく、という方法をとる。

〔教 材〕

特に定めない。参考図書は太平記、および太平記の解説書類。

〔成績評価の方法・基準〕

期末のレポートによる。レポートの評価基準は、様式に従っているか30%、論旨の整合性30%、内容の深淺40%の配分とする。

〔履修のポイント・注意点〕

太平記は物語であるが、歴史の立場から読むのもひとつの読み方である。実は古くはそう読まれてきたのである。太平記は人間批判の文学であると評されている。歴史もまた人間の営みである。その共通基盤から歴史学の方法に触れてみる。そういう姿勢が必要である。

〔科目内容の位置付け〕

人文科学と位置づける。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

受講には高等学校の日本史の知識があれば充分である。関連科目については「他の学問は歴史学の材料に過ぎない」（14世紀イスラムの歴史家イブン＝ハルドゥーン）という言葉で言い尽くされている。

25	地 理 学 A	2単位	奥澤信行
II群			
副題	自然環境と人々の生活		

〔講義目的〕

「地理学」と聞いただけで、中学生の時に地名や統計の暗記に終始した「地理」の学習から、無味乾燥な科目と考えている諸君も多いことであろう。また高校の「地理」が選択科目となっているために、履修する機会を得られなかった学生は、その面白さを知らずに今日に至っているのではないだろうか。しかし「地理学」は、地表面で起こっている諸事象を自然環境や社会環境などの多方面から分析することにより、その事象の展開される空間（地域）の特殊性を明らかにすることを目的としており、決して暗記のみで理解できる学問ではない。

本講では「地域の存立する要因は何か」ということを常に念頭に置きながら、地理学的なものの見方・考え方を論じてみたい。

〔講義内容〕

I 地理学とは？

- ①自然地理学と人文地理学
- ②面的スケールと地図

II 自然環境（地形と気候）

- ①生活舞台としての平野
- ②世界各地の気候と人間生活

III 人口問題

- ①分布と移動
- ②地球規模での人口問題
- ③国内の人口問題

IV 村落の変容

- ①形態と機能による分類
- ②村落と近隣都市との関係

〔講義のすすめ方〕

授業内容の順に従って講義するが、地理学は、時間的対象を現在から未来としているため、最新の話題を取り上げざるをえず、若干前後することもある。

〔教 材〕

教科書は特に使用しない。なお高校で地図帳を使用した学生はこれを持参し、講義の中で取り上げる地名については、その都度チェックすることが望ましい。また必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書 『地理学の見方・考え方』

日本大学地理学教室編 古今書院

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と定期試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを1枚ずつ配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化する。定期試験の問題は4～5題を全問、論述式で解答する形式で、授業で取り上げたテーマより出題する。なお試験場へのノート等の持ち込みは一切不可とする。半期13回の授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象とし、定期試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

かなりの早口で講義するので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、しっかりと講義録を作成すること。また板書が終わってからノートを取るような呑気な態度で授業に臨まないでもらいたい。授業は教員と学生双方が参加することでより良い内容となる。したがって学生諸君の積極的な発言が望まれる。また然るべき理由のない10分以上の遅刻は認めず、90分きちんと受講できる学生を希望する。

〔科目内容の位置付け〕

高校で地理を履修する機会がなかった学生にも理解できるように説明するので、基礎的レベルの内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前述のように本講は、基礎的レベルであるので、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容を扱う「地理学B」についてもできるだけ履修してもらいたい。また小学校教員免許取得希望者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を勧める。

26	地 理 学 B	2単位	奥澤 信 行
II群			
副題	都 市 と 農 村		

〔講義目的〕

「地理学A」からの継続科目として、下記のような内容について講義する。ここで扱う内容は、より具体的な事例を挙げて説明することになるので、その事象が確認できる地理的空間（地域）の特異性をより明確に理解できるであろう。また地理的な物の見方を地理的事象から日常生活にまで拡大することで、物事をより客観的に判断できる能力を身に付けることを目的とする。

〔講義内容〕

- I 都市と都市化
 - ①都市の魅力
 - ②都市の形態と機能
 - ③都市構造と都市システム
 - ④周辺地域を含んだ都市圏のとらえ方
 - ⑤企業の支店立地と都市の中心性
- II 農業生産の地域的変容
 - ①農業生産の歴史的変遷
 - ②農村における産業構造の変容
 - ③農山村のリゾート開発
- III 地域概念規定
 - ①等質地域と機能地域
 - ②形式地域と実質地域
 - ③地域のイメージ

〔講義のすすめ方〕

授業内容の順に従って講義するが、地理学で扱う対象のうち、特に都市に関する内容は変動が激しいので、最新の話題を取り上げざるをえず、若干前後することもある。

〔教 材〕

教科書は特に使用しないが、高校で地図帳を使用した学生は、これを持参することが望ましい。また必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書 『地理学の見方・考え方』

日本大学地理学教室編 古今書院

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と定期試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを1枚ずつ配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化するので、出席状況が評価を左右することがある。学生証によるタッチ式の出席も併用するが、カードとタッチ式の出席状況に差異が

生じた場合には、カードによる記録を優先する。定期試験の問題は4～5題を全問、論述式で解答する形式で、授業で取り上げたテーマより出題する。なお試験場へのノート等の持ち込みは一切不可とする。半期13回の授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とし、定期試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

かなりの早口で講義するので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、しっかりと講義録を作成すること。また板書が終わってからノートを取るような呑気な態度で授業に臨まないでほしい。授業は教員と学生双方が参加することでより良い内容となる。したがって学生諸君の積極的な発言が望まれる。また然るべき理由のない10分以上の遅刻は認めず、90分きちんと受講できる学生を希望する。

〔科目内容の位置付け〕

高校で地理を履修する機会のなかった学生にも理解できるように説明するので、基礎的レベルの内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「地理学A」において地理学の基本事項の説明を済ませてしまうので、「地理学A」を履修済みであることが望ましい。また小学校教員免許取得希望者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を勧める。

27	倫 理 学 A	2 単 位	的 場 哲 朗
副題	現代思想の源泉を探る		

〔講義目的〕

現代思想の源泉となった、ウィットゲンシュタイン、ハイデガー、西田幾多郎にテーマを絞って、「彼らはいったい何を考えたのか」という問題を究明したい。

「現代とは何か」という問題はそれ自体きわめて難しい問題であるが、ここであらためて20世紀を振り返ってみるとき、世界大戦と急激な国際化というふたつの出来事が浮かび上がってくる。こうした出来事は、もちろん、根底においては同一のもので、その動きは現在にまで深く及んでいるといえよう。こうした動きをいち早く引き受け、これと真摯に取り組もうとしたのが三人だった。ウィットゲンシュタインとハイデガーは第一次大戦で没落し始めたヨーロッパの中で、西田は西欧化のすすむ日本の中でそうした問題と格闘した。彼らを苦悩させたこの問題は、形を変え地域を変えたとはいえ、現代世界の根本問題だといえよう。

本講義では、現代思想の基本的な考え方を講義しながら、皆さんと一緒に「現代とは何か」について考えてみたい。

〔講義内容〕

- 1、はじめに——現代思想とは何か
- 2、二つの大戦と伝統の揺らぎの中の格闘
- 3、ウィットゲンシュタインの生涯と思想
- 4、『論理哲学論考』——言葉と沈黙Ⅰ
- 5、『論理哲学論考』——言葉と沈黙Ⅱ
- 6、ハイデガーの生涯と思想
- 7、『存在と時間』——人間と死Ⅰ
- 8、『存在と時間』——人間と死Ⅱ
- 9、西田幾多郎の生涯と思想
- 10、『善の研究』——純粹経験と無Ⅰ
- 11、『善の研究』——純粹経験と無Ⅱ
- 12、むすび——彼らの残した問題とは何か

〔講義のすすめ方〕

上記三人の哲学について講義とする。三人の生涯と思想を簡単に紹介し、彼らの主著について説明する。毎回講義の最後で、その日の講義についての質問・感想などを書いてもらい、次の講義の冒頭でそれに応えながら、講義をすすめていく。毎回質問等を提出して欲しい。

それから、夏休みに合宿（三泊四日・宿泊料無料）をし、他大学の学生との交流を行い

ます。ぜひ参加してください。

なお、質問やリクエストなどがある場合は、次のアドレスにメールください。

matobat@hakuoh.ac.jp

〔教 材〕

テキスト

『論理哲学論考』・『存在と時間』・『善の研究』は現代哲学の必須文献であり、岩波文庫にも当然収められている。ぜひ読んでもらいたい。

参 考 書

たくさん参考書や研究書があります。急峻な山を自分の足で登るか、それともガイドブックで登った気になるか。それを決めるのはあなたです。ですが、若いのですから、実際に登ってみることをおすすめします。

〔成績評価の方法・基準〕

学期末の筆記試験。論述形式で行う。授業の冒頭で——もちろん、受講生の数によってやり方は考えるが——出席をとり、当然ながらこの出席状況も考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕

物事を建前だけで済ませたくないと思う気持ちがあれば十分で、特別な予備知識などは必要ありません。「挫折や涙はどれほど重要か」、「人生にとって否定的なものがどんなに大切なものか」、「目標はなくなったときにこそ重要なのだ」という〈本当のこと〉を学びます。

〔科目内容の位置付け〕

特別な予備知識は必要ない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

関連科目として哲学A B・文学A B等をあげたい。

28	倫 理 学 B	2単位	的 場 哲 朗
副題	人 間 と は 何 か		

〔講義目的〕

哲学的人間学（Philosophische Anthropologie）の系譜をたどり直してみたい。哲学的人間学は、人間の本質について探究することがすべての哲学的問いの出発点だと考える。その意味で、人間学は哲学、さらに科学の基礎論を目指すわけであるが、それは、同時に、人間の生き方に関心を持つものにとって、つねに重要な示唆を与えてきた。というのも、「人間とは何か」、「人間のほんとうのあり方とは何か」、「人間はなぜ社会や科学や文化や道徳をつくるか」といった根本的な問題に答えようとしてきたからである。哲学的人間学の系譜はマックス・シェーラーからはじまり、リップス、プレスナー、ゲーレンを経て現代にまでつながっているが、講義ではシェーラー、プレスナー、リップス、和辻に着目したい。

人間の生き方——これを追求することこそまさしく倫理学のテーマであるが——について真剣に考えたい学生を歓迎する。一緒に「人間とは何か」について考えてみたい。

〔講義内容〕

- 1、はじめに——人間学のすすめ
- 2、現代における人間学の可能性と限界
- 3、人間学の提唱——シェーラーとプレスナー
- 4、マックス・シェーラー——「人間と歴史」
- 5、プレスナー——人間学と論理学
- 6、人間学と論理学——ミッシュとリップス
- 7、ミッシュ——生と論理学
- 8、リップス——実存と論理学
- 9、人間学と倫理学——和辻哲郎
- 10、『人間の学としての倫理学』
- 11、フーコー、ハイデガーの人間学批判
- 12、むすび——エコロジー問題と人間学

〔講義のすすめ方〕

哲学的人間学について講義する。その思想について紹介・説明するが、毎回講義の最後で、その日の講義についての質問・感想などを書いてもらい、次の講義の冒頭でそれに答えながら、講義をすすめていく。毎回質問等を提出して欲しい。

なお、質問やリクエストなどがある場合は、次のアドレスにメールください。

matobat@hakuoh.ac.jp

〔教 材〕

テキスト

人間学についての文献はたくさん出版されており、ぜひ読んでもらいたい。

参考書

たくさんの参考書や研究書があります。急峻な山を自分の足で登るか、それともガイドブックで登った気になるか。それを決めるのはあなたです。ですが、若いのですから、実際に登ってみることをおすすめします。

〔成績評価の方法・基準〕

学期末の筆記試験。論述形式で行う。授業の冒頭で——もちろん、受講生の数によってやり方は考えるが——出席をとり、当然ながらこの出席状況も考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕

役に立つとか、人生の目的などをあらかじめ立てようとしている諸君！よく考えてごらん、君は歩きだす前からもう結論を先取りしようとしているのではないだろうか。しかし、どうだろうか、将来そうしたものがまだ意味をもつなどと誰が言えるのだろうか。人生に設計図を書き込もうとしているのではないだろうか。今の価値観に拘泥するより、見知らぬ未来にこそ夢を抱こうではないか！それこそ生きるということではないだろうか！それこそ冒険というものではないだろうか！

〔科目内容の位置付け〕

特別な予備知識は必要ない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

関連科目として倫理学A、哲学A・B、文学A・B等をあげたい。

29	哲 学 A	2 単位	渡 辺 忠
副題	私は誰?: 人格のメタフィジクス		

〔講義目的〕

哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え「哲学する」ことが目的である。同時に、レジュメを作りながら文章を読む訓練、意見を形成し議論をする訓練、短い文章で意見を述べる訓練、4,000字程度のレポートを作成する訓練を併せて行う。

〔講義内容〕

人物とその同一性について考える。とくに、一方で、今日優勢な自然主義的世界観・人間観におけるその位置づけと、他方で、直観的事実としての自己の存在の特異性とを対比して、どう考えればよいのか模索する。その過程で、心身問題・主観性・同一性・様相・可能的世界・付随性・本質・時間などの形而上学的概念や諸問題を検討する。

〔講義のすすめ方〕

事前に印刷教材を配布する。半期で10から15本の資料を読む。予習でそれを読みレジュメを作成して提出する。授業ではそれを前提に議論をする。必要に応じて解説講義も入れるが、中心は受講者の意見発表と討論である。授業の最後に「出席カード」に考えを記入する。次回はそれも資料として用いる。これを繰り返す。結構たいへんである。

〔教 材〕

教科書はない。印刷教材を配布する。以下は参考書。

- D. パーフィット『理由と人格』
(勁草書房 1998)
- R. スウィンバーン/S. シューメイカー
『人格の同一性』(勁草書房 1998)
- P. チャーチランド『認知哲学』(産業図書)
- D. デネット『心はどこにあるのか』(草思社)
『解明される意識』(青土社)
- D. チャルマーズ『意識する心』(白揚社)
- 永井均『翔太と猫のインサイトの夏休み』
(ナカニシヤ出版)
- 『〈子供〉のための哲学』
『私・今・そして神』
(講談社現代新書)
- 『転校生とブラックジャック』
(岩波書店)

〔成績評価の方法・基準〕

半期の授業なので、9回以上出席しなければ評価の対象にならない。やむを得ない事情がある場合(証明が必要)をのぞき、受講者の責任で欠席多数となった場合は、自動的に失格となる。出席は成績評価の必要条件であり十分条件ではない。評価は、授業への貢献度(発言・提出物など)を50%、年度末レポート50%で評価する。「出席カード」には毎回意見を記入すること。なお、誤字を避けるため、携帯用国語辞典を毎回持参すること。また、教材プリントのレジュメも必ず期日までに提出すること。授業での積極発言、随時受け付ける自主レポートは、ボーナスポイントとし、ポイントの多い受講者ほど貢献度が高いと判断する。ちなみに、昨年度実績では、Sが14%、Aが22%、Bが22%、Cが0%、Dが0%、失格Hが42%。失格はみな出席不良である。

〔履修のポイント・注意点〕

レジュメを作りながら教材を徹底的に読みこむことが第一に求められる。「読む修行」と思えばよい。ついで、問題を徹底して考えることが求められる。「考える修行」である。「通念」「常識」は気にしなくてよい。緻密な論理性と斬新な哲学的直観さえあれば、グロテスクな見解も首尾一貫しているかぎり歓迎される。問題はきわめて難しく、攻略するための道具も容易に使いこなせるものではない。だが、重要なのは専門性などではなく、素人の直観であり、「素手で考える」無謀さである。かなりマニアックであるから、テキトーにやって単位だけ取るつもりの方は、つらい思いをすることになるだろう。

〔科目内容の位置付け〕

哲学は、段階を踏んで身につけるものではない。斬新な問題意識と、読み、考え続ける「修行」に耐える根気とがあれば、十分である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

日本語が理解できれば十分、前提科目はない。関連科目は第一に「哲学B」「哲学演習」と「応用倫理」。その他、「哲学概論」「論理学」「英語V」など。

30	哲 学 B	2 単位	渡 辺 忠
副題			

〔講義目的〕

哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え「哲学する」ことが目的である。同時に、レジュメを作りながら文章を読む訓練、意見を形成し議論をする訓練、短い文章で意見を述べる訓練、4,000字程度のレポートを作成する訓練を併せて行う。

〔講義内容〕

死について考える。現代哲学の中には、心を脳というハードウェアに載ったソフトウェアのように見る考え方があつた。そうだとすると、そのような心は「死ぬ」ことがあるのだろうか。「誰」が死ぬのだろうか。宗教とは別の意味で「死後の生」が可能だろうか。また、古代の哲学者は、死後の非存在は誕生前の非存在の対称的な鏡像にすぎず、後者と同様前者もなんらおそれるに足りないと言つた。だが、本当に死は何でもないものなのだろうか。死の意味と価値を考えることは、生の意味と価値を考えることでもある。授業では「死の形而上学」に関する文献資料を読み、問題そのものを考えていく。

〔講義のすすめ方〕

事前に印刷教材を配布する。半期で10から15本の資料を読む。予習をしレジュメを作成して提出する。授業ではそれを前提に議論をする。必要に応じて解説講義も入れるが、中心は受講者の意見発表と討論である。授業の最後に「出席カード」に考えを記入する。次回はそれも資料として用いる。これを繰り返す。結構たいへんである。

〔教 材〕

教科書はない。印刷教材を配布する。以下は参考書。

- D. パーフィット『理由と人格』
(勁草書房 1998)
- F. Feldman *Confrontations with the Reaper*
(Oxford : Oxford Univ.Press 1992)
- J. M. Fischer ed. *The Metaphysics of Death*
(Stanford : Stanford Univ.Press 1993)
- P. French, H. Wettstein eds.
Midwest Studies Vol. XXIV Life and Death
(Oxford : Blackwell 1992)
- F. Kamm *Morality, Mortality Vol. I*
(Oxford : Oxford Univ.Press 1993)

〔成績評価の方法・基準〕

半期の授業なので、9回以上出席しなければ評価の対象にならない。やむを得ない事情がある場合(証明が必要)をのぞき、受講者の責任で欠席多数となった場合は、自動的に失格となる。出席は成績評価の必要条件であり十分条件ではない。評価は、授業への貢献度(発言・提出物など)を50%、年度末レポート50%で評価する。「出席カード」には毎回意見を記入すること。なお、誤字を避けるため、携帯用国語辞典を毎回持参すること。また、教材プリントのレジュメも必ず期日までに提出すること。授業での積極発言、随時受け付ける自主レポートは、ボーナスポイントとし、ポイントの多い受講者ほど貢献度が高いと判断する。

〔履修のポイント・注意点〕

レジュメを作りながら教材を徹底的に読みこむことが第一に求められる。「読む修行」と思えばよい。ついで、問題を徹底して考えることが求められる。「考える修行」である。「通念」「常識」は気にしなくてよい。緻密な論理と斬新な哲学的直観さえあれば、グロテスクな見解も首尾一貫しているかぎり歓迎される。問題はきわめて難しく、攻略するための道具も容易に使いこなせるものではない。だが、重要なのは専門性などではなく、素人の直観であり、「素手で考える」無謀さである。かなりマニアックであるから、テキトーにやって単位だけ取るつもりの方は、つらい思いをすることになるだろう。

〔科目内容の位置付け〕

哲学は、段階を踏んで身につけるものではない。斬新な問題意識と、読み、考え続ける「修行」に耐える根気とがあれば、十分である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

日本語が理解できれば十分、前提科目はない。関連科目は第一に「哲学A」「哲学演習」と「応用倫理」。その他、「哲学概論」「論理学」「英語V」など。

31	文 学 A	2単位	向 井 千代子
副題			
	イギリス小説		

〔講義目的〕

19世紀から20世紀前半までのイギリスの文学、特にモダニズム小説と言われる分野の作品に焦点を当てる。イギリスという限られた地域の文学が中心になるが、学生たちには文学の面白さ、文学と時代の関わり、文学と人生といった問題にも目を向けていただき、文学全般に親しむ切っ掛けにしてほしい。

〔講義内容〕

モダニズム文学と言われる文学の動きは19世紀末の審美主義運動から始まったと言われる。それが頂点に達するのは第1次世界大戦直後の20年代である。かつてイギリスが植民地を沢山持ち、大英帝国として世界に君臨していた時代が陰りを見せ、今までの価値観が揺らぎ始め、新しい価値観を求めて作家たちが模索していた時代に生まれた文学がモダニズム文学と言えよう。この時代の作家たちは今までの価値観を否定する一方自分なりの価値観を打ち立てるために、それぞれ別個の価値観を主張したが、時代が経ってみると別個に見える価値観の間にも共通項と言えるものがあるのではないかと考える。それは多分個人と社会の問題という対立の中で、個人のほうに重きを置く考えであったと言えよう。

個人の作家を紹介しながら、一方で「個人と社会」という問題に焦点を当てて19世紀末から20世紀前半の作家たちを論ずる。扱う主要作家はオスカー・ワイルド、H. G. ウェルズ、E. M. フォースター、ヴァージニア・ウルフ、ジェイムズ・ジョイス、D. H. ロレンス、キャサリン・マンズフィールドなど。その他に小説家ではないが、詩人のT. S. エリオットやW. B. イエーツなどにも触れる。

〔講義のすすめ方〕

かつての文学Aでは、文学史的な要素を取り入れてきた。そのため、小説の大まかな内容、あらすじの説明及びその小説が書かれた時代背景に力点が置かれ、肝心の読むという行為に関しては余力を入れていなかった。しかし、考えてみれば、文学は言葉の上に成り立っているのであるから、「読む」ことは大切である。

このような反省の上に立って、本年度の「文学A」は、力点を「読む」ことに置いて授業を行うことにする。実際には毎回一定量

の読む材料を与えて、それを基に感想を話し合ったり、疑問点を解決したりする。その後、作品の背景となる社会や時代、作者の経歴などを解説する。

〔教 材〕

教科書は使わない。資料は授業のときに印刷配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

成績は出席点と授業中に提出した感想文やコメント及び定期試験の成績を参考にして総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

講義科目の場合、どうしても受け身的になって講義を聞かずに雑談をしたり、居眠りをしたりしがちである。このようなことを防ぐために教員も極力参加型の授業になるように工夫するつもりである。しかし、授業態度の悪い学生に対しては、他の学生の迷惑になるので退席してもらおうつもりである。授業というのは教師と学生の双方あってこそ成立するものなので、お互いにより関係を保って楽しい授業になるように協力をお願いする。

文学の場合、知識として文学者の名前を覚えるだけでは不十分である。文学の授業を取って本を読まないというのはおかしいので、授業以外の時間に興味を持った作家があれば図書館などで本を借りて積極的に読んでほしい。もし興味を持った作家や作品があったら、レポートを書いて自主的に提出していただければ、それもプラス評価として成績評価に加えたい。

〔科目内容の位置付け〕

一般教養的な科目。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

文学B



32 科目	文 学 B	2単位	針 生 進
副題	米文学に見る野性		

〔講義目的〕

そこに描かれたさまざまな「野性」に注目した米文学の通史を浮かびあがらせたい。親しみやすいこともあり、小説作品を主にとりあげる。

〔講義内容〕

プリマスに上陸したピューリタンたちを迎えた冬のニューイングランドや、偽医者マクティークが迷いこんだカルフォルニアの「死の谷」のような苛酷な自然環境。あるいは復讐のために白い鯨を追いつづける船長や、南北戦争の戦場で闘争本能に目覚めた兵士を駆り立てる衝動。このような、人間の外と内なる二つの「野性」を論じていきたい。上でもふれたように、その方が受講生には知識の整理がしやすいのではと思ひ、論点や事項中心の文学論ではなく、文学史という枠内で話を進めたい。

〔講義のすすめ方〕

17世紀の植民地時代から話しはじめる。それ以降の細かい講義区分は今のところたてていないけれど、半期科目という制約もあり、20世紀初頭の作品まで見られればいだろう。作品名や作者名を並べるだけの講義にはしたくないので、原作からの引用も頻繁に行いたい。とはいっても、そのごく一部しか教室ではとりあげられないので、受講生には、翻訳でよいので（興味を感じたものだけでも）各作品に直接ふれることを期待する。そのためにも、翻訳があり、かつ本学図書館に蔵書がある、あるいは文庫本などで購入しやすい作品を主にとりあげていきたい。

〔教 材〕

特に教科書は使わず、こちらでまとめた教材を配付する。

〔成績評価の方法・基準〕

個々の作品についての受講者個人の印象や見解などは点数化にはなじまないとの判断からレポートは要求しない。いかに多くの正確な知識を身につけたかを問う筆記試験（学期末の試験期間内に行う）の結果が成績評価に大きく関わる。試験の結果が思わしくない場合でも、レポートなどを提出させて試験の点数に加算、換算するような措置は講じない。

出席率を評価する度合いについては受講者数が確定してから決めたい。

〔履修のポイント・注意点〕

受講に際して予備知識の有無は特に問わない。最低限の常識（人間理解）とアメリカという国についての最低限の知識があればよいだろう（どの辺りが最低限度かが問題ではあるけれど）。一般教養科目の一つとして、専門科目がとりまく谷間のなかの休息地をこの講義も提供するだろうが、日ごろから小説の類にはあまり縁がない（だから悪いというのではない）諸君には息抜きどころか苦痛でしかないだろう。

〔科目内容の位置付け〕

前期に開講されている「文学A」とこれとは同じ分野ではあれ、扱う内容が異なる、それぞれに独立した科目であり、「A」のみ、あるいは「B」のみの受講も可である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「文学A」

33	美 学 A	2単位	益 田 勇 一
副題	古代～ルネサンスの美学		

〔講義目的〕

古代ギリシアからルネサンスに到るまでの美や芸術に関する思考の歴史を辿る。それぞれの時代を代表する思想家が残した文献から、美や芸術に関する言説を拾い集め、当時それらがどのように考えられていたのかを概観する。今日われわれが抱えている美や芸術のイメージとはかなり異なる考え方が存在したことに気づかされる。自分自身にとって美や芸術がどのような意味を持ちうるのか、社会においてそれらがどのような役割を果たしているのかを考察するための基礎を構築することを目指す。

〔講義内容〕

1. 美学とは(1)
美学という学問名称の由来
2. 美学とは(2)
美と芸術
3. プラトン(1)
生涯と著作／イデア論／魂の三部分説
4. プラトン(2)
美のイデア／美の階層／エロス
5. プラトン(3)
模倣的技術としての芸術／芸術の序列／芸術の意義
6. アリストテレス(1)
生涯と著作／質料一形相論／自然美と芸術美
7. アリストテレス(2)
ミメシスとカタルシス
8. プロティノス（新プラトン主義の美学）
流出説と存在の階層／ヌース的なものとしての美
9. アウグスティヌス（初期キリスト教の美学）
生涯と著作／神の美／美と永遠
10. トマス・アキナス（中世の美学）
美の超越性／美の体験
11. イコノクラスム
イコン（聖画像）破壊の歴史的・思想的背景
12. ルネサンスと遠近法
神の視点から人間の視点へ

〔講義のすすめ方〕

要点を板書し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

〔教 材〕

教科書は使用しない。参考図書については必要に応じて紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験と講義期間中に提示する課題（2回程度）による評価。
定期試験 50%
課 題 50%

〔履修のポイント・注意点〕

美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくることが予想される。資料を配布してできるだけ補うようにするが、わからない用語等については自ら調べるように努力してほしい。自分にとって芸術がどのような意味を持つのかを考えながら授業に参加してほしい。

〔科目内容の位置付け〕

美学の入門となる内容。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

哲学史、世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「哲学A/B」「倫理学A/B」があげられる。

34 	美 学 B	2単位	益 田 勇 一
副題	近 世 の 美 学		

〔講義目的〕

近世美学の成立と展開の過程を概観する。認識論の一部門として出発した美学は、次第に学問としての独立性を獲得していくが、ニーチェに到って伝統的美学は解体され、多様な方向性を示す20世紀の美学へと引き継がれる。秩序立てて、論理的に思考する習慣を獲得するとともに、自分自身にとって美や芸術がどのような意味を持ちうるのか、社会においてそれらがどのような役割を果たしうるのかを考察するための基礎を構築することを目指す。

〔講義内容〕

1. バウムガルテン
感性的認識の学としての美学
2. カント(1)
先験的感性論／先験的分析論
3. カント(2)
美的判断の特色（無関心の満足／主観的普遍妥当性）
4. カント(3)
美的判断の特色（目的なき合目的性／範例的必然性）
5. ロマン主義の芸術観
シュレーゲル兄弟／ノヴァーリス(象徴としての詩)
6. ヘーゲル
絶対者／弁証法／芸術の歴史的展開
7. ショーペンハウアー
ペシミズムと芸術
8. ニーチェ(1)
初期の芸術論(悲劇の本質について)
9. ニーチェ(2)
永遠回帰と芸術
10. ニーチェ(3)
力への意志と芸術／芸術の生理学
11. ニコライ・ハルトマン
芸術作品の存在構造
12. ハイデガー
存在者の存在の開示としての芸術

〔講義のすすめ方〕

要点を板書し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

〔教 材〕

教科書は使用しない。参考図書については必要に応じて紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験と講義期間中に提示する課題（2回程度）による評価。
定期試験 50%
課 題 50%

〔履修のポイント・注意点〕

美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくるのが予想される。資料を配布してできるだけ補うようにするが、わからない用語等については自ら調べるように努力してほしい。自分にとって芸術がどのような意味を持つのかを考えながら授業に参加してほしい。

〔科目内容の位置付け〕

近世美学の入門となる内容。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

哲学史、世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「美学A」「哲学A/B」「倫理学A/B」があげられる。

35	社会学 A	2単位	山本厚太郎
副題	現代日本を理解する		

〔講義目的〕

高校までの諸君の勉学は、知識の詰め込みが主体であった。「正しい」とされるものをいかに記憶するかということが優先されてきたのではないだろうか。大学で学ぶということは、それとはかなり異なる（と、私は思いたい）。何よりも問題を提起する力が求められる。どうして、なぜそうになっているのか？ もっと良い方法は？ 考え方は？ こうした諸君の問いかけこそが次代の進歩を生み出す原動力なのだ。

社会学は現在を見つめる学問である。それゆえ「……ということになっている」とつい見なししてしまうことにも光をあてて考えていく。たとえば家族だ。なぜ我々は主に“核家族”という家族形態で暮しているのか。そのことに疑問を持つ学生は決して多くはないだろう。しかし、この家族の形ももちろん社会の、経済の、政治の変遷の影響下にある。その変容を検証し、将来の予測をも打ち立てるところに、この社会学の醍醐味がある。

社会学の根本はつまるところ「個人と社会」の問題を捉え、解析していくところにあるのだ。ごく当然のように、諸君の周囲に存在する全ての物事が学問の対象となる。私の講義ではそれを見つめ直していくことによって、現代社会の有り様を把握し、同時に諸君の問いかける力、考える力を高めていきたい。

〔講義内容〕

1. 社会学という考え方
2. コトバと私たち
3. コミュニケーションと私たち
4. テレビ（メディア）と私たち
5. 情報社会と私たち
6. まとめ

〔講義のすすめ方〕

〔教材〕

教科書 使用せず。プリント配布
参考書 追って指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート1回。講義中の積極性も評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。ひとつのテーマを2週にわたって講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、1回目を休むと、2回目は内容についていけなくなるおそれあり。

〔科目内容の位置付け〕

基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会的な考察力は必須であると思う。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

なし。旺盛な知的好奇心のみ。

36	社 会 学 B	2 単 位	山 本 厚 太 郎
II 群			
副題	現代日本を理解する		

〔講義目的〕

社会学Aを参照して下さい。

〔講義内容〕

1. 社会学とは
2. 家族と私たち
3. 少子高齢化社会と私たち
4. 食と私たち
5. 豊かさと私たち
6. まとめ

〔講義のすすめ方〕

なお、社会学Aを受講した学生が社会学Bを連続して受講する場合、後期の冒頭のみ重複があるのを容赦されたい。ABを通して学んでいくと、現代日本の姿がはっきり見えてくると思う。

〔教 材〕

教科書 使用せず。プリント配布

参考書 追って指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート1回。講義中の積極性も評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。ひとつのテーマを2週以上に渡って講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、1回目を休むと、2回目は内容についていけなくなるおそれあり。

〔科目内容の位置付け〕

基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会的な考察力は必須であると思う。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

なし。旺盛な知的好奇心のみ。

37	法 学 A	2単位	河 原 文 敬
副題	私 法 の し く み		

〔講義目的〕

法律学の基本的な事項を私法分野（民法や商法が主にその分野です）を対象にして説明します。法律学を通して物の見方の多様性を知ることが、今後の学習にとって意義があると考えます。

す。あるいはそうした科目への関心があればよいです。他に前提科目はありません。関連科目として法学B、憲法があります。

〔講義内容〕

〔講義のすすめ方〕

主として民法分野の事例を取上げて説明をする。その基本として国の基本法である憲法の仕組みにも言及する。はじめに仮説的な事例を取上げて法的な思考の特徴を説明する。次に以下の項目を中心に解説する。なお、法学はいくつかの資格試験の科目になっているので、その点も考慮して解説をする予定である（具体的には社会福祉士試験「法学」の過去の出題を念頭において、基本事項を説明する）。

憲法の仕組み(私法制度の位置付け)
 契約(主として売買契約)、債権の担保
 権利の主体(自然人、法人)、成年後見制度
 不法行為(国家賠償法を含む)
 婚姻、親子、養子制度
 相続、遺言

〔教 材〕

教材：開講時に知らせる
 参考書については、開講時に紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕

期末試験によって評価します（中間試験や講義中のレポートも予定しています）。具体的な評価方法は受講生の数が確定した時点で変更もあります。

〔履修のポイント・注意点〕

真面目に学習してください。講義に出て教員の話をお聴きください。
 講義中は携帯電話等を使わないこと。

〔科目内容の位置付け〕

一般教育科目のひとつです。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

高校あるいは中学の「現代社会」「政治経済」の法律に関する予備知識があれば十分で

38 	法 学 B	2単位	宮 原 均
副題	公 法		

〔講義目的〕

社会福祉・教職等に必要な法学の知識のうち、主として憲法・行政法について講義します。

〔講義内容〕

憲法は、国家および法制度の土台として位置付けられ、統治のしくみと人権保障の二つに分けられます。統治のしくみについては、主として国家のルールつまり法律を定める国会、国会の定めた法律に従い現実に行政活動を行う内閣、行政の作用が法律にかなっているか、更に法律が憲法に違反していないか事後的にチェックする裁判所の働きが重要です。人権保障については、個人の尊厳を全うして人間らしい一生を送れるために国家は現在何ができるかを考えることになると思います。

行政法については「法律による行政」という概念が重要です。私たちが国家権力に接するのはなんと言っても行政の作用です。それだけにその濫用を防止する必要性は高いです。そのためにあらかじめ国民の代表が設定した法律どおりに行政を行わせ、事後的に裁判所がこれをチェックし、一定の場合には行政の作用を無効にするシステムです。講義では、行政の作用がどのようにスタートし、いかなるプロセスを経てその目的を達成しようとするかについて、法律のかかわり方と裁判所による審査の方法を紹介しながら説明したいと思います。

〔講義のすすめ方〕

できるだけ多くの裁判例を紹介すると同時に、問題解決の決め手となった基礎理論にこだわりたいと思います。

〔教 材〕

教科書は指定せず、レジュメ等配布しますが、六法（種類問わず）を用意してください。

〔成績評価の方法・基準〕

期末テストと出席状況等

〔履修のポイント・注意点〕

講座の性質にふさわしい目的意識をもった学生の参加を希望します。

〔科目内容の位置付け〕

社会生活を送っていくためには、法律の知識が不可欠です。憲法・行政法の分野における基礎を提供します。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

民法、刑法

39 川群	統計学 A	2単位	沖津直
副題	統計学入門		

〔講義目的〕

現代は超高度な情報化社会である。いろいろな多くの情報がマスコミ等を通じて毎日報道されている。政府、官庁、企業、研究所などでも、統計調査によって得られるデータ、多くの業務統計や実験データが収集され、それらをもとに、政策、意志決定、予測が行われている。この情報化の傾向は、今後ますます拡大され、精密化されて普及していくものと思われる。インターネットなどの情報技術は非常に速いスピードで発達を続けている。

情報化社会とは、いうまでもなく情報そのものが最も重要な役割をはたし、かつ価値をもつ社会でもある。確実で十分な情報を有する者が、情勢を正確に判断でき、また有利な立場に立ち、厳しい競争にも生き残っていける。これだけ情報の氾濫した社会に生きるわれわれとしては、情報の読み方・考え方の方法を習得することが必要になってくるわけである。

〔講義内容〕

統計学は記述統計学と推測統計学に分けられる。前者では、まず収集されたデータをどのように整理し、生かしていくかを学んでいく。データを度数分布表にまとめ、分布をグラフにする。そして、分布の特性値である平均値、分散、標準偏差、中央値、最頻値、幾何平均などについて学習します。これらの作業・計算を通じて、分布の状態を正確に把握することができる。統計図表の見方、書き方、使い方についても学習します。

次に、確率の考え方、確率の概念、確率の公理、確率計算の基本定理などについて学習する。

〔講義のすすめ方〕

授業は以下の項目の順序で行います。

1. 序論
2. 統計データのまとめ方
3. 位置の特性値
4. 散らばりの特性値
5. 確率
6. 確率分布

〔教材〕

テキスト 「統計学入門」沖津直著
八千代出版
参考書 「統計学」山根太郎著
東洋経済新報社
「初等統計学」P.G.ホーエル
村上訳 培風館

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果 75%
出席状況、学習態度など 25%

〔履修のポイント・注意点〕

内容はつみあげ方式になっている。毎回、コンスタントに学習することが重要です。宿題や練習問題を解いて、正確に理解することが大切です。

〔科目内容の位置付け〕

統計の基礎科目であり、情報処理科目やいろいろな科目の数量分析の基礎科目ともなりうるし、人文、社会、自然科学系のあらゆる分野の学問に利用あるいは使用されている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提とする科目は特にないが、高校卒業程度の数学がわかっている方が望ましいが、むしろ、これから学んでいくんだという意欲が重要と思う。



40 群	統計学 B	2単位	沖津 直
副題	統計データの見方・考え方		

〔講義目的〕

現代は超高度な情報化社会である。いろいろな多くの情報がマスコミ等を通じて毎日報道されている。政府、官庁、企業、研究所などでも、統計調査によって得られるデータ、多くの業務統計や実験データが収集され、それらをもとに、政策、意志決定、予測が行われている。この情報化の傾向は、今後ますます拡大され、精密化されて普及していくものと思われる。インターネットなどの情報技術は非常に速いスピードで発達を続けている。

情報化社会とは、いうまでもなく情報そのものが最も重要な役割をはたし、かつ価値をもつ社会でもある。確実で十分な情報を有する者が、情勢を正確に判断でき、また有利な立場に立ち、厳しい競争にも生き残っていきける。これだけ情報の氾濫した社会に生きるわれわれとしては、情報の読み方・考え方の方を習得することが必要になってくるわけである。

〔講義内容〕

統計学Aでは、まず収集されたデータをどのように整理し、生かしていくかを学んだ。データを度数分布表にまとめ、分布をグラフにし、分布の特性値である平均値、分散、標準偏差、中央値、最頻値、幾何平均などについて学習した。

統計学Bでは、統計学Aを踏まえて、推測統計を学習する。確率変数の意味と役割、確率分布、期待値、二項分布、ポアソン分布、正規分布、標本分布、 t 分布、推定、検定、線型回帰分布などについて講述する。

〔講義のすすめ方〕

授業は以下の項目の順序で行います。

1. 確率分布
2. 二項分布
3. ポアソン分布
4. 正規分布
5. 無作為標本
6. 標本分布
7. 推定
8. 検定
9. 線型回帰分布
10. 相関分析

〔教材〕

テキスト 「統計学入門」沖津 直著
八千代出版
参考書 「統計学」山根太郎著
東洋経済新報社
「初等統計学」P.G.ホーエル
村上訳 培風館

〔成績評価の方法・基準〕

基本的には期末の定期試験の結果 75%
出席状況、学習態度など 25%

〔履修のポイント・注意点〕

内容はつみあげ方式になっている。毎回、コンスタントに学習することが重要です。宿題や練習問題を解いて、正確に理解すること。また意欲的に学習することが大切です。

〔科目内容の位置付け〕

統計の基礎科目であり、情報処理科目やいろいろな科目の数量分析の基礎科目ともなりうるし、人文、社会、自然科学系のあらゆる分野の学問に利用あるいは使用されている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提とする科目は特にないが、高校卒業程度の数学がわかっている方が望ましいが、むしろ、これから学んでいくんだという意欲が重要と思う。

41	心 理 学 A	2 単 位	伊 東 孝 郎
II 群	副 題 日 常 の 心 理 学 1		

〔講義目的〕

心理学は、人の行動、思考、感情のプロセスを理解するための理論的枠組みを提供するという、地道な研究に基づいた科学であり、学問である。もちろん、こうした「枠組み」から発展して、実践に役立つさまざまな「○心理学」も存在するが、理論の裏づけがなければ用をなさない。

本講義の目的は、ふだん生活の中で経験するさまざまなモノゴトをテーマに、我々がそれをいかにとらえ、感じ、考え、行動しているか、あるいはしていないかについて、心理学という学問の成果を借りて、冷静に把握できるようにすることである。

〔講義内容〕

1. 日常の心理学とは
2. 知覚—五感で感じる
3. 知覚—目の錯覚ゲーム
4. 知覚—見えないはずのものが見えたりすること
5. 感情—心で感じる
6. 感情—キレる自分と我慢する自分
7. 思考—無精しないで考える
8. 思考—おかしいあなたの思い込み
9. 学習—学ぶということ
10. 学習—洗脳の恐怖
11. 発達—一年をとるとのこと
12. 笑いについて
13. 恋愛について
14. まとめ

〔講義のすすめ方〕

毎回、基本的な心理学の知識を紹介する。その知識を、日常の生活の中で役立つ「知」へと展開するため、受講生に主体的に考えてもらい、創造性に富んだ双方向のやりとりを重視しながら、講義を進める。

〔教 材〕

特に指定しない。必要に応じて講義中に知らせる。

〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末の試験（50%）と出席状況（50%）による。

〔履修のポイント・注意点〕

旺盛な知的好奇心をもち、講義内容について自分でも考える習慣を身につけて、積極的な行動に結びつけていただきたい。

〔科目内容の位置付け〕

大学生としての基礎教養、そしてモノを考える際の多様な視点を得るトレーニング。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

より専門性の高い内容を扱う「心理学B」とあわせて履修すると、理解はあっという間に深まる。ことが期待される。

41	心 理 学 A	2単位	神 戸 文 朗
副題			

〔講義目的〕

世の中では心理テストとか血液型心理学と称するような一種のゲームが流行っていますが、心理学とはこのように根拠なく他者の気持ちや性格を憶測するための学問ではありません。心理学研究の目的は人間の行動や諸能力を科学的、実証的方法によって究明することにあると考えます。

皆さんご存知のようにヒトは霊長類に属しており、ヒトが無意識的、自動的に行う多くの行動や性質は他の霊長類・哺乳類と共通性があります。ヒトは動物の中で独自の存在だとも言えますが、むしろこうした共通性の方が圧倒的に大きいといえます。つまり、ヒトの独自性というのは水に浮かんだ氷山の一角であり、その下では生命維持や本能行動、情動行動といった他の哺乳類に共通する自動装置がそれを支えているとも言えるのです。

そこで、心理学Aではヒトの多様な能力が特定の霊長類進化の道筋の中でのみ出現可能であったということ、様々な本能行動がどのように脳の構造と関連づけられるのかということ、本能行動と情動がヒトの思考や行動にどのような影響を与えているかということを中心として伝えたいと思います。

〔講義内容〕

1. 進化とヒトの能力の特徴
2. 大脳の構造
3. 生命維持の仕組み
4. 本能行動と情動行動の仕組み
5. 比較行動学的にみた本能行動
 - ①攻撃行動
 - ②求愛・生殖行動
 - ③社会的行動
6. 動物のコミュニケーション行動と類人猿の言語運用力

〔講義のすすめ方〕

脳の構造、動物の行動や表情などをビジュアルかつ的確に伝えるために、図を掲載した印刷物を多数配布することにしました。授業ではこの印刷物と黒板への書き込み、及び口頭での説明になります。

〔教 材〕

内容が多岐にわたるため単一の教科書等は指定しません。多数の印刷物を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は基本的に定期試験の内容に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

〔履修のポイント・注意点〕

一部は既に高校等で履修した内容もあるかとは思いますがほとんどは新しい知識だと思っています。熱心にノートをつけることによって人間の存在について更に興味が湧いてくることを期待します。

〔科目内容の位置付け〕

生物学的心理学、進化心理学、比較行動学、比較心理学の基礎・導入編に位置付けています。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

この科目を受講する際の前提科目はありません。ただし、人間を全体として理解をするためにヒトの独自性、特異性について考察する心理学Bも引き続いて受講されることを期待します。

41	心 理 学 A	2単位	中 谷 陽 子
副題			

〔はじめに〕

心理学Aと心理学Bを連続して受講することを勧める。自分の個性や知性を磨きながら豊かに1年間暮らしたいと思うならば、是非。講義内容は、前期Aの収穫を踏まえて後期Bの充実をプログラムしてある。

〔講義目的〕

現代は、人間生活のあるところには必ず心理学が関わり、しかもその領域がますます拡大される時代となってきた。

大学では学生が混沌として見えにくい自分の将来に目を凝らし、最初の人生設計に挑戦しようとする。心理学を学ぶ事は、現代を生きるあなたの伴走者として、あなたを力づける知的エネルギー源であると考えては？ 心理学Aでは自分を知り、分析し、それによって自分自身を強く意識して欲しい。自らの適応力を育て、自分で問題解決が出来るという自信を積み上げて欲しい。

〔講義のすすめ方〕

昔から心理学の授業の面白さは、検査や実験を自分達の手でやってみることにあるといわれる。勿論講義が中心になるが、受講者数や教室の事情の許す限りで大小の実験等を実施したいと思うが、学生皆の積極的な気持ち次第である（忘れないように！）。

〔講義内容〕

I. 適応の心理

a. 「性格」を知るプロセス

- ・ 性格論
- ・ 性格認知
- ・ 性格研究の歴史

b. 「自分」を知るプロセス

- ・ 性格検査に挑戦
(テストバッテリーを組んで)

II. 不適応の心理

a. 人間と「依存症」(急増への警告！)

- ・ 依存へ傾斜していく現代人
- ・ 自分の人生と依存

b. 「ストレス」

- ・ ストレスの本質理解
- ・ 社会そして自分とストレス
- ・ (生涯役立つ) ストレス克服法

III. 学生と知的能力(前編)

- a. 人間の知的能力を知る
- b. 「注意力と記憶」が自分を豊かにする
(後編)は心理学Bで。

〔教 材〕

「心理学」鹿取廣人・杉本敏夫編
東京大学出版会発行 (¥2300+tax)

〔成績評価の方法・基準〕

期末試験。
試験は授業内容中心。
出席状況を加味する、不正出席厳禁。

〔科目内容の位置付け〕

「教養の科目である心理学」。1、2年生にとっては自分発見の場・思考認知活動のすぐれた手段として。3、4年生の履修歓迎。迫り来る社会人としての自分を意識し、貴重な人間社会の研究の場として。

〔履修のポイント・注意点〕

1. ノートをしっかりとること。
2. 留学生が履修する場合は、ことばをはじめとして分かりにくいことがあると想像している。独りで心配しないで気楽に研究室に相談に来て欲しい。

42	心 理 学 B	2単位	伊 東 孝 郎
副題			

〔講義目的〕

「心理学A」と同様、本講義においても、受講生各自が実践的な心理学の「知」を探求し、掘り下げ、自分なりの方法で日常生活にフィードバックできるようになることを目的とする。

「心理学A」に比して、専門性がやや高い心理学のさまざまな領域をとり扱う。

〔講義内容〕

1. 人格心理学—親の顔が見たい
2. 人格心理学—自分の性格を知ること
3. 人格心理学—血液型占いの嘘
4. 社会心理学—グループについて
5. 社会心理学—差別について
6. 教育心理学—いま学校で何が起きているか
7. 臨床心理学—あの人のことがわからないとき
8. 臨床心理学—悩めるあの人の話を聴くには
9. 交流分析—自分の中のいろいろな顔
10. 交流分析—人とのやりとりがわかる
11. 精神分析—気づかないうちに何をしているのか
12. 精神分析—夢から得られること
13. 精神分析—社会で起きていることを深読みする
14. まとめ

〔講義のすすめ方〕

「心理学A」よりもやや専門性の高い、心理学の知識を紹介する。その知を、日常生活の中で役立つ「知」へと展開するため、受講生には、より積極的な講義への参加を求める。

〔教 材〕

特に指定しない。必要に応じて講義中に知らせる。

〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末の試験（50%）と出席状況（50%）による。

〔履修のポイント・注意点〕

旺盛な知的好奇心をもち、講義内容について自分でも考える習慣を身につけて、積極的な行動に結びつけていただきたい。

〔科目内容の位置付け〕

「心理学A」と同様、大学生としての基礎教養、そしてモノを考える際の多様な視点を得るトレーニング。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

できれば「心理学A」を受講していることが望ましい。

42	心 理 学 B	2単位	神 戸 文 朗
副題	人間らしさとは何か		

〔講義目的〕

心理学Aの説明でも触れましたが、心理学研究の目的は人間の行動や諸能力を科学的、実証的方法によって究明することにあると考えます。

心理学Aではヒトと他哺乳類との共通性について考察してきましたが、それに引き続き心理学Bではヒトの持つ独自性、特異性に焦点を当てた講義にしたいと思います。このヒトに特有の能力が主として大脳の新皮質の働きによることは周知の事実ですが、その働きを少し具体的に紹介したいと思います。また、こうした能力の中でも重要な認知的能力に関して試みられてきた様々な心理学的理論や実験についても紹介したいと思います。こうした説明によってわれわれが当然として受け止めている能力（例えば、視覚能力）がいかに複雑な方法で実現されているかを垣間見ることが出来るでしょうし、こうした能力がどのようにして解明されつつあるかについても触れることが出来るでしょう。

〔講義内容〕

1. 大脳新皮質の働き
2. 視覚情報分析
3. 錯視、恒常性、ゲシュタルト法則
4. パターン認知
5. カテゴリー化
6. 前注意的過程
7. 様々な記憶
8. 記憶障害
9. 言語障害

〔講義のすすめ方〕

脳の構造、実験の刺激布置や実験結果などをビジュアルにかつ的確に伝えるために、図を掲載した印刷物を多数配布することにしました。授業ではこの印刷物と黒板への書き込み、及び口頭での説明になります。

〔教 材〕

内容が多岐にわたるため単一の教科書等は指定しません。多数の印刷物を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は基本的に定期試験の内容に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

〔履修のポイント・注意点〕

一部は既に高校等で履修した内容もあるかとは思いますがほとんどは新しい知識だと思います。熱心にノートをつけることによって人間の存在について更に興味が湧いてくることを期待します。

〔科目内容の位置付け〕

認知心理学、神経心理学の基礎・入門編に位置付けています。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

この科目を受講する際の前提科目はありません。ただし、人間を全体として理解をするために他哺乳類との共通性について考察する心理学Aも受講されることを期待します。

42 II群	心 理 学 B	2単位	中 谷 陽 子
副題	自らの個性・知性と生き方を探る		

〔はじめに〕

心理学A Bを継続履修した履修生を想定して、ここで心理学の応用力を学んでほしい。

つまり周囲に流される生き方ではなく、主体性を持ち、自分の意思を育てることに充実感を感じて欲しい。講義内容はそのための材料を提供したい。

〔講義目的〕

心理学Aの解説と同様で、さらに心理学Bでは心理学を応用して多くのことを学習する力を修得して欲しい。

〔講義内容〕

III. 学生と知的能力（後編）

- (a. 心理学A前編にて)
- (b. 心理学A前編にて)
- c. 認知能力徹底研究
- d. 知能（IQ）と「EQ」人気の理由

IV. 身体論

- a. 精神としての身体
 - * 身体あつての自分とは
 - * ノイローゼや神経症に立ち向う現代人
- b. モードとしての身体
 - * 人類のモードの歴史
 - * モードによるこころの表現
 - * 美意識表現の上手な若者たち
- c. 生きることと死ぬこと
 - * 脳死（1982～現在へ）の理解
 - * 死は医療の敗北か？
 - * やっと認められた「悲嘆の心理学」
- d. 苦しむ身体
 - * うつ症状は「こころの風邪」か？
 - * ひきこもりのエネルギー
 - * 「カウンセリングマインド」

——知的現代人の常識——

V. “遊び”の効用

- a. 遊びの構造とその精神
- b. 美や豊かさの表現
- c. 科学の発想から生まれる遊び
- d. 講義中に楽しむ《遊びの博物館》

VI. 「練習」の効果

——学ぶ事は耐えること——

「百聞は一見にしかず」が、理屈ぬきで実感できる実験企画：全員で《鏡像描写》の実験に挑戦！

〔講義のすすめ方〕

心理学Aの解説を参照して欲しい。とくに心理学Bでは多くの資料を検証したり、実験にもエネルギーを向ける予定である。

〔教 材〕

心理学Aと同じテキストを継続して使う。この昨年に履修した先輩達から譲ってもらってもいい。

「心理学」鹿取・杉本編、東大出版会

〔成績評価の方法・基準〕

期末試験。

出席状況を加味する。

〔科目内容の位置付け〕

心理学Aにも述べられているが、1、2年生には自分の研究の場として3、4年生には貴重な人間社会研究の場として活用して欲しい。

〔履修のポイント・注意点〕

1. 心理学Bは内容から見てテキスト以外の資料が多く使われるので、各自ノートを十分に取ることを薦める。
2. 留学生で、相変わらず文化的・言語的な難題を抱えている人は、遠慮なく研究室のドアをたたくように。

43	社会心理学 A	2単位	細田 一 秋
科目			
副題	対人関係の基礎を学ぶ		

〔講義目的〕

群れから迷いでた羊は、ヒツジではないといわれます。恐怖心から、ヒツジとして行動できないのです。ヒトもまた、そうです。ガラス・ケースのなかの1個のヒトを観察しても、人は見えません。寄り添いながら暮らす人びと、ともに働く人びとを、その関係のなかで見るのが、人の理解なのです。

講義では、人を求め絆を結ぶあなたを、対人心理の分野から探ります。あなた自身の対人関係が見直せるように、講義のなかで社会心理学的な方法論・物の見方を修得してほしいと思います。単位を無事に取得するだけでなく、あなたがこの学問を好きになることを、願っています。

〔講義内容〕

- 1：社会心理学の基礎；「社会心理学とは何か」を心理学のなかでの位置、研究法、成果から概説します。
- 2：社会的行動のメカニズム；「社会的行動はいかに実現するか」、その行動のメカニズムを動物行動学、学習理論（古典的ならびにオペラント条件づけ）から考察します。
- 3：対人心理；上述の基礎事項を踏まえ、生活場面での対人心理を考えます。「人はなぜ人を好きになるのか」をテーマに、親和行動、対人魅力、友人選択、社会的促進、同調行動などの諸研究を紹介しします。

〔講義の進め方〕

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ないでしょう。でも、教室では活発な意見交換を期待します。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

〔教 材〕

- 教科書：使用しません。
- 参考書：「こころのサイエンス」
青柳・瀧本・杉山・矢澤
福村出版 1995円
「トピックス・こころのサイエンス」青柳・瀧本・杉山・矢澤
福村出版 1995円
「グラフィック学習心理学ー行動と認知」春木、山内
サイエンス社 2550円
「人間関係の心理学」齊藤勇
誠信書房 2200円
「新・くらしの社会心理学」
小川一夫 福村出版 2100円

〔現代社会心理学〕末永、安藤
東京大学出版会 3000円
〔社会心理学キーワード〕
山岸俊男 有斐閣 1600円

〔成績評価の方法・基準〕

評価方法：試験を1回、学期末に実施します。ただし、2/3以上出席した学生のみ受験資格をあたえます。
判定基準：試験の得点で、成績を評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

履修のポイント：社会心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人を見る眼」とが格段に進歩します。
注意点：出席を毎回チェックします。単位を得るには2/3以上の出席が必要です。教科書を用いませので、教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。

〔科目内容の位置付け〕

家庭・地域社会・学校・会社という人間関係の大海に、私たちは生きています。社会心理学はこの海でのとても実用的な舟といえます。また、未来の組織人として必須の科目でもあります。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：特にありません。「心理学」をすでに学んでいれば申し分ありません。

関連科目：半期の短い講義であるため、補完科目として「社会心理学B」の受講を薦めます。その他の関連科目として「心理学」の受講を薦めます。職場における実践的な対人関係を「産業心理学」で学べます。「経営組織論」では組織行動が起こるシステム環境が理解されます。マスとしての既存社会は強烈な行動決定因です。社会が私たちをどう育み、歪めるか「社会学」で学んで下さい。

44	社会心理学B	2単位	細田 一 秋
副題	モチベーションを学ぶ		

〔講義目的〕

「すべての学問は人間の理解を目指す」と言われます。「人間とは何か？」を解くために、さまざまな学問が誕生しました。あなたが学ぼうとしている社会心理学も、その1つです。講義では、社会のなかで欲求し願望を実現してゆくあなたを、「モチベーション」を軸に探ってゆきます。「あなたは誰か？」を決定するのは、名前でも所属でもありません。あなたらしい行為です。なにを恐れ喜びか、なにを求めどう行動するか。この振る舞いが、あなた自身なのです。なぜそう振る舞うのか？モチベートされるが故にです。モチベーションはあなたのマネージャーです。家庭、学校、職場で、あなた自身をマネジメントしている諸モチベーションについて、社会的動機論の立場から理解してほしいと思います。

〔講義内容〕

- 1：モチベーションの基礎；「モチベーションとは何か」を、社会心理学のなかでの位置づけ、メカニズム（機能と構造）より概説します。
- 2：モチベーションの種類；「生理的動機」「内発的動機」「社会的動機」の3カテゴリーを詳説します。
- 3：対人モチベーション；上述の「社会的動機」のなかより、対人行動に関わるモチベーションをとり上げます。「援助動機」や「攻撃動機」について、さまざまな角度から考えてゆきます。
- 4：ワーク・モチベーション；組織や職場でのモチベーションについて学びます。職務満足感なども含めて、ワーク・モチベーションの諸理論を紹介します。

〔講義のすすめ方〕

受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ないでしょう。でも、教室では活発な意見交換を期待します。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

〔教 材〕

教科書：使用しません。
 参考書：「こころのサイエンス」青柳・瀧本・杉山・矢澤 福村出版 1995円
 「トピックス・こころのサイエンス」青柳・瀧本・杉山・矢澤 福村出版 1995円
 「ヒューマン・モチベーションー動機づけの心理学」B. ワイナー 金子書房 4900円
 「動機づけの基礎と実際」加川元通 川島書店 4400円

「人間関係の心理学」

齊藤勇 誠信書房 2200円
 「現代社会心理学」末永、安藤 東京大学出版会 3000円
 「社会心理学キーワード」 山岸俊男 有斐閣1600円
 「産業・組織心理学入門」 岡村一成 福村出版2310円

〔成績評価の方法・基準〕

評価方法：試験を1回、学期末に実施します。ただし、2/3以上出席した学生のみ受験資格をあたえます。
 判定基準：試験の得点で、成績を評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

履修のポイント：社会心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人を見る眼」とが格段に進歩します。
 注意点：出席を毎回チェックします。単位を得るには2/3以上の出席が必要です。教科書を用いませので、教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。

〔科目内容の位置付け〕

家庭・地域社会・学校・会社という人間関係の大海に、私たちは生きています。社会心理学はこの海でのとても実用的な舟といえます。また、未来の組織人として必須の科目でもあります。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：特にありません。すでに「社会心理学 A」を履修されていれば、理解しやすいと思います。
 関連科目：半期の短い講義であるため、補完科目として「社会心理学A」の受講を薦めます。その他の関連科目について触れておきます。基礎科目として「心理学」の受講を薦めます。職場における実践的な対人関係を「産業心理学」で学べます。「経営組織論」では組織行動が起るシステム環境が理解されます。マスとしての既存社会は強烈な行動決定因です。社会が私たちをどう育み・歪めるか「社会学」で学んで下さい。

45	環境科学 A	2単位	細野英夫
群			
副題	自然環境のしくみ		

〔講義目的〕

ビッグバンにはじまった宇宙で地球が誕生したのが今から46億年前、その地球上に生物が誕生してから35億年、そして人類が誕生してから数百万年になる。一方、科学技術のめざましい進歩により人間の生活がかつてない豊かさを誇ると同時に環境破壊が起こってきたのはわずかこの100年間のことである。

地球の自浄作用に頼るには余りに大きな急激な変化である。大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済活動や生活様式を拡大してきたことが今日の環境問題を引き起こしたのは明らかなことである。

自然の多様な生態系と共存し、限りある地球の資源を次世代に引き継ぐことは現代に生を受けた我々の責務であろう。

この講義を通して環境問題に関する様々な分野の知識を習得するとともに、環境問題に対する意識と責任感を喚起する事を目的とする。

〔講義内容〕

- 生物界と生物圏
 - 生物界の形成
- 生物の集団
 - 生態学について
 - 生態学の成立
 - 植物群落の生態分析
- 生態系について
 - 生物のコミュニティ
 - 食物連鎖
 - 物質循環
 - エネルギーの流れ
- 環境破壊の現状
 - 環境問題のとらえ方
 - 地球規模の環境問題

〔講義のすすめ方〕

我々の住んでいるこの地球が誕生以来どのように進化してきたか、現在の生態系がどのような仕組みになっているのかを知ること、自然環境を理解することを先ず第一とする。次にそれが人間の活動によりどのように破壊されつつあるのかを学ぶ。身近な具体的な事例について、授業時間中に発表する時間をとりたいと思っている。

〔教材〕

教科書 「生物環境論」細野英夫、落合進
学文社 1,600円

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の1/3以上欠席したのものには単位を与えない。
定期テスト、レポートで評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

VTRを何本かみる。決ずレポートを提出してもらう。

提出するレポートについては授業中に指導するが、本を丸写ししたようなレポートには点を与えない。

最近、環境に関する書籍が多数出版されているが、本に書かれていることをそのまま鵜呑みにしないこと。ほかの本を参照したりして客観的に判断すること。

〔科目内容の位置付け〕

環境科学は非常に学際的な科学分野であり、科学全般に関連することは勿論社会科学や人文科学にも関連している。

この講義は経営学部・法学部・発達科学部の学生を対象としているもので理科学的な素養は特に必要としない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はないが、「環境科学B」も履修することが望ましい。

共

46	環境科学B	2単位	細野英夫
II群	地球環境問題		

〔講義目的〕

最近、地球の温暖化やオゾン層の破壊などいわゆる地球環境問題が注目を集めるようになってきた。それは人類の活動の結果生じた問題であり、日本を含めた先進国を中心とする経済活動の高度化による様々な影響が国内に止まらず国境を越えて地球規模に及んできたのである。

環境問題解決の本質は自然生態系を守り、回復させると同時に持続的に利用していくことにある。人類の生存基盤である自然資源を持続的に利用できる社会を築いていくことが我々に課せられた義務である。即ち、再生可能な社会の構築を生態系のしくみを基本として学ぶことを本講義の目的とする。

〔講義内容〕

地球環境問題
地球温暖化
オゾン層の破壊
酸性雨
熱帯林の減少
砂漠化
野生生物の種の減少
森林、生物多様性の保全
有害化学物質による汚染
放射能による汚染
環境開発サミット
再生可能な社会の構築

〔講義のすすめ方〕

地球環境問題の概要を知るとともに、それらに対して今どんな対策が講じられているかを学ぶ。

地球環境問題にはまだまだ未知の部分が多く、単に講義を聴くだけでなく、自分自身の問題として一緒に考えていく姿勢が欲しい。授業時間中に意見を発表する時間をとりたいと思っている。積極的な参加を希望している。

〔教材〕

教科書 「生物環境論」細野英夫、落合進
学文社 1,600円

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の1/3以上欠席したのものには単位を与えない。

テスト（定期試験）とレポート（提出時期は指定する）で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

VTRを何本かみる。決ずレポートを提出してもらう。

提出するレポートについては授業中に指導するが、本を丸写ししたようなレポートには点を与えない。

最近、環境に関する書籍が多数出版されているが、本に書かれていることをそのまま鵜呑みにしないこと。ほかの本を参照したりして客観的に判断すること。

〔科目内容の位置付け〕

環境科学は非常に学際的な科学分野であり、科学全般に関連することは勿論、社会科学や人文科学にも関連している。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

この講義は経営学部・法学部・発達科学部の学生を対象としているもので理科的な素養は特に必要としない。両学部とも自分の専門を通して環境問題を考えて欲しい。

前提科目はないが、「環境科学A」も履修することが望ましい。

47	数 学 A	4 単位	黒 澤 和 人
群			
副題	大学生のための基礎数学		

〔講義目的〕

専門の授業で道具として使われる数学や、大学生として共通にもっておいた方がよいと思われる数学的な基礎知識をオムニバス形式で取り上げ、解説し、演習し、意味を考えてもらう。

〔講義内容〕

取り上げる主なテーマは、以下の通りである。() 内はキーワード。

- 1) 確率論のための基礎数学 (公理)
- 2) 統計学のための基礎数学 (モデル)
- 3) ビジネス図表の活用 (ビジュアル化)
- 4) 計数管理の基礎 (最適化)
- 5) 社会調査法の基礎 (サンプル)
- 6) 資料解釈 (数的処理)
- 7) 論理数学 (記号)
- 8) ものの動向や関係を表現する (解析)
- 9) デジタルコンピュータの基礎数学 (誤差)
- 10) コンピュータグラフィックスの数理 (変換)
- 11) 情報の基礎数学 (伝達)
- 12) ゲームやパズルに潜む数理 (数楽)
- 13) 有限・離散の数学 (代数系)
- 14) 無限・連続の数学 (数の構造)

〔講義のすすめ方〕

各単元とも、講義と問題演習を中心にすすめてゆく。

- 1) 講義では、例題を多く用いて説明する。
- 2) 問題演習では、実際の数値例を使って、理解の手助けとする。
- 3) パソコンを利用することもある。数値実験をしたり、ビジュアル図形を表示して具体的に問題を捉えられるようにする。

〔教 材〕

教科書の代わりにプリント教材を配布する予定である。必要な参考図書はその都度指示する。

パソコンを利用する場合のプログラミング言語は、Visual Basicを予定している。

また、プリント資料の作成には、組版ソフトのLaTeXを利用する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、授業ごとの課題の処理状況、宿題として課されるレポートの処理状況等を点数化して、評価する。また、出席、授業ごとの課題提出、レポートの提出は、それぞれ、全回数の3分の2以上に達することが必要。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・遅刻・欠席は学習の能率に響くので要注意。
- ・ノートを必ず準備すること。罫線は入っていてもいなくてもよい。入っている場合は、できるだけ間隔の広いものを使うこと。
- ・レポート用紙にはA4の白い用紙を使うこと。レポートパッドとして市販されているB5やA4の罫線入りノート(上辺で切り離して使うもの)や、B5やA4のルーズリーフ、ノートをやぶったものなどは不可。ワープロで打ってメール添付で送ってもよい。

〔科目内容の位置付け〕

数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす。

社会科学系の学生にとって必要となる、表現の道具としての数学を、記号や言葉づかいとともに、分類整理して提示したい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし。高校時代に数学をどこまで履修したかには関係なく受けられる。

関連科目：教養科目では、論理学、統計学、数学B、物理、経済学など。専門科目では、数学を道具として利用する可能性のある各科目。

48	物理学 A	2単位	師 啓 二
副題	核エネルギーがキーワード		

〔講義目的〕

科学技術の発達はわれわれの生活を便利で豊かなものとしたが、一方では、それに伴って生じたエネルギーや環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みをある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学A」では、物質の成り立ち・仕組みを話題に取り上げ、核分裂・核融合エネルギー等について、ビデオ等を適宜使いつつ、分かりやすく解説する。それによって、目に見えない原子・分子の構造から広大な宇宙の構造まで統一した物理学の視点で眺めて見ることが出来る。

〔講義内容〕

ほぼ以下に示すテーマの順に講義を行うが、なるべく最新の話題を紹介したいので、変更もありえる。

- | | |
|------------------|----|
| 1. 物質の構成について | 2週 |
| 2. 核分裂エネルギー | 2週 |
| 3. チェルノブイリ事故について | 2週 |
| 4. 原子力発電所の問題 | 2週 |
| 5. 核融合エネルギーの平和利用 | 2週 |
| 6. 太陽 | 1週 |
| 7. 宇宙の誕生と起源 | 2週 |
| 8. 地球の誕生 | 1週 |

〔講義のすすめ方〕

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」を分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオを見ながら質問事項を記したレポートに答えてもらう。

〔教 材〕

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕

課 題 1回(学期末に提出すること)
判定基準 出席率67%以上で、レポート+課題の評価が60点(100点満点)以上であること。

〔履修のポイント・注意点〕

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。携帯電話・PHS等は電源を切っておくこと。本科目のためには予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

〔科目内容の位置付け〕

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、もの見方を学ぶ講義である。入門的・導入レベルの内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし

関連科目：「物理学B」

取り上げているテーマが違っているので、「物理学B」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学B」の講義も聞いていれば、物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですが、将来、例えば放射能汚染についての知識があったために命が助かるということも有り得るだろう。

49 科目	物 理 学 B	2 単 位	師 啓 二
副題	力とエネルギーに注目しよう		

〔講義目的〕

科学技術の発達はわれわれの生活を便利で豊かなものとしたが、一方では、それに伴って生じたエネルギーや環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みをある程度は理解することができる。「物理学A」および「物理学B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学B」では、物体間に働く力、惑星探査、熱エネルギー、エントロピーおよびナノテクノロジーについて、分かりやすく解説する。それにより、物理学的な視点で見た新しい考え方・物の見方を身につけることができれば、現象の複雑さに対して、自然界を支配する法則の単純さや美しさに驚くことであろう。

〔講義内容〕

ほぼ以下に示すテーマの順に講義を行うが、最新の話題も紹介したいので、変更もありえる。

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 力について | 1 週 |
| 2. 天体の運動 | 2 週 |
| 3. ケプラーの法則・火星 | 1 週 |
| 4. ボイジャーの惑星探査・海王星 | 1 週 |
| 5. 惑星系の成り立ち | 1 週 |
| 6. スペース・シャトルの宇宙実験 | 2 週 |
| 7. 宇宙望遠鏡 | 1 週 |
| 8. 熱エネルギー | 2 週 |
| 9. エントロピー・散逸構造 | 1 週 |
| 10. 複雑系・カオス | 1 週 |
| 11. ナノテクノロジー | 1 週 |
| 12. 物理実験シミュレーション | 1 週 |

〔講義のすすめ方〕

身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが

起こるのか」を分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオを見ながら質問事項を記したレポートに答えてもらう。受講者が少ない場合は簡単な学生実験を行いたいと考えている。

〔教 材〕

毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕

課 題 1 回 (学期末に提出すること)
判定基準 出席率67%以上で、レポート+課題の評価が60点 (100点満点) 以上であること。

〔履修のポイント・注意点〕

毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。携帯電話・PHS等は電源を切っておくこと。本科目のためには予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

〔科目内容の位置付け〕

「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方を学ぶ講義である。入門的・導入レベルの内容である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし

関連科目：「物理学A」

取り上げているテーマが違っているので、「物理学A」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学A」の講義も聞いていれば、物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、「自然を見る目」は確実に変わることだろう。一見複雑な現象も単純な原理から理解できるということが分かればよい。

50	生物学 A	2単位	上田高嘉
副題	環境と生物		

〔講義目的〕

科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

〔講義内容〕

- ・生命の誕生と生物の進化
- ・動物の発生
- ・動物の行動
- ・生物体の調節
- ・環境保全

〔講義のすすめ方〕

講義が中心であるが、身近な問題、例えば環境ホルモンを取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

〔教材〕

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。参考書はその都度紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期テスト、レポート、出席状況、聴講態度等により総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕

高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

〔科目内容の位置付け〕

生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的な知識、考え方を身につけていただく程度である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

51	生 物 学 B	2単位	上 田 高 嘉
詳			
副題	基礎の生物科学		

〔講義目的〕

科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

〔講義内容〕

- ・ウイルスについて
- ・細胞の構造と機能
- ・遺伝子と染色体
- ・性について
- ・生命工学

〔講義のすすめ方〕

講義が中心であるが、身近な問題、例えばクローン等生命操作を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

〔教 材〕

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。参考書はその都度紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期テスト、レポート、出席状況、聴講態度等により総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕

高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

〔科目内容の位置付け〕

生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

2004年度以降入学生

児(児童教育専攻科目)。Ⅲ群:基本科目、Ⅳ群:専門科目、Ⅴ群:教育学関係科目 目次

科目区分		科目No.	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考	
Ⅲ群-A	基本科目(必修)	1	フレッシュマンセミナー	荒井 洌 伊東孝郎 岩城淳子 奥澤信行 川瀬善美 高橋美保 平田乃美 益田勇一	131	1	・卒業必修科目	
Ⅲ群-B	基本科目(選択必修)	2	教育総論	馬場将光	132	1・2・3・4	集中講義	
		3	教育原理	石堂常世	133	1・2・3・4		
		—	教育課程論	—	—	3・4		
		4	教育制度論	馬場将光	134	1・2・3・4		
		5	比較教育論	馬場将光	135	2・3・4		
		6	教育哲学	石堂常世	136	2・3・4		
		7	教育心理学概論	平田乃美	137	1・2・3・4		
		8	コンピュータ実習	渋川美紀	138	1・2・3・4		
Ⅳ群	専門科目(保育内容)	—	保育内容研究(健康)	—	—	3・4		
		9	保育内容研究(人間関係)	中山昌樹	139	2・3・4		
		—	保育内容研究(環境)	—	—	3・4		
		—	保育内容研究(言葉)	—	—	3・4		
		—	保育内容研究(音楽表現)	—	—	3・4		
		—	保育内容研究(美術表現)	—	—	3・4		
		10	保育内容研究(身体表現)	都築 淳	140	2・3・4		
		—	保育内容演習(健康)	—	—	3・4		
		11	保育内容演習(人間関係)	中山昌樹	141	2・3・4		
		—	保育内容演習(環境)	—	—	3・4		
		—	保育内容演習(言葉)	—	—	3・4		
		—	保育内容演習(音楽表現)	—	—	3・4		
	—	保育内容演習(美術表現)	—	—	3・4			
	12	保育内容演習(身体表現)	都築 淳	142	2・3・4			
		技能関連	13	ソルフェージュ	荒井弘高	143		1・2・3・4
			14	歌唱表現	荒井弘高	144		2・3・4
15			音楽実技Ⅰ(基礎)	(音楽担当教員) 伊藤裕美 富田英也・伊藤裕美 今田政成・福田由紀子 益子か出男・松本由美子	145	1・2・3・4		
16			音楽実技Ⅱ(こどもの音楽)	(音楽担当教員) 富田英也・今田政成	146	2・3・4		

児

科目区分	科目No.	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考		
IV群 専攻主科目	技能関連	—	音楽実技ⅢA(応用)	—	—	3・4		
		—	音楽実技ⅢB(応用)	—	—	4		
		17	リトミック入門	吉田裕昭	147	2・3・4		
		—	リトミック応用	—	—	3・4		
		18	造形	粕谷圭司	148	1・2・3・4		
		19	絵画表現法	小久保 裕	149	2・3・4		
		20	造形教材研究	粕谷圭司	150	1・2・3・4		
		21	基礎デザイン	野田俊太郎	151	1・2・3・4		
		22	スポーツと健康	齋藤一人	152	1・2・3・4		
		23	子どもの体育	内山須美子	153	2・3・4		
	専攻主科目	福祉	24	社会福祉	森田明美	154	1・2・3・4	
			25	社会福祉B	川瀬善美	155	1・2・3・4	
			26	児童福祉	落合崇志	156	1・2・3・4	
			27	児童福祉B	山中定雄	157	1・2・3・4	
			28	社会福祉援助技術論Ⅰ	大島 實	158	1・2・3・4	
			29	社会福祉援助技術論Ⅱ	大島 實	159	2・3・4	
			30	社会福祉援助技術演習	大島 實	160	2・3・4	
			—	社会福祉援助技術演習Ⅰ	—	—	1・2・③・4	◆社.平成17年度休講
			—	社会福祉援助技術演習Ⅱ	—	—	2・3・④	◆社.平成17年度休講
			31	保育原理Ⅰ	荒井 洵	161	1・2・3・4	
			32	保育原理Ⅱ	福崎淳子	162	2・3・4	
			33	養護原理	山中定雄	163	2・3・4	
			34	養護内容	中山万里子	164	2・3・4	
			35	乳児保育	高橋美保	165	2・3・4	
			—	障害児保育	—	—	3・4	
			—	家庭支援論	—	—	3・4	
			—	医学一般	—	—	3・4	
			36	小児保健	川村 肇	166	1・2・3・4	
			37	小児保健実習	早田一子	167	2・3・4	
			—	小児栄養演習	—	—	3・4	
			—	比較保育論	—	—	3・4	
			—	社会保障論	—	—	3・4	
			38	公的扶助論	朝比奈朋子	168	2・3・4	
			—	介護概論	—	—	3・4	
			39	障害者福祉論	根岸洋人	169	2・3・4	
			40	老人福祉	三田寺裕治	170	2・3・4	
			41	地域福祉	落合崇志	171	2・3・4	
			42	福祉施設経営論	川瀬善美	172	1・2・3・4	
			—	ケアマネジメント論	—	—	3・4	
			43	福祉デザイン	野田俊太郎	173	1・2・3・4	
			44	福祉計画論	加藤悦雄	174	2・3・4	

◆該当資格希望者のみ履修可能
社…社会福祉士受験資格



科目区分	科目No.	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考			
IV群	専門科目	45	発達心理学	神戸文朗	175	2・3・4	オムニバス方式		
		46	青年心理学	伊東孝郎	176	1・2・3・4			
		47	環境心理学	平田乃美	177	1・2・3・4			
		48	認知心理学	神戸文朗	178	1・2・3・4			
		49	臨床心理学	伊東孝郎	179	2・3・4			
		50	精神保健学	伊崎純子	180	1・2・3・4			
		51	親子関係の心理	伊崎純子	181	1・2・3・4			
		52	心理学基礎実験	伊崎純子	182	1・2・3・4			
		53	心理測定法	伊崎純子	183	1・2・3・4			
		54	心理学研究法	(心理学担当教員) 伊崎純子・伊東孝郎 神戸文朗・中谷陽子 平田乃美	184	1・2・3・4			
		55	心理学実験調査法	平田乃美	185	1・2・3・4			
		—	教育の測定と評価	—	—	3・4			
		（児童教育専攻） 科目	56	国語概説	生野金三	186		2・3・4	
			57	社会科概説	奥澤信行	187		2・3・4	
	58		算数概説	落合昭二	188	2・3・4			
	59		理科概説	細野英夫	189	2・3・4			
	60		生活科概説	堀江潤一	190	2・3・4			
	61		家庭科概説	櫛田眞澄	191	2・3・4			
	—		国語科教育法	—	—	3・4			
	—		社会科教育法	—	—	3・4			
	—		算数科教育法	—	—	3・4			
—	理科教育法		—	—	3・4				
—	生活科教育法		—	—	3・4				
—	音楽科教育法		—	—	3・4				
—	図画工作科教育法		—	—	3・4				
—	家庭科教育法		—	—	3・4				
—	体育科教育法	—	—	3・4					
（関連科目）	62	美術史	益田勇一	192	1・2・3・4	} 集中講義 変更・集中講義⇒半期科目で実施 ◆レ 平成17年度休講・集中講義			
	63	造形文化論	飯田昌平	193	1・2・3・4				
	—	英語であそぼう	—	—	3・4				
	64	児童文学	横田順子	194	1・2・3・4				
	65	おもちゃ論	中谷陽子	195	2・3・4				
	66	野外運動A	齋藤一人	196	1・2・3・4				
	67	野外運動B	齋藤一人	197	1・2・3・4				
	68	救急法	福島 稔	198	1・2・3・4				
	69	レクリエーション実技	藤井和彦	199	2・3・4				
	休	レクリエーション実習	—	—	2・3・4				
	—	課題研究A	—	—	3・4				
	—	課題研究B	—	—	3・4				
	—	卒業研究	—	—	4				

◆該当資格希望者のみ履修可能
レ…レクリエーション・インストラクター

科目区分	科目No.	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考
V群 教育学 関係 科目	70	教師論	五十嵐敦子	200	2・3・4	
	71	幼児教育論	荒井 洌	201	2・3・4	
	72	道德教育の研究	斉藤浩一	202	2・3・4	◆小幼
	73	特別活動の研究	生野金三	203	2・3・4	◆小
	74	教育方法論Ⅰ	五十嵐敦子	204	2・3・4	
	75	教育方法論Ⅱ	五十嵐敦子	205	2・3・4	
	76	生徒指導論	斉藤浩一	206	2・3・4	◆小幼
	77	教育相談	伊崎純子	207	2・3・4	◆小幼心
	78	総合演習	五十嵐敦子	208	2・3・4	◆小幼保
	79	日本国憲法	生野金三 渡邊 亙	209 210	1・2・3・4	

◆該当資格希望者のみ履修可能
 小…小学校教諭免許
 幼…幼稚園教諭免許
 保…保育士
 社…社会福祉士受験資格

2004年度以降入学生

児(児童教育専攻科目)、実習科目、小学校教職課程科目 目次

(注)…卒業単位に含まれない科目

科目区分	科目No.	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考
実 習 科 目 (注)	—	教育実習の事前事後指導(幼稚園)	—	—	3～4	◆幼
	—	教育実習の事前事後指導(小学校)	—	—	3～4	◆小
	—	教育実習(幼稚園)	—	—	3～4	◆幼
	—	教育実習(小学校)	—	—	4	◆小
	80	保育実習の事前事後指導	(施設)川瀬善美	211	2～4	◆保
	81	保育実習Ⅰ	(施設)川瀬善美	212	2～4	◆保
	—	保育実習Ⅱ	—	—	3～4	◆保
	—	保育実習Ⅲ	—	—	3～4	◆保
	—	社会福祉援助技術現場実習指導	—	—	3～4	◆社
—	社会福祉援助技術現場実習	—	—	③～4	◆社	
小 学 校 教 職 課 程 科 目 (注)	—	初等国語	—	—	3・4	◆小
	—	初等社会科	—	—	3・4	
	—	初等算数	—	—	3・4	
	—	初等理科	—	—	3・4	
	—	初等生活科	—	—	3・4	
	—	初等家庭科	—	—	3・4	
	—	初等教材研究A(言語・文化系)	—	—	4	
	—	初等教材研究B(生活・人間系)	—	—	4	
	—	初等教材研究C(表現・実技系)	—	—	4	

◆該当資格希望者のみ履修可能
 小…小学校教諭免許
 幼…幼稚園教諭免許
 保…保育士
 社…社会福祉士受験資格

児

(参考)

平成17年度

他学部・他専攻履修科目

- ①平成17年度の該当科目や履修条件および手続き方法は、年度始めの掲示やガイダンス等で確認すること。
- ②履修年次・単位・授業内容等は、開講先の学部・学科（専攻）等の履修要綱を参照のこと。
- ③履修登録後は、開講先の学部・学科（専攻）の掲示板を確認すること。

1 川村	フレッシュマンセミナー	1単位	荒井 冽(Aクラス) 川瀬善美(Eクラス)	伊東孝郎(Bクラス) 高橋美保(Fクラス)	岩城淳子(Cクラス) 平田乃美(Gクラス)	奥澤信行(Dクラス) 益田勇一(Hクラス)
---------	-------------	-----	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

〔講義目的〕

苦しかった受験勉強から開放されて新たな学生生活が始まる。高校までは生徒と呼ばれてきたが、これからは学生である。生徒と学生の違いはどこにあるのだろうか。生徒の徒の字は「ひたすら、無駄に」という意味である。すなわち高校までは「ひたすら生きている」無知な生徒が「先に生まれた」先生に教を請う場であった。しかし大学は「自ら学んで生きる」学生が、主体的に学問に取り組みながら自分の行き方を真剣に模索する場である。試行錯誤を繰り返して自分の将来に対する確固たる足場を構築してもらいたい。本セミナーは新入生にとって、これから4年間の大学生活を有意義に過ごすための道標となるであろう。勉学を中心に据えて将来を展望するためのノウハウを教授あるいは議論するとともに、心豊かな人間関係のあり方についても言及する。

〔講義内容〕

本セミナーでは教員と学生、また学生同士が緊密な交流を通じて、学習から研究へと学び方を深化させるための基本的な態度を修得することを主眼に置いている。具体的には授業に対する姿勢、図書や情報の検索、レポートの作成、プレゼンテーションの方法などについては、共通の指導項目としてのどの担当者も取り上げる予定である。また8人の担当者は大学教員としてそれぞれ専門分野の研究者でもあるので、各自の専門性を生かしたテーマや分析方法によって、本セミナーの目的達成を目指している。さらに児童教育専攻の学生諸君の大半が、小学校・幼稚園の教諭や保育士の資格取得、さらには採用試験合格という具体的な将来像を描いていることに鑑み、進路に関する話題や情報を積極的に取り上げ、ディスカッションを積み上げることで、自己実現を図るための布石としたい。

〔講義のすすめ方〕

次の内容について講義、演習、見学、グループ学習、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより、各担当者がセミナーを進める。

* 自己紹介

少なくとも2分間は自分のことを語る話題を準備しておくことが望ましい。

* 収集課題

児童教育に関する時事問題に関して新聞の切り抜きやネット情報のプリントアウトなどを心掛ける。子ども・学校・不登

校・虐待・いじめ・音楽教育・絵本などのキーワードに注意を払うとよい。

* 学生生活

授業への取り組み・レポート作成・アルバイト・交友関係・社会との関わり・進路設計などについて議論を深める。

* 施設見学

図書館・情報処理センター・おもちゃライブラリー・幼稚園の見学を行う。

* グループワーク

グループごとにテーマを設定し、プレゼンテーションを行う。

〔教 材〕

特に指定する教材はないが、必要な場合は担当者が適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視する。規定の回数以上欠席した学生は評価の対象とならない。本セミナーは必修科目であるため、単位未修得の場合、卒業ができないことを念頭に置いてもらいたい。また授業態度・発表への取り組み・提出物の内容などにより評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

このセミナーへどのような気持ちで臨むかが、今後の学生生活を大きく左右するであろう。積極的に発言し、教員や学生とコミュニケーションを密にすることが、将来必ずプラスに作用するはずである。また20数名の学生との対話の中から、人間関係を円滑にする術を体得してもらいたい。自己中心的な若者が多いと言われる時代にあって、他人との関係において生じる微妙な空気を読めるようになることは、人間としての不可欠な要素なのである。

〔科目内容の位置付け〕

より充実した学生生活や専門的な研究活動への導入として基本となる科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

1年次前期に履修する必修科目で前提科目はない。このセミナーで学んだ内容は、今後履修する科目すべてに影響を与えるであろう。

2	教 育 総 論	2 単 位	馬 場 将 光
---	---------	-------	---------

〔講義目的〕

本講義は2つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本における教育学全般の基礎的な知識、考え方を身につけることであり、2つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 教育の意義
2. 学校教育の目的・目標
3. 教授の理論
4. 学習理論
5. 教育課程
6. 学習指導要領と教科書
7. 生徒指導・管理
8. 道徳教育、人権・同和教育
9. 学校と教職員の管理
10. 学校・学級の経営
11. 生涯教育、社会教育
12. 現代の教育と教育改革

〔講義のすすめ方〕

講義はテキストににそって、毎時間テキストの1～2章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教 材〕

以下のテキストを使用する。

- テキスト：時事通信社 内外教育研究会編
「教職教養の重点研究」
(時事通信社) ¥1800円＋税
- 参 考 書：真野宮雄・増田実共編
「現代教育概論」
(学術図書出版社) ¥2200円＋税

〔成績評価の方法・基準〕

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原

則として60%できていることとする。

- ・次の課題の中から10課題を選び、各課題について1000字前後の解説を提出したものは試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

課題：教職員の種類、教職員の職務と資格、教員の選考と採用、分限処分、懲戒処分、服務、職務命令、教職の専門性、研修、教員給与、勤務時間・休日・休暇、時間外勤務、労働基本権、人事委員会、不利益処分に関する不服申し立て、公務災害。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間的に正確に始まる。正当な理由のない遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は結構楽しくて面白いよ！

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提・関連科目：教育課程論、比較教育論、教育制度論

3 III群	教 育 原 理	2単位	石 堂 常 世
-----------	---------	-----	---------

〔講義目的〕

- 1、本講義では、教育の基本的諸原理について講義する。教育に関する総合的な理解をすると共に、とくに幼児教育、初等教育の観点から、子どもの成長・発達に関わる理論的・制度的・歴史的・社会的・国際比較論的視点を養う。
- 2、教育の意義と人間の健やかな成長を考えることのできる思考・教養・実践力を養う。
- 3、子どもをめぐる環境の変化を多面的に考察し、現代社会のあり方に倫理的な考察ができ、将来において、広義の意味で児童福祉・青少年健全育成に貢献できる価値観を育てる。

〔講義内容〕

- 第1回 本授業の教務上のポイントの提示、序論 教育学と教育原理の学問的關係、教育の理念と現実
- 第2回 教育の本質と教育の現実
導入：自己体験としての教育を振り返る⇒客観的な教育的視点へ
- 第3回 教育の原理の学際性
哲学的・思想的・歴史的（法制史）、社会学的・心理学的基礎
- 第4回 教育の歴史に教育の原理を探るⅠ
義務教育前史
- 第5回 教育の歴史に教育の原理を探るⅡ
義務教育制度確立以降
- 第6回 教育の思想に教育の原理を探るⅠ
西洋の教育思想
- 第7回 教育の思想に教育の原理を探るⅡ
日本の教育思想
- 第8回 日本の教育の法制的基礎
- 第9回 教育制度の国際比較
- 第10回 教育課程・教育方法の意味と変遷
- 第11回 教育課程・教育方法の刷新
- 第12回 21世紀における人間的成長の障害
- 第13回 子どもと子どもをとりまく環境変化の問題
- 第14回 今日の学校問題・保育問題と教育の将来
健全に育つという困難さとその意義の重要性
- 第15回 学期末試験（教場） 論文形式

〔講義のすすめ方〕

- ・分かりやすい説明の講義形式、プリント（講義レジュメ）の配布
- ・身近な教育問題から教育学の原理解へ
- ・随時レポートを提出させる

〔教 材〕

- ・安彦・石堂編『現代教育の原理と方法』
勁草書房、2004
- ・その他の必修内容は、プリントを配布する。
- ・読むべき参考文献は、授業中に指示する。
- ・図書館などを活用すること。

〔成績評価の方法・基準〕

総合点

- ①授業中にテーマを出すレポートの評価（後期2回）（20%）
- ②学期末試験（50%）
- ③出席状況（半分以上欠席の場合は自動的に不可）（30%）

〔科目内容の位置付け〕

すべての教職科目の基礎

4 III 2F	教育制度論	2単位	馬場将光
-------------	-------	-----	------

〔講義目的〕

本講義は2つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本における教育学、教育制度論の基礎的な知識、考え方を身につけることであり、2つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 教育と教育制度
2. 教育制度の基本原則
3. 教育体系の基本問題
4. 乳幼児期の保育制度
5. 児童期の教育制度
6. 青年期の教育制度
7. 高等教育
8. 障害児教育制度
9. 私学制度
10. 生涯学習支援制度
11. 教育行財政制度
12. 学校経営組織

〔講義のすすめ方〕

講義はテキストににそって、毎時間1章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教材〕

以下のテキストを使用する。

教育制度研究会編

「要説 教育制度（新訂版）」

（学術図書出版）¥2400＋税

〔成績評価の方法・基準〕

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60%できていることとする。
- ・次の課題の中から10課題を選び、各課題について1000字前後の解説を提出したものに

は、試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

課題：職員会議、校長のリーダーシップ、職務命令、分掌組織、主任、教育課程の編成、補助教材、休日、生徒指導、体罰、学校事故、服務、教職員の時間外勤務、研修、初任者研修、学校施設、学校管理規則、学校評議員、指導主事、教科書、学校事務、職員団体、学級経営。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間通り正確に始まる。正当な理由がない限り遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話の調子はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は意外に面白く楽しいよ!!

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：教育総論、教育原理

関連科目：教育課程論、比較教育論

5 III期	比較教育論	2単位	馬場将光
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

本講義は3つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本の教育の特徴を把握することである。人は自分を見失った時にはあるいは自分がどういう人間であるかを知るためには、他人と自分とを比較せよ、とよくいわれる。日本の教育のかたちを知るためには、日本の教育と他国の教育とを比較することが重要である。この比較法をつかって、日本の教育のかたちを考察する。2つは現代の国際化時代においては他国の教育のかたちを理解し、他国の人の考え方を教えることは相手を知るうえで大切である。一口でいえば外国教育の理解である。3つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 比較教育の目的・方法・課題
2. 半日制の学校（ドイツ）
3. 子供中心の学校（フランス）
4. 新たな発展を求める学校（エクアドル）
5. 明るくて楽しい学校（ブラジル）
6. 変革のうねりのなかの学校（ロシア）
7. 揺れる社会主義大国の学校（中国）
8. 課外活動を楽しむ学校（イギリス）
9. 多民族・多文化尊重の学校（オーストラリア）
10. 多様ななかの平等を模索する学校（アメリカ）
11. アジアの優等生の学校（シンガポール）
12. 心の教育を重んじる国の学校（タイ）
13. 木陰の学校（インド）
14. 先生様の国の学校（韓国）

〔講義のすすめ方〕

講義はテキストににそって、毎時間1章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教材〕

以下のテキストを使用する。

二宮 皓編「世界の学校」

（福村出版）¥2800＋税

〔成績評価の方法・基準〕

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60%できていることとする。
- ・次の課題の中から課題をひとつ選びレポートを提出する。レポートを提出したものは試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

レポートの課題は次の通り。

「最低5ヶ国についてある問題について比較し、そこにはどのような共通点と差異点があるかを指摘し、その理由を考察せよ。」「ある問題」とは、例えば学校制度、教育課程・教育内容、教育方法、課外活動、宗教教育、学校生活、進級試験、大学入試、教育改革、就学前教育、親と学校との関係、教員養成、私立学校と公立学校、その他自分が関心のある問題をいう。1口でいえばなんの問題でもよい。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間通り正確に始まる。正当な理由がない限り遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話の調子はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は意外に面白く楽しいよ！！

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：教育総論、教育原理、教育制度論、教育課程論

6 川群	教 育 哲 学	2単位	石 堂 常 世
---------	---------	-----	---------

〔講義目的〕

- 1、本講義では、人間形成の哲学を講義する。その際、「子どもが大人になる」とはどのような意味かという問題意識から展開していく。
- 2、本講義では、可能な限り西洋ならびに日本の古典的名著を援用し、それらの人間観にみられる教育的価値観の多様性や対峙性を考察させ、人間の教育について哲学的に種々の見方があるということを理解させる。
- 3、本講義を通して、自己体験型の教育観やジャーナリカルな教育論の枠から脱皮していきけるように、また人間の塾成という問いを生涯にわたって持ち続けることのできる教育力を養いたい。

〔講義内容〕

- 第1回 本授業の教務上のポイントの提示、序論 教育学からみた教育哲学の位置
- 第2回 導入：教育哲学の手法と基底
- 第3回 導入：教育についての「哲学的問い」
- 第4回 教育の意味の多義性と対峙性
- 第5回 語源からみる教育の意味包摂
- 第6回 「徳」という人間形成の熟成の意味
- 第7回 キリスト教の人間形成の深奥さ
- 第8回 デカルトからカントにみる自己意識と主体
- 第9回 ルソーと「自然」概念
- 第10回 新カント派の人間像と教育論
- 第11回 教育をみる巨視的視点：デュルケム
- 第12回 アメリのプラグマチズム教育観にみる今日性
- 第13回 新教育運動のなかの児童観と教育観
- 第14回 ポストモダン思想の教育学的新味と問題点
- 第15回 明日に生きる世代が抱える教育的課題

〔講義のすすめ方〕

- ①講義内容は安易ではないが、分かりやすい説明の講義形式、
- ②プリント（講義レジュメ）の配布は随時
- ③古典研究を基礎とした教育原理の理解から、現代の教育問題の考察へ
- ④随時レポートを提出させる。

〔教 材〕

- 1、ルブール著・石堂訳『教育的価値』法政大学出版局、2005
- 2、山崎・石堂監修『教育哲学へのいざない』学術出版、2005
(1、2とも、前期末～夏期に詳細を掲示する)
- 3、その他の文献は、プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

総合点

- ①授業中にテーマを出すレポートの評価（後期2回）(20%)
- ②学期末試験（50%）
- ③出席状況（半分以上欠席の場合は自動的に不可）(30%)

〔科目内容の位置付け〕

- ①西洋史の教養があると望ましい。
- ②教職科目の中では、教育原理を履修していることが理想的である。

7 III	教育心理学概論	2単位	平田乃美
----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

- 1) 子どもの発達や行動、環境との関わりなどに関する心理学理論の基礎を学ぶ
- 2) 心理学の理論や実験を通して、教育効果を高める要因について理解を深める
- 3) 1)、2)の知見の教育実践での活用について考える

〔講義内容〕

教育心理学には、教育の効果を高めるために役立つ心理学的知見や技術の教育場面への適用という側面と、教育的営みの中で培われる総合的な人間研究という側面があります。本講義では学校現場における保育・教育の実践において、子どもの行動を理解するための手掛りとなるであろう教育心理学の基礎知識を紹介します。

〔講義のすすめ方〕

1. 研究史：教育心理学
2. 教育心理学の研究手法
3. 教育における測定と評価(1)
—統計データを読む—
4. 教育における測定と評価(2)
—データの数値化—
5. 待つ教育と促す教育：遺伝と素質
6. 個人差の理解(1)知的能力・認知の発達
7. 個人差の理解(2)不適応・障害児の理解
8. 発達理論と教育環境(1)生涯発達の観点
9. 発達理論と教育環境(2)親子関係と愛着
10. 学習の理論(1)
11. 学習の理論(2)
12. 教育場面における個人と集団
13. 学習における動機づけ(1)
—内発的・外発的動機づけ—
14. 学習における動機づけ(2)
—子どものやる気を育てる—
15. まとめ

〔教材〕

授業で紹介されたテーマについて、更に関心がある場合は、毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の得点による相対評価とします。

〔履修のポイント・注意点〕

講義の区切りで実施する小テストの受験率が60%以下の場合は、評価対象となりません。

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「基礎科目」（心理学概論）に区分される科目です。資格取得を希望する場合は、履修要項等を熟読して計画的な履修を心掛けてください。

8 III群	コンピュータ実習	2単位	渋川美紀
-----------	----------	-----	------

〔講義目的〕

マルチメディア・パソコンやインターネットの発達により音と映像が気軽に加工できるようになり、コンピュータは情報をつかんで仕事に活かすだけでなく、個人の趣味にもなくてはならないものになりました。ただ機能を使いこなすだけでなく、自分にあったものをつくり出すということも必要な作業の1つであります。

そこで本講義では日本語ワープロ (Microsoft Word)、電子メール (E-mail)、スプレッド・シート (Microsoft Excel) などのソフトウェアによる実習を行うことにより、まず基本的な情報処理や一般常識を学び、ひいては情報をたくみに処理し、自分にあったシステムを構築することを考えていきたいと思えます。すぐに役に立つ知識はもちろん、世の中の変化に対応できる普遍的知識も身につけて下さい。

〔講義内容〕

1. パソコンの基本操作
2. インターネットと電子メール
3. Wordの実習
 - ・文書作成の基本操作
 - ・文書の装飾
 - ・図形、表の作成
 - ・応用
4. Excelの実習
 - ・表計算
 - ・グラフの作成・編集
 - ・データベース機能について
5. PowerPointの実習
6. ペイントの実習

〔講義のすすめ方〕

テキスト・プリント・その他を使用して実習を行います。例題を解いたのち、課題を作成するという形式ですすめていきます。

〔教 材〕

教科書および参考書は第1回の講義で指定します。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況・実習課題・小テストによって判断します。

〔履修のポイント・注意点〕

30分以上遅刻をしないようにしましょう (欠席扱いにします)。また、遅刻3回で欠席1回とします。実習の授業ですので、欠席もしないようにしましょう。

〔科目内容の位置付け〕

レポートの作成・データの分析には必ず必要となるので、多くの科目の基準となる科目です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はありません。コンピュータについての知識がなくても結構です。関連科目も特にありませんが、パソコンが文房具化している現在においてはほとんどの科目に関係しているとも言えます。

9 IV群	保育内容研究 (人間関係)	2単位	中山昌樹
----------	------------------	-----	------

〔講義目的〕

この講義では、「遊びを核にした保育」というものを理解し、幼児期の子どもにとって、今、必要とされている生活はいかなるものなのかを探ろうと思う。言うまでもないことだが、『遊び』は、幼児期の子どもの暮らしを豊かにするものであると同時に、この時期の子どもを大きく成長させる活動でもある。学びという点からすると、『遊び』は、幼児期の子どもの学習のスタイルであると言える。放任保育でもなく、強制的なつめ込み保育でもない、幼児期の子どもが自分から学べるような保育を考えると、『遊び』は必要不可欠な活動となる。

〔講義内容〕

まず、ある幼稚園のビデオを使い、3歳・4歳・5歳児の育ちゆく姿を見る。このことを通して、「遊びを核にした保育」を具体的にイメージしたい。

その後、『遊び』そのものに焦点をあて、なに故に『遊び』が幼児期の子どもの学習のスタイルなのかを考える。そこでは、「子どもは遊びたいから遊ぶ。そして、その結果として、子どもは保育者の期待する様々なことから、保育者に言われてではなく自分から身に付ける。」ということを理解することになるだろう。

その上で、この講義のテーマである子どもの人間関係能力の育ちを考える。子どもの人間関係能力は、上で述べた『遊び』によってもたらされるところが大きい。さらに、保育者が遊び以外の場面で“きっかけ”作りをすることも必要となると思われるので、「グループ活動」や「当番活動」などについてもふれたい。

〔講義のすすめ方〕

ひとつには、なるべく保育の具体的な場面を教材としたいので、ビデオや保育現場で実際に使われた手紙類を使って講義をすすめる。

さらに、一方的に説明を聞くことに終始するのではなく、なるべく対話的な講義になるように願うことから、ビデオを見た後に感想・質問を書いてもらい、それに応えることで次の講義をすすめるようなやり方を心がけたい。

〔教材〕

具体的な保育場面を記録したビデオ、保育現場で実際に使われた手紙類、その他プリントした資料を、その都度用意する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期テストにて行う。さらに、評価のボーダーにおいては、出欠状況などの受講態度も加味される。

〔履修のポイント・注意点〕

既存の幼稚園・保育園のイメージを一度捨て、子どもや『遊び』について改めて考え直してみよう。

〔科目内容の位置付け〕

「人間関係」は、単なる領域の1つであるということ以上に、「遊びを核にした保育」の中心に位置付けられるテーマであると考えられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

なるべく、後期の保育内容演習の前提となることを意図している。

10 Ⅳ群	保育内容研究 (身体表現)	2単位	都築 淳
----------	------------------	-----	------

〔講義目的〕

子どもたちの活動意欲を引き出しながら、子どもたちに多くの喜びと楽しさを提供していけるような身体表現活動の具体的な展開・発展方法について学ぶことを目的とする。

また、現場で役立つ実践力の基礎を培うだけでなく、活力ある心豊かな子どもたちを育てるために保育者としてあるべき姿への気づきを大切にしつつ意識を深めていくことも重要な目的である。

〔講義内容〕

身体表現活動の教育的価値への理解を深めることはもちろんのこと、保育者を志す学生自身が明るく快活なる表現力や動き楽しむ力を身につけながら、人と人とがふれ合いつつ心つながることの喜び、大切さを体感、認識するために、様々な表現活動を実践していく。また、指導上の留意点や保育者として配慮すべき点、等についても学習していく。

具体的には、

- ①座ったままでおこなえるコミュニケーションダンスや各種エクササイズの実践
- ②手あそびの緩急強弱あふれる表現法、並びに手あそびから運動あそびへの展開の検討
- ③表現力を高めるための情緒性豊かな手話ソングの習得
- ④パネルシアター、エプロンシアター等、視聴覚教材を活用した導入法の実践について
- ⑤活動意欲を掻き立てる演出方法や言葉掛け等、援助の実践と視点について

〔講義のすすめ方〕

講義と実技を程良く組み合わせ、できる限り実際の場面を想定しながら実践に役立つ力を身につけていけるよう展開していく。

〔教 材〕

『セトちゃんのであそびらんど スイッチ☆オーン!』瀬戸口清文著 (株)メイト・1,000円税込)

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況及び授業・課題に取り組む姿勢を最重視する(80%)。また、期末レポートも参考にして(20%)総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

子どもたちの育ちに影響を与える重要な役割に就くことへの責任を十分に認識した上で、学生として節度ある明るい態度で意欲的に授業に臨むこと。

遅刻は、止むを得ない場合を除き原則として認めない。

〔科目内容の位置付け〕

保育現場で大いに役立つ知識・技術等、実践力を身につけるための内容としている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

保育内容演習(身体表現)と併せて履修することが望ましい。

11	保育内容演習 (人間関係)	1単位	中山昌樹
----	------------------	-----	------

〔講義目的〕

この演習では、前期の保育内容研究をふまえ、「遊びを中心にした保育」を実践するための具体的・技術的側面を重視した内容を目指したい。

〔講義内容〕

テキストやビデオを使い演習をすすめる。具体的には、以下のようなポイントにより、そこでの環境構成と保育者の援助についてを考える。

- ・「制作（作る）コーナー」について
- ・「ごっこ遊び（ままごと）コーナー」について
- ・保育室の「広場」について
- ・“挑戦したくなる”ような場について
- ・生きものと一緒の暮し
- ・植物と一緒に暮し

全て「人間関係」にとって重要な場面である。

〔講義のすすめ方〕

なるべく具体的な保育場面を想定したいので、ビデオなどの視覚的教材を使用したい。

〔教 材〕

テキスト（「保育環境プランニングブック 2 3・4・5 歳児の保育環境」、2001・7、株式会社チャイルド本社）の他、ビデオやプリントした資料を使用する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期テストと一部出欠状況などの受講態度により行う。

〔履修のポイント・注意点〕

純粹に子どもたちの成長にとってどのような園生活が必要かということを考えてほしい。その上で、そのための具体的な技術を身につける動機づけを高めてほしい。

〔科目内容の位置付け〕

領域の1つでもある「人間関係」、子どもの人とかかわる能力の成長を、具体的に保育の現場で実現させるための演習である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

なるべく、前期の保育内容研究を受講した上で履修してもらいたい。

12 IV期	保育内容演習 (身体表現)	1単位	都築 淳
-----------	------------------	-----	------

〔講義目的〕

幼児期における身体表現活動（主に運動あそび）の意義、並びに心と体の健全な育ちの重要性について理解すると共に、保育の実際場面において必要となる実践力や表現力、そして安全管理能力を体得していくことを目的とする。

また、保育技術としての実技学習のみならず、保育環境としての保育者のあり方に気づき、笑顔で、明るく、快活に、人間味溢れる保育を展開していくことへの意識を高めていく。

〔講義内容〕

1. 身体表現活動（主に運動あそび）の必要性とその教育的価値への認識を深める。
2. 保育に携わる学生自身が自らの心と体を弾ませながら、他人との関わりを通して心と心がつながることの尊さを体感できるようなコミュニケーションエクササイズやリズムダンスに取り組む。
3. 幼児にとって望ましい活動内容やその実践方法、指導上の留意点、保育者としての心構え、等について、保育現場に即してより具体的に学習していく。
 - ①手あそびを運動あそびに発展～動きの創作
 - ②身近な素材を用いての運動あそび
 - ③友だち同士や親子でおこなうふれあいあそび
 - ④音楽教材を使った各種エクササイズ、手話ソング
 - ⑤年齢、場に応じたプログラムの検討
 - ⑥子どもたちの興味・関心、活動意欲を引き出す環境設定や言葉掛け

〔講義のすすめ方〕

実技を中心に展開する。その中で、できる限り実際の保育場面に応じた問題提起を適宜おこなっていく。

〔教 材〕

『子どもの心と体を育む運動あそび わくわくエクササイズ』瀬戸口清文・日本遊育研究所著（株）メイト 2,000円税込）

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況及び授業・課題に取り組む姿勢を最重視する（80%）。また、期末レポートも参考にして（20%）総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

常時運動するのにふさわしい服装で出席すること。体育館用シューズも必ず忘れずに。

子どもたちの育ちに影響を与える重要な役割に就くことへの責任を十分に認識した上で、学生として節度ある明るい態度で意欲的に授業に臨むこと。

遅刻は、止むを得ない場合を除き原則として認めない。

〔科目内容の位置付け〕

保育現場で大いに役立つ知識・技術等、実践力を磨くための内容としている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

保育内容研究（身体表現）と併せて履習することで、より一層の実践力を身につけられる。

13	ソルフェージュ	2単位	荒井弘高
IV群			

〔講義目的〕

本学にて開設されている、音楽関係科目の教授内容を効果的かつすみやかに展開させるために必要な、音楽の基礎的な知識・技能を修得することを目的とする。

音楽はまず「うたう」ことから始まる。声楽教本・音楽理論書等を教材とし、うたうことを中心に、楽譜を読むために必要な基礎知識、正しい音程・リズムの修得、音楽的聴覚訓練、ハーモニー感覚の訓練等を行う。同時に発声法を学び、子どもの歌・世界の歌等の鑑賞・歌唱を行い、音楽の美しさ、楽しさ、喜びを体験する。

またリズム教育を兼ね、ハンドベル・アンクルン（竹のハンドベル）の演奏指導も行いたい。

これらを通して、豊かな感性と表現力のある人間を育成することを目標とする。

〔講義内容〕

下記の内容を順次組み合わせながら授業を展開する。

- ①発声法の修得
- ②歌唱表現法（美しい日本語の発語法を含む）
- ③楽典の理解
- ④音程・リズム訓練
- ⑤ハーモニー感覚訓練・コードネームの理解
- ⑥ハンドベル演奏指導
- ⑦鑑賞を通して音楽的感覚訓練

〔講義のすすめ方〕

講義内容にしたがって課題を設け、うたうことを中心に授業をすすめる。

〔教 材〕

新版「声楽教本」 圭文社 2,500円
音楽理論 圭文社 1,500円

〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視し平常点（50%）、講義内容ごとの課題消化度（50%）により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

実技系の科目では、その基礎能力がどのくらいあるかが、その後の展開に大きく影響して来る。うたって弾ける先生をめざし、少しでも音楽的基礎能力が向上するよう、努力すること。

〔科目内容の位置付け〕

本学音楽関係科目の基礎科目である。他の音楽関係科目を履修する者は、最初に当授業を必ず履修すること。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

1年次においては、当授業において基礎を学びながら音楽実技Ⅰを履修する事が望ましい。その後音楽実技においては、音楽実技Ⅱ・音楽実技ⅢA・音楽実技ⅢBへと4年間履修が可能である。また、リトミック・歌唱表現の専門科目、保育内容指導法（音楽表現）、音楽科教育法へと展開できる。

14 IV期	歌 唱 表 現	2単位	荒井弘高(ADクラス) 伊藤裕美(BCクラス)
-----------	---------	-----	-------------------------

〔講義目的〕

「日本の名歌を訪ねて」をテーマに、そのルーツを探り、とかく忘れがちな日本の文化に触れ、歌唱表現研究を行いながら、自らの感性を高めることを目的とする。主な内容は童謡・歌曲等を教材とし、個人の能力に合わせ発声指導を行いながら、歌唱における美しい日本語の発語法を学び、作品が作られた時の状況・社会的背景を加味した歌唱表現を、歌唱・伴奏両面から研究する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

ソルフェージュ受講済みが前提条件である。ソルフェージュで音楽の基礎知識を学び、当授業と音楽実技を受講することにより、教育現場の先生に求められる「うたって弾ける」技術を十分身につけることができる。勿論教育実習では大いに役立つであろう。また保育内容研究・演習(音楽表現)、音楽科教育法へと容易に展開できる。

〔講義内容〕

- ①発声法の修得
- ②歌唱における日本語発語法
- ③わらべうた歌唱研究
- ④童謡歌唱研究
- ⑤唱歌歌唱研究
- ⑥新しい子どものうた歌唱研究
- ⑦日本のうた歌唱研究

〔講義のすすめ方〕

我が国の「うた」の歴史を把握するため、前期は戦前、後期は戦後作曲された作品を中心に歌唱研究を行う。同時にCD・DVD等による鑑賞を行う。なお童謡演奏会等を鑑賞する機会も設けたい。

〔教 材〕

音楽リズム「幼児のうた楽譜集」
東京書籍 1,200円
新版「声楽教本」 圭文社 2,500円
その他必要に応じて指示した教材を各自用意する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視し、発表会形式による試験およびレポートにより評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

実技科目であるので、常に動きやすい服装で受講すること。
授業内において習得した技術は、日常反復練習すること。

〔科目内容の位置付け〕

当授業は専門科目であるため、受講希望者は音楽の基礎知識が必要とされる。

15 IV群	音楽実技Ⅰ（基礎）	2単位	（音楽担当教員） 富田英也 伊藤裕美 今田政成 福田由紀子 益子州出男 松本由美子
-----------	-----------	-----	---

〔講義目的〕

保育・教育現場での実践に不可欠なピアノ演奏技術修得のために、当授業では個々の基礎力アップをはかることを目的とする。同時に豊かな感性と表現力のある保育・教育者を育成する事を目標とする。

をしっかり消化し、次の音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）へのステップとなるための予習、復習を必ず行うこと。

〔科目内容の位置付け〕

当授業は音楽実技の基礎科目である。音楽実技Ⅰを履修した者が音楽実技Ⅱ・音楽実技ⅢA・音楽実技ⅢBと進む事が出来る。

〔講義内容〕

ML（Music Laboratory）システムを使用してピアノ基礎指導の授業を行う。

ピアノ技術は入学前における個々の音楽経験により、学生それぞれの進度がまちまちであるため、それぞれの能力に応じた進度別グループに分け指導を行う。

目安として次のグループが考えられる

- 1：入門グループ…バイエル「ピアノ教則本」初めから
- 2：初級グループ…バイエル「ピアノ教則本」61番以上
- 3：中級グループ…バイエル「ピアノ教則本」終了程度以上

当授業では次の内容を組み合わせながら授業を行う。

- ①基本姿勢
- ②打鍵法と運指法
- ③レガート奏法
- ④音階奏
- ⑤拍子と調性
- ⑥テンポとフレーズ
- ⑦メロディーと伴奏のバランス

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

当授業を履修する者は同時にソルフェージュを必ず履修すること。その後リトミック、歌唱表現へと展開できる。

〔講義のすすめ方〕

講義内容にしたがって、グループ別に課題を設け授業を進める。

〔教 材〕

入門・初級グループ バイエルピアノ教則本
中級グループ以上 ブルグミュラー、ソナチネアルバム、ソナタアルバム 他

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験において課題曲を暗譜で演奏する実技試験を行う。

成績は、出席を重視、実技試験、平常点を加味し評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

日々の努力と探究心により、毎時間の課題

16	音楽実技Ⅱ (こどもの音楽)	2単位	(音楽担当教員) 富田英也 今田政成
IV#			

〔講義目的〕

当授業は、音楽実技Ⅰ（基礎）において修得した基礎技術を使い、保育・教育者に求められる「こどものうた」の弾き歌い等、さらなるピアノの技術向上を目的とする。

技ⅢBと進むことができる。

〔講義内容〕

ML (Music Laboratory) システムを使い、童謡・唱歌など「こどもの歌」の弾き歌いを指導する。具体的には、こどもの生活や行事、季節を題材とした童謡やこどものうた、行進曲など、児童教育の現場においてすぐ役立つ弾き歌いや伴奏法を指導する。またコードネームの説明を行い、楽譜に頼らない自由な伴奏を行える弾き歌いも指導する。

前期 春・夏の季節に関する歌、行事の歌等。

後期 秋・冬の季節に関する歌、行事の歌等。

〔講義のすすめ方〕

講義内容にしたがって、弾き歌いの授業を中心に進める。

〔教 材〕

音楽リズム（幼児のうた楽譜集）

東京書籍 1,200円

やさしいピアノ伴奏法 音楽之友社 1,300円

〔成績評価の方法・基準〕

前期・後期の実技試験、平常の態度や進捗努力、出席状況

〔履修のポイント・注意点〕

音楽実技Ⅰ（基礎）同様、弾き歌いの能力向上を目指し、日々の予習・復習を必ずすること。

〔科目内容の位置付け〕

音楽実技Ⅰにおいて基礎を学び、当授業において現場に必要な技術を修得する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

音楽実技Ⅰ履修済みが前提条件である。音楽実技Ⅰでピアノの基礎技術を身につけることにより、幼稚園・保育園・小学校の現場で求められる弾き歌いの技術を充分身につけることができる。さらに音楽実技ⅢA・音楽実

17 IV期	リトミック入門	1単位	吉田裕昭
-----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

リトミックは、スイスの作曲家・教育者E・J＝ダルクローズにより創始されたユニークな音楽教育法である。しかし、その目的は「感性を磨き、身体と精神の一致・調和のとれた人格形成を目指す」ことにある。すべての可能性・能力発展の源泉を身体行動の中に求め、それを通じて諸感覚機能の発展を促し、創造性・想像性の上にとった教育活動の中に、人間性を高めていこうとするものである。すなわち、人間教育こそがリトミックの目指すところであり、領域“表現”の狙いと合致するところでもある。

本来、リトミックは「リズム」といわれる身体活動、「ソルフェージュ」「即興演奏」の3分野から成り立っている。聴覚を使ってしか感じる事の出来ない、抽象芸術である音楽を、全身体を使い、体験を通して具体的に学ぶというものである。

この講義では、幼児・児童教育におけるリトミックの価値を認識し、指導者としての実力向上を目指すとともに、リトミックをまさに身をもって体験し、自分自身の感覚を研ぎ澄まし、感性を養うことを目的として進めていく。

〔講義内容〕

この時間は、リトミックの本来の姿を体験し、音楽の3要素の中で、最も強い影響力を持つリズムとそれに伴うニュアンス、より深く音楽を感じ取り、聴き取るためのソルフェージュカの体得を目指す。

「リズム」に関しては、次の項目を取り上げる。テンポ・強弱・拍・リズムパターン・拍子・フレーズ・アナクルシス・カノン・休符・補足リズム

「ソルフェージュ」に関しては、次の項目を取り上げる。音の記憶・ピッチ・終止感・全音半音・音階・半音の働き・音程・和音

〔講義のすすめ方〕

講義とともに、音楽がどのように出来ているかを、歌い、全身体を動かし、実感として理解できるように進めていく。

〔教 材〕

「アロノフ先生のリトミック教室」
フランシス・ウェバー・アロノフ著
吉田裕昭訳 ドレミ楽譜出版社

〔成績評価の方法・基準〕

出席点40%（提出物も含む）遅刻・早退は減点。規定の回数を超えて欠席した場合は、試験を受けられない。平素の授業における態度・学期末試験の成績60%により、評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

受講の際は、動きやすく、床に直接座っても差しさわりのない服装で参加すること。Gパン、スカートは認めない。裸足で行うが、場合によっては、その薄い上履きの着用を認める。この講義は、知識を得るだけでなく、自分自身で経験を積み重ねることが何よりも大切なので、積極的に参加し、自分の個性を十分に発揮して、楽しく受講することを望む。

〔科目内容の位置付け〕

この科目は、日本では、子供のための教育・楽器を学ぶ際の導入方法という認識が多いが、本来、音楽を学ぶ学生のソルフェージュ能力の向上を目指して、始められたものである。そして、その後の研究により、全ての年齢層の人に対応できる生涯教育として再認識されつつある。また、近年は音楽療法の分野でリトミックの価値が高く認められている。

また、リトミックの指導者には、国際免許制度があり、リトミックを取り入れている国々（アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・スイス・イタリア・スペイン・ポーランド・オーストラリア・カナダ等々）では、その資格が公的に認められているところも多い。現在までに、日本人の資格取得者は、約百名。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

ある程度（バイエル位）のピアノの技術、基本的音楽理論の知識は必要。また、それに対する向上心。

心理学・教育学・教育心理学・幼児心理学等の基本的な知識も必要。また、それに対する好奇心・探究心。

幼児教育、児童教育、音楽療法、音楽教育の分野で、多数のリトミック指導者が活躍している。将来的に最もニーズが期待されるのは、音楽療法の分野であろう。

18	造 形	2単位	柏谷圭司
V群			

〔講義目的〕

子供にとっての造形活動は成長発達に欠くことの出来ない重要な自己表現活動である。それらの活動は自主的、主体的活動であり、このような時期に各子供の発達や年齢に応じた造形に関わる活動を援助することは重要なことである。実際には言葉の獲得や心身の発達や各感覚器官の発達等その過程においての変化を十分に理解することが前提となる。

〔講義内容〕

当講義においては以下の5点について材料研究と教材研究を中心に進める。

①陶芸

陶芸についての歴史や材料の種類特性等を講義、技術的指導後実際に制作する。

②紙版画

版画の種類等の講義から制作にうつる。

③ガラス絵

絵の具の種類の説明とアクリル絵具による製作。

④色彩

色紙を使用、色彩学の基本を学ぶ。

⑤水彩画

透明水彩、不透明水彩の違いや基本的な使用方法等を学ぶ。

〔講義のすすめ方〕

各課題制作前に材料の特質や扱い方について説明し、あくまでも基本的な技術的説明として、学生が使い方や表現方法等を発見する場としたい。

〔教 材〕

必要に応じてプリント等を用意する。
講義形態の特色は実技演習である。
各課題について材料費を徴収する（通年1000円程度）

〔成績評価の方法・基準〕

課題作品提出による評価（5課題）
基本的に全作品提出が基準となる。
判定基準 出席20%
点数80%

〔履修のポイント・注意点〕

講義形態は実技演習ある為一つの課題には3回～6回で作品完成となる。課題制作のなかで、保育者として指導方法等を考える意識を持ちながら学んでほしい。

〔科目内容の位置付け〕

造形分野の基本

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

- ・美学…美術教育に幅広い視野を持つ
- ・造形教材研究
- ・絵画表現法

19 IV群	絵画表現法	2単位	小久保 裕
-----------	-------	-----	-------

〔講義目的〕

人を指して「ホモ・ファーベル」（物をつくる人）、あるいは「ホモ・ピクトル」（絵を描く人）と呼ぶことがあります。

人は何故絵を描くのか、その答えは子どもの描画活動の中に隠されています。

子どもの時、誰もが嬉々として絵を描きます。子どもにとって、その行為は大切なコミュニケーションの手段であり、全く絵を描かなかった、という人はおそらく皆無でしょう。

子どもの絵画はスクリプル（なぐり描き）に見られる幼児期の身体表現のひとつとして始まり、次第にイメージーションの働きに助けられ、目と心で感じ、手を通して考える人間へと成長する為の必要不可欠な営み、創造活動になっていくのです。

そのくり返しの中で絵を描く為の諸条件、視る目、感じる心、そして表現する意志と手だてが会得されていきます。それが子どもの創造力や「生きる力」の源泉となることは言うまでもありません。

この講義ではデッサン（素描）や絵画実技を中心に、子どもの絵の見方、考え方を学びます。絵を描く楽しさや厳しさを体験しつつ、かつて誰もがそうであったような、のびやかなアーティストの魂を呼び覚まし、創造する喜びを子ども達と共感できる能力を培っていただきたい。

〔講義内容〕

1. 子どもの絵画
 - 表現能力の変遷過程とその特質
 - 材料と表現方法
 - 指導者の心得、評価方法
2. パスと水彩、色紙等による描画練習
3. 絵画実技
 - 基礎デッサン
 - 水彩、パステル、アクリル
 - 油彩による表現
 - コラージュ
4. 鑑賞
 - 描かれた子ども達
 - 描かれた自然
 - 描かれた夢（抽象）
 - 近、現代美術の歴史と見方
5. 絵画——その歴史と表現法の変遷——

〔講義のすすめ方〕

油絵などによる絵画制作を中心とした授業です。互いの作品批評やディスカッションも交え、個々人の資質や能力に応じた指導を心がけます。また、教室のみでなく野外や美術館などにも出かけ、自由な空間の中で創造し、鑑賞する喜びを味わえる授業をめざします。

〔教 材〕

テキストは使用せず、プリントを配布する。画材については適宜説明します。

〔成績評価の方法・基準〕

提出された作品、レポートの質と完成度による。また、結果作品のみでなく、制作過程も重視する。

〔履修のポイント・注意点〕

絵は上手に描くことが目的ではありません。大切なのは常識にとらわれずに自分の形と色で自由に描くこと。そして、描くことを通して自己を見つめ、解き放つことです。

〔科目内容の位置付け〕

絵画実技は入門的内容であり特別な経験は必要ない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提はない。関連科目として「造形」。

20	造形教材研究	1単位	粕谷圭司
14時			

〔講義目的〕

造形に関する基本的な知識や技能を身につけると共に教育指導のなかで扱う教材やそれらを展開することを学びながら、造形活動を通して楽しさや喜びを体験することを目的とする。

〔講義内容〕

主に実技演習内容となる

課題項目

- ①陶芸
- ②木版画
- ③石膏による造形

〔講義のすすめ方〕

課題制作前に課題に関する技術的説明をして、指導法を学ぶ。

〔教材〕

必要に応じてプリント資料を用意する。
材料費が必要となる（1000円程度）。

〔成績評価の方法・基準〕

出席を重視する
課題作品提出による評価
判定基準 出席20%
点数80%

〔履修のポイント・注意点〕

知識技術の習得に加える造形活動の楽しさや喜びを味わい心を養う場としたい。
創造する積極的姿勢を期待する。

〔科目内容の位置付け〕

教材の技術的修得

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

美学
造形
絵画表現法

21 V#	基礎デザイン	2単位	野田 俊太郎
-----------	--------	-----	--------

〔講義目的〕

「なぜ、女性はストッキングを手ばなせないのでしょうか？」

「なぜ、「無印良品」が今風のデザインとして支持されるのでしょうか？」

「なぜ、日本の街並みは賢く美しくならないのでしょうか？」

今、私達の日常にはデザインされたモノが溢れています。では「デザイン行為」とは、いったい何でしょうか。そう問いかけられて即座に答えられる人は、まずいないでしょう。現状を注意深く見つめ疑問を持つことから、デザイン行為はスタートします。将来のビジョンを考えそのプロセスを着実に辿る知的生産の技術として、デザインの社会的意味と目的があります。しかし優秀なデザイナーだけでは、新しい文化はつくれません。良いクライアント（施主／発注者）の存在が、文化の行方を左右します。将来、使用者としてデザインを発注し評価し選択する立場になる、本学の学生諸君にとって、ただ「何となくイイ感じ！」だけで終らせない知的技術の修得が本講座の主たる目的です。

〔講義内容〕

- ①実技演習／立体構成の課題を通じ手で学ぶ
- ②フィールドワークを通じて学ぶ三つの手法
 - ・リーディングの手法／調査する眼を養う
 - ・マッピングの手法／情報・言語を図化する
 - ・インターベンション／編集し介入する行為

〔講義のすすめ方〕

上記2つのサブセットの実践作業を通して、「デザイン行為」の基礎を考え、学んでいきます。受講者数との関係からおのずと講義形式は変化するでしょう。少人数の場合はマンツーマンのエスキース方式。また多人数の場合はグループでの共同作業／発表（プレゼ）の形式を採ります。

〔教材〕

テキストは今年是使用せず、関連する主題についてのプリントを配布します。

実技演習やフィールドワークのプレゼで使用される素材等は各自負担／購入準備して下さい。

〔成績評価の方法・基準〕

実技演習の成果物に対する評価とフィールドワークのプレゼ内容を基にした総合評価。

期末に設定したテーマについて、レポートの提出／評価を考えています。

〔履修のポイント・注意点〕

さて、現役の建築デザイナーが、文系総合大学で学ぶ皆さんに教えるコトに、「いったい何が可能でしょうか？」。その答えを出してくれるのは、きっと学生諸君の関心と熱意でしょう。良く知られた西欧の諺があります。

「一生涯に三人の良い友を持つとよい。

それは、医者と弁護士と建築家である。」

この講座を通して、日常あまり接点のない、建築家という職能人と出会い、いったい何を考え、そして何を成そうとしているのか？身近に感じてみるのも、短い大学生活の中で、「何かの役に立つのでは…。」と思っています。

〔科目内容の位置付け〕

現在、美術・工学を問わずデザイン教育の現場では、基礎過程から高度専門課程に至るまで繰り返し、只々三つのプロセス・デザイン手法の修得を旨としています。

ここでいうデザイン手法とは、問題群を理解し把握するリーディングのプロセス／その結果をヴィジュアルに図化し、合意形成の資料とするマッピングの手法／そして問題群を調停し解決する提言行為、インターベンションのプロセスです。

様々な特殊技能や専門的知識群は、その基本O.S.のベース上に重ね描きされるプログラムとして、プロフェッションを確立する為に不可欠です。しかし様々な専門知識も、基本O.S.がまず作動しなければ、有効に機能しないとの反省から生まれた教育プログラムです。デザイン基礎教育の意味も、そこに有ります。

将来、自らデザインに関わる専門職とはならない学生諸君にとっては、デザインする技術や能力を継続して学習することは、あまり意味がありません。しかし、デザインされたモノの価値を見極め、科学的合理的に評価判断する能力は一人の社会人として不可欠な素養です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

デザインを理解することは、デザイン行為を実践することと同様に、様々な分野を横断する総合的な知識（雑学）の蓄積が鍵となります。本講座を受講する以前に、哲学・社会学・文化人類学・心理学・そして美学に対する基礎的教養がどれ程蓄えられているか？。しかしそんな要望は、現実的ではないでしょう。この講座を通して、より広い様々な人類知への関心が高まることをこそ、期待しています。

22 IV期	スポーツと健康	2単位	齋藤一人
-----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

スポーツとは、勝負を争い、激しい動きをともなうものである。危険もあるが、スポーツを行うことの楽しさ、友人たちとの交流は、それ以上に自分の生活に豊かさ充実感をもたせてくれる。このスポーツを人生の健康づくりの手段として用い、健康な生活を送るためには、3大要素である一運動（スポーツ）・栄養・睡眠のとりかたと、そのバランスが必要で、現代人は、特に不規則・不安定になっているので、学生のうちから少しでも理解度を高めることが必要だと思われる。この講義は、運動（スポーツ）部分の特に集団（グループ・チーム）で行うボールゲームを中心に展開します。集団が協力して一つの目標を達成していく喜びや、スポーツそのものももつ楽しさ・日常生活にない緊張感・汗をかくここちよさを、この授業の中で表現し、体験して、スポーツを通じての体づくり、健康づくりを覚えていくことを目的としたい・

〔講義内容〕〔講義のすすめ方〕

第1～2週目にかけてガイダンスを行う。

- I. バスケットボールとその他のボールゲーム
 1. 班（チーム）分けおよび役割分担
 2. ボールに慣れる（いろいろなゲーム）
 3. 基本技術の練習（パス・ドリブル・シュート）
 4. チーム練習
 5. 3 on 3 の説明～実戦
 6. チーム練習～ゲーム（リーグ戦Ⅰ）
 7. その他のボールゲーム
- II. バレーボールとその他のボールゲーム
 1. 班（チーム）分けおよび役割分担
 2. ボールに慣れる（いろいろなゲーム）
 3. 基本技術の練習（パス・トス・レシーブ）
 4. 基本技術の練習（スパイク・ブロック・サーブ）
 5. チーム練習～ゲーム（リーグ戦Ⅱ）
 6. その他のボールゲーム
 7. 講義（健康について）
- III. その他のスポーツ
（テニス・バドミントン・サッカー・ゴルフ等）

〔教材〕

特になし。必要な場合は、指示します。また、必要に応じて資料を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

- (1)出席点 単位認定には8割以上の出席が必要。
欠席や遅刻の少ない者には、良い評価を行う。
- (2)テスト平常点評価及びレポート

〔履修のポイント・注意点〕

1. 出席を重視します。（見学・遅刻・欠席等は正当な理由のない限り認めません。）
実技習得だけでなく社会人としての常識も身につけてください。
2. 主に体育館での実技ですので、体育館用のシューズを必ず用意してください。また、汗をかきますので、運動しやすい服装と汗をかいた後の着替えを準備してください。
3. 体力・集中力を必要とされる実技なので、前日の睡眠、食事に気を配り、ケガのないように注意してください。

〔科目内容の位置付け〕

教職等の科目として位置づけられている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

子どもの体育

23	子どもの体育	2単位	内山須美子
IV群			

〔講義目的〕

1. 指導者として相応しい体力を持ち、自身の健康を保つための理解を深める。
2. 子どもの身体及び身体運動の発達のプロセスについて理解する。
3. 運動指導の基本的な事項を理解するとともに指導援助法を身につける。

〔講義内容〕

1. 講義：
 - (1) 運動構築の能力
 - (2) 運動習熟のプロセス
 - (3) 運動能力の発達
2. 実習：模擬保育

〔講義のすすめ方〕

1. 健康と運動
2. 子どもの運動能力の発達
3. ムーブメント遊び
4. サーキット遊び
5. 表現遊び
6. 遊具を使った運動遊び
7. 身近な素材を使った運動遊び
8. 運動会を中心とした運動遊び
9. ルールのあるスポーツ的な運動遊び
10. レクリエーション的な運動遊び

〔教 材〕

必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕

1. 出席状況：50点（1回の欠席毎に2点ずつマイナス）
2. 模擬保育：25点
3. 筆記テスト：25点

〔履修のポイント・注意点〕

1. 動きやすい服装
2. 室内履き
3. 予習と復習

24 IV#	社 会 福 祉	2単位	森田明美
-----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

社会福祉が人々の暮らしにどのように生きているのか、その理念、歴史、原理、法体系や行財政を学ぶ。

〔講義内容〕

- 1 私たちの一生と社会福祉
- 2 豊かさのなかの貧困
- 3 家族の変容と社会福祉
- 4 社会福祉の概念
- 5 人権としての社会福祉
- 6 欧米の社会福祉の歴史
- 7 日本の社会福祉の歴史
- 8 社会福祉の法律
- 9 社会福祉の行政機関
- 10 社会福祉の財政
- 11 社会福祉の計画
- 12 社会福祉の課題(1)
- 13 社会福祉の課題(2)
- 14 まとめ
- 15 試験

〔講義のすすめ方〕

テキストと配布資料によって講義形式ですすめる。ビデオ教材を使用。

〔教 材〕

一番ヶ瀬康子・伊藤隆二監修『現代の社会福祉』一橋出版 1300円＋税
『社会福祉小六法』最新版 ミネルヴァ書房

〔成績評価の方法・基準〕

試験

25	社会福祉B	2単位	川瀬善美
IV群			

〔講義目的〕

2000年にスタートした介護保険制度、社会福祉の施行に代表される「社会福祉基礎構造改革」は社会福祉をそれまでのものと大きく変化させた。

第一には「措置制度」から「契約制度」への転換である。このことにより利用者保護者を目的とした地域福祉権利擁護事業や苦情処理の仕組みなどが新たに生まれることとなった。

第二サービスの質の向上である。このため民間事業者も含めたサービス提供主体の多様化が図られ、サービスの自己評価や第三者評価、質の高い人材の養成・確保などが求められることとなった。

第三に地域福祉の推進である。このため市町村地域福祉計画や都道府県地域福祉支援計画の策定、知的障害者、精神障害者関連事務等の市町村への移譲も行なわれた。

このような流れを、人間らしく質の高い豊かな生活実現に向けて機能させていくためには、自分自身が主体的に参加・参画して行くことが求められる。

それらをふまえ社会福祉についてのさまざまなファクターについて学ぶ。

〔講義内容〕

社会福祉援助活動における専門性と倫理
 社会福祉専門職と資格制度
 社会福祉六法とその体系
 社会福祉をめぐる我国及び諸外国の動向

〔講義のすすめ方〕

通常の講義スタイルを取る
 変化する社会福祉状況に即応できるようその時々話題となっている福祉問題についてもトピック的に内容に加えて行く。

〔教材〕

教科書 千葉茂明・宮田伸郎編
 「新社会福祉概論」みらい
 「保育六法2003」 //

参考書 なし
 指定図書 なし

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験と出席状況によって行う。
 試験方式は5肢選択制20問出題。

〔履修のポイント・注意点〕

社会福祉は刻々と変化しつづけており、制度も変化しています。そこで日常的に新聞等に掲載の福祉関連記事の切り抜き・スクラップをかならず行う事。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士資格取得希望は、試験出題範囲内であり必修であると言う事を認識しておくこと。また保育士資格取得希望者も変化しつづける社会福祉を正確に理解することが就職するのいかに問わず求められると言う事を認識しておくこと。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

社会福祉と併せて履修すること。

26 V	児 童 福 祉	2単位	落合 崇志
----------	---------	-----	-------

〔講義目的〕

少子高齢社会の現状で児童が健全に成長発達できるよう児童に対しての福祉施策をより積極的に考えなければならない。児童は、社会、地域、家庭の影響を直接うけやすく、乳幼児においては特に大人に対しての依存度が高い。よって児童は人権を侵害される可能性があり社会的に弱い立場におかれており現代の社会状況からみても、児童の生活、諸権利が脅かされている出来事がみうけられる。最近顕著な出来事である「虐待」は、親による子どもに対する強いものから弱いものへという力関係の極端な現れであろう。

社会的養護を行う児童養護施設があるが、最近子育てができない親やその親からの虐待で入所しているケースが増えていると言われている。子どもたちは、保育、養護の中心者である親に守られる存在である。

児童の成長は、その子どもを継続的に保育、養護する大人たちによって支えられている。近年、子育ての状況の変化、それは家庭の営みが様変わりしたことからも多様な支援が必要になってきている。児童の福祉を考える時、児童に関わるすべての環境を、大人が児童の健全育成という立場からしっかり見つめ直し、社会的支援体制を強化しなければならなくなっている。

そこで、本講では、「児童の諸権利」「児童に関しての法律、制度、施策」「児童や親等に直接かわりサービスをする機関、施設」「保育士の役割と専門職としての意識」「地域、家庭、児童に対しての相談援助」などを学習する。

〔講義内容〕

1. オリエンテーション「児童福祉は」
2. 児童の権利「児童福祉の歴史と権利概念」
3. 現代の家庭「家庭、地域、社会と児童」
4. 児童福祉の動向「エンゼルプラン等」
5. 児童問題「児童福祉と法律、制度の利用」
6. 児童福祉の現場「児童福祉機関と施設と財源」
7. 児童福祉の現状「児童養護、保育、障害児、少年非行、健全育成」
8. 諸外国の子ども「アメリカ、イギリス、アジアなど」
9. 児童福祉と専門職「児童福祉現場の仕事」
10. 児童福祉の関連機関「諸機関との連携」

11. 児童相談「家庭のかかえる問題」

12. まとめ「児童福祉のこれからの課題」

〔講義のすすめ方〕

講義とグループディスカッションを併用する。

〔教 材〕

開講時指示する（パワーポイント使用）

〔成績評価の方法・基準〕

授業の参加20% Rep40% 試験40%

27 V群	児 童 福 祉 B	2単位	山 中 定 雄
-----------	-----------	-----	---------

〔講義目的〕

今日の社会において、児童もまた危機の中にある。児童の権利に関する条約に謳われた『児童の最善の利益』をどのようにして守るのかを、今、真剣に問わなければならない。

様々な制度改革の中にあつて、児童福祉も大きく転換しようとしている。家庭、地域、親、そして子ども、それらが直面している現状を検証する。

〔講義内容〕

- 1 子どもたちを取り巻く現状
- 2 現代の児童問題と子どもの権利
- 3 児童福祉の法体系 Ⅰ
- 4 児童福祉の法体系 Ⅱ
- 5 児童福祉と家庭支援
- 6 保育サービス
- 7 子育て支援
- 8 児童養護と社会的養護
- 9 家庭・児童施策の将来像
- 10 21世紀の子どもたち

〔講義のすすめ方〕

児童問題の今日的话题や問題を取り上げながら、これからの児童福祉を考える。

〔教 材〕

庄子・松原・山縣編著
これからの社会福祉③
「家族・児童福祉」改訂版 有斐閣

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験、出席評価による。

〔履修のポイント・注意点〕

広く社会的関心を持ち、情報の収集と科目の関連を考えながら学んで欲しい。

28 V#	社会福祉援助技術論Ⅰ	4単位	大島 實
-----------	------------	-----	------

〔講義目的〕

社会福祉士受験資格の指定科目になっているので、国家試験合格に必要な知識の習得を目指すと共に、臨床現場での専門職対応ができるような能力をも併せて習得できるようにする。社会福祉援助技術に関する演習、実習と続く一連の科目の基礎となる科目であるので、単に知識を積むだけでなく、知識が実用的になり、実践対応能力をも身につくことを目的とする。社会福祉援助技術に関する知識はもとよりであるが、その根底にあって援助技術を支えている人間観、社会観なども適宜とりあげて検討を加え、臨床の場での因果解明と連続性を解明するように目標をおく。

〔講義内容〕

- 1 社会福祉と社会福祉援助技術の関係
- 2 社会福祉援助技術の発生と歴史
- 3 社会福祉士と社会福祉援助技術
- 4 社会福祉援助技術と社会福祉士の関係
- 5 個別援助技術の理論と技術
- 6 集団援助技術の理論と技術
- 7 地域援助技術の理論と技術
- 8 社会福祉援助技術の新しい動向
- 9 社会福祉援助技術の専門性
- 10 社会福祉援助過程論
などをとりあげる。

〔講義のすすめ方〕

講義を主体にするが、討論や意見発表を混じえて、できるだけゼミ形式に近いかたちですすめる。

〔教材〕

「社会福祉援助技術論上」
北島英治・白沢政和編
ミネルバ書房 2730円

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による。出席率2/3以上、得点60点以上合格。

〔履修のポイント・注意点〕

教科書をベースにして講義を行うので、予め教科書を読んでから出席することが望ましい。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉援助技術は、社会福祉の目的を達成する援助技術とされているので、社会福祉とは何か、についての理解が前提である。社会福祉、社会福祉Bの履修をしておくことが望ましい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

対人援助に関連するカウンセリング、心理療法、絵画療法、家庭療法、などについても関心をもつことが望ましい。

29	社会福祉援助技術論Ⅱ	4単位	大島 貴
IV群			

〔講義目的〕

社会福祉援助技術Ⅰで学んだ援助技術の基礎的な理解をさらに深め、社会福祉援助技術を体系的に習得、専門的レベルにまで知識を深めることを目的にする。援助過程の力動性とその中で働く要因を分析し、援助過程の相互作用と援助者の役割と機能について理解を深める。3年次に行なわれる社会福祉現場実習での臨床性に耐えうる知識と理解を構築するようにする。

〔講義内容〕

- 1 社会福祉援助技術の適用領域と対象分野
- 2 個別援助技術の展開過程
- 3 集団援助技術の展開過程
- 4 地域援助技術の展開過程
- 5 社会福祉調査法の理論と技術
- 6 社会福祉計画法の理論と技術
- 7 社会福祉運営管理の理論と技術
- 8 社会活動法の理論と技術
- 9 ケアマネジメントによる直接援助
- 10 記録とスーパービジョン
- 11 効果測定と評価

〔講義のすすめ方〕

講義を主体にするが、具体的事例を多用して討議して論議を深める。

〔教 材〕

「社会福祉援助技術論Ⅱ」

中央法規出版 ￥2,500

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による。60点以上を合格。

〔履修のポイント・注意点〕

社会福祉士受験資格の指定科目であるので、受験資格に必要な履修日数が必要。2 / 3 以上の出席日数が必要。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉援助技術論Ⅰに連続する講座であるので、社会福祉援助技術論Ⅰを履修したものが受講可能。

30	社会福祉援助技術演習	2単位	大島 實
IV群			

〔講義目的〕

社会福祉援助技術は、社会福祉の目的を実現し、達成させるための活動として位置づけられている。社会福祉の目的の実現とは、人間の生活を豊かにし、生活を支えることを目指す、対人を含む総合的活動である。保育の場において社会福祉援助技術が、子供の養育環境にとって必要な条件を考え、子供の成長にとっても有益な養育者の態度や資質について多くの知識と技術とを教えるであろう。子供の将来は豊かで十分な成長の機会が与えられなければならない。社会福祉援助技術がこれらの条件の一つであることを習得していきたい。

〔講義内容〕

- 1 社会福祉援助技術と保育との関係
- 2 社会福祉援助技術の発生と歴史
- 3 対人援助技術の倫理規範、人間観
- 4 個別援助技術の理論と技術
- 5 個別援助技術の展開過程
- 6 個別援助技術者の資質と能力
- 7 集団援助技術の理論と技術
- 8 集団援助技術の展開過程
- 9 地域援助技術の理論と技術
- 10 地域援助技術の展開過程
- 11 社会福祉援助技術の統合化理論
- 12 社会福祉援助技術の専門性
- 13 ケアマネジメント論
- 14 保育における社会福祉援助過程

〔講義のすすめ方〕

講義を主体とするが、事例を多用し、具体的問題についての討議によって理解を深める。

〔教 材〕

「社会福祉援助技術」

中央法規出版 ￥2,310

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による。出席率 2 / 3 以上、得点 60点以上合格。

〔履修のポイント・注意点〕

討議に積極的に参加し、発言することによって理解が深まるので、受身ではなく積極的に臨むこと。

〔科目内容の位置付け〕

保育士養成科目になっている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「社会福祉」論を受講していることが必要。

31 IV期	保育原理 I	4単位	荒井 洌
-----------	--------	-----	------

〔講義目的〕

子育ては、人間にとって永遠の営みです。子育ては、それ自体が人間存在の起点でもあり、目的でもあります。

現代社会において営まれている乳幼児保育は、この人間にとっての永遠の行為から導き出されるべきものと考えます。

ですから、私たちが乳幼児保育のありようについて学ぶとき、常に、この原点ともいうべきことがらに立ち返るようにしなければなりませんと思います。

また、現代にあっては、20世紀後半の半世紀にわたって営み続けられてきた保育のあり方、すなわち、保育者としての姿勢、具体的な内容や方法、園舎や園庭などの環境整備の面、地域社会との関係、経営や行政との関連、なども大きく変わろうとしています。

このような変化の時期にあっては、むしろ保育の本質をより深く、より根本的に思索することによって、保育のあり方を思い描くことが大切なのではないかと考えます。

喜びとしての子育て、すなわち働きがいとしての幼児保育について、未来へのロマンを胸にしながら、授業を進めていきたいと思えます。

〔講義内容〕

講義は、次のようなポイントを押さえて行います。

- ・保育思想の流れ（西洋）
- ・保育思想の流れ（日本）
- ・比較保育論的な見方の必要性
- ・園舎のデザイン
- ・園庭のあり方
- ・保育の内容のとらえ方
- ・保育の方法の考え方
- ・子育てサロンとしての園のあり方
- ・保育政策の動向

〔講義のすすめ方〕

次のような流れに沿って進めます。

1. 保育の世界へのいざない
2. 幼児保育界の概要
…さまざまな保育施設
3. Kindergartenの系譜
…Fröbelの思想と仕事
4. Infant schoolの系譜
…Robert Owenの思想と仕事

5. Daghern (Day home) の系譜
…Nordic democracyのセンス
6. 保育思想の流れ（西洋）
…Montaigne, Rousseau, Ellen Key, など
7. 保育思想の流れ（日本）
…貝原益軒、大原幽学、倉橋惣三、など
8. 保育の経済学
…社会的生産活動と家庭生活
9. 育児と保育の関係
…家庭育児と園生活
10. 子育てサロンとしての園
…子育てをエンジョイする場
11. 園舎の居住環境
…日常生活を基本にしたデザイン
12. 子どもの遊びと園庭のあり方
…子どもにとっての自然環境
13. 子どものグルーピング
…子どものアイデンティティ
14. 保育内容のバックボーン
…人生における幼児期のとらえ方
15. 保育者としての働きがい
…各地の園のさまざまな試み

〔教材〕

テキスト：荒井 洌著『園生活における知育』
明治図書
荒井 洌著『名言に学ぶ保育のセンス』
学文社

〔成績評価の方法・基準〕

前期末および後期末に試験を行います。
出席率を重視します。

〔履修のポイント・注意点〕

幼児保育のチャームポイントを見つけ出すような姿勢で、テキストを読み取り、また講義を聞いてください。

〔科目内容の位置付け〕

幼児保育について学んでいくための基礎的な知識です。確実に理解するよう努めてください。

32	保育原理Ⅱ	2単位	福崎淳子
IV#			

〔講義目的〕

保育という営みは、いつの時代であっても、人間存在にとって大切な意味をもち、とても奥深いことであると考えます。一方、時代は大きく動き、保育の世界も例外ではありません。単調に繰り返されてきた発想や内容、環境論では、満たされないものがあることが少しずつはっきりとしてきています。

乳幼児保育は、人間の本源的な営みを仕事としていますので、本物指向であることは当然の流れです。このように考えると、保育の仕事にかかわることに、張りともやりがいが生まれると思います。

未来に向けてさまざまな可能性を秘めている子どもが、充実した今を生き、望ましい未来をつくり出すための力の基礎を培うこと、それは、保育の目標でもあります。

この講義を通し、「子ども理解」を深めることをめざすとともに、子どもや保護者に喜ばれる、働きがいのある仕事を夢見ながら、学んでください。

〔講義内容〕

講義形式を基本としていますが、単に保育の理論や紹介だけではなく、具体的な事例を示しながら、できるだけ子どもの生きる現実の様子に目を向け、子どもの心の理解を深めることができるよう、受講者とともに学び合う時間にしたいと考えます。

講義としては、次のようなポイントを押さえて行います。

- ・保育の目標
- ・保育の内容
- ・子どもの発達
- ・保育の計画作成上の留意点
- ・健康と安全への留意点
- ・子育て支援

〔講義のすすめ方〕

次のような流れに沿って、進めていきます。

- 第1週 「保育原理Ⅱ」へのいざない
- 第2～3週 保育の内容のとらえ方
- 第4～5週 保育の環境のとのえ方
- 第6～7週 低年齢児保育のとらえ方
- 第8～9週 年齢と発育のとらえ方
- 第10～11週 保育の計画とつくり方
- 第12～13週 健康と安全への気のくばり方
- 第14～15週 子育て支援への取り組み方

〔教材〕

- ①荒井 冽編著「園を明るい子育てサロンへ」
明治図書
- ②平成11年改訂「保育所保育指針」
フレーベル館

〔成績評価の方法・基準〕

期末に試験を行います。授業内にも簡単なレポートの提出を求めています。これらをもとに評価を行う予定です。

〔履修のポイント・注意点〕

最近の日本各地の保育現場で見られる、積極的な改良への取り組みを意識しながら、未来志向の進取的な姿勢で学習に取り組んでください。

33	養 護 原 理	2単位	山 中 定 雄
IV群			

〔講義目的〕

社会福祉の基礎構造改革に伴う制度改正は、児童養護の危機的状況とは、ある意味無関係に進行している。このことは児童の分野に限らず、真に福祉的施策を必要とする人々からの乖離でもあるが、それゆえ、施策に対しては真剣に注目しておく必要がある。そして、連日散見される児童虐待や育児放棄・非行、また、児童を守るべき『施設』での権利侵害など、児童を取り巻く環境は本来、家庭が持つ子供の『養育』機能の低下あるいは脆弱化によってもたらされているともいえるが、一方ではこれまで果たしてきた地域社会による子育て支援の機能も、社会経済状況の変化と相俟って弱体化している現実のなかで、児童養護の現場における責任と役割は極めて重要な位置付けを持つ。

児童相談所・児童養護施設をはじめとする社会的養護の重要性は一段と強化されなければならない。

講義では児童の『養護』とは何か、今何が不足しているのかなど、少し広い視野で考えていきたいと思います。

〔講義内容〕

- 1 児童養護とは
- 2 児童養護の歴史
- 3 児童養護の今日的課題
 - a 家庭
 - b 地域社会
 - c 施設
- 4 児童福祉施設の体系と機能
 - a 体系
 - b 養護内容
 - c 運営

〔講義のすすめ方〕

児童の問題に関しては社会の動向にも気を配りながら、理論を現場で強化する学び方をしてほしい。

〔教 材〕

小田兼三・石井 勲編
「養護原理」第3版
現代の保育学5 ミネルヴァ書房

〔成績評価の方法・基準〕

出欠・授業態度・筆記試験により評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

講義中に適宜紹介します。

34	養 護 内 容	1単位	中山 万里子
IV#			

〔講義目的〕

児童養護とは、家庭での養育が十分かつ適切に受けられない子どもの、人間としての当たり前の幸福を実現するための社会的なしくみと方法を意味します。

養護問題の原因は、親の死亡・病気・貧困といった伝統的なものから、現在は複雑に変容しています。したがってその解決には、より高水準かつ多方面の専門的知識・技術を要する時代となりました。保育者は、増大する要養護児童とその家族を、より効果的に援助する重大な責任と多大な期待を担っています。児童福祉の実践を担う専門家として、「子どもの最善の利益」を実現するために私たちが果たす役割とその方法について考えます。

〔講義内容〕

1. 児童養護の基礎知識（復習）
2. 施設養護の実際
 - ①入所前後・入所中・退所前後のケア
 - ②施設児童の権利と義務
 - ③家族への援助と他機関（児童相談所・保育園・幼稚園・学校・病院など）との連携
3. 施設職員の専門性
4. 里親制度

〔講義のすすめ方〕

具体的な場面をイメージしやすいよう、ビデオ視聴を適宜採り入れます。個々の事例において、専門家としてどのように援助するか、各自の意見をまとめてもらいます。

〔教 材〕

毎時、資料および講義のレジュメプリントを配布。参考図書・参考HP等は、必要に応じ紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕

出欠・学習態度・提出物・筆記試験等により総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

随時、最新の児童養護関連ニュースを採り上げます。新聞・雑誌・インターネットなどで日頃から情報収集する習慣を身につけ、問題意識を持つよう心がけて下さい。保育者の立場からだけでなく、「もし自分がその子だったら」、という要養護児童の目線で想像力を働かせることが不可欠です。

養護問題は、施設児童に限られません。一般家庭にも、同様の問題を抱える児童が数多く存在します。施設就職希望者のみならず幼稚園・保育園等に就職希望の方も、各現場で潜在的な要養護児童の存在に着目し、援助技術を身につけて下さい。

〔科目内容の位置付け〕

主として「児童福祉」および「養護原理」で学んだ知識を元に、現場での実践的援助技術を学ぶ演習科目です。

35 IV#	乳 児 保 育	2 単 位	高 橋 美 保
-----------	---------	-------	---------

〔講義目的〕

乳児保育は、発達論です。

ここでいう乳児とは、3歳未満児のことをさしますが、「三つ子の魂百までも」の諺からもわかるように、生後3年間の人間社会における生活の仕方が、その後の生涯に大きく影響するといっても過言ではありません。

乳児保育では、0・1・2歳児の発達の特徴や援助のポイントを学習し、子ども・家庭・福祉の視点から、求められているニーズに応えるためのあり方を探ります。その上で、保育者として、主体的に子どもの育ちを支える(人的・物的)環境を考え、取り組める力を身につけることをねらいとし、授業を進めていきます。

〔講義内容〕

- 1回 はじめに：乳児保育とは？
- 2回 子どもを知る①：全身の発達と保育
- 3回 ②：手指の機能の発達と保育
- 4回 ①：言葉の発達と保育
- 5回 ②：対人関係の発達と保育
- 6回 乳児保育の現状と意義
- 7回 保育の方法①：食行動の発達と援助
- 8回 ②：排泄の世話と自立への援助
- 9回 ③：睡眠の発達と援助
- 10回 ④：清潔の発達と援助
- 11回 ⑤：散歩と着脱衣の援助
- 12回 ⑥：遊びの中で育つもの
- 13回 ⑦：健康と安全
- 14回 乳児保育計画：指導計画と記録・評価
- 15回 子育て支援：家庭や地域との連携

〔講義のすすめ方〕

乳児と直接触れる機会が、身近にありますか？ 育つ命に対して感動したことはありましたか？

まず、学習者であるあなたが、「目の前にいる子どもとの生活を大切にしよう」という視点を持って、授業に臨んで下さい。

授業は、乳幼児の発達の特徴や援助のポイントを、より具体的に理解するために、ビデオ教材を用いて進めます。また、母子手帳の活用や保育所・乳児院での事例を基に、発達区分ごとに、発達上の特徴や生活での育ち、

援助のポイントについて、キーワードを示しながら説明していきます。さらに、乳幼児期の保育の進め方、保育計画や保育の評価判定について、保育所保育指針と合わせ読み解きながら、生活、遊び、保健、家庭との連携などを、どのように展開し実践していくか、事例を示し、ディスカッションを交えて演習形式で進めます。

〔教 材〕

教科書：乳児の生活と保育・松本園子編
樹村房・1800円

指定図書：保育所保育指針

参考書：見る・考える・創りだす乳児保育
CHS子育て文化研究所、萌文書林
(教科書と保育所保育指針は、授業には必要不可欠です。)

〔成績評価の方法・基準〕

定期テスト1回

レポート 項目(10回)ごとに提出する

判定基準：(出席率20%)

(定期テスト40%)

(レポート40%) 10回×4点

レポートの内訳：

1回4点満点とし、点数の内訳はA(秀)4、B(優)3、C(良)2、D(可)1

〔履修のポイント・注意点〕

生活のあらゆる場面で0・1・2歳児を観察し、話しかけたり触れたりして、そのぬくもりを実感して欲しい。したがって、授業には、行動観察ができる力を持って臨むこと。

〔科目内容の位置付け〕

保育という営みは、それぞれの領域に分けることができない面が多く、生活全体を視野に入れて学修する必要があります。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

発達論と共に、乳児の健康や安全を維持することは、乳児保育の主要な保育内容であることも、常に念頭に入れておく必要があります。保健領域が乳児保育の一部を担っており、小児保健や小児栄養との継続履修で、より一層の学習効果を高めましょう。

36	小 児 保 健	4 単 位	川 村 肇
IV 群			

〔講義目的〕

小児の健康と心身の異常について理解し、それぞれに応じた子育てが実践的に行えるよう医学的な基礎的知識を得る。

〔講義内容〕

小児の健康と小児保健の意義
 小児の発育・発達と生活の支援
 小児の食生活と栄養
 心身の健康増進の意義とその実践
 小児の疾病とその予防対策
 事故と安全対策
 児童福祉施設における保健対策
 母子保健対策と保育

〔講義のすすめ方〕

上記内容に従う

〔教 材〕

講義内容にそった書籍を選定する

〔成績評価の方法・基準〕

講義内容の理解に関するテストを行う

37 V時	小児保健実習	1単位	早田一子
-----------	--------	-----	------

〔講義目的〕

小児の医学的理解を基に、小児の健康とその保持増進のために必要な実践活動の内容を習得する。

〔講義内容〕

- 1 小児の心身の状態の評価
- 2 疾病異常と対応
- 3 健康づくり
- 4 保育環境

〔講義のすすめ方〕

講義と演習

〔教材〕

講義内容にそった書籍、プリント、ビデオ

〔成績評価の方法・基準〕

テスト

〔履修のポイント・注意点〕

実習ですので出席を重視

38	公 的 扶 助 論	2単位	朝比奈 朋 子
IV群			

〔講義目的〕

日本の公的扶助制度である生活保護制度について、歴史をふまえながら、公的扶助の理念と意義および特徴を学ぶ。合わせて、生活保護制度のしくみと近年の動向について捉えていきたい。さらに、生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について学ぶ。これらの基礎的な知識を学ぶことを通じて、現代日本の生活問題及び貧困問題を捉える上で基本となるような視点を作ることを目指したい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

1年次に社会福祉・社会福祉Bを受講していること。

〔講義内容〕

- 1 現代社会と公的扶助；概念・歴史・役割・意義
- 2 生活保護の仕組みⅠ；目的・原理・原則・種類・内容・施設の概要
- 3 生活保護の仕組みⅡ；生活保護基準・実施体制・財源・権利および義務
- 4 生活保護の動向；被保護人員（世帯）・保護開始（廃止）・生活保護費
- 5 公的扶助と相談援助活動；現業活動・関係機関との連携
- 6 低所得者対策の概要；生活福祉資金貸付制度・公益質屋・公営住宅

〔講義のすすめ方〕

公的扶助に関連した今日的话题を取り上げながら講義形式で行う。適宜、配布資料を用意する。

〔教 材〕

川上昌子編『公的扶助論』光生館

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験と出席状況によって行う。

〔履修のポイント・注意点〕

講義は半期ですが、どの福祉現場でも最低限必要とされる知識である。広く社会問題に関心を持って、社会福祉全体との関連を常に考えていく必要がある。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士受験資格要件の一つである。

39	障害者福祉論	4単位	根岸洋人
IV群			

〔講義目的〕

障害を持つ人々の存在は太古の昔から知られている。そしてその処遇は、その時代背景とともに変化してきている。現代を生きる我々には何が必要とされ、どんな課題が積み上げられているのだろうか。本講義では障害者福祉に関する基本的事項を理解し、歴史的背景の上になに立つ現代の問題点を学習していく。

〔講義内容〕

1. 障害者福祉の目的および概念
2. 障害者福祉の基本理念
3. 障害者福祉の歴史的展開
4. 障害者福祉の法体系
5. 障害者福祉のサービス体系
6. 障害者福祉と関連分野
7. 障害者福祉の課題と展望
8. トピックス
9. 世界の動向

〔講義のすすめ方〕

基本的に講義形式の予定である。ただし履修人数によって若干の変更あり。

〔教 材〕

配布プリント。その他は授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験（前後期）

40 Vst	老人福祉	4単位	三田寺 裕治
------------	------	-----	--------

〔講義目的〕

我が国の人口の高齢化は世界にも類をみない急な速度で進行している。とりわけ痴呆性及び寝たきり高齢者の発生率の高い75歳以上の後期高齢層の増加が予想されており、介護が必要になった場合でも、住み慣れた地域で安心して生活できる社会システムの整備が急務の課題となっている。

本講義では、高齢者の福祉ニーズや高齢者福祉に関する法制度・サービス体系を理解するとともに、実際の援助事例を用いて、生活支援のあり方について多面的に検討する。

〔講義内容〕

1. 現代社会と高齢者福祉
2. 高齢者の福祉ニーズの具体的内容とその把握方法
3. 高齢者福祉に関する法の目的・対象及びサービス
(老人福祉法、老人保健法、介護保険法、その他関連法規)
4. 高齢者に対する保健・医療・福祉サービスの現状
5. 高齢者分野の民間非営利活動と民間企業・シルバーサービス
6. 高齢者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携
7. 高齢者のための住宅・地域環境等の整備
8. 高齢者に対する相談援助活動の実際
9. 高齢者福祉サービスにおけるリスクマネジメント

〔講義のすすめ方〕

パワーポイントを用いて講義形式で行う。視聴覚教材も適宜用いる。

〔教材〕

テキスト 福祉士養成講座編集委員会編
『老人福祉論』中央法規
(2,500円+税)

参考図書は授業の中で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は定期試験および出席状況等でおこなう。

〔履修のポイント・注意点〕

出席を重視する。学習環境を快適に維持できるように、受講マナーを守ること。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする学生は必ず履修すること。

41 IV群	地 域 福 祉	2単位	落合崇志
-----------	---------	-----	------

テーマ：地域住民の主体を形成するための
方策を学ぶ

〔講義目的〕

地域問題を住民自らが主体を形成して解決していくためには、どのような方法があるのかを学習する。そのためには、地域福祉の概念、歴史、内容、推進方法（組織・人材・財源等）について、理解をしていただきたい。

さらには、地域福祉の時代に即応する多様な福祉活動・社会貢献活動・ボランティア活動・市民（NPO）活動を推進するプロフェSSIONALをめざし、地球的規模で福祉を考える視点と方法等の理解を深めるための学習方法の習得と実践的展開をねらいとする。

〔講義のすすめ方〕

- ・講義形式で、主に教員が講義する。
- ・グループ形式で学習効果を発表させる。

〔教 材〕

テキスト：開講時に指示する。

参考文献：授業時に随時紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

評価方法：出席30%、Rep30%、試験40%

42 V#	福祉施設経営論	2単位	川瀬善美
-----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

1997年厚生省が提供し具現化した「社会福祉基礎構造改革」は、社会福祉領域に於けるタイミングポイントとなった。

そのポイントは

- 1) 社会福祉の実施主体を公的セクターや社会福祉法人に限定していたものを、民間営利企業にまでその範囲を広げること
- 2) 社会福祉サービスの提供・給付にあたって必要度の判定・費用負担等を行政が公的責任のもとに一括して行う方式をサービス提供者と利用者が相対で交渉し民法上の契約制度に基づきサービス利用を行う
- 3) 「応能型負担」から「応益型負担」へ改める事によって福祉領域における公平概念のシフト変更を行う
- 4) 憲法第25条に基づく生存権を具体化していく為の体系としての社会福祉にあって、規制緩和を行う事によって自由に利用するサービスの質・量、内容を選択すると云う事へのシフト変更などである。

この事により福祉は措置から契約へと転換されたと言う事だけではなく戦後続いてきた社会福祉の恩恵を受ける段階から利用する段階へ、そして今まさしく消費するだんかいへと変化し、そしてそれによりその性格を変質させたと言う事を理解する。

〔講義内容〕

今まで措置制度により一律に提供実施されてきた福祉サービスは今後は消費者保護と云う規制は受けるものの「市場原理」に基づき、支払われる対価によって、その量・質・内容が決定されサービスの上限が必然的に撤廃される事となった。

その際、サービス提供を行う側として必要なマネジメントとは何かを学ぶ。

- 1) 顧客管理
- 2) C. S
- 3) コスト管理
- 3) 情報公開と情報管理
- 4) プライバシー保護
- 5) 商品開発
- 6) 苦情処理・リスク管理
- 7) 自己点検・自己評価・第3者評価

〔講義のすすめ方〕

通常の講義スタイルをとる。実在の福祉施設のケースモデルを取り上げ、ケーススタディも行う。

〔教材〕

教科書 なし

指定図書 なし

参考 // なし

講義の中で紹介する。

また必要に応じて、レジメ等を作成し配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験に出席状況を加味して行う。

試験は論述式で、講義で取り上げたテーマより出題する。

〔履修のポイント・注意点〕

本講義は社会福祉領域に関する講義である事を認識して受講してほしい。したがって、社会福祉に関する基礎的な知識を合せて取得する事が望ましい。

〔科目内容の位置付け〕

社会福祉士受験資格取得、保育士資格取得希望者には履修することを勧めたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

社会福祉・社会福祉Bを併せて履修することを勧める。

43 IV群	福祉デザイン	2単位	野田俊太郎
-----------	--------	-----	-------

〔講義目的〕

ここで講座名とした「福祉デザイン」という新しい概念は、いまだに未開拓・未発達な学問領域です。

デザイン行為の社会的な位置付けは、ビジョン（あるべき将来像）を明示して、その到達までのプロセスを合理的にかつ具体的に明らかにして行く、実践的な創造作業です。また、社会福祉の制度や理念もデザイン行為と同様に、時の社会的合意が形成するビジョンを基に参画する一人ひとりが、社会的弱者にとっての共助・公助のあり方を主体的に考え、構築していく実践であるといえます。この二つの社会的創造行為は、共に関係を保ちながら、新しい社会を育成する大切な役割を担っていると、私は考えています。

福祉に関連する活動の領域は広く、様々な専門職やその仕事をサポートする一般職の人々、また多くのボランティア人々の活動のネットワークによって成り立っています。しかし福祉の領域では、ややもすると借りものの言葉で真理や理念が語られ、必ずしも具体的ビジョンが共有され到達へのプロセスが明らかであるとはいえないのが、我が国の現状です。そこには制度上あるいは意志決定に至る方法論上の問題があることは確かなのですが、また一方で、時のスローガンと化したビジョンを批評できる科学的合理的な精神の不在も、一因です。

この講座では、様々な福祉デザインの実践例の検証を通じて、現場における実践のプロセスを注意深く観察する視点と、全体を見通すことの出来るデザイン・センスの育成を目的としています。

〔講義内容〕

- ①道具・家具デザインと福祉の現場
→ユニバーサル・デザインは可能か？
- ②環具・建築デザインと福祉の現場
→バリアフリー・デザインの功罪
- ③都市・環境デザインと福祉
→ハートビル法と社会
- ④社会制度としての福祉
→ノーマライゼーションという神話？

〔講義のすすめ方〕

上に挙げた①～④のサブセットを3週単位で、実践例を検証するかたちで論考します。受講者数の推移をみて講義形式は変化しますが、グループでのデザイン・サーヴェイを行い、プロセス・デザインの実践的手法を体得

していきます。その成果は、プロセス毎に発表（プレゼンテーション）してもらい、サーヴェイの成果をクラスで議論しシェアリング（共有）することが目標です。

〔教材〕

本論についての資料は適宜配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

プレゼの成果物と期末レポートの総合評価

〔履修のポイント・注意点〕

将来、福祉関連の仕事に就きたいと考えている学生諸君にとっては、様々な専門的知識や教養を生きた知識として定着するための、基本ソフトO.S.が必要です。ボランティア人々の情熱と善意では、もはや福祉の実践は成り立ちません。この講座を通して、基本ソフトO.S.インストールが完了すれば、その後のバージョンアップは、君の思い次第です。

〔科目内容の位置付け〕

本講座の内容は「福祉概論」とも呼べる、多領域横断的な性格を担っています。よって、総論／散文的エピソードの集積、「教養話し」に陥る宿命にあります。せっかく貴重な時間とコストを費した大学での知識の習得が、卒業と同時に散逸すること無く、実践に役立つためには、学習戦略もまた重要です。本講座では、本流の主題講義と並行して、「福祉住環境コーディネーター」資格取得のガイダンスを伏流としています。これは、一般教養は公的資格という裏付けをもって初めて、実践的知識へと昇華・定着するとの思いからです。福祉の実践に関心を持つ学生の、積極的参画を期待しています。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「基礎デザイン」を前期に履修していることが望ましい。前提についてはその項参照のこと。

「福祉住環境コーディネーター」資格とは医療・福祉・介護・建築・福祉用具・行政福祉施策に関する横断的な知識をもち、高齢者および障害者の生活特性・心身特性に合わせた住環境整備のあり方を提案し実現するための様々な調整を行う人材／資格。(東京商工会議所主催／検定資格。受験資格／制限はなし。)

44 V社	福祉計画論	2単位	加藤悦雄
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

私たちは旅行や学習など、日常的に様々な計画を立てています。計画を立てることで、目標や手段が明らかとなり、自らの行動にひとつの指針が与えられます。もちろん、旅行には偶然の出来事が不可欠だと考える人もいるでしょう。しかし、計画があることで、大きく道を踏み外すことはないという安心感が与えられることとなります。

さて、福祉の分野でも、近年たくさんの計画が立てられ実践されています。その背景には、社会福祉を取り巻く課題がとても複雑化しているという事情があるようです。混沌とした状況を整理し、目標や手段をしっかりと定めて、関係する人々の行動に指針を与えようとしています。また計画倒れに陥らないよう、様々な配慮も行われているようです。本講では福祉計画の意味と方法について学んでいきたいと思ひます。

〔講義内容〕

- ①計画の持つ意味
- ②福祉計画の実際
- ③福祉計画の方法
- ④福祉計画と市民参加

〔講義のすすめ方〕

講義形式を基本としますが、一部グループディスカッションやプレゼンテーションなどの機会を設けます。

〔教 材〕

テキストは使用せず、配付資料やビデオ教材を使用します。ただし『社会福祉小六法』のみ持参してください。

参 考 書 『ソーシャルワーク実践とシステム』 有斐閣（2002年）1,900円
『コミュニティとソーシャルワーク』 有斐閣（2001年）1,900円
中野民夫著『ワークショップー新しい学びと創造の場ー』
岩波新書（2001年）740円

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験（1回）とレポート（1回）により評価します（試験50%、レポート50%）。

〔履修のポイント・注意点〕

福祉計画は各自治体において今現在進められています。新聞記事や自治体の広報紙等に記載されることもありますから、意識して目をとおしてほしいと思ひます。また、計画作り（社会作り）に自らコミットメントしようとする姿勢も求めたいと思ひます。

〔科目内容の位置付け〕

本講は社会福祉の基本的知識を前提としますが、内容は福祉計画の基本的な知識や技術の修得を目指すものです。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

社会福祉や社会福祉援助技術の知識を基盤とする内容になります。

45	発達心理学	2単位	神戸文朗
IV群			

〔講義目的〕

本講義では、ヒトにおける身体構造や能力の経時的変化のみを論ずるのではなく、高度に進化した動物に共通する現象として発達を捉える。このような広い視野を導入することにより、我々は通常意識しないが適正な発達を可能にしている生物学的機構（built-in mechanism）への理解を深めることができると考える。

発達現象は基本的には遺伝的プログラムに従って進行するがそれだけでは不十分である。現時点での個体の状態・能力に適合した物質や情報を摂取・入力することにより成達は正常な（遺伝的に想定された）経緯を進行する。しかし特に発達初期に不適切な（或いは遺伝的に想定外の）入力が与えられると、その時点及びそれ以後の発達の経緯に継続的に否定的影響を及ぼす可能性がある。

遺伝的プログラムが発達を支配するということは、個体には正常な経緯で発達を進行させようとする行動パターンが備わっているということでもある。ヒトを含む霊長類の幼体では、それらは主として遊びという名で呼ばれている自発的な物質・情報の摂取方法である。つまり発達を進行させる主体は個体（子供）自身なのであって、親を含めた第三者が発達に果たす役割は補助的なものにすぎない。この点において、本講義は現在の日本人の多くに共通する教育観（教えれば教えるほど子供の能力は高まる）への疑問を呈している。

一方、不適切な入力による発達の逸脱は以後の補正的入力によって修正可能であろうか？この点については発達の不可逆性と可塑性という観点から、初期経験の効果、学習可能性、教育的介入について論じたい。

また、子供達の（特に認知的）発達を促進させることも現代社会の一つの要請といえよう。そのためにはどのような働きかけやタイミングが必要なのかについて考察したい。

繰り返しになるが、正常に発達が進行する上で重要なのが最初期における適切な刺激入力である。そして、そのための生物学的機構が母子双方に備えられていると考えられる。これについて母子相互交渉の観察研究を紹介したい。

最後に、比較的長期的の展望の中で初期経験が幼児期・学童期・成人期の社会性に及ぼす効果や、親となった際の育児行動に及ぼす効果について資料を検討したい。

本講義では、ヒトの発達が実際どのように進行するかについて詳細に触れることはない。それらについては他の講義（たとえば、私の「教育心理学」）を参照されたい。

〔講義内容〕

1. 発達とは何か
未熟から成熟へ（遺伝子の拡散、生理的

早産、依存、自立）
スキヤモンの発達曲線（発達において優先されるもの）

神経細胞と神経系の発達（グリア細胞と神経細胞、神経回路網、不用な神経細胞の死滅）

遺伝と学習（発達プログラム、最適刺激、発達の限界）

2. 初期経験
愛着行動、母性的剥奪、隔離飼育、分離不安
初期経験効果の不可逆性と可塑性（感覚運動フィードバック、視覚剥奪、母親への愛着）
好奇心・探索、安心、母親安全基地論
3. 身体的発達
乳児期の感覚運動能力（遠感覚と近感覚、原始反射）と発達遅滞
4. 認知的発達
豊かな環境と貧しい環境
同化・調節と漸成説
能力感と探索行動
5. 他者との関係
0～3カ月までの母子相互交渉
母子の絆（相互の応答性、従順性、良い循環・悪い循環、虐待）
仲間の役割と父親の役割
6. 長期的展望
学童期における社会性・反社会性
親としての養育行動・遺伝によらない行動特性の継承

〔講義のすすめ方〕

用意された図や写真等の資料を基に、口頭での説明を行っていく予定である。

〔教材〕

印刷された資料を用意する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果に基づき成績評価を行う。出席率は受験資格を満たしているかどうかの判定にのみ使用し、出席率を成績に反映させることはない。得られた得点分布に基づき各人の得点はカテゴリー分類され、それを成績とする。

〔履修のポイント・注意点〕

口頭及び黒板を使っている説明が主となるので諸君は効率よくノートを取って欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

特になし。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提の科目はないが、私の「心理学A」及び「教育心理学」は関連した内容を含む。

46	青年心理学	2単位	伊東孝郎
IV時			

〔講義目的〕

青年期は「疾風怒濤」の時期といわれるほど、悩み苦しみに満ちたものである。一方で青年期はまた、それまでとはうって変わった素晴らしい成長と出会いが待ち受けている時期でもある。当然、この時期に成し遂げなければならない発達上の課題が多々存在する。人は青年期に、この課題とどう向き合うかによって、その後の人生が決定づけられるといっても過言ではない。

本講義では、受講生の多くがそのただ中にいる青年期の、心理的特徴について理解することを目的とする。同時に、受講生自らの成長につながる思索の機会を提供する。

〔講義内容〕

- ・青年期とは
- ・エリクソンの発達理論
- ・こどもの発見
- ・青年期の発達課題
- ・青年期のさまざまな悩み
- ・青年期の性
- ・「周辺人」としての青年
- ・NEET（若年無業者）と引きこもりについて
- ・青年期の問題行動
- ・自殺について
- ・青年による犯罪
- ・青年期の間関係
- ・アサーション・トレーニング
- ・まとめ

〔講義のすすめ方〕

本講義においては、青年期に関する知識を単に伝達するにとどまらず、自ら考え、さまざまな技法を経験するという、体験型学習的な形式も取り入れて講義を進める。

〔教 材〕

特に指定しない。必要に応じて講義中に知らせ、また印刷物を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末の試験（50%）と出席状況（50%）による。

〔履修のポイント・注意点〕

先に述べたように、本講義は体験型学習の側面もあわせ持つ。自ら積極的に授業に参加する覚悟をもって受講すること。

〔科目内容の位置付け〕

人間発達の重要な時期である青年期の心理を学ぶことは、将来、人間の発達に関するどのような分野を学ぶにしても、きわめて重要である。もちろん、青年期を主な研究テーマと考えている者にとっては、必須の科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

関連科目として、「心理学A」「心理学B」を受講していると、理解がいつそう容易になると思われる。

47 IV期	環境心理学	4単位	平田乃美
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

- 1) 人間－環境の相互作用の視点から、人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する。
- 2) 心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について学ぶ。
- 3) 1)、2) を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点について考える。

〔講義内容〕

環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間－環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。

〔講義のすすめ方〕

〔主要テーマ〕

- 研究史(1)：環境心理学のはじまり
- 研究史(2)：人間の生活環境
- 環境の認知(1)：感覚・知覚・記憶の基礎知識
- 環境の認知(2)：視覚の特性を経験する
- 環境の測定・評価(1)：
 - 測定・評価のための基礎知識
- 環境の測定・評価(2)：
 - S D法、各種心理学的手法による景観の評価
- 空間の心理学(1)：
 - 空間認知、距離認知、空間イメージ
- 空間の心理学(2)：
 - パーソナル・スペース、認知地図
- 色彩の心理学(1)：
 - 色彩とはなにか、色彩の知覚
- 色彩の心理学(2)：
 - 色彩のイメージと心理的効果
- 環境の快適性(1)：
 - デザインの性質と情動的評価、実験美学
- 環境の快適性(2)：
 - 匂い、音環境、感性

〔教材〕

授業で紹介されたテーマについて、更に関心がある場合は、毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕

環境の評定・記述の技法を実習形式を取り入れて学ぶため、定期試験は実施せず、各テーマの課題（実施5～6回、比重30％）と、小テスト（1～2回、70％）の合計点で評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

課題提出率が60％以下の場合、評価対象となりません。

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「選択科目」（社会心理学・産業心理学）に区分される科目です。資格取得を希望する場合は、履修要項等を熟読して計画的な履修を心掛けてください。

48 Ⅳ群	認 知 心 理 学	2単位	神 戸 文 朗
-----------	-----------	-----	---------

〔講義目的〕

認知心理学という言葉で表される領域は非常に広範ですが、その中でも幾つかの領域は神経科学やコンピュータ科学等の隣接科学と結びついて現在の心理学のhottest spotを形成しています。この領域をよく理解するためには高度の数学的、工学的、大脳生理学的・神経学的・心理学的な背景知識が必要で、私自身もよくそれをするものではありません。しかしこの大きな心理学の流れが半世紀の間にどのように誕生し、現在に到ったかを知ることが、現代心理学の問題意識を理解する上で不可欠だと思います。この講義は私の「心理学B」に引き続く内容にしようと考えています。「心理学B」ではヒトの認知機能・能力に関する事実の紹介に主眼を置き、「認知心理学」ではこの学問の進歩を推し進めてきた理論家の学説の紹介を主とし、それらから現在に至る研究の動向にも触れてみたいと思います。

〔講義内容〕

1. 現代心理学における認知心理学の意義
2. 反行動主義の流れと認知心理学の誕生
3. 認知革命を構成する主要な所見の幾つか
 - 1) フィルター理論と2段階情報処理
 - 2) 記憶の3段階説
 - 3) 知覚的循環
 - 4) 二元符号化理論と表象の性質
 - 5) イメージ論争と心的回転
 - 6) パターン認知とカテゴリー化
 - 7) スキーマとスクリプト
4. 現代の問題意識
 - 1) 特徴の検出と特徴統合
 - 2) 作動記憶システムと関連脳領域及び中央処理実行系
 - 3) 視知覚とイメージの共通成分はあるか?
5. 関連する知見
 - 1) 神経伝達の仕組み
 - 2) 並列分散処理

〔講義のすすめ方〕

図を含む様々な資料を配布する予定です。授業はこの資料に基づいて進行しますので決して持ってくることを忘れないこと。

〔教 材〕

単一の教科書等は指定しません。多数の資料を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

成績評価は基本的に定期試験の内容に基づきます。判定基準は試験の結果得られた得点分布に基づきます。受験資格の決定には出席率を厳格に適用します。

〔履修のポイント・注意点〕

ここで述べられる内容は私の心理学Bを受講した人以外はほとんど初めて聞く内容だと思います。なるべく分かりやすく説明するつもりですので、最後まで興味を持って挑戦を続けてください。そのためには、資料を忘れないこと、そして黒板への書きこみだけでなく口頭での説明もノートをしてください。

〔科目内容の位置付け〕

心理系の学部の専門科目にほぼ該当すると考えます。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

この科目は私の「心理学B」の内容を引き継ぐものですので、これを受講することを期待します。

49 IV期	臨床心理学	2単位	伊東孝郎
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

臨床心理学とは、人間存在を深く見つめ、悩みや問題を抱えている人の「こころ」を援助するための学問である。この100年余りの間に、さまざまな理論と実践を、我々は手にしてきた。本講義においては、臨床心理学の基礎的な理論を学ぶ。同時に、対人援助の心理学的技法についても、体験的に学習することとする。

〔講義内容〕

- ・臨床心理学とは
- ・臨床心理学の歴史
- ・発達段階における課題と問題
- ・「こころ」のメカニズム
- ・心理アセスメント(1) 面接法
- ・心理アセスメント(2) 観察法
- ・心理アセスメント(3) 検査法
- ・コミュニティー援助の実際
- ・精神の病理と障害
- ・心理療法の基礎(1) 精神分析
- ・心理療法の基礎(2) パーソン・センタード・アプローチ
- ・心理療法の基礎(3) 芸術療法
- ・事例研究
- ・まとめ

〔講義のすすめ方〕

本講義は、人間の「こころ」の深部をとり扱う、デリケートなものである。人間一般を知るには、まず自分自身を知る必要がある。自らを見つめる作業こそが、人間の心理について学ぶことの入り口なのである。

講義の中では、こうした作業（ワーク）をたびたび指示することになる。若い受講生にとって大変な作業ではあるが、この学問から学ぶものの重要性を考え、真摯にかつ積極的に受講してほしい。

〔教 材〕

教科書：特に指定しない

参考書：下山晴彦編「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房 2003 2940円
M.ハーセン&V.B.ヴァンハッセル編／深澤道子監訳「臨床面接のすすめ方—初心者のための13章」日本評論社 2001 3150円

他、必要に応じて講義中に適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

成績は、学期末のレポート（50%）と出席状況（50%）による。

〔履修のポイント・注意点〕

本講義は、臨床心理学という膨大な知と実践の領域の入門編である。講義では、時間的制約から、そのごく一部を紹介するにとどまるが、自ら積極的に関連する書物にあたるなど、学習を深めてくれることを期待する。

〔科目内容の位置付け〕

人間を深く学ぶ臨床心理学は、心理学という科学的な学問分野の中であって、技法を通しての実践（治療や援助）という「直接の効果」を期待されることの多い、特殊な学問である。将来、教育や福祉の分野に進む学生にとっては、きわめて得るところの大きい学問領域であるといえる。

同時に、臨床心理学の学習として、自己との対話もさまざまな場面で行うことになるため、真摯にワークを行うことで、自己理解も深まることが期待される。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

関連科目として、「心理学A」「心理学B」を受講すると、理解がもっとも容易になると思われる。

50 V群	精神保健学	2単位	伊崎純子
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

- 1) 精神保健の意味するものを理解する
- 2) 発達段階に応じた成長と生じやすい問題を理解し、対応について学ぶ
- 3) 精神障害の人々やその家族の人権と福祉について考える

〔講義内容〕

- 第1回 インTRODクシヨン：精神保健とは
 第2回 家族関係の変化と精神保健
 第3回 生活環境と精神保健
 第4回～第5回 子どものライフサイクルと精神保健
 第6回～第8回 問題行動の理解と対応
 第9回～第11回 発達障害の理解と対応
 第12回～第13回 成人の精神障害（補足）
 第14回～第15回 まとめと振り返り

〔講義のすすめ方〕

この講義では、各発達段階より特に乳幼児期に注目するが、子育て中の家族および家族をとりまく地域の精神保健までをその範疇とする。概ねテキストに従って、総論、子どもをとりまく環境、各発達段階において生じやすい諸問題とその対応について概観する。その他、専門機関との連携が必要と考えられる子どもの発達障害（自閉症、ADHD、LD、知的障害）に関してとりあげる。最後にテキストを補足して、摂食障害、神経症、統合失調症などの精神障害についてもとりあげる。

〔教材〕

教科書は、講義中に使用するので必ず購入すること。

教科書 『保育ライブラリ 精神保健』
 松橋有子ほか編著
 北大路書房・1900円＋税

参考書 講義の中で適宜指示

〔成績評価の方法・基準〕

出席10% 期末テスト90%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

特になし

〔科目内容の位置付け〕

保育士必修科目（保育の対象の理解に関する科目）である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

3年次開講必修科目である「障害児保育」や2年次開講選択必修科目である「臨床心理学」もあわせて受講するとより理解が深まると思われる。

51 V群	親子関係の心理	2単位	伊崎純子
-----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

- 1) 親子関係の中でも先行研究の多い母子関係に焦点をあて、知識を深める
- 2) 父子関係、里親と里子の関係、障害児とその親との関係についても理解する

『母親の就労と子どもの発達』

E.E.ゴットフライドら著

ブレーン出版

『きっとだいじょうぶ～サラと歩いた日々』奇恵英著

西日本新聞社 など

〔講義内容〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 不妊・妊娠から出産期の関係（関係性の世代間伝達）
- 第3回 乳幼児期の関係①（情緒的応答性・情動調律）
- 第4回 乳幼児期の関係②（分離個体化）
- 第5回 分離個体化のVTR鑑賞
- 第6回 児童期の関係（父子関係）
- 第7回 思春期・青年期の関係（第2の分離個体化）
- 第8回 成人期（巣立ち）・壮年期の関係（老人介護）
- 第9回 里親と里子の関係①
- 第10回 里親と里子の関係②（VTR鑑賞）
- 第11回 障害児とその親の関係①
- 第12回 障害児とその親の関係②（VTR鑑賞）
- 第13回 親－乳幼児心理療法と子育て支援
- 第14回～第15回 まとめ

〔成績評価の方法・基準〕

テストは実施しない
レポートは学期中に3回提出
その他、不定期に講義の感想を提出
3分の2以上の出席が確認できない場合は評価の対象外とする。
最終的には出席20% レポート80%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

特になし

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格取得を希望する場合は、受講することが望ましい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特になし

〔講義のすすめ方〕

乳幼児をめぐる心理療法論では、最早期における関係性が注目されている。母子をひとつのユニットと捉え、関係そのものにアプローチをしようとする視点である。この講義では、関係性の世代間伝達、情緒的応答性、情動調律、分離個体化、虐待といったキーワードをもとに、母子関係を対象とした研究及び理論を紹介する。また研究数は少ないものの、重要である父子関係、また里親と里子の関係、障害児とその親の関係といった話題にも触れていきたい。

〔教材〕

参考書 多くは推薦図書として、第1回目の講義内で指示
『親－乳幼児心理療法』
D.N.スターン著・岩崎学術出版社
『母子と家族への援助』
吉田敬子著・金剛出版
『完璧な親なんていない!』
J.W.キャタノ著・ひとなる書房

52	心理学基礎実験	2単位	伊崎純子
IV群			

〔講義目的〕

- 1) 心理学実験の手続きや考え方を学習する
- 2) データ処理やルールに沿ったレポートの書き方を実際に体験する
- 3) レポートをルールにそって書き、メールで添付し提出できる技術を獲得する

〔講義内容〕

- 第1回 オリエンテーション
 第2～3回 ミュラー・リヤーの錯視
 第4～5回 大きさの恒常性
 第6～7回 レポート返却ならびに解説①
 第8～9回 鏡像描写
 第10～11回 語の記銘
 第12～13回 レポート返却ならびに解説②
 第14～15回 奥行知覚のてがかり
 第16～17回 明るさの対比
 第18～19回 レポート返却ならびに解説③
 第20～21回 心理尺度の構成—対比較法による
 第22～23回 性格の認知—向性検査を手がかりとして
 第24～25回 レポート返却ならびに解説④
 第26～27回 今後の課題とまとめ

〔講義のすすめ方〕

オリエンテーションで詳細は説明するが、二週かけてひとつのテーマ／実験方法について概略的な講義をしたのち、決められたテーマと手続きに沿って基本的な実験を行い、心理学実験の手続きや考え方、データの処理の方法、レポートの書き方のルールなどを学ぶ。一年かけて心理学の基礎的テーマについて習熟するとともに、研究の基本的手法を修得することを目標とする。具体的には、知覚、認知、社会、学習、生理、臨床、人格などの領域で、基礎的な実習を行う。最後にまとめとして、各自興味のある問題を想定し、仮説と方法を計画する課題に取り組んでもらう。

〔教 材〕

教科書は講義内で使用するので必ず購入すること。

教科書 『教材心理学』（第4版）
 木下富雄編集・ナカニシヤ出版
 2000円＋税

参考書 （レポートを書く際に役立つと思われるもの）

『心理学実験を愉しむ』

宮原英種ほか監修

ナカニシヤ出版

『心理学実験ノート』

心理学実験ノート編纂委員会編

二瓶社

『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』

心理学実験指導研究会編・培風館

『実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）』

心理学実験指導研究会編・培風館

『心理学のための実験マニュアル』利島保ほか編著・北大路書房

〔成績評価の方法・基準〕

実験ごとにレポートの提出が必須。

出席50% レポート50%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

実験という演習の性格上、遅刻するとクラスメイトに迷惑がかかるので、遅刻は認めない。またやむを得ず欠席する場合は、補講を行うようにするので、事前に教員に相談すること。無断欠席で、レポートのみを提出しても評価しない。

※実験器具の関係上、定員は30名程度とする。認定心理士資格希望者で高年次の学生を優先するが、資格希望者は若い年次での受講が望ましい。履修者の決定は、初回授業で行う。

〔科目内容の位置付け〕

心理学の基礎的な科目であり、認定心理士必修科目（基礎科目：心理学実験・実習）である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「心理学研究法」「心理測定法」で実験計画に関わる統計の考え方などの概要を把握してから受講すると、より知識を深めることができ、実験ならびにレポート作成の体験が意義あるものとなる。

53	心理測定法	2単位	伊崎純子
----	-------	-----	------

〔講義目的〕

- 1) 心理測定に関する理論的背景について学ぶ
- 2) さまざまな先行研究の紹介を通して、具体的な測定方法について理解を深める
- 3) 心理学研究に必要な最低限の統計的な考え方をイメージできるようにする

〔講義内容〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 心理学的事象と測定法について
- 第3回 定数測定法としての精神物理的測定法
- 第4回 調整法
- 第5回 極限法
- 第6回 恒常法
- 第7回 名義尺度
- 第8回 順序尺度
- 第9回 間隔尺度および比例尺度
- 第10回 因子分析法
- 第11回 多次元尺度法
- 第12回 信号検出理論
- 第13回 測定の信頼性と妥当性、倫理的諸問題
- 第14回 まとめ
- 第15回 予備日

〔講義のすすめ方〕

心理学が職人芸（アート）の世界から脱却し、その知見が一般に還元される科学となるためには、客観性が肝要である。即ち、生のデータ・体験の適切かつ妥当な数値的変換が必要となる。そのための理論的根拠を講義内容に従って、順次講義する。具体的には、人間の精神的な機能を測定することを主旨に、精神物理学的測定法（調整法、極限法、恒常法）や尺度構成法（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）の意味とその扱い方について学ぶ。当然、そこでは心理学研究に必要な最低限の統計的な考え方（母数推定）も扱う。数学が苦手という者も理解しやすいよう、感覚・知覚、認知（記憶、学習、思考など）、社会行動、発達などの各領域における先行研究とそこで用いられた測定法の紹介を通して、心理測定に関する基本的な概念について講義したい。

〔教材〕

教科書は講義で使用するので必ず購入すること。

教科書 『心理測定法への招待』
市村伸一編・サイエンス社
2700円＋税

その他、必要に応じて資料を配布

参考書 『心理学的測定法（第2版）』
田中良久著・東京大学出版会
『学生のための心理統計法要点』
丸山欣哉、佐々木隆之、大橋智樹
著・ブレーン出版

〔成績評価の方法・基準〕

不定期に講義の終わりに内容が理解できているかどうかを確認する小テストを実施する。期末テストは、主に小テストから出題する予定。

3分の2以上の出席が確認できない場合は、評価の対象外とする。

最終的には出席20%、小テスト20%、期末テスト60%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

「認定心理士」資格取得を希望する場合は、若い年次での履修が望ましい。履修要項等を熟読して、各自が計画的な履修を行うこと。

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格選択必修科目（基礎科目：心理学研究法）である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「心理学研究法」で統計の考え方などの概要を把握してから受講すると、より知識を深めることができよう。

54 IV群	心理学研究法	2単位	オムニバス方式 (心理学担当教員) 伊崎純子 伊東孝郎 神戸文朗 中谷陽子 平田乃美
-----------	--------	-----	---

〔講義目的〕

- 1) 心理学における科学的・実証的な研究方法について理解する
- 2) 実験計画法、仮説検証や統計的検定の基本的な考え方と適用の実際を学ぶ
- 3) 臨床・教育現場における心理学研究の実際について考える

〔講義内容〕

本講義は、心理学教員（5名）各2～3回のオムニバス方式で、心理学における各種研究法を概観する。前半は実験計画法や統計的手法の基礎知識について、後半は実際の臨床・教育現場における心理学研究の活用について学ぶ。

〔講義のすすめ方〕

第1回 オリエンテーション（担当：平田）

第2回～第3回 科学としての心理学(1):
実験計画法（担当：神戸）

心理学研究の目的は、人間の行動や諸能力を科学的・実証的方法によって究明することであると考えられる。本講義では、まず科学的な思考形式、および条件統制や測定、結果の適切な解釈など実験心理学の基礎を学び、次に実験計画から、データ解析、科学的なレポート作成までのプロセスについて概説する。

第4回～第5回 科学としての心理学(2):
記述統計（担当：平田）

心理学における測定データの数値化や記述の技法（尺度の水準、数値の整理、母集団と標本、代表値、標準偏差）について学ぶ。また、SD法やサーストン法などの各種測定尺度、項目分析などの統計手法の基本的な考え方や適用についても解説する。

第6回～第7回 科学としての心理学(3):
推測統計（担当：伊崎）

心理学研究における統計学的に全体の傾向を推測する手法（カイ2検定、t検定、分散分析、相関係数）について学ぶ。また、臨床心理学の検定手法を概観して、子どもや母子を対象としたデータ収集や数値化における留意点、倫理問題などについても解説する。

第8回 前半まとめ（担当：伊崎）

第9回～第10回 臨床・教育現場における心理学(1): 子どもの発達障害（担当：中谷）

乳幼児から児童（特に心身障害児学級、及び将来の特別支援教育）の臨床研究におけるフィールドワークの技法（行動目録や評定尺度の作成、プロトコル分析など）を紹介する。臨床心理学における実践研究の解説を中心に、発達障害をもつ子どもの遊びや発達を促す要因を探るフィールドワーク研究の実際について解説する。

第11回～第12回 臨床・教育現場における心理学(2): 心理検査法（担当：伊東）

小学校から中学高等学校における臨床活動、および、心理検査法の基礎について学ぶ。実際のスクール・カウンセリングの事例を通して、学校現場での心理実践のあり方について考える。また、代表的な心理検査の実施と解釈を行い、心理検査の理論と技法について理解する。

第13回 後半まとめ（担当：伊東）

第14回 全体まとめ（担当：中谷・神戸）

第15回 予備日

〔教材〕

参考書 『心理学研究法入門』

南風原朝和ほか編

東京大学出版会

〔成績評価の方法・基準〕

担当教員（5名）の平均値で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

「認定心理士」資格取得を希望する場合は、若い年次での履修が望ましい。履修要項等を熟読して、各自が計画的な履修を行うこと。

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では「基礎科目」に区分される科目であり、心理学研究を開始するための基礎科目と位置づけられる。

55	心理学実験調査法	2単位	平田乃美
IV群			

〔講義目的〕

- 1) リカート法による態度尺度の構成を学ぶ
- 2) マグニチュード推定法とカテゴリー評定法による重さの感覚尺度の構成を学ぶ
- 3) 1)、2)の課題を通して、心理学的実験と心理学的調査の方法論を学習する

〔講義内容〕

この授業では、2つの「心理尺度の構成」課題を通して、心理学的な実験と調査の方法論を学び、仮説と実験結果を客観的に記述する心理学研究の基礎能力を養います。実習は数名のグループで行いますが、実験結果の検証、統計的検定、レポート作成までは各自が個別に行います。

〔講義のすすめ方〕

「心理尺度の構成」

(1) 態度尺度の構成

態度尺度の構成では、物理量としては測定できないが社会的実体として知覚される対象に対する「好ましさ」の程度を測定する心理尺度を構成します。

ここでは調査の研究法として、調査票の作成過程では「インフォームドコンセント」の重要性について、調査結果の分析過程では項目分析や平均値の差の検定などに基づく「測定の標準化の要件」すなわち「母集団および尺度の信頼性と妥当性」について学習します。

(2) 重さの感覚尺度の構成

感覚尺度の構成では、物理量に対応して生起する心理量を測定する「心理尺度」を構成します。

ここでは実験の研究法として、 $Y=f(X)$ 、物理量（重量 $\times X$ ）を独立変数、心理量（重さの判断 Y ）を従属変数とする因果（原因と結果）の関係を検討すること（関数の決定）を学びます。また、関数の決定（対数関数とべき乗関数の当てはめ）では課題の中で、線形回帰の適用について解説します。

具体的には、直接法（マグニチュード推定法）と間接法（カテゴリー評定法）の2手法の実験データに基づく感覚尺度を構成して、仮説（物理量と心理量の関係性）と2尺度の論理的な関係式（関数関係）とを検証します。

〔教材〕

初めて心理学実験に参加する受講生も多いかと思しますので、できる限り分かりやすい配付資料を準備します。実験計画法や心理測定法について更に詳しく学びたい方は、配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験は実施せず、2つの課題のレポートの合計点で評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

実習科目のため、実験等に欠席した場合は評価対象となりません。

※実験器具の関係上、定員は30名程度とします。履修者の決定は、初回授業または掲示された日時の説明会で行います。

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「基礎科目」（心理学実験・実習）に区分される科目です。資格取得を希望する場合は、履修要項等を熟読して計画的な履修を心掛けてください。

56 IV群	国 語 概 説	2単位	生野金三
-----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

国語概説では、国語に関する基礎的・基本的な知識を分析的視点より探究すると同時に、小学校の国語科の指導内容を「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」等の三領域にわたって探究する。このいずれも国語科の授業（学習指導）を展開するに当たって、その基盤となる内容である。

上記のことを踏まえ、特に国語科における授業（学習指導）実践を視野においた模擬授業の設計について研究していくことにする。

〔講義内容〕

本科目では、国語科における実践的指導力の基礎の育成を志向し、概ね以下のような内容になる。

- 1 言語生活の様相
- 2 表現と理解との関連
- 3 表現過程と理解過程
- 4 仮名遣い
- 5 教育漢字
- 6 国語科の内容の構成
 - ・「A話すこと・聞くこと」
 - ・「B書くこと」
 - ・「C読むこと」
 - ・「言語事項」
- 7 教材「ごんぎつね」の授業設計
 - ・教材の分析
 - ・指導目標の検討
 - ・指導事項の検討
 - ・指導の手順の検討
 - ・発問事項等の検討
 - ・教材・教具の検討

〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、国語科における授業設計を目指しているので、受講生は毎回の授業が次の時間へ継続発展していくことを認識しておくこと。

〔教 材〕

テキスト 文部省「小学校学習指導要領解説
国語編」 東洋館出版社
生野金三「新美南吉研究」
丸善株式会社
豊澤弘伸・生野金三「日本語概説」
学教図書出版会

〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、ミニテストの四者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目の「国語科教育法」「初等教材研究A（言語・文化系）等の基礎科目として位置付けられている。国語科の授業（学習指導）を行う際の基盤となる科目であるという認識のもとに授業に臨むこと。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

初等国語、国語科教育法、初等教材研究A（言語・文化系）

57	社会科概説	2単位	奥澤信行
IV群			

〔講義目的〕

小学校社会科の学習内容のうち主として地理的分野を扱う。社会科は第3学年から履修が始まるが、第3～5学年では地理、第6学年で歴史および公民の内容を扱っており、地理に関する分量が多くなっている。地理的な内容で扱う空間については、身近な地域から始まって、市町村・都道府県・国・世界の中の日本へと面的スケールを順次拡大させる構成になっているが、それぞれの空間に関して、単に地名や特産品を暗記させる無味乾燥な学習を排除し、地理的事象を観察、調査した上で具体的な資料を効果的に活用して、地域社会の特色や地域間相互の関係を考える「問題解決能力」の育成が重視されている。本講義ではこのような地理の本来あるべき姿に主眼を置いて、地理の面白さを受講生が感じ取れるようにした上で、さらにこれを児童に伝える方法にまで踏み込んだ説明を行う。

〔講義内容〕

- I 社会科の成立と変遷
 - ①社会科の成立
 - ②小学校社会科の変遷
- II 社会科教育の目標
 - ①教科目標
 - ②学年目標
- III 社会科教育の内容
 - ①第3学年および第4学年の内容
 - ②第5学年の内容
 - ③第6学年の内容
- IV 社会科の実践課題
 - ①地図や地図帳の活用
 - ②情報の収集と活用
 - ③「総合的な学習の時間」との関連

〔講義のすすめ方〕

小学校の社会科についてその概観を理解することが目的であるため、講義が中心となる授業である。なお小学校を現場とした諸問題が発生した場合にはこれを授業で即座に取り上げ、ディスカッションにより教育への関心をより深化させたい。

〔教 材〕

テキストは特に使用せず必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書 『社会科教育の研究』佐々木昭著
学文社
『改訂小学校学習指導要領の展開
社会科編』北俊夫編著 明治図書

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況と試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化することで出席状況が評価を左右することがある。学生証によるタッチ式の出席も併用するが、カードとタッチ式の出席状況に差異が生じた場合には、カードによる記録を優先する。定期試験は論述式により解答する形式で、授業で取り上げたテーマから出題する。なおノート等の持ち込みは一切認めない。規定回数以上出席した受講生を評価対象者とし、試験の成績75%、出席点25%の割合で評価する。また授業中の積極的な発言はプラス点として加味したい。

〔履修のポイント・注意点〕

この科目は必修ではないが、小学校教員免許取得希望者の大半が履修していると思われる。その点を踏まえ、教育現場の実態についても具体例を挙げて説明するので、受講生も常に教育問題に関心を持って授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関わる社会問題については、これを生きた教材として利用したいので、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。また教員希望であるからには、基本的に真面目であることが前提となるであろう。真摯な態度で授業に取り組んでもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕

小学校社会科で扱う内容について、基本となる事項について説明する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

この科目を履修した上で、より実践的な社会科教育法へと継続するので、なるべく2年次に単位を修得してもらいたい。また教職のための地理という性格が強い科目であるため、地理学全般を概観する意味から教養科目の「地理学A・B」を履修することを薦める。

58	算 数 概 説	2単位	落合昭二
1/4			

〔講義目的〕

本講義の目的は算数のより深い理解を得ると共に、必ずしも教職を志望しない諸君に対しては、生きた数学の中から興味あると思われるトピックスについて、数学の考え方を算数と関連させながら学ぶ事である。

〔講義内容〕

講義の項目は次の4つである。

1. 集合
2. 数
3. 代数
4. 幾何

それぞれは広い内容を含むものとなっているが、「講義目的」に述べた様に小学校の算数のより深い理解が得られるものとする。

〔講義のすすめ方〕

講義を中心に授業を進めるが、演習を加え、質問に答えてもらう。又、講義の中で理解出来なかった事や気づいた事をレポートとして提出してもらう。

〔教 材〕

教科書は使用しない。必要な場合は指示し、印刷物を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の1/3以上欠席した者には単位を与えない。

- ①出席状況とレポート50%
- ②定期試験50%

で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

いわゆる数学の定理とその証明の羅列と云う形にならない。数学の考え方を中心に述べる。

〔科目内容の位置付け〕

最低限必要な予備知識は必要ない。高校卒業程度の数学で充分である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

関連科目として、初等算数、算数科教育法がある。

59	理 科 概 説	2単位	細 野 英 夫
IV#			

〔講義目的〕

小学校理科は自然科学の基礎となるものを身につけることである。ここでは小学校理科について全体的な理解が目的となる。

具体的には、小学校理科の目標・内容・方法・評価・実験と観察・理科の安全指導・理科の施設・設備などについて学ぶことである。

〔講義内容〕

- 1) 小学校理科の目標について
低学年・中学年・高学年理科の目標
- 2) 小学校理科の内容について
低学年・中学年・高学年理科の内容
 - ・A領域－生物と環境の内容
 - ・B領域－物質とエネルギーの内容
 - ・C領域－地球と宇宙の内容
- 3) 科学の方法 観察 測定 仮説 定義など
- 4) 実験と観察 器具と薬品について
- 5) 環境教育について

〔講義のすすめ方〕

理科概説は小学校の理科全般について理解することが目的であるから、その目的の達成すべく講義を進める。

概説であるから、実験観察より講義中心になる。しかし、より立体的な理解のため視覚の活用（VTRなど）を考えている。

〔教 材〕

教科書 小学校理科指導の研究 建帛社
参考書 別に示す。
VTR

〔成績評価の方法・基準〕

テスト 学期末の定期試験を中心とする。

レポート 学期2回

判定基準

- ・テスト点数 60%
- ・出席率 20%
- ・レポート 20%

科学的思考・関心・態度や観察・実験の技能に関する事柄を考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕

知識は重要だが、単なる知識よりも“科学を考える”ことが、より重要ポイントとなる。

提出するレポートについては授業中に指導するが、本の丸写しには点は与えない。

3・4年時と、より専門的になるが、理科概説は入門編として位置付けられる。次にしっかりとつながるような学習を心がけよう。

チャンスをつくって母校等を訪れ理科の授業を見学してみることを考えてみたらどうだろうか。考えてもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕

子供たちの理科離れが問題となっている。それを無くすためには教師は最も重要な役割を担っている。子供の立場に立ち、子供の目線で物事を理解する視点が必要である。

理科は自然科学を基礎として成り立つ学問であるから、自然科学の知識が必要であるが同時に、子供どうしのコミュニケーションの場となるような工夫。観察・実験、飼育・栽培、製作活動への積極的な参加などを考えることが肝要である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はない。

関連科目として教養科目の生物学・化学・物理学・地学・天文学は理科の基礎として履修しておきたい。

60	生活科概説	2単位	堀江潤一
IV期			

〔講義目的〕

- ①生活科の意義、目標、内容、方法等の概要を理解し、実践への意欲を持つこと。
- ②生活科の特質の理解をとおして「子どもの学び」を考えること。
- ③生活科における地域の教育的資源とは何かを理解し、その活用について考えること。
- ④教職員としての資質の基礎を培うこと。

〔講義内容〕

- 1 小学校教育と教科等の構成
- 2 生活科誕生の経緯
- 3 生活科の意義
- 4 新しい生活科の誕生（改訂の趣旨・要点）
- 5 生活科の目標と内容の構成
- 6 生活科の内容①
(1)学校と生活、(2)家庭と生活
- 7 生活科の内容②
(3)地域の生活、(4)公共物や公共施設の利用
- 8 生活科の内容③
(5)季節の変化と生活、(6)自然や物を使った遊び
- 9 生活科の内容④
(7)動植物の飼育・栽培、(8)自分の成長
- 10 指導計画の作成①（環境の構成）
- 11 指導計画の作成②（単元の配列）
- 12 学習指導の要点
- 13 生活科の評価
- 14 他教科等との関連

〔講義のすすめ方〕

- ・講義形式を原則とするが、6～11についてはできるだけ実践事例等を活用して具体化を図りたい。
- ・作業やフィールドワークを随時取り入れたい。

〔教 材〕

- ・小学校学習指導要領解説・生活編（文部省）
（50円＋消費税）
- ・自作プリント等（随時）

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況（50%）、小レポート（25%）、小テスト（25%）により総合的に評価をする。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・できるだけ具体的な活動を取り入れたい。そのための準備は事前に指示する。
- ・出席を重視する。
- ・毎回、小レポートまたは小テストを実施し、出欠の確認と成績の評価をする。

〔科目内容の位置付け〕

- ・生活科は児童にとっても教師にとっても楽しい教科でありたい。そのための具体的な体験や活動を重視したい。
- ・幼稚園教育との関連を視野に入れた取り組みが重要である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：特になし
関連科目：生活科教育法、教育実習（小学校）

61	家庭科概説	2単位	榎田真澄
IV期			

〔講義目的〕

小・中・高を通して学んできた家庭科には、どのようなイメージを持っているだろうか。何が印象に残り、どんなことが実際の生活に役に立っているのだろうか。生活を見る目や知識は、社会との係わりの中で実際に生きているだろうか。一方、良い成績をとるために教科書を丸暗記した思い出はないだろうか。

この講義では、小学校、中学校、高等学校の衣・食・住・家族や保育など家庭科の内容全般に関して検討し、「自立と共生」の立場から、これからの時代に生きて働く家庭科について概説する。従って、教科書の記述の枠組みを超えて児童生徒の側に立ち、自由な発想から内容や指導方法や評価方法などを検討してみたい。

〔科目内容の位置付け〕

必修（この科目を履修しないと、3年次の「家庭科教育法」は受講できない。）

〔講義内容〕

1. 食生活を考える
2. 小・中・高の食生活関連の学習の検討する
3. 衣生活を考える
4. 小・中・高の衣生活関連の学習の検討する
5. 住生活（暮らしの場）を考える
6. 小・中・高の暮らしの場関連の学習の検討する
7. 家族と保育を考える
8. 小・中・高の家族関連の学習および中・高の保育関連の学習の検討する
9. 全体のまとめ

〔講義のすすめ方〕

講義形式および発表会形式

〔教材〕

1. 日本家庭科教育学会編『衣食住・家族の学びのリニューアル』明治図書 2004
2. プリント類、其の他

〔成績評価の方法・基準〕

1. 出席状況
2. 3～4回の課題に対するレポートの内容（熱意、発想、実行性など）

〔履修のポイント・注意点〕

1. 出席重視
2. レポートなどの提出日厳守

62 IV時	美術史	2単位	益田 勇一
-----------	-----	-----	-------

〔講義目的〕

古代ギリシアにおける神殿建築と彫刻、19世紀における近代絵画の成立を中心に西洋美術の流れを概観する。近代芸術の近代性を理解するために、古典に関する知識が必要であると考えられるゆえに、やや特殊な講義の構成となっている。それぞれの時代が産み出した芸術作品を紹介するとともに、それらが成立した歴史的、思想的背景にも着目し、人類が美や芸術に託してきた思いについて考えられればと思う。そこから現代に生きるわれわれが芸術に何を求めるのか、芸術はわれわれにとっていかなる意味を有するのかを考える視座を獲得することを目指す。古代ギリシアにおいて芸術はすでに完成の域に達していたが、それがなぜ中世において量感や生気を失い、一見衰退したように見えるのか。近代絵画はなぜ遠近法を捨てたのか。芸術様式の背後に隠された意味を捉えながら、西洋美術の歴史を辿ってみたい。

〔講義内容〕

1. 古代ギリシアの神殿(1)
初期の神殿／ドリス式／イオニア式
2. 古代ギリシアの神殿(2)
コリント式／バルテノン神殿
3. 古代ギリシアの彫刻(1)
アルカイック期（クーロスとコレー）
4. 古代ギリシアの彫刻(2)
クラシック期（厳格様式／フェイディアス／ミュロン／ポリュクレイトス）
5. 古代ギリシアの彫刻(3)
クラシック期（プラクシテレス／スコパス／リュシッポス）／ヘレニズム期
6. 中世の美術
教会建築と彫刻
7. ロマン主義と新古典主義
ジェリコー／ドラクロワ／ダヴィッド／アングル
8. レアリズム
ミレー／ドーミエ／クールベ
9. マネとドガ
近代的なテーマと技法
10. 印象派の登場
印象主義の美学と技法／モネ
11. 印象主義の超克
ルノワール／セザンヌ

12. ゴーギャンとゴッホ
平坦な色面／日本趣味の影響
13. キュビズム
ブラック／ピカソ

〔講義のすすめ方〕

スライドやビデオを用いてできるだけ多くの作品を紹介するようにしたい。

〔教材〕

教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。参考図書は授業の中で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験による評価。

〔履修のポイント・注意点〕

展覧会にはできるだけ足を運ぶようにして、本物の作品を自分の目で確かめるようにしてほしい。スライドやビデオでは伝わらない部分が多々あることに気づくことが大切である。優れた芸術作品だけが有するエネルギー、人に訴えかける力を体感するところから、美や芸術への興味、関心が生まれ、そこから作品分析や歴史的な位置づけへと発展していければ、美術史を学ぶことが楽しくなると思う。

〔科目内容の位置付け〕

西洋美術史の入門。その長い歴史のすべてを網羅することは不可能なので、ヨーロッパの芸術を理解する上で重要と思われる部分に焦点を当てて概説する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

世界史の知識があればより理解が深まる。

63 V群	造 形 文 化 論	2単位	飯 田 昌 平
-----------	-----------	-----	---------

〔講義目的〕

家や庭、壺や器、橋や船、ピラミッドや寺院など自然界には存在しない形を作り出すことによって、人類は生活を豊かに美的に楽しむ知識や技術を獲得してきました。その創造活動を追体験することにより、美的体験を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活をより楽しく、より美しく、より豊かにするために工夫する態度を育て、造形文化を愛好する精神を養うことを主な講義目的とします。

〔講義内容〕

「形」とか「形式」がなぜ生まれ、どのようにして伝達されてきたか、また、人間にとって形とはなにか、などを知るために、文化史、美術史に現れる造形物（ピラミッド、聖堂、神社仏閣、壺、彫刻など）を例に挙げ、次のような事柄を検討してゆきます。

1. 形の意味・象徴性
2. シンメトリー
3. 造形の基本
4. 立体の解釈
5. 形態の必然
6. プラトンの立体
7. 美的形式原理
8. 美の働き

〔講義のすすめ方〕

上記の事柄を理解するために、毎回折り紙などを使用して具体的な形を作り、検討してゆきます。例えば「折り鶴」における造形の基本、シンメトリー、折り鶴にはどんな意味があり、どんな願いが込められているか、などを受講生と共に考えていきます。折り紙で作る物としては、日本の伝承折り紙（つる・ふうせん・にそうぶね・やっこさん・さんぼう・たからぶね・つのこうばこ・かぶとなど）、多面体の折り紙（くすだま）、創作折り紙などのなかから、テーマに合わせて選んでいく予定です。

〔教 材〕

折り紙（15×15cmの普通の折り紙）・ハサミ・ノリ・色鉛筆・定規など。折り紙に関する本・造形文化に関する本は特に指定しません。子供のころ遊んだ折り紙の本、中学、高

校のときに使用した社会、美術の教科書、百科辞典などは授業をより理解するために役立つと思います。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況・授業中の課題に取り組む態度・授業内の小レポート・期末に提出するレポートなどを参考にして総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

授業の最初にその日の講義の要点を述べる人が多いので、遅刻しないこと。各授業は関連性があるので欠席しないこと。折り紙・ハサミ・ノリなどを忘れないで持ってくること。

〔科目内容の位置付け〕

授業中に行う折り紙は初級程度。文化史、美術史は高校程度。それらの知識をもととして深く考える習慣を身に付けてほしい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はありません。関連科目としては哲学・美学など。

64 V#	児 童 文 学	2単位	横 田 順 子
-----------	---------	-----	---------

〔講義目的〕

アメリカの代表的な児童文学作家E. L. カニグズバーグの作品を中心に、世界の現代児童文学作品を扱い、そのなかに描かれている子ども像を探りながら、今の子どもたちがどんな問題をかかえているかを考える。また同様のテーマをもつ様々なジャンルの作品を比較することにより、児童文学にどんなジャンルがあり、それぞれどんな特徴をもっているかを理解する。

〔講義内容〕

1. 紹介授業
2. 自分とは何か～E. L. カニグズバーグ『クローディアの秘密』
3. アウトサイダーとしての子どもの眼～E.L.カニグズバーグ『ぼくと(ジョージ)』
4. 子どもと大人の関係～ロアルド・ダール『マチルダは小さな大天才』
5. 子どものエネルギー1～モーリス・センダック『かいじゅうたちのいるところ』
6. 子どものエネルギー2～矢玉四郎『はれときどきぶた』
7. 家族について考える～E. L.カニグズバーグ『なぞの娘キャロライン』
8. 様々な人々の共生1～トーベ・ヤンソン「ムーミン」シリーズ
9. 様々な人々の共生2～藤野千夜『少年と少女のポルカ』

〔講義のすすめ方〕

作者・作品解説と作品講読（抜粋）によって進める。映像なども用い、理解を深めたい。基本的には講義形式だが、できるだけ受講者が意見を述べる機会をもちたい。

〔教 材〕

- 教科書 『E. L. カニグズバーグ』
横田順子・KTC中央出版
1600円
- 参考書 『暗くなるまで夢中で読んで』
神宮輝夫、野上暁編・原書房
1800円
- 『だから読まずにいられない』
神宮輝夫編・原書房・1800円

〔成績評価の方法・基準〕

テスト（前期試験期間に1回）、出席状況、平常点の総合評価。テストは80点満点、出席は1回につき2点に換算して計算する。平常点については、授業時に課すアンケートを考慮に入れる。

〔履修のポイント・注意点〕

予習と復習をとくに課すことはないが、授業で扱った作品をじっさいに読んで楽しんでほしい。

遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用などは厳禁。授業妨害がはなはだしい場合は、退出させる場合もある。だが良識を守っていれば難しいことではないので、お互いにマナーを守って、楽しく実りある授業にしたい。

65	おもちゃ論	2単位	中谷陽子
IV群			

科目履修前に以下の注意を読むこと

- ①「おもちゃ論」を言い換えれば「人間はどのように遊んできたのか」という遊びの文化論である。もし保育園・幼稚園で役立つ便利なおもちゃの話だと期待した学生は、シラバスを読み直してから考えて欲しい。
- ②本講は初めて開設される授業なので、半期授業としては教材選びの関係上、かなり量的に多い特別サービスの内容を想定している。遊び半分の学生はお断り！して、意欲のある仲間と授業・資料選び・作業がしたい。

〔講義目的〕

遊びは地球上の地域・人々の年齢・時代を問わない大切な人間の精神・身体の活動である。次の各分野に視野を広げて、意欲的に人間の遊びとその媒体を果たしてきた「おもちゃ」について学ぶことを目指している。

- ①歴史性：人類の知の歴史を遊びやおもちゃの中に発見する
- ②文化性：自ら地球市民の感覚で遊びを考察
- ③伝承性：遊びは重要な伝承文化の一分野
- ④自然性：自然が育む豊かな遊びの再発見

〔講義内容〕

- ・遊びは精神の開放をもたらすものであるから、将来保育や教育現場で活躍を期する学生にとっては価値や効用の高い活動であることを認識する。(ポイント1)
- ・「遊びやおもちゃ」に対する一般の概念や認識が、子どものせつなな活動または「教育玩具」へのこだわりなど狭義的であることを一掃して、改めて「定義づけ」に挑戦する。(ポイント2)
- ・本来「遊び」は広く充実した内容を持つ人間の営みであり、「遊び」は創意工夫の実験の場であり、知恵の貯蔵庫でもある。その上で多くの遊びを検証・体験する。(ポイント3)
- ・「遊び」を媒体にした人の交わりの世界には境界線がないことを実感する。(ポイント4)

〔講義のすすめ方〕

講義は〔講義内容〕に示される4つのポイントを検証する意味で、次のように進める：

- ①受講生の持つ遊びやおもちゃに対する意識はかなりバラバラだと想定されるので、それを把握する作業からはじめる。
- ②遊びの概念を多方面から研究する。方法は体験、聞き取り、資料分析などから。
- ③実際におもちゃ（主に中谷コレクションから）に接して、「講義目的」に示された4分野が確認できるように努力し、そこからあらためて「おもちゃや遊びの定義づけ」を皆で行う。
- ④恐らく受講生の既知の範囲を超える遊びやおもちゃとの出会いがあると思われる。それらを遊び体験することによって、より広い遊びの魅力を把握して欲しい。
- ⑤遊びやおもちゃに国境のない世界が存在することを改めて知ってほしい。
- ⑥最後に遊びやおもちゃが保育・教育の現場でどのような存在意味を発揮するのか、存分に話し合いたい。

〔成績評価の方法・基準〕

未定であるが、多分平常点と期末試験の双方。

遊びと真剣に向き合わない学生は、学期の途中でも「不可」評価することがある。

〔科目内容の位置付け〕

学生の自主的研究態度と、遊びを堪能し、時にはおもちゃを作成することの出来る次元の高い営みを持てる人物を期待する。全体を通して他の科目と具体的に重なることはまだ無い。

〔教材〕

未定
参考資料は多数紹介する。

66 IV群	野 外 運 動 A	2 単 位	齋 藤 一 人
-----------	-----------	-------	---------

〔講義目的〕

教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気付きを助長することを目的とする。

〔講義内容〕

キャンプの幅広い教育効果を理解するように体験学習し、指導的な立場から企画立案し、実施する。キャンプの捉え方は各分野や方面によって多岐にわたるが、組織キャンプの多くの目的は、大自然の中で「原体験」や共同生活を通して、人間形成を図ろうとするものと考えられる。すなわち、自然と野外を最大限活用しなければ、その教育目的は達成されない。したがって、下記を狙いとし実践活動をこの実習で行う。

- ①自然の中で集団的、自立的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同生活を体験し送ること。
- ②キャンプ生活の技術を学びつつ、生活全体の諸活動を通して自分の心身を鍛えること。
- ③将来キャンピングを指導する立場におかれたとき、企画立案でき、民主的運営ができること。

〔講義のすすめ方〕

野外体験系宿泊集中授業形式で行う。プログラムについては、「困難」「挑戦」「課題解決」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。

- ①普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
- ②普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
- ③困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
- ④仲間との協力によって、「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
- ⑤経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する体験（新しい技能の獲得）

上記のねらいを達成するための具体的方策としてのプログラムは以下の4点に留意して

行う。

- ①通常の時間枠では行うことのできない活動。
- ②意味のある活動であるのにも関わらず活動の機会が得られにくい活動。
- ③集団の協力によって成立する要素の高い活動。
- ④地域文化と接点のある活動。

〔教 材〕

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席、レポート、グループ貢献度によって総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

場所・日程については4月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。

専攻別で夏期休業期間に集中で行います。（児童教育専攻・スポーツ健康専攻それぞれ別々）

事前説明会や事前指導講義が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）

また、宿泊集中授業なので実習費がかかります。

〔科目内容の位置付け〕

より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

課題研究A B、野外運動B

67 Vst	野 外 運 動 B	2単位	齋 藤 一 人
------------	-----------	-----	---------

〔講義目的〕

教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気付きを助長することを目的とする。

〔講義内容〕

野外体験系宿泊集中授業形式で行う。アウトドアスポーツとして、学校体育のみならず生涯スポーツとしても今も幅広く社会全体に親しまれているスキー・スノーボードについて、その運動特性、技術、指導法及び生涯スポーツとしてのあり方、自然との親しみの心を持つことを習得し、団体行動・生活を通じてそのあり方をも研修する。また、基礎技術、応用技術、発展技術だけでなく救急処置についても講義を行う。

〔講義のすすめ方〕

プログラムについては、「挑戦」「課題解決」「成功体験」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。

- ① 普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
- ② 普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
- ③ 困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
- ④ 「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
- ⑤ 経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する体験（新しい技能の獲得）

〔教 材〕

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート、スキルテストによって総合的に評価します。バッジテストも計画中です。

〔履修のポイント・注意点〕

場所・日程については4月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。

児童教育専攻・スポーツ健康専攻同時開講で冬期休業もしくは春期休業に行われます。

事前説明会や事前指導が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）

また、宿泊集中授業なので実習費がかかります。

〔科目内容の位置付け〕

より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

課題研究A B、野外運動A

68 IV期	救 急 法	2単位	福 嶋 稔
-----------	-------	-----	-------

〔講義目的〕

日本赤十字社救急法救急員の認定資格取得を目標として、心配蘇生法の実際と自動体外式除細動器（AED）使用法と正しい救急処置の理論と実地を学ぶことである。

〔講義内容〕

心配蘇生法、AED使用法、きずと止血、骨折、脱臼、捻挫などの応急処置や固定法、急病人の搬送と救護など。

〔講義のすすめ方〕

1. 心肺蘇生法の理論と実際、AEDの使用法（モデル人形を使って実地に訓練）
2. きずと止血、包帯法、骨折、脱臼、捻挫などの固定法（応急）の実際
3. 急病人の搬送と救護の実際

〔教 材〕

1. [心肺（脳）蘇生法の実際]
心停止、呼吸停止における緊急処置
小濱啓次著 ヘルス出版
2. [CPRインストラクターズガイド]
第2版 監修 小濱啓次 医学書院
3. AEDを用いた救急蘇生法の指針
（一般市民のために）ヘルス出版

〔成績評価の方法・基準〕

出席率と授業中の修学状況により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

テキストを良く理解し、実地に訓練する。

〔科目内容の位置付け〕

日本赤十字社の救急法救急員の検定を合格するための基礎知識を学ぶこととAEDの正しい使用法を学ぶこと。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし

関連科目：メディカルコントロール

69 IV類	レクリエーション実技	1単位	藤井和彦
-----------	------------	-----	------

〔講義目的〕

多様なレクリエーション活動の展開のために必要な実践技能を身につけることをねらいとする。

対象者の中にある「楽しさ」や「喜び」を最大限に引き出す活動を展開するということを常に意識しつつ、その為の計画の作成から実践、評価までを実習・演習形式で体験する。まずは与えられた時間的條件の中で、「レクリエーション支援者」として立ち振る舞えることを目標に各種活動に挑戦する。より高度な到達目標としては対象者の特性に応じて、工夫されたオリジナリティあふれる支援計画を作成できるようになることを目指す。

実技科目ではあるが、授業は必要に応じて教室での支援案作成なども織りまぜながらグループ活動を中心に進めていく。

〔講義内容〕

- ①オリエンテーション～アイスブレイキング(1)
 - ②アイスブレイキング(2)
 - ③ホスピタリティとホスピタリティ・トレーニング
 - ④コミュニケーション・ワーク(1)
 - ⑤コミュニケーション・ワーク(2)
 - ⑥レクリエーション種目(1) フライングディスク
 - ⑦レクリエーション種目(2) ティーボール
 - ⑧レクリエーション種目(3) ネイチャーゲーム
 - ⑨レクリエーション種目(4) フォークダンス
 - ⑩ニュースポーツ(1)
 - ⑪ニュースポーツ(2)
 - ⑫コミュニケーション・ワーク(3)
 - ⑬支援プログラム案の作成
 - ⑭支援場面を設定したロールプレイング(プログラム発表会)
 - ⑮まとめとレポート課題発表
- ※上記の内容を中心に構成するが時間(時限)の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕

実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。特に後半からまとめにかけては、実際のレクリエーション活動のシュミレーションとして、自分たちで場の設定、プログラム

の考案、進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

〔教材〕

レクリエーション・インストラクター養成テキスト「やさしいレクリエーション実践演習ノート」(勸日本レクリエーション協会編 840円)

この他、グループワーク・ゲーム集的なテキストを1冊選定する(1500円程度)。

〔成績評価の方法・基準〕

期末のレポート課題、学期中の感想やレポート提出回数。

成績評価は期末のレポート得点(50%)＋出席点(20%)＋日常的な授業への参加姿勢(30%)を勘案して総合的に判定する。日常的な授業への参加姿勢は、学期中に適宜課す感想やレポートの提出も含む。

期末レポートは、レクリエーション実技に関する論述2題程度と支援プログラム作成等の内容で考えている。

〔履修のポイント・注意点〕

この科目を履修する者は、レクリエーション・インストラクター資格取得の申請を行う者であることを原則と考えている。その意味では科目名は「実技」であるが、各々の自発的・自律的取り組みが非常に重要であり演習・実習的な科目と捉えても差し支えない。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

履修年次は2年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕

レクリエーション実技の初級編であるが、唯一の科目であり、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

レクリエーション理論Ⅰ・Ⅱなど

70 V群	教 師 論	2単位	五十嵐 敦子
----------	-------	-----	--------

〔講義目的〕

現代社会における教師としての責任や役割について考えながら、学校教育をめぐる環境やさまざまな問題を認識し、教師に求められる適性、「教師をめざす」ことの意味を考える。

〔講義内容〕

1. 教育と教職
2. 教員養成の歴史
3. 教師に求められる資質・能力
4. 教師の役割と責任
5. 幼稚園・保育所における「保育者」
6. これからの学校教育と教師の課題
7. 総括

〔講義のすすめ方〕

基本的には講義形式で行うが、リアクションペーパーや小レポートなどを取り入れるなどして、相互交流のできる授業を心掛けていきたい。

〔教 材〕

森下恭光編著『教師論－教職とその背景』
明星大学出版部

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の1/3以上欠席した場合は、単位は与えないので、充分注意すること。

- ①出席状況30%、②小レポートなど20%、③定期試験50%の割合で総合的に評価する。
- 特に出席は重視するので、正当な理由があつて欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

〔科目内容の位置付け〕

教育に関する学問の基礎科目

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「教育原理」「教育総論」「教育制度論」

71 V群	幼 児 教 育 論	2単位	荒 井 洌
----------	-----------	-----	-------

〔講義目的〕

いわゆる学力のレベルアップを追い求めるような安易な幼児教育論は、これから長い人生を生きていくスタートの時期にある幼い子どもたちに対して、貧困な園生活を押し付けてしまうこととなります。このようなことは、人間論として真面目に考えてみると、とても残念なことです。

貴重な人格としての1人ひとりの子どもたちにとっての、幸せな文化的環境あるいは教育的雰囲気とはいかにあるべきなのか、可能な限り広い視野で思索してみたいと思います。

われわれ幼児保育を学ぶ者にとっての優れた先輩である倉橋惣三の考え方をテキストにして、本質的な幼児教育論の授業でありたいと思っています。

〔講義内容〕

講義は、次のようなポイントを押さえて行います。

- 保育の環境について
 - ・キンダーガルテン
 - ・生活の場
 - ・生活を美しく
- 保育の実際について
 - ・自由な遊び
 - ・家庭生活のつづき
 - ・個人対話の教育価値
- 保育のバックボーンについて
 - ・1人の尊厳
 - ・心の自由な飛躍
 - ・幼児保育の芸術性
- 保育に携わる人について
 - ・カリキュラムメイキング
 - ・独自性を発揮すること
 - ・教育における楽しさの尊重
- 倉橋惣三の幼児教育論の現代的意味
 - ・文化論的な観点から
 - ・リベラリズムとしての観点から
 - ・幼児保育の歴史的な歩みの観点から

〔講義のすすめ方〕

日本の幼児教育界の重鎮であった倉橋惣三が、数多く書き残したもののエッセンスをまとめた『倉橋惣三 保育へのロマン』（荒井洌著）をテキストにして、彼が主張する根本的な理念を、丹念に読み取っていきたいと思います。

また、それらの思想を、現在の幼児保育の場にあつての受け止め方や応用といった観点から、現実の保育の状況と照らし合わせながら、じっくりと思索してみたいと思います。

〔教 材〕

テキスト：荒井 洌著『倉橋惣三 保育へのロマン』フレーベル館

参 考 書：荒井 洌著『スウェーデン 水辺の館への旅——エレン・ケイ「児童の世紀」をたずさえて——』

〔成績評価の方法・基準〕

学期末に試験を行います。
出席率を重視します。

〔履修のポイント・注意点〕

何ごとについても、深く哲学することが希薄な時代です。幼児教育のありようについて、しっかりと哲学することを身に付けていただきたいと思います。

表面的な幼児教育論は、互いに人格を尊重し合う姿勢とは相反します。

テキストの内容と文脈をじっくりと読み取り、講義の趣旨にしっかりと耳を傾けてください。

〔科目内容の位置付け〕

「保育原理Ⅰ」で学習した基礎的な知識を大いに活用しながら、自らの幼児教育論を築いていくようにしてください。

72	道徳教育の研究 (豊かに生きる力を共に探求する)	2単位	斉藤浩一
V群			

〔講義目的〕

日本における心の教育問題を中心として、現状を、基本的事項について、事例を示しつつ概説する。

〔講義内容〕

特に以下の各点について、力点を置く。

- 1 心の教育に関する教育改革の歴史
- 2 心の教育の内容
- 3 道徳とは
- 4 生きる力について
- 5 今後の社会の中での問題解決力
- 6 道徳教育の授業の実践と指導案
- 7 「心のノート」の意味と使い方
- 8 まとめ

〔講義のすすめ方〕

アンケートや質問を中心とした対話型の講義。

〔教材〕

本年度は資料を教員が用意することを前提に特になし。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況を含む平常点、通常のレポート。

〔履修のポイント・注意点〕

真摯な学習態度に心掛けて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

教職教養試験の準備としての位置づけより、今後、教師としての生き方、児童との係わりを豊かにするための講義として理解していただきたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

心の教育という点で、生徒指導論と連続して履修することが望まれる。

73 V群	特別活動の研究	2単位	生野金三
----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

特別活動は、各教科、道徳、総合的な学習の時間と共に小学校、中学校、高等学校の教育課程の一領域を占めているが、21世紀を主体的に生きる人間形成を志向する我が国の学校教育において重要視されている。平成10年7月の教育課程審議会答申の特別活動の「改善の基本方針」に「集団の一員としての自覚を深め、児童生徒の個性の伸長と調和のとれた豊かな人間性を育成」「好ましい人間関係の醸成」「協力してよりよい生活を築く」等の「生きる力」を育む重要な要素が掲げられている。

好ましい人間関係の醸成、協力してよりよい生活の構築等を特別活動において強調しているが、それは他者を思いやる心、そして互いに認め合い共に生きていく態度等の豊かな心を持った人間性を育成する中で育まれると言及されている。この豊かな人間性の育成は、「生きる力」の心の教育の側面として極めて重要視されている内容である。

上記のことを踏まえ、本科目では、特別活動の成立と発展、特別活動の内容、特別活動指導法について研究することを目的とする。

〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について研究する。

- 1 特別活動の成立と発展
- 2 特別活動の内容
 - ・特別活動の目標の基本的な性格
 - ・特別活動の各内容の特色
 - A 学級活動
 - B 児童会活動
 - C クラブ活動
 - D 学校行事
 - ・特別活動の授業時数
- 3 特別活動の指導
 - ・特別活動の指導計画
 - ・学習指導案の形式
- 4 学級活動の指導
 - ・学習指導案を基に
- 5 児童会活動の指導
 - ・学習指導案を基に
- 6 クラブ活動の指導
 - ・学習指導案を基に
- 7 学校行事の指導
 - ・学習指導案を基に

〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、毎回の授業が次の授業へ継続発展していくので、そのことを念頭においておくこと。

〔教 材〕

テキスト 文部省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」東洋館出版社
豊澤弘伸・生野金三「特別活動の研究」学教図書出版会

〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、ミニテストの四者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置付けられている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

各教科の指導法の科目、道徳教育の研究、教育方法論

74 V群	教育方法論Ⅰ	2単位	五十嵐 敦子
----------	--------	-----	--------

〔講義目的〕

学習指導の意味・役割、技術を中心に、教育活動全体を通して、教師が学校で教えるということは子どもたちにとって何を意味するのか、子どもたちが価値ある学びをするために、教師は何ができるのか、ということを考えたい。

〔講義内容〕

1. 授業とは何か
2. 学習指導要領とカリキュラム
3. 現代の教授理論
4. 学校経営・学級経営と教育方法
 - ①学習指導の個性化の問題
 - ②ティーム・ティーチング
5. 教育方法の基本問題と教育実践
 - ①学力とは何か
 - ②我が国の教育実践
6. 情報化社会の教育
7. まとめ

〔講義のすすめ方〕

基本的には講義形式で行うが、リアクション・ペーパー、小レポートなどを取り入れるなどして、相互交流のできる授業を心掛けたい。

〔教材〕

多田敏文編『教育の方法と技術』学芸図書

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の1/3以上欠席した場合は、単位は与えないので、充分注意すること。

①出席状況30%、②小レポートなど20%、③定期試験50%の割合で総合的に評価する。特に出席は重視するので、正当な理由があって欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

〔科目内容の位置付け〕

教育に関する学問の基礎科目

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「教育課程論」

75 V群	教育方法論 II	2単位	五十嵐 敦子
----------	----------	-----	--------

〔講義目的〕

「教育方法論Ⅰ」の概論的な解説を基礎に、「教育方法論Ⅱ」では、教育方法学の理論をさらに深く学び、教育実践についてはビデオなどを利用して、より詳しく解説する。

〔講義内容〕

1. 教育方法学の歴史
 - ①コメニウス～教授学の成立
 - ②ヘルバルトと「訓育的教授」理論
 - ③デューイと子ども中心の教育
 - ④ブルーナーと新カリキュラム運動
2. 教育実践における子ども理解の方法
3. 幼児教育課程の構成～レッジョ・エミリア市の実践例
4. 学習評価の方法
5. 「総合的な学習の時間」の登場と課題
6. 学習を保障する環境とは～オープン・スクールの実践例など
7. まとめ

〔講義のすすめ方〕

講義形式を基本とするが、リアクション・ペーパー、小レポートなどを取り入れながら、相互交流のできる授業を心がけたい。

〔教 材〕

特に指定しない。必要に応じて、プリントを配布する。

参考文献については、授業の折に適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

講義回数の1/3以上欠席した場合は、単位を与えないので、十分に注意すること。

出席状況30%、小レポートなど20%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。特に出席は重視するので、正当な理由があって欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

〔科目内容の位置付け〕

教育に関する学問の基礎科目

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

「教育課程論」

76	生徒指導論 (現代の学校が抱える問題と生徒指導)	2単位	斉藤浩一
V群			

〔講義目的〕

日本における教育問題の構造と解決へのアプローチの現状を、基本的事項について、事例を示しつつ概説する。

〔講義内容〕

特に以下の各点について、力点を置く。

- 1 生徒指導とは
- 2 児童理解
- 3 児童のストレス
- 4 いじめ
- 5 児童のキレル行動理解
- 6 デジタル機器と子どもの遊び、心の問題
- 7 教師と生徒の人間関係
- 8 学級崩壊
- 9 教師のストレス
- 10 教師が行う教育相談
- 11 個を生かす教育指導

〔講義のすすめ方〕

アンケートや質問を中心とした対話型の講義。

〔教 材〕

本年度は資料を教員が用意することを前提に特になし。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況を含む平常点、通常のレポート。

〔履修のポイント・注意点〕

真摯な学習態度に心掛けて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

教職教養試験の準備としての位置づけより、今後、教師としての生き方、児童との係わりを豊かにするための講義として理解していただきたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

心の教育という点で、道徳教育の研究と連続して履修することが望まれる。

77 V群	教 育 相 談	2単位	伊 崎 純 子
----------	---------	-----	---------

〔講義目的〕

- 1) 体験を通して教育相談の基礎を学ぶ
- 2) 講義やいくつかの実習を通して、コミュニケーション能力を養う
- 3) 時事問題について自主学習できる力（スタディ・スキル）を養う

〔講義内容〕

教育相談は、幼稚園および小学校という教育現場における幼児・児童とその保護者を対象とした相談である。いわゆるクリニックや児童相談所といった相談機関におけるカウンセリングとの違いは、①幼稚園や小学校に通園・通学している間のみ相談を受けるという期間限定的な関係であること、②幼児・児童という言葉のみによるカウンセリングに限界のある年齢の子どもの相談が中心であること、③多様な保護者と上手に関係を作り、相談終了後もその関係を維持する必要があること、④相談を受けつつも、その他の生活場面も共にすること、⑤受容しつつも、対象となる親子の将来を見据えた教育的側面も必要になること、⑥マスキングがとりあげる時事問題に則した相談内容が多くなりやすいことである。上記の特徴を踏まえて、この講義では、幼児・児童の特徴を理解するための方法を先行研究から学び、時事問題に対するマクロ的な視野を得るべく情報を収集・分析する能力を養い、それを幼児や児童およびその保護者にどのように伝えるのかという表現を模索し、いかに適切かつ誠実に相談にのっていくのかというカウンセリングの基本的な技術を学ぶ内容とする。

〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション
2. 発達検査（講義）
3. 発達検査（実習）
4. 行動観察（講義）
5. 行動観察（実習）
6. カウンセリングの基本的な技術（講義）
7. カウンセリングの基本的な技術（実習）
8. 模擬教育相談(1)：個別相談
9. 模擬教育相談(2)：個別相談
10. 模擬教育相談(3)：グループ
11. 模擬教育相談(4)：グループ
12. 情報の収集・分析と伝達手段（講義）
13. 情報の収集（実習）

14. まとめ

15. まとめ

〔教 材〕

講義の中で適宜指示

〔成績評価の方法・基準〕

実習後には体験レポートの提出が必須

出席 20%

授業態度 20%

期末レポート 60%

〔履修のポイント・注意点〕

積極的に授業に参加すること。

※幼稚園教諭一種免許あるいは小学校教諭一種免許取得希望者のみが履修可能。

〔科目内容の位置付け〕

幼稚園教諭一種免許および小学校教諭一種免許の必修科目【教職に関する科目：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法／（幼稚園教諭のみ）幼児理解の理論及び方法】である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特になし

78 V群	総合演習	2単位	五十嵐 敦子(A Bクラス)
----------	------	-----	----------------

〔講義目的〕

本演習は、「人類に共通する課題」「我が国の社会全体に関わる課題」について分析したり、検討したりして理解を深め、その適切な指導ができることを意図して、新たに設けられた授業である。本演習では、特に幼稚園教諭の教職を取得する者を対象に、子どもを取り巻く環境や現代における家族の意義、親子関係に関する今日のかつ具体的なテーマを学生が自由に選択し、それについての調べる方法や技術を実践的に修得することを重視する。

〔講義内容〕

- ①オリエンテーション
- ②上記の課題に関わる具体的なテーマ（少子化、幼児虐待、子育て支援、遊びの変遷、育児、児童文化の国際比較、子育て観の変化、家族観の変化など）を設定する。
- ③資料の検索、分析や考察などの研究方法を検討する。
- ④個人学習、あるいは少人数グループで研究を進める。
- ⑤レジメや発表の資料を作成する。
- ⑥発表し、レポートを提出する。
- ⑦自分の選択した課題について、今後のあり方を検討する。（総括）

〔教材〕

幼稚園教育要領

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、レポート、発表に対する姿勢や積極性などの三者で総合的に評価する。

78 Ver	総合演習	2単位	生野金三(CDクラス)
-----------	------	-----	-------------

〔講義目的〕

これからの学校教育においては、国際化の進展に伴い、国際社会の中では日本人として自覚をもち主体的に生きていく上で必要な資質や能力を育成することが強く求められている。このような資質能力の基礎を教員を志願する者に適切に修得させる一つの方途として、教育職員養成審議会では、人類共通のテーマや我が国社会全体に関わるテーマ等の諸課題のうちいくつかについて選択的にテーマ決定した上で、ディスカッション等を中心に演習形式の授業で十分理解を深めさせると同時に、それらの内容を発達段階に応じてどのように教えたらいいかについて教員を志願する者に自ら考えさせるような授業が工夫される必要があるとする。

上記のことを踏まえ、本演習では自国認識に立った異文化理解という国際理解に関する課題を取り上げ、それをどのように解決するか、その方法やそこでの技術について理解を深めることを目的とする。

〔講義内容〕

本演習は、以下のような内容で行う。

- 1 授業内容与方法について説明する。
 - ・「総合的な学習の時間」との関わりについて
 - ・「総合的な学習の時間」の創設について
 - ・取扱う課題について
 - ・授業の過程について
 - 「課題発見」→「課題探究」→「まとめ」（発表・模擬授業）
- 2 探究課題を設定する
 - ・異国文化理解
 - ・自国文化理解
 - ・自他の尊重
- 3 課題をグループ、又は個人で検討する。
- 4 資料の検索、分析や考察の研究方法を検討する。
- 5 まとめ方や発表の検討する。
 - ・発表（模擬授業）のための学習指導案（略案一本時案）を作成する。
- 6 発表（模擬授業）し、ポートフォリオを作成する。

〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本演習では、毎回の授業が次の時間へ継続発展していくので、そのことを念頭に置いておくこと。

〔教材〕

テキスト 文部省「小学校学習指導要領」
財務省印刷局

〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、模擬授業の四者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置付けられている。各教科の指導法と同様に、実践的指導力の基礎を体得して欲しい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

各教科の指導法の科目、教科に関する科目

79	日本国憲法 (国家の基本的な法秩序)	2単位	渡邊 亙
----	-----------------------	-----	------

〔講義目的〕

日本国憲法は、日本という国家の基本的な価値観、政治制度、国民の基本的な権利などについて定めた法である。諸君のほとんどは、学校の授業やマスメディアなどを通じて、日本国憲法についてすでに大なり小なり知識をもっているが、本講義ではそれを確認しながら、つぎの3つの目的を達成したいと考えている。第1は、現在の憲法に関する知識をより豊富で正確なものにすることである。ここでは、憲法の定めている様々な制度、価値観、権利に関する正確な知識を身につけることが目的となる。第2に、憲法の文言には、抽象的で、一読しただけでは意味の分からないものが数多くある(たとえば「主権」、「公共の福祉」)。これらの文言のもつ意味を理解すること、これがつぎの目的である。最後に、憲法の条文の解釈については、専門家の間でもしばしば意見が分かれることがあるが、それがどのようなものであり、なぜ、こうした違いが生じるのかを理解することが目的となる。ここでは、とくに最高裁判所の判例の検討が重要なテーマとなる。この講義を通じて、ひとりの「公民」として必要な知識や教養を身につけ、また、日本国憲法をめぐって生じているさまざまな問題について、自分なりの意見を持てるようになることを目指したい。

〔講義内容〕

基本的に教科書の内容に従って講義をすすめるが、適宜、内容について補足する。講義のテーマは以下のとおりであるが、これに加えてレポートを提出してもらうことを予定している(詳細については、講義のなかで指示する)。

1. 憲法と国家
2. 立憲主義
3. 日本憲法史
4. 戦争放棄
5. 天皇
6. 国会
7. 内閣
8. 裁判所
9. 地方自治
10. 財政
11. 基本的人権
12. 憲法改正

〔講義のすすめ方〕

講義は、上記のテーマについて、その理解のために必要な事項を解説し、受講者がノートを作成する、という形で進められる。そして、ほぼ毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容に関する確認・復習のために、問題演習を行う。問題演習は、前回の授業のノートを参照しながら解答するという形で行われる。

〔教科書〕

教科書 野畑健太郎ほか編著『テキストブック日本国憲法』(嵯峨野書院、平成17年4月刊行予定)。

その他の文献は、講義中に適宜、指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

小テスト(20%)、学期末試験(60%)およびレポート(20%)を総合して評価する。単位を取得するレベルに達するためには、ほぼ毎回の授業で行う問題演習で実力を養っておくことが不可欠である。

〔履修のポイント・注意点〕

受講者は、問題演習を通じて、自分の理解できていなかった点、疑問点などを明らかにすることができるので、これらの点を必ず解決するようにしてほしい。

〔科目内容の位置付け〕

社会人(公民)となる上で最低限必要な、国家に関する教養を身につけてもらいたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はとくにないが、日本史および世界史のなかの、とくに近代に関する知識があることが望ましい。

80 実	保育実習の事前事後指導	1単位	下記参照
---------	-------------	-----	------

(保育所) 荒井 冽
(施設) 川瀬善美

2－3年次 2年連続科目、一部集中
(保育実習の事前事後指導(1)=2年次履修)
(保育実習の事前事後指導 =3年次履修)

〔講義目的〕

保育実習を行うにあたり、保育所の生活に参加することにより、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務等について学ぶ。また居住型児童福祉施設等の生活に参加することにより、子ども(知的障害者)への理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能と保育士の職務について事前に学ぶ。

また実習後に行う事後指導においては実習で得られた知識・技術を体系化し、保育士となるための自覚を深める。全体発表会(予定)では、それを踏まえ後輩にアドバイスすると共に、今後より望ましい保育者像に近づくよう努力する。

〔講義内容〕

- 保育所実習に関する事前指導
 - ・保育所について理解する
 - ・保育の一日の流れを理解する
 - ・子どもの観察や関わり方を理解する
 - ・保育計画・指導計画を理解する
 - ・保育技術を習得する
 - ・職員間のチームワークについて理解する
 - ・保護者とのコミュニケーションについて理解する
 - ・地域社会・家庭とのつながりについて理解する
 - ・記録のとり方を理解する
 - ・安全・及び疾病予防について理解する
 - ・保育士としての倫理について理解する
- 居住型児童福祉施設等における事前指導
 - ・実習予定施設について理解する
 - ・養護の一日の流れを理解する
 - ・利用児者の観察やかかわり方、ニーズを把握する事について理解する
 - ・援助計画を理解する
 - ・生活援助の方法、養護技術を習得する
 - ・保護者・家庭とのコミュニケーションの方法を理解する

- ・地域社会とのかかわり方について理解する
- ・記録のとり方を理解する
- ・安全・及び疾病予防について理解する
- ・保育士としての倫理について理解する

〔講義のすすめ方〕

2年次(後期)

① 施設実習の事前指導

保育実習Ⅰ(施設)(2・3月)

3年次(前期)

② 施設実習(2・3月分)の事後指導

③ 保育実習の事前指導

保育実習Ⅰ(施設)(5月)

④ 施設実習(5月分)の事後指導

保育実習Ⅰ(保育所)

⑤ 保育所実習の事後指導

⑥ 全体発表会(予定)

各時間毎に講義内容で揚げた項目について解説を行う。又必要に応じて実習先毎に少グループでの討論を行う。

〔教材〕

必要に応じて適時指示する

〔成績評価の方法・基準〕

必要な書類・レポート等の提出状況及び受講態度を加味し評価を行う。

各講義については、担当教員がそれぞれ評価し、総合評価する。単位付与は3年次末。

なお、一度でも事前指導を欠席した学生には、保育実習の参加を認めない。

また、保育実習に参加しなかった場合や事後指導を欠席した場合、単位は付与しない。

〔履修のポイント・注意点〕

毎回出席を原則とし、欠席・遅刻等については事前に書面をもって連絡のこと。無断欠席があった場合は不可とする。

2－3年次の2年間連続科目、一部集中として開講されるため、履修登録は2年次・3年次にそれぞれ行うこと。

〔科目内容の位置付け〕

実習に参加するために必要な単位数・及び教科目を各自確認のこと。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

保育士関係科目全般。

81 実	保 育 実 習 I	4 単 位	下 記 参 照
---------	-----------	-------	---------

(保育所) 荒井 冽
(施 設) 川瀬善美

2 - 3 年次 2 年連続実習科目
(保育実習 I = 3 年次履修)

〔実習の目的〕

本科目は、保育士資格取得を志望する学生が、大学に於いて学んだ理論、知識・技術を保育の現場で実践してみる事を目的としたものである。

すなわち、保育所、児童福祉施設等の内容・機能を実践現場での体験を通して理解するとともに、既習の教科全体の知識・技術を習得し、これらを総合的に実践する応用力を養い保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化を学ぶものである。

〔実習の内容〕

本学では、保育所における実習10日間、及び児童福祉施設等（関係法令で定められている。以下、施設という）での実習10日間の計20日間の実習である。

実習期間中は、保育実習先の指導に従うこと。

〔実習の内容〕

2 年次（後期）

①-1 保育実習 I（施 設）（2・3 月）

3 年次（前期）

①-2 保育実習 I（施 設）（5 月）

② 保育実習 I（保育所）（夏期休暇中）

児童福祉施設等での実習は、①-1 あるいは①-2 のいずれかの時期に行う。実習期間および実習先の配当は、大学にて行う。

〔教 材〕

教材については実習先において指示されたものを使用するので、実習先でのオリエンテーション等に確認すること。

〔成績評価の方法・基準〕

保育実習先による「保育実習評価票」の評価と、「保育実習ノート」の内容を総合的に評価する。

注意！ 保育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

なお、一度でも保育実習前の「保育実習の事前事後指導」を欠席した場合には、保育実習参加を認めない。

保育実習に参加しなかった場合や実習後の「保育実習の事前事後指導」を欠席した場合、単位は付与しない。

2 - 3 年次の2年連続実習科目のため、単位付与は3年次末。

〔履修のポイント・注意点〕

「保育実習の事前事後指導」の受講者のみ履修可。

〔科目内容の位置付け〕

実習においては学生としての自覚を持ち、責任と情熱をもった実習態度で臨むこと。また、実習先において指示された諸注意を遵守し、やむ得ず欠席、遅刻をする場合は事前に必ず連絡を行う事。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

保育士関係科目全般。

2004年度以降入学生

ス(スポーツ健康専攻科目)、Ⅲ群:基本科目、Ⅳ群:専門科目、Ⅴ群:教育学関係科目 目次

科目区分		科目 No.	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考
Ⅲ群-A	(基本科目) (必修)	1	フレッシュマンセミナー	金田健史 齊藤武利 竹島克己 藤井和彦	216	1	・卒業必修科目
		Ⅲ群-B	基本科目 (選択必修)	2	教育総論	馬場将光	217
3	教育原理	石堂常世		218	1・2・3・4		
—	教育課程論	—		—	3・4		
4	教育制度論	馬場将光		219	1・2・3・4		
5	比較教育論	馬場将光		220	2・3・4		
6	教育哲学	石堂常世		221	2・3・4		
7	教育心理学概論	平田乃美		222	1・2・3・4		
8	コンピュータ実習	渋川美紀		223	1・2・3・4		
Ⅳ群	専門科目 (スポーツ健康専攻 主科目) 実技 理論 ・ 実習	9	実技理論・実習 陸上運動Ⅰ	竹島克己(藤井和彦)	224	1・2・3・4	集中講義
		10	実技理論・実習 陸上運動Ⅱ	竹島克己(藤井和彦)	225	1・2・3・4	
		11	実技理論・実習 器械運動Ⅰ	吉田 茂	226	1・2・3・4	
		12	実技理論・実習 器械運動Ⅱ	吉田 茂	227	1・2・3・4	
		13	実技理論・実習 水泳	椿本昇三	228	2・3・4	
		14	実技理論・実習 柔道	蓬田正郎	229	2・3・4	
		15	実技理論・実習 ダンスⅠ	内山須美子	230	1・2・3・4	
		16	実技理論・実習 ダンスⅡ	内山須美子	231	1・2・3・4	
		17	実技理論・実習 バスケットボール	齋藤一人(金田健史)	232	1・2・3・4	
		18	実技理論・実習 バレーボール	大関孝雄	233	2・3・4	
		19	実技理論・実習 野球(ソフトボール)	栗山英樹	234	2・3・4	
		20	実技理論・実習 テニス	野間明紀(齊藤武利)	235	1・2・3・4	
		21	実技理論・実習 ラグビー	齊藤武利 P. Nawalu	236	2・3・4	
		22	実技理論・実習 サッカー	安達賢二(金田健史)	237	1・2・3・4	
		23	実技理論・実習 体つくり運動	近藤智靖	238	2・3・4	
		24	体育原理	吉田 茂	239	1・2・3・4	
		25	体育心理学	本多麻子	240	2・3・4	
		26	体育経営管理学	藤井和彦	241	2・3・4	
		27	体育社会学	中村祐司	242	2・3・4	
		—	スポーツ産業論	—	—	3・4	
		28	スポーツ行政論	中村祐司	243	2・3・4	
		29	運動学Ⅰ	吉田 茂	244	1・2・3・4	
		30	運動学Ⅱ	吉田 茂	245	1・2・3・4	
		31	スポーツコーチング総論	吉田 茂	246	2・3・4	
		32	レクリエーション理論Ⅰ	藤井和彦	247	2・3・4	
		33	レクリエーション理論Ⅱ	藤井和彦	248	2・3・4	
		34	競技スポーツ理論	竹島克己	249	1・2・3・4	
		35	体育測定評価	野間明紀	250	2・3・4	
		36	生理学	金田健史	251	2・3・4	

科目区分	科目No.	授業科目名	担当者	掲載頁	履修年次	備考	
IV群	実技 理論 ・ 実習	37	運動生理学Ⅰ	金田健史	252	2・3・4	集中講義
		38	運動生理学Ⅱ	金田健史	253	2・3・4	
		39	公衆衛生学	益子詔次	254	1・2・3・4	
		40	学校保健Ⅰ	岩城淳子	255	1・2・3・4	
		41	学校保健Ⅱ	岩城淳子	256	1・2・3・4	
		42	精神保健学	伊崎純子	257	1・2・3・4	
		43	発育発達学	岩城淳子	258	2・3・4	
		44	トレーニング論	齊藤武利	259	2・3・4	
		45	トレーニング実習Ⅰ	竹島克己(齊藤武利)	260	2・3・4	
		—	トレーニング実習Ⅱ	—	—	3・4	
	—	スポーツ医学Ⅰ	—	—	3・4		
	—	スポーツ医学Ⅱ	—	—	3・4		
	46	スポーツリハビリテーション論	齊藤武利	261	2・3・4	変更:集中講義⇒半期科目で実施	
	—	解剖学	—	—	3・4		
	関連科目	47	造形文化論	飯田昌平	262	1・2・3・4	集中講義
		—	英語であそぼう	—	—	3・4	
		48	児童文学	横田順子	263	1・2・3・4	
		49	おもちゃ論	中谷陽子	264	2・3・4	
		50	野外運動A	齋藤一人	265	1・2・3・4	
		51	野外運動B	齋藤一人	266	1・2・3・4	
52		救急法	福嶋 稔	267	1・2・3・4		
53		レクリエーション実技	藤井和彦	268	2・3・4	変更:集中講義⇒半期科目で実施	
休		レクリエーション実習	—	—	2・3・4	◆レ 平成17年度休講・集中講義	
—		課題研究A	—	—	3・4		
—	課題研究B	—	—	3・4			
—	卒業研究	—	—	4			
V群	教育学 関係 科目	—	教師論	—	—	3・4	◆教
		54	教育本質論	石堂常世	269	1・2・3・4	
		55	教育心理学	神戸文朗	270	1・2・3・4	
		—	体育科教育法Ⅰ	—	—	3・4	
		—	体育科教育法Ⅱ	—	—	3・4	
		—	保健科教育法	—	—	3・4	
		56	体づくり運動指導法	近藤智靖	271	2・3・4	
		57	道德教育の研究	斉藤浩一	272	2・3・4	
		58	特別活動の研究	生野金三	273	2・3・4	
		59	教育学	樋口和彦	274	2・3・4	
		60	生徒指導Ⅰ	中谷陽子	275	2・3・4	
		61	生徒指導Ⅱ	中谷陽子	276	2・3・4	
		62	総合演習	近藤智靖	277	2・3・4	
63	日本国憲法	渡邊 互	278	1・2・3・4			

◆該当資格希望者のみ履修可能
 教…中学校・高等学校教諭免許
 レ…レクリエーション・インストラクター

2004年度以降入学生

ス(スポーツ健康専攻科目) 実習科目 目次

(注)…卒業単位に含まれない科目

科目区分	科目 No.	授 業 科 目 名	担 当 者	掲 載 頁	履 修 年 次	備 考
実 習 科 目 (注)	—	教育実習の事前事後指導(保健体育)	—	—	3～4	} ◆教
	—	教育実習(中学校)	—	—	4	
	—	教育実習(高等学校)	—	—	4	

◆…教職免許希望者のみ履修可

(参考)

平成17年度

他学部・他専攻履修科目

- ①平成17年度の該当科目や履修条件および手続き方法は、年度始めの掲示やガイダンス等で確認すること。
- ②履修年次・単位・授業内容等は、開講先の学部・学科(専攻)等の履修要綱を参照のこと。
- ③履修登録後は、開講先の学部・学科(専攻)の掲示板を確認すること。

1 III時	フレッシュマンセミナー	1単位	金田健史(Aクラス) 齊藤武利(Bクラス) 竹島克己(Cクラス) 藤井和彦(Dクラス)
-----------	-------------	-----	---

〔講義目的〕

学生生活は自分自身の判断に任されること
がこれまでの生活より格段に多くなることは
まちがいない。充実した学生生活を送れるか
どうかは、1年次のスタートが大事になるこ
とは充分認識しておくべきであろう。本授業
は大切な一歩を踏み出すため、各クラス担任
が毎週様々な内容で大学生活のガイダンスを
行うものである。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特になし。

〔講義内容〕

〔講義のすすめ方〕

下記の内容について講義、演習、見学、グ
ループ学習、プレゼンテーション、ディスカッ
ションを中心に授業を進める予定である。ま
ずスポーツや健康に関する本、テレビ、新聞
などあらゆる情報源から知識を吸収し、それ
らをまとめて研究、発表することに慣れよう
とするものである。

- ①オリエンテーション
- ②学習計画の検討(履修科目の指導)
- ③自己学習、読書、図書館の利用について
- ④レポートの書き方について
- ⑤興味あるスポーツ、健康関係の知識につ
いて研究
- ⑥グループ討議、発表
- ⑦研究発表

〔教 材〕

図書全般、新聞、雑誌、インターネットに
よる検索などスポーツ健康に関するあらゆる
もの。

〔成績評価の方法・基準〕

出席、グループ貢献度、発表内容、レポー
トの完成度を評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

大学生活の第一歩です。学生相互の協力、
教師から学ぶ、自分で研究するという基本的
姿勢が望まれる。出席が重視される。

〔科目内容の位置付け〕

卒業必修科目。より充実した学生生活にす
るための案内となる。学業の基本となる調査、
研究、発表の基本を学ぶ。

2	教 育 総 論	2単位	馬 場 将 光
---	---------	-----	---------

〔講義目的〕

本講義は2つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本における教育学全般の基礎的な知識、考え方を身につけることであり、2つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 教育の意義
2. 学校教育の目的・目標
3. 教授の理論
4. 学習理論
5. 教育課程
6. 学習指導要領と教科書
7. 生徒指導・管理
8. 道徳教育、人権・同和教育
9. 学校と教職員の管理
10. 学校・学級の経営
11. 生涯教育、社会教育
12. 現代の教育と教育改革

〔講義のすすめ方〕

講義はテキストににそって、毎時間テキストの1～2章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教 材〕

以下のテキストを使用する。

テキスト：時事通信社 内外教育研究会編
「教職教養の重点研究」
(時事通信社) ¥1800円＋税

参 考 書：真野宮雄・増田実共編
「現代教育概論」
(学術図書出版社) ¥2200円＋税

〔成績評価の方法・基準〕

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原

則として60%できていることとする。

- ・次の課題の中から10課題を選び、各課題について1000字前後の解説を提出したのものには試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

課題：教職員の種類、教職員の職務と資格、教員の選考と採用、分限処分、懲戒処分、服務、職務命令、教職の専門性、研修、教員給与、勤務時間・休日・休暇、時間外勤務、労働基本権、人事委員会、不利益処分に関する不服申し立て、公務災害。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間的に正確に始まる。正当な理由のない遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は結構楽しくて面白いよ！

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提・関連科目：教育課程論、比較教育論、教育制度論

3 III群	教 育 原 理	2単位	石 堂 常 世
-----------	---------	-----	---------

〔講義目的〕

- 1、本講義では、教育の基本的諸原理について講義する。教育に関する総合的な理解をすると共に、とくに幼児教育、初等教育の観点から、子どもの成長・発達に関わる理論的・制度的・歴史的・社会的・国際比較論的視点を養う。
- 2、教育の意義と人間の健やかな成長を考えることのできる思考・教養・実践力を養う。
- 3、子どもをめぐる環境の変化を多面的に考察し、現代社会のあり方に倫理的な考察ができ、将来において、広義の意味で児童福祉・青少年健全育成に貢献できる価値観を育てる。

〔講義内容〕

- 第1回 本授業の教務上のポイントの提示、序論 教育学と教育原理の学問的關係、教育の理念と現実
- 第2回 教育の本質と教育の現実
導入：自己体験としての教育を振り返る⇒客観的な教育的視点へ
- 第3回 教育の原理の学際性
哲学的・思想的・歴史的（法制史）、社会学的・心理学的基礎
- 第4回 教育の歴史に教育の原理を探るⅠ
義務教育前史
- 第5回 教育の歴史に教育の原理を探るⅡ
義務教育制度確立以降
- 第6回 教育の思想に教育の原理を探るⅠ
西洋の教育思想
- 第7回 教育の思想に教育の原理を探るⅡ
日本の教育思想
- 第8回 日本の教育の法制的基礎
- 第9回 教育制度の国際比較
- 第10回 教育課程・教育方法の意味と変遷
- 第11回 教育課程・教育方法の刷新
- 第12回 21世紀における人間的成長の障害
- 第13回 子どもと子どもをとりまく環境変化の問題
- 第14回 今日の学校問題・保育問題と教育の将来
健全に育つという困難さとその意義の重要さ
- 第15回 学期末試験（教場） 論文形式

〔講義のすすめ方〕

- ・分かりやすい説明の講義形式、プリント（講義レジュメ）の配布
- ・身近な教育問題から教育学の原理理解へ
- ・随時レポートを提出させる

〔教 材〕

- ・安彦・石堂編『現代教育の原理と方法』勁草書房、2004
- ・その他の必修内容は、プリントを配布する。
- ・読むべき参考文献は、授業中に教示する。
- ・図書館などを活用すること。

〔成績評価の方法・基準〕

総合点

- ①授業中にテーマを出すレポートの評価（後期2回）（20%）
- ②学期末試験（50%）
- ③出席状況（半分以上欠席の場合は自動的に不可）（30%）

〔科目内容の位置付け〕

すべての教職科目の基礎

4 川野	教育制度論	2単位	馬場将光
---------	-------	-----	------

〔講義目的〕

本講義は2つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本における教育学、教育制度論の基礎的な知識、考え方を身につけることであり、2つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 教育と教育制度
2. 教育制度の基本原則
3. 教育体系の基本問題
4. 乳幼児期の保育制度
5. 児童期の教育制度
6. 青年期の教育制度
7. 高等教育
8. 障害児教育制度
9. 私学制度
10. 生涯学習支援制度
11. 教育行財政制度
12. 学校経営組織

〔講義のすすめ方〕

講義はテキストににそって、毎時間1章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教材〕

以下のテキストを使用する。

教育制度研究会編

「要説 教育制度（新訂版）」

（学術図書出版）¥2400＋税

〔成績評価の方法・基準〕

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60%できていることとする。
- ・次の課題の中から10課題を選び、各課題について1000字前後の解説を提出したものに

は、試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

課題：職員会議、校長のリーダーシップ、職務命令、分掌組織、主任、教育課程の編成、補助教材、休日、生徒指導、体罰、学校事故、服務、教職員の時間外勤務、研修、初任者研修、学校施設、学校管理規則、学校評議員、指導主事、教科書、学校事務、職員団体、学級経営。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間通り正確に始まる。正当な理由がない限り遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話の調子はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は意外に面白く楽しいよ!!

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：教育総論、教育原理

関連科目：教育課程論、比較教育論

5 III期	比較教育論	2単位	馬場将光
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

本講義は3つの目的をもつ。1つは学生諸君が日本の教育の特徴を把握することである。人は自分を見失った時にはあるいは自分がどのような人間であるかを知るためには、他人と自分を比較せよ、とよくいわれる。日本の教育のかたちを知るためには、日本の教育と他国の教育とを比較することが重要である。この比較法をつかって、日本の教育のかたちを考察する。2つは現代の国際化時代においては他国の教育のかちを理解し、他国の人の考え方をすることは相手を知るうえで大切である。一口でいえば外国教育の理解である。3つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

〔講義内容〕

講義内容は、おおむね次のようになる。

1. 比較教育の目的・方法・課題
2. 半日制の学校（ドイツ）
3. 子供中心の学校（フランス）
4. 新たな発展を求める学校（エクアドル）
5. 明るくて楽しい学校（ブラジル）
6. 変革のうねりのなかの学校（ロシア）
7. 揺れる社会主義大国の学校（中国）
8. 課外活動を楽しむ学校（イギリス）
9. 多民族・多文化尊重の学校（オーストラリア）
10. 多様ななかの平等を模索する学校（アメリカ）
11. アジアの優等生の学校（シンガポール）
12. 心の教育を重んじる国の学校（タイ）
13. 木陰の学校（インド）
14. 先生様の国の学校（韓国）

〔講義のすすめ方〕

講義はテキストににそって、毎時間1章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は1回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。

講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教材〕

以下のテキストを使用する。

二宮 皓編「世界の学校」

（福村出版）¥2800+税

〔成績評価の方法・基準〕

- ・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には5点を加算する。ノートは後日返却する。
- ・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60%できていることとする。
- ・次の課題の中から課題をひとつ選びレポートを提出する。レポートを提出したものは試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期6月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。

レポートの課題は次の通り。

「最低5ヶ国についてある問題について比較し、そこにはどのような共通点と差異点があるかを指摘し、その理由を考察せよ。」「ある問題」とは、例えば学校制度、教育課程・教育内容、教育方法、課外活動、宗教教育、学校生活、進級試験、大学入試、教育改革、就学前教育、親と学校との関係、教員養成、私立学校と公立学校、その他自分が関心のある問題をいう。1口でいえばなんの問題でもよい。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
- ・講義は時間通り正確に始まる。正当な理由がない限り遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
- ・話の調子はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

〔科目内容の位置付け〕

- ・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
- ・話は意外に面白く楽しいよ！！

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：教育総論、教育原理、教育制度論、教育課程論

6 III群	教 育 哲 学	2単位	石 堂 常 世
-----------	---------	-----	---------

〔講義目的〕

- 1、本講義では、人間形成の哲学を講義する。その際、「子どもが大人になる」とはどのような意味かという問題意識から展開していく。
- 2、本講義では、可能な限り西洋ならびに日本の古典的名著を援用し、それらの人間観にみられる教育的価値観の多様性や対峙性を考察させ、人間の教育について哲学的に種々の見方があるということを理解させる。
- 3、本講義を通して、自己体験型の教育観やジャーナル的な教育論の枠から脱皮していきけるように、また人間の塾成という問いを生涯にわたって持ち続けることのできる教育力を養いたい。

〔講義内容〕

- 第1回 本授業の教務上のポイントの提示、序論 教育学からみた教育哲学の位置
- 第2回 導入：教育哲学の手法と基底
- 第3回 導入：教育についての「哲学的問い」
- 第4回 教育の意味の多義性と対峙性
- 第5回 語源からみる教育の意味包摂
- 第6回 「徳」という人間形成の熟成の意味
- 第7回 キリスト教の人間形成の深奥さ
- 第8回 デカルトからカントにみる自己意識と主体
- 第9回 ルソーと「自然」概念
- 第10回 新カント派の人間像と教育論
- 第11回 教育をみる巨視的視点：デュルケム
- 第12回 アメリのプラグマチズム教育観にみる今日性
- 第13回 新教育運動のなかの児童観と教育観
- 第14回 ポストモダン思想の教育学的新味と問題点
- 第15回 明日に生きる世代が抱える教育的課題

〔講義のすすめ方〕

- ①講義内容は安易ではないが、分かりやすい説明の講義形式、
- ②プリント（講義レジュメ）の配布は随時
- ③古典研究を基礎とした教育原理の理解から、現代の教育問題の考察へ
- ④随時レポートを提出させる。

〔教 材〕

- 1、ルブール著・石堂訳『教育的価値』法政大学出版局、2005
- 2、山崎・石堂監修『教育哲学へのいざない』学術出版、2005
（1、2とも、前期末～夏期に詳細を掲示する）
- 3、その他の文献は、プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

総合点

- ①授業中にテーマを出すレポートの評価（後期2回）（20%）
- ②学期末試験（50%）
- ③出席状況（半分以上欠席の場合は自動的に不可）（30%）

〔科目内容の位置付け〕

- ①西洋史の教養があると望ましい。
- ②教職科目の中では、教育原理を履修していることが理想的である。

7 III群	教育心理学概論	2単位	平田乃美
-----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

- 1) 子どもの発達や行動、環境との関わりなどに関する心理学理論の基礎を学ぶ
- 2) 心理学の理論や実験を通して、教育効果を高める要因について理解を深める
- 3) 1)、2)の知見の教育実践での活用について考える

〔講義内容〕

教育心理学には、教育の効果を高めるために役立つ心理学的知見や技術の教育場面への適用という側面と、教育的営みの中で培われる総合的な人間研究という側面があります。本講義では学校現場における保育・教育の実践において、子どもの行動を理解するための手掛りとなるであろう教育心理学の基礎知識を紹介します。

〔講義のすすめ方〕

1. 研究史：教育心理学
2. 教育心理学の研究手法
3. 教育における測定と評価(1)
—統計データを読む—
4. 教育における測定と評価(2)
—データの数値化—
5. 待つ教育と促す教育：遺伝と素質
6. 個人差の理解(1)知的能力・認知の発達
7. 個人差の理解(2)不適応・障害児の理解
8. 発達理論と教育環境(1)生涯発達の観点
9. 発達理論と教育環境(2)親子関係と愛着
10. 学習の理論(1)
11. 学習の理論(2)
12. 教育場面における個人と集団
13. 学習における動機づけ(1)
—内発的・外発的動機づけ—
14. 学習における動機づけ(2)
—子どものやる気を育てる—
15. まとめ

〔教材〕

授業で紹介されたテーマについて、更に関心がある場合は、毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の得点による相対評価とします。

〔履修のポイント・注意点〕

講義の区切りで実施する小テストの受験率が60%以下の場合は、評価対象となりません。

〔科目内容の位置付け〕

「認定心理士」資格申請では、「基礎科目」（心理学概論）に区分される科目です。資格取得を希望する場合は、履修要項等を熟読して計画的な履修を心掛けてください。

8 川野	コンピュータ実習	2単位	渋川美紀
---------	----------	-----	------

〔講義目的〕

マルチメディア・パソコンやインターネットの発達により音と映像が気軽に加工できるようになり、コンピュータは情報をつかんで仕事に活かすだけでなく、個人の趣味にもなくてはならないものになりました。ただ機能を使いこなすだけでなく、自分にあったものをつくり出すということも必要な作業の1つであります。

そこで本講義では日本語ワープロ (Microsoft Word)、電子メール (E-mail)、スプレッド・シート (Microsoft Excel) などのソフトウェアによる実習を行うことにより、まず基本的な情報処理や一般常識を学び、ひいては情報をたくみに処理し、自分にあったシステムを構築することを考えていきたいと思えます。すぐに役に立つ知識はもちろん、世の中の変化に対応できる普遍的知識も身につけて下さい。

〔講義内容〕

1. パソコンの基本操作
2. インターネットと電子メール
3. Wordの実習
 - ・文書作成の基本操作
 - ・文書の装飾
 - ・図形、表の作成
 - ・応用
4. Excelの実習
 - ・表計算
 - ・グラフの作成・編集
 - ・データベース機能について
5. PowerPointの実習
6. ペイントの実習

〔講義のすすめ方〕

テキスト・プリント・その他を使用して実習を行います。例題を解いたのち、課題を作成するという形式ですすめていきます。

〔教材〕

教科書および参考書は第1回の講義で指定します。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況・実習課題・小テストによって判断します。

〔履修のポイント・注意点〕

30分以上遅刻をしないようにしましょう (欠席扱いにします)。また、遅刻3回で欠席1回とします。実習の授業ですので、欠席もしないようにしましょう。

〔科目内容の位置付け〕

レポートの作成・データの分析には必ず必要となるので、多くの科目の基準となる科目です。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はありません。コンピュータについての知識がなくても結構です。関連科目も特にありませんが、パソコンが文房具化している現在においてはほとんどの科目に関係しているとも言えます。

9	実技理論・実習 陸上運動Ⅰ	1単位	竹島克己(藤井和彦)
---	------------------	-----	------------

〔講義目的〕

陸上競技について正しい練習方法、指導方法を学ぶ。

〔講義内容〕

陸上運動Ⅰでは短距離走、障害走、投てきの3種目を行う。

〔講義のすすめ方〕

短距離走ではウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチ、スプリントドリル、スタートダッシュ、中間走、加速走、タイムトライアル等を行う。

障害走(80mハードル)ではこの種目に必要な補強運動、振り上げ脚や抜き足の動作、タイムトライアルを行う。

投てきでは主に砲丸投げを行う。砲丸投げに必要な筋力のつけ方、跳躍力、動作、投てき技術を学び、計測を行う。

〔教材〕

資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

- 参加度 出席を評価する
授業への取り組む姿勢
- 貢献度 授業の準備・かたづけ・デモンストラーションへの貢献度
- 技能・運動能力水準
技能・能力の到達度
- 授業目的達成度
トレーニング科学に関するレポート・実技ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕

実技ノートをつくりポイントとなる事項については書きとめておくようにする。
指導する側に立った観点を望む。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

陸上運動Ⅱ

10	実技理論・実習 陸上運動Ⅱ	1単位	竹島克己(藤井和彦)
----	------------------	-----	------------

〔講義目的〕

陸上競技について正しい練習方法、指導方法を学ぶ。

〔講義内容〕

陸上運動Ⅱでは走り幅跳び、障害走、長距離走の3種目を行なう。

〔講義のすすめ方〕

走り幅跳びでは関連する立幅跳び、立三段跳などを行う。また助走、踏み切り動作などの練習をしてより遠く跳躍できるよう練習する。

障害走(80mハードル)ではこの種目に必要な補強運動、振り上げ脚や抜き足の動作、タイムトライアルを行う。陸上運動Ⅰでも行うが教員採用試験の試験種目となることが多いので更に技術を向上させたい。

瞬発力を要する種目は気温の低い時期には向かない。冬期は長距離走を行うことが多い。長距離の練習の方法を知り、健康に良いエアロビクス運動に親しんでほしい。

〔教材〕

資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

- 参加度 出席を評価する
授業への取り組む姿勢
- 貢献度 授業の準備・かたづけ・デモンストラーションへの貢献度
- 技能・運動能力水準
技能・能力の到達度
- 授業目的達成度
トレーニング科学に関するレポート・実技ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕

実技ノートをつくりポイントとなる事項については書きとめておくようにする。
指導する側に立った観点を望む。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

陸上運動Ⅰ

11	実技理論・実習 器械運動Ⅰ	1単位	吉田 茂
----	------------------	-----	------

〔講義目的〕

本講義は、小学校から高等学校まで、学校体育の主要教材となっている器械運動の技能の習得や教材としての特性を理解し教員としての資質の向上を計ることを主要な目的としている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕
特になし。

〔講義内容〕

器械運動Ⅰでは、主として小学校体育で取り扱われる、マット運動、とび箱運動、鉄棒運動、平均台運動などの初歩的技能を中心に取り扱い、それらの技能の習得を計るとともに、運動材のコツや構造的な理解を深め、指導力の向上を計る。

〔講義のすすめ方〕

実習では、まずマット運動を取り扱い、倒立位や回転感覚などを養い、自己の身体の支配能力を高める。次に、とび箱運動、鉄棒運動を取り扱い、自分で技のコツが把握できるよう「自己観察能力」や「修正能力」「統覚能力」を養うことかできるよう段階的に、種目間の関連を計りながら進める。

〔教 材〕

参考図書として以下のものを参照されたい。
『器械運動指導ハンドブック』
大修館、中島、太田、吉田、三浦著
『マット運動』大修館、金子明友著
『鉄棒運動』大修館、金子明友著
『とび箱・平均台運動』大修館、金子著

〔成績評価の方法・基準〕

技能テストによる技能評価
各種目の代表的な技を課題として実技テストを行う。60点以上を合格ラインとする。
レポートによる評価
各時間ごとの内容とコツに関する言表をノートとして提出し、評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席を重視する。
- ・自分で分ったコツをノートに書き留めておくようにする。
- ・地道に根気よく練習すること。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許取得に必要な単位。

12	実技理論・実習	1単位	吉田 茂
IV期	器械運動Ⅱ		

〔講義目的〕

本理論・実習では、小学校から高等学校まで、学校体育の主要教材となっている器械運動の技能の習得や教材特性を理解し、教員としての資質の向上を計ることを主要な目的としている。この理論・実習を通して、器械運動の楽しさを体験することが目的である。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目、選択必修の実技単位。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

器械運動Ⅰの履修。

〔講義内容〕

器械運動Ⅱでは、Ⅰで習得した技能をさらにレベルアップする。特に、鉄棒やとび箱、平均台などの器械を主に時間配分し、マット運動で習得した技能の応用を計る。

自分で個々の技のコツが把握できるよう、「自己観察能力」や「修正能力」「統覚能力」を養うことができるよう段階的に進める。

〔講義のすすめ方〕

器械運動Ⅰの履修を前提に、器械を用いる種目を主として取り扱う。

鉄棒、とび箱、平均台では初歩的ななれの運動からやや高度な技までを段階的に行う。マット運動では、集団器械運動などの種々の楽しみ方を実践する。

〔教 材〕

参考図書として以下のようなものを参照されたい。

『器械運動指導ハンドブック』大修館

中島、太田、吉田、三浦共著

『マット運動』、『鉄棒運動』、『とび箱・平均台運動』大修館 金子明友著

〔成績評価の方法・基準〕

技能テストによる技能評価

各種目の代表的な技を課題として実技テストを行う。60点以上が合格ライン。

レポートによる評価

各種目の代表的な技のコツを言葉で表現してノートする。

〔履修のポイント・注意点〕

- ・出席を重視する。
- ・地道に根気よく練習すること。
- ・自分で把握したコツをノートに書き留めておく。

13 IV群	実技理論・実習 水泳	1単位	椿本昇三
-----------	---------------	-----	------

〔講義目的〕

学校体育における水泳についての指導方法論を理解し、さらに自らの水泳技能の向上を目指す。

〔科目内容の位置付け〕

教職の教科の科目

〔講義内容〕

主として、水泳指導（初心者指導・泳法指導）に関する方法論について学びながら、正確な近代泳法4種目を習得する。また、水中安全教育についても理解を深める。

〔講義のすすめ方〕

集中授業で学外の実習のために若干日程が不規則になるため、学生各自の予習復習を重要視する。

1. オリエンテーション（グループ分け）
2. 初心者指導（水慣れ、水中遊戯）
3. エレメンタリ-ストローク（初歩的な泳法指導）
4. 4泳法指導（クロール、平泳、背泳、バタフライ）
5. 水中ボールゲーム
6. 水中リズム泳
7. 水中運動（ウォーキング等）
8. 水中安全教育（セルフリスキュー）
9. 生涯スポーツとしての水泳
10. まとめ

〔教 材〕

必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況（50点）

泳法検査

（25mを正確に泳ぐ、4種目×5点=20点）

復習のレポート

（自己評価と課題について、20点）

グループ記録証（グループ活動の記録、10点）

〔履修のポイント・注意点〕

集中授業のため、出席が重要視される。競泳用水着、ゴーグル、スイムキャップ、タオル、Tシャツ、学生教育災害保険加入者のみ

学外施設として、栃木県立温水プール館（小山市外城）を利用するため実費がかかります。

14	実技理論・実習 柔道	1単位	蓬田正郎
----	---------------	-----	------

〔講義目的〕

柔道の基本である、体さばきや受身の技術向上はもちろん、それらの練習を通して、日常生活における障害防止や護身にも役立つことを学習する。また、固め技や投げ技を習得することによって、技術も向上し柔軟性も高まることを知る。そして、武道としての特性から相手を尊重する態度や、協力する態度を養い、社会人として必要な礼儀作法を身につけるとともに健康・安全に留意することの大切さを学ぶ。

〔講義内容〕

〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション（授業に関する諸注意・進め方・ねらい等について説明）
2. 礼法（座礼・立礼・服装や態度の指導）
3. 投げ技の基本動作（姿勢・組み手・崩し・体さばき・受身）
4. 固め技の基本動作（固め技の体さばき・固め技への入り方）
5. 投げ技（手技・腰技・足技）
6. 立ち技の連絡変化（大内刈り～大外刈りなど）
7. 寝技の連絡変化（けさ固め～上四方固めなど）
8. 試合の進め方（試合場についての説明）
9. 審判・勝負規定（国内ルール・国際ルールの説明）
10. 世界の柔道について

〔教材〕

参考書 【ベスト柔道】猪熊功・佐藤宣践
共著 講談社インターナショナル
【寝技で勝つ柔道】柏崎克彦著
ベースボールマガジン社
【闘魂の柔道】山下泰裕著
ベースボールマガジン社

〔成績評価の方法・基準〕

出席、授業に対し取り組む姿勢、実技テストによって総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

出席重視、用具（柔道着）

15 IV組	実技理論・実習 ダンスⅠ	1単位	内山須美子
-----------	-----------------	-----	-------

〔講義目的〕

1. ストリートダンスのデモンストレーションができるようになる。
2. 習得したステップやテクニックを組み合わせ、オリジナル作品を創ることができるようになる。
3. ストリートダンスの歴史、特性、構造（ステップとテクニック）について理解する。
4. 運動学的なアプローチによる運動習熟のプロセスについて理解する。

〔講義内容〕

1. 実技
ストリートダンス
ハウス・ロックン
ヒップホップ・ブレイキン
2. 理論
(1) ストリートダンスの歴史・特性・構造
(2) 運動習熟のプロセス（運動学的に）

〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション、グループ分け
ハウス：パドブレ・キックバック・ラコステ・クロスステップ
2. ハウス：ターン(1)・フロアパターン(1)
3. ハウス：基本ルーティン及びコンビネーションのテスト・創作
4. ロックン：トゥエル・ロック・ポイント・クラブ・ノック
5. ロックン：スキータラビット・ツイスト・スクービードゥ
6. ロックン：基本ルーティン及びコンビネーションのテスト・創作
7. ヒップホップ：ボックス・スマーフ・シザース
8. ヒップホップ：クラブ・スライド
9. ヒップホップ：基本ルーティン及びコンビネーションのテスト・創作
10. ブレイキン：エントリー・ツイスト・キックバック・トップロック
11. ブレイキン：6歩・5歩・3歩
12. ブレイキン：基本ルーティン及びコンビネーションのテスト・創作
13. 作品発表、鑑賞、評価

〔教材〕

必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕

1. 出席状況：46点
(1回の欠席毎に4点ずつマイナス)
2. 基本ルーティン：12点
(3点満点×4ジャンル)
3. コンビネーション：12点
(3点満点×4ジャンル)
4. 創作作品：15点
5. 筆記テスト：15点

〔履修のポイント・注意点〕

1. 動きやすい服装
2. 室内履き
3. 予習と復習

〔科目内容の位置付け〕

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

引き続き、実技理論・実習ダンスⅡを履修することが望ましい。

16	実技理論・実習 ダンスⅡ	1単位	内山須美子
----	-----------------	-----	-------

〔講義目的〕

1. ストリートダンスを教えることができるようになる。
2. ダンスの学習目標・学習内容・学習評価について理解する。
3. 生理学的なアプローチによる運動習熟のプロセスについて理解する。

〔講義内容〕

1. 実技
ストリートダンス
ハウス・ロックン
ヒップホップ・ブレイキン
2. 理論
(1)ダンスの指導法
(2)運動習熟のプロセス（生理学的に）

〔講義のすすめ方〕

1. オリエンテーション、グループ分け
ハウス：ゲットダウン・ドルフィン
2. ハウス：ターン(2)・フロア(2)
3. ハウス：基本ルーティン及びコンビネーションのテスト・創作
4. ロックン：クロスハンド・シャッフル・スクーバット
5. ロックン：ストップ&ゴー・ベビーシッター・ロックステディ
6. ロックン：基本ルーティン及びコンビネーションのテスト・創作
7. ヒップホップ：ウエーブ・ロックザポート・ペーパーシート
8. ヒップホップ：ジャツキン・スクープ・シャムロック
9. ヒップホップ：基本ルーティン及びコンビネーションのテスト・創作
10. ブレイキン：アップロック・スタマック・CC・スワイプス
11. ブレイキン：8歩・4歩・3歩・2歩
マックス・チェア
12. ブレイキン：基本ルーティン及びコンビネーションのテスト・創作
13. 作品発表、鑑賞、評価

〔教材〕

必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕

1. 出席状況：46点
(1回の欠席毎に4点ずつマイナス)
2. 基本ルーティン：12点
(3点満点×4ジャンル)
3. コンビネーション：12点
(3点満点×4ジャンル)
4. 創作作品：15点
5. 筆記テスト：15点

〔履修のポイント・注意点〕

1. 動きやすい服装
2. 室内履き
3. 予習と復習

〔科目内容の位置付け〕

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

実技理論・実習ダンスⅠからの履修が望ましい。

17 IV群	実技理論・実習 バスケットボール	1単位	齋藤一人(金田健史)
-----------	---------------------	-----	------------

〔講義目的〕

バスケットボールにおける様々な技術の構造、ルールを理解し、その特性を通して技術・戦術論の立場から集団的技能や個人的技能を分析、考察を加え、それらを構成する体力・技術・戦術の習得を中心として、基礎的なゲーム展開の方法を実習する。また、このスポーツを通して、体力の向上・スポーツの楽しみ方・モラルの育成・競技の歴史などを学習し、生涯スポーツを楽しめるスタンスを生むようなモデルを提案し実習する。

〔講義内容〕

- ①オリエンテーション
- ②FUN DRILLS
- ③基礎技術の理解と習得および応用した技術への発展（簡易ゲーム展開）
ゴールへの攻撃－1 ON 1－基礎技術シュートの解説と練習方法と指導法に関する実技
- ④ゴールへの攻撃－2 ON 2－基礎技術ドリブルの解説と練習方法と指導法に関する実技
- ⑤ゴールへの攻撃－3 ON 3－基礎技術パスの解説と練習方法と指導法に関する実技
- ⑥モーションオフense－3 ON 3－スクリーンプレイ技術の理解と習得およびチームとしての集団技術への発展
- ⑦トランジション－5 ON 5－攻防の切り替えの解説と練習方法と指導法に関する実技
- ⑧アウトナンバープレイヤー戦術としてのファーストブレイクの練習法と指導法の理解
- ⑨トランジション－戦術としてのフォーメーションに関する基本的考え方の理解と実践
- ⑩リーグ戦－5 ON 5－バスケットボール・ルールの理解と審判法およびゲームの進め方

〔講義のすすめ方〕

「ゲーム－発問・応答・考察－練習－ゲーム」という流れで授業を展開し、技術練習を毎時間の適切な場面で行うことやゲームにおける戦術的状況の中で技術を用いることで、戦術と技術を関連付けて指導する。そこで戦術的気づき（問題解決能力の選択能力）を助長する。

〔教材〕

特になし（バスケットボール関係の書籍全般）。必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席、レポート、スキルテスト等によって総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

特に出席が重視されます。体育館シューズ・運動できる服装で出席のする事。

〔科目内容の位置付け〕

教職の教科の科目

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

課題研究A・Bに発展していく

18	実技理論・実習 バレーボール	1単位	大関孝雄
----	-------------------	-----	------

〔講義目的〕

初心者にとっては「難しい、痛い、楽しくない」と思われることの多いバレーボールを、自らがゲームを楽しめる技術を習得するとともに、指導者として楽しませることができるような指導方法を学習する。

安全管理、技術、指導方法やルールの学習を基本として、主に部活動として行われている競技性の高い6人制と、地域での球技大会や家庭婦人でさかんであり、競技性とレクリエーション性のバランスのとれた9人制両方について実習していく。

〔講義内容〕

- ①オリエンテーション
- ②施設や用具の点検確認や設置方法等について
- ③パスの基本と応用
- ④サーブ及びサーブレシーブの練習
- ⑤スパイク、トス、ブロックの練習
- ⑥6人制のゲーム、ルール説明
- ⑦9人制のゲーム、ルール説明
- ⑧救急処置（足首のテーピング）

〔教 材〕

- ・体育館用シューズ、ノート及び筆記用具
- ・運動着上下
- ・必要に応じて指示します

〔成績評価の方法・基準〕

出席率、授業態度、技術で総合的に評価します。特に出席率は重視します。

〔履修のポイント・注意点〕

ケガ防止の為アクセサリ類（特に指輪）は注意して欲しい。

19	実技理論・実習 野球(ソフトボール)	1単位	栗山英樹
IV期			

〔講義目的〕

健康維持はもちろん、社会で活躍するために体力を培うことは、大切な要素。さらに余暇の過ごし方や観戦の楽しみもまた、生活にゆとりを与えてくれるもの。そういったスポーツに対する距離感を作りたいと思います。種目としてはソフトボール・野球という団体スポーツでありながら、個人競技の要素を高く持つスポーツの選択です。

〔講義内容〕

- ①オリエンテーション（班分けや授業内容の確認）
- ②道具の使い方、ルールの確認
- ③キャッチボールなど基本練習
- ④ペッパーなど攻撃の基本練習
- ⑤内野、外野の連携プレー、ダブルプレーなどの練習
- ⑥ゲーム形式の練習
- ⑦班ごとによるリーグ戦

〔教 材〕

運道着、シューズが必要です。
野球道具の基本的なものは学校で用意しますが、慣れたグラブなどぜひ持参されたい。

〔成績評価の方法・基準〕

出欠席、遅刻を重要な要素とし、技術向上による加算制。

〔履修のポイント・注意点〕

屋外の授業になるため、着替え、シャワーなどの用意をきちんとすること。
出来る、出来ないではなく、どれだけ楽しく取り組めるがポイント。

20	実技理論・実習 テニス	1単位	野間明紀(齊藤武利)
----	----------------	-----	------------

〔講義目的〕

大学卒業後に就職した現場において活用できる様にテニスの基本的技術、理論、ルール等を実技を通して指導していく考えです。

〔講義内容〕

- ①班分け
- ②ラケットとボールになれる(初心者)
- ③ストロークの練習
- ④サーブの練習
- ⑤ボレー、スマッシュの練習
- ⑥ゲーム、ルールの説明
(雨天の場合は教室でビデオ等の観賞)

〔教材〕

- ・テニスシューズが必要です。
- ・ラケットは貸し出します。
- ・服装は運動しやすいもの(ジーパン等の普段着は不可)

〔成績評価の方法・基準〕

出席率、授業態度、技術で評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

欠席は3回までとし、4回以上欠席した場合、単位は修得できません。遅刻は2回で欠席1回とします。

〔科目内容の位置付け〕

1～4年次の選択科目です。

21 IV群	実技理論・実習 ラグビー	1単位	齊藤 武利(Aクラス) Paul Nawalu(Bクラス)
-----------	-----------------	-----	-------------------------------

〔講義目的〕

団体球技系スポーツ種目、特にラグビーを研究するにあたり、必要となるラグビー競技の特性を理解し、わが国における青少年のラグビー指導のあり方を検証する。また、ラグビーの指導法研究を推進するための専門的な知識と指導能力を得ることを目標とする。

〔講義内容〕

- I. ラグビーの特性と特徴について
 - ・ラグビーの基本原則
 - ・ラグビー憲章について
- II. ラグビーゲームの構造について
 - ・ランニング、コンタクト、パス、キックについて
 - ・スクラム、ラインアウト、キックオフ、PK、FKについて
- III. ラグビーのコーチング、および指導方法について
 - ・各種リードアップゲームについて
 - ・タグラグビーについて
 - ・タッチラグビーについて
 - ・7人制ラグビーについて
- IV. ラグビーゲームの理解について
 - ・ゲーム分析の意義
 - ・ゲーム分析の手法の紹介
 - ・分析データの整理、分析、検討
- V. ラグビーの競技規則（ルール）について
 - ・レフリーについて
 - ・U19以下の競技規則について
- VI. ラグビー競技の発展と安全対策との関連について

〔講義のすすめ方〕

必要な資料は、毎回配布し、特に教科書は指定しない。

〔教 材〕

OHP、VTRなど視聴覚教材を使用する。
参考書として、競技規則（LAWS of the game）を購入予定。

〔成績評価の方法・基準〕

理論および実習なので、全てを出席し、経験することを優先する。

毎回ごとにレポートなど、課題を提出する。

成績の評価は、出欠状況、課題の遂行状況、およびレポートの内容などによる。

やむを得ない事情により、欠席する場合は、補講を別途行う。

〔履修のポイント・注意点〕

今後、ラグビーの指導者を志すもの。あるいは、ラグビーに関係した専攻科目を希望するものが履修すること。

3年次以降、課題研究を履修するものは、必ず履修すること。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

実習では、実際に実技を実施するため、運動できる服装で汚れても問題のないもの。

22	実技理論・実習 サッカー	1単位	安達賢二(金田健史)
----	-----------------	-----	------------

〔講義目的〕

現在のサッカーの指導でもっとも重視されていることは、「いかに全員の子供たちをゲームに楽しく参加させるか」である。そこで、私が重視したいのは「ルールの工夫」である。ルールの工夫によって個人の技術差が克服でき、みんなが楽しめるサッカーの授業が成立する。このような授業によって、生徒も教師もそれなりの満足感を味わう。

「勝てば何をしてもいい」という指導より、「勝つよりもっと大切なこと」を教える人のための授業としたい。

〔講義内容〕

1. サッカーの概要と特性
2. 競技場と施設、用具
3. 準備運動と補強運動
4. 技能の学習と練習法
 - 個人技能 シュート、ドリブル、リフティング、マーキング
 - 集団技能 パスワーク、コンビネーション、クロスボール
5. ルールと審判法
 - 競技規則 用語解説

〔講義のすすめ方〕

天候により教室、体育館、校庭と授業場所が変わりますが、サッカーを一生の友にできるスキルと楽しさを伝えたい。また、状況判断ができ自分で考える力を養って欲しい。

遊びの要素を取り入れた楽しいメニューでスモールゲームや11人制ゲームをとり入れる。キックとシュートメニュー、ドリブルメニューでスキルアップをはかる。ルール理解に積極的に取り組んでもらう。

〔教 材〕

参 考 書 「サッカー」(一橋出版)から必要に応じて教材を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

実技テスト ルールテスト、レポート、出席状況、授業態度を総合評価する。欠席、遅刻の少ない人は評価に反映させる。欠席多い人は単位を与えない。

〔履修のポイント・注意点〕

用具・服装

サッカーに適した靴で走り易い服装を望む。
(短パン、トレーニングシューズがベター)
・上手・下手、経験者、未経験者などは関係ありません。大切なのはやる気です。

〔科目内容の位置付け〕

教員免許の教科目

23	実技理論・実習 体づくり運動	1単位	近藤智靖
----	-------------------	-----	------

〔講義目的〕

本科目の目的は、学習指導要領でも明示されている体づくり運動の考え方を下に、体力を高める運動と体ほぐしの運動の二つ運動を学ぶことである。実技を中心にしながら、理論を同時に学んでいく。

〔講義内容〕

本科目は概ね二つの点から成り立っている。

1. 体力を高める運動では、Gボール、長縄、短縄、ピークッションなどの道具を用いながら、簡易にしかも楽しく運動をしていく方法を学ぶ。
2. 体ほぐしの運動では、「気づき」「調整」「交流」という三つの柱を学習する。そこで、ブラインドウォークや弛緩法などの体気づきのプログラムを行ったり、チャレンジ運動などの仲間づくりプログラムなどを組み合わせて行う。また、体ほぐしの運動に関する研究成果も紹介していく。

〔講義のすすめ方〕

実技を中心に行う。運動の課題によって個人、ペア、グループ、全員で取り組むものを適宜設定する。また、ただ単に教師の指示を待つだけではなく、設定した問題を解決する問題解決学習や発見学習などを行う。毎時間、全員が成果や考えたことを発表する機会を設定する。また、活動によって技能テストも実施する。

〔教 材〕

参考図書

ちゃれんGボール 乗ってほぐれる心と体 体づくり運動のためのGボール活用法 子どもたちが夢中になる118の運動例と23の授業プラン Anne Spalding著 長谷川聖修監訳 ギムニク 2940円

〔成績評価の方法・基準〕

出席（遅刻は減点） 30%
レポート 40%
毎時間の報告シート 30%

〔履修のポイント・注意点〕

本科目は、スポーツ健康専攻の学生全員が必ず履修する実技である。そのため、体力の有無、技能の高低、経験の有無がほとんど関係しないような運動を実施する予定である。競技とは異なり、体を動かすことの楽しさや仲間と一緒に動く楽しさを味わって欲しい。

なお、毎時間、必ず実技と理論的な説明を行うので、運動着のみならず筆記用具も持参すること。

〔科目内容の位置付け〕

簡易な運動や活動を取り上げるために、前提となるような予備知識は問わない。ただし、生涯スポーツという考え方に立った場合、本科目による経験が、一つの基礎になるのではないかと考える。また、将来的に運動を指導する場合でも、子どもや成人、あるいは高齢者のための活動を支援する一つの手がかりになるのではないかと考える。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

教員免許を取得する者については、体づくり運動指導法との関連性を意識してほしい。

24 IV群	体 育 原 理	2単位	吉 田 茂
-----------	---------	-----	-------

〔講義目的〕

「体育とは何か」に問いかけ、明確な答えを得ることは、そう簡単なことではない。それは、体育の概念が、明治時代以降に外国から導入され、時代と共に変遷して来たことにもよる。学校教育の中で、あるいは生涯教育の中で、体育の概念はどのように考えられて来たのかを理解することが本講義の目的である。

〔講義内容〕

主要内容は以下のようなものである。

- (1) 体育とは何か
- (2) 体育と体育学
- (3) 遊びとは何か
- (4) 身体形成とは何か
- (5) 運動文化とは何か
- (6) スポーツと教育

〔講義のすすめ方〕

『体育原理講義』大修館をテキストとして上記の内容を講義する。

〔教 材〕

上記のテキストを使用するとともに、独自の資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

記述式テストを行なう。合格の基準は60%以上とする。

〔履修のポイント・注意点〕

テキストを使用するので、予習や復習を常に行なって下さい。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特になし。

25	体 育 心 理 学	2単位	本多麻子
IV#			

〔講義目的〕

- 1) スポーツや運動に関する心理的特性、パーソナリティ、動機づけ、運動学習などを中心として、体育心理学の基本的内容を理解する。
- 2) スポーツ場面におけるパフォーマンス向上、および心身の健康の維持・増進という2つの視点から、精神身体活動を理解する。
- 3) スポーツや運動に関する心と身体の相関関係について理解を深める。

〔講義内容〕

主な講義内容は以下の通りである。

- 1) スポーツとパーソナリティ
- 2) スポーツと動機づけ
- 3) スポーツと感情
- 4) コンディショニング
- 5) 運動学習
- 6) イメージトレーニング、メンタルマネジメント
- 7) スポーツと健康

〔講義のすすめ方〕

上記の内容について講義を進める。適宜、スポーツに関する心理検査を実施する。その結果や解釈を簡単なレポートとして提出する。

〔教 材〕

必要に応じて資料を配布する。参考文献は授業中に紹介する。教科書は指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕

出席30%、レポート30%、定期試験40%として評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

授業時間内にレポートを提出することにより、出席の代わりとする場合がある。授業時間内にレポートを提出できない場合、次回の講義開始前を提出期限とする。提出期限外のレポートは評価の対象としない。

〔科目内容の位置付け〕

中学校・高等学校一種免許状（保健体育）関連科目（選択必修）である。
「認定心理士」資格申請を希望する場合は受講することが望ましい。
本講義では、体育心理学、スポーツ心理学

の基礎的内容を扱う。スポーツ、運動、心身の健康をキーワードとした心と身体の間を学ぶ基礎的科目として位置づけられる。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目は特にないが、心理学関連科目の履修を勧める。

26 IV期	体育経営管理学	2単位	藤井和彦
-----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

本講座の科目名は「体育」経営管理学であるが、体育の問題に留まらず、今日の多様な体育・スポーツに関わる現象を視野に入れながら、体育・スポーツ経営学の基礎的な理論を解説する。この学問は歴史の浅い学問ではあるが、その時々々の体育やスポーツの実践現場における「管理」や「経営」といった営みの必要性に応える形で発展してきた。「体育管理学」から「スポーツ経営学」への流れを理解し、「体育・スポーツ経営」とはどのような活動を理解することを目的とする。学校体育や地域スポーツなどの領域について、体育・スポーツ経営学の立場から今日的な課題や今後の方向性等について自分なりの見解を持つことができるようになることを講義の最終的な到達目標とする。

〔講義内容〕

- ①オリエンテーション「体育管理」と「体育経営」
 - ②現代社会と体育・スポーツ経営学
 - ③体育・スポーツ経営とはどのような営みか
 - ④スポーツ生活と運動生活
 - ⑤体育・スポーツ事業と経営資源
 - ⑥体育・スポーツ事業の進め方
 - ⑦体育・スポーツ経営体
 - ⑧体育・スポーツ経営の評価
 - ⑨学校における体育・スポーツ経営をめぐる問題
 - ⑩地域における体育・スポーツ経営をめぐる問題
 - ⑪民間スポーツ・フィットネスクラブの経営戦略
 - ⑫「みるスポーツ」の経営
 - ⑬まとめと試験
- ※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕

一般的な講義形式を中心として進める。下記の指定テキストの内容に対応した講義ノート（資料）を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。主要な感想や質問については次回の講義の冒頭で再度取り上げ、解説する。この他、2～3度のレ

ポートを課す。

〔教材〕

「体育・スポーツ経営学講義」
八代勉・中村平編著
大修館書店 2200円＋税
を指定テキストとする。この他参考図書については講義中において適宜紹介していく。

〔成績評価の方法・基準〕

テスト1回（期末）、レポート学期2～3回。

レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点（70%）＋出席点（30%）を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。

試験は、テキスト及び配布された講義ノート（自筆のもののみ）の持込を可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。

出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回3点満点で加算し評価の材料とする。

〔履修のポイント・注意点〕

教職のために必要な科目であるばかりでなく、体育・スポーツの専門家として体育・スポーツ経営の考え方を理解しておくことは不可欠であると考えため、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

履修年次は2年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕

体育・スポーツ経営学の概論、入門編と位置づける。関連科目の学習やゼミナールなどの演習を通して更に理解を深めて行くことを期待する。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

体育社会学、スポーツ行政論など

27	体育社会学	2単位	中村 祐司
IV群			

〔講義目的〕

現代社会における体育・スポーツをめぐる今日的な諸問題について、学校体育や地域スポーツからプロスポーツ、メディアとの関連まで、いくつかの事例を通して、政治・経済・文化・教育との関連から、あるいは高度化・大衆化といった点から考察を加える。また、スポーツレジャー産業やスポーツ・文化産業といった余暇産業に関わる民間企業によって形成される市場の動きにも注目する。スポーツ社会を単にスポーツ選手やスポーツ愛好者のみで構成される固有な社会と認識させるのではなく、さまざまな諸アクターが参入する小世界（マイクロコズム＝microcosm）における相互作用のダイナミズムとして認識させる。このように現代スポーツ世界を多角的に検討することによって、体育・スポーツが人間社会に果たす役割と課題を明確にしていきたい。

〔講義内容〕

1. 体育・スポーツ社会学研究の意義
2. 学校体育施設と地域のスポーツ活動
3. 公共スポーツ施設と地域社会
4. 体育・スポーツの歴史と社会
5. 体育・スポーツの高度化と大衆化
6. 中央政府・地方自治体と体育・スポーツ
7. 産業市場における体育・スポーツ
8. 国家戦略と体育・スポーツ活動
9. レジャー・余暇活動と体育・スポーツ
10. 体育・スポーツ社会のこれからの課題

〔講義のすすめ方〕

体育・スポーツを研究の対象とする意義について認識させた上で、日本とイギリス・オーストラリアなどの事例を揚げつつ、現代社会における体育・スポーツ活動は変容しつつあることを指摘する。そして、体育・スポーツを取り巻く様々な課題、例えば、サッカーワールドカップ大会やオリンピック大会のような大規模スポーツイベントが国家戦略やスポンサー企業の経営戦略とどのように絡み合っているのかについて論じる。また、消費活動としての「見るスポーツ」など、現代社会において体育・スポーツ活動の置かれている特異性についても触れる中で、体系的・多角的に体育・スポーツ社会を把握していきたい。なお、講義では受講生に対する質問を心掛ける。

〔教材〕

必要に応じて資料を適宜配布するか、研究室ホームページにレジメを掲載し、各自それを印刷させる。参考図書は講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、講義時間中に作成する小レポート（1～2回程度）、定期試験によって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

どのようなものであれ、体育・スポーツとこれに関連する課題に対する問題意識を持って授業に臨んでほしい。質問の時間もできるだけ確保したいので、事実確認以上に考え方や視点をめぐる質問を積極的に行ってほしい。

〔科目内容の位置付け〕

どちらかといえば、この授業では「広く浅く」を心掛け、体育・スポーツの抱える課題を満遍なく網羅的に把握していくので、取り上げた個々の課題のより深い追求は「スポーツ行政論」でやっていきたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

体育・スポーツ活動に従事しているかいないかにかかわらず、また、好き嫌いにかかわらず、体育・スポーツに対する何らかの関心を有していることを受講の前提としたい。また、関連科目として「スポーツ行政論」がある。

28 Ver	スポーツ行政論	2単位	中村 祐司
------------	---------	-----	-------

〔講義目的〕

諸外国におけるスポーツ振興政策も紹介しつつ、サッカーくじの導入やワールドカップ日韓共催などを契機に、国や地方自治体のスポーツ環境がどのように変容し、どのような課題に直面しているのかを明らかにする。財政難や行政のスリム化傾向の中で、従来のスポーツ行政組織機構の再編や統合などの動きにも注目する。そして、スポーツに関わるサービスのめぐって、公的セクター（行政）、私的セクター（民間企業）、ボランティアセクターがパートナーシップ関係を構築していくための方策を探る。とくに、総合型地域スポーツクラブの設立・運営をめぐり、クラブが掲げる理念の共有、実際に直面する課題の解決策、住民の参画方法や地域コミュニティ活性化の方途、さらには企業からの支援の在り方などについても考察する。

〔講義内容〕

1. スポーツ行政研究の意義
2. 先進諸国におけるスポーツ行政の趨勢
3. イギリスのスポーツ政策の変容
4. 日本におけるスポーツ行政の歴史
5. 日本におけるスポーツ振興策の課題
6. オーストラリアのスポーツ行政と産業振興
7. スポーツ行政と地域社会
8. ローカルガバナンスと地域スポーツ活動
9. 総合型地域スポーツクラブの実践と課題
10. スポーツ行政をめぐる現代的課題

〔講義のすすめ方〕

まず、スポーツ行政を研究する意義について受講生に共通の認識を持たせるようにする。そして、中央政府と地方自治体がどのような意図とスタンスでスポーツ振興に取り組んでいるのかを、諸外国の事例も含めて明らかにする。さらに、政府が提供するスポーツ政策とこれを実質的に担う私的セクター（民間企業）やボランティアセクター（市民団体など）がどのような課題に直面しているのかを把握する。なお、受講生に対する質問を心掛け、教員による一方通行的な説明に終始せず、受講者と一緒に課題解決に向けて知恵を出し合うような授業にしたいと思う。

〔教材〕

必要に応じて資料を適宜配布するか、研究室ホームページにレジメを掲載し、各自それを印刷させる。参考図書等は講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、講義時間中に作成する小レポート（2～3回程度）、定期試験によって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

国と地方自治体が提供するスポーツ行政とスポーツ政策に関わる課題への問題意識を持って授業に臨んでほしい。質問の時間もできるだけ確保したいので、事実確認以上に考え方や視点をめぐる質問を積極的に行ってほしい。

〔科目内容の位置付け〕

講義を行う教員の基本的スタンスについては「体育社会学」と同様であるが、どちらかといえばこの授業では取り上げたテーマを深く追求することを心掛け、スポーツをめぐる行政や政策の課題をかなり突き詰めて考察する。個々のテーマの基本的前提や概略説明については「体育社会学」においてやっていきたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

実際のスポーツ活動に従事しているかいないかにかかわらず、また、好き嫌いかかわらず、スポーツに関わる政府の活動や政策に何らかの関心を有していることを受講の前提としたい。また、関連科目として「体育社会学」がある。

29	運 動 学 I	2単位	吉 田 茂
IV群			

〔講義目的〕

人間の運動の意味や価値を理解し、運動の持つ教育的意義を人間学的な視点から理解することが、本講義の主要な目的である。

特に、スポーツ運動は、文化として伝承され、人間の生活を豊かにし、生涯学習の一環として伝承されるものであることを理解してほしい。従って、運動学Ⅰでは、運動の発生を中心として講義する。

〔講義内容〕

『教師のための運動学』の内容について講義する。プロローグ、第Ⅰ～Ⅲ章の主たる内容となる運動の発生、構造、伝承に関する内容が中核である。

〔講義のすすめ方〕

『教師のための運動学』大修館、吉田、三木編著をテキストとし、順次説明を加えながら講義を進める。

運動学Ⅰでは、上記テキストの前半部分を中心に、補足資料を配布しつつ進める。

〔教 材〕

『教師のための運動学』を購入し、予習することを進める。質問事項はあらかじめ提出することとする。

配付資料の活用

〔教 材〕

記述式テストによる成績評価。60%以上を合格とする。

〔履修のポイント・注意点〕

テキストを購入し、予習をすること。

質問事項を提出すること。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許のための必修単位。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特になし。

30	運 動 学 II	2単位	吉 田 茂
IV群			

〔講義目的〕

スポーツ運動の特性や教材としてそれらがどのように人間教育に資するのかを理解することが、運動学IIにおける講義の目的である。スポーツ種目は、その勝敗の判定や競技の方法によって、測定競技、判定競技、評定競技に分けられる。また、競技の仕方によっては個人競技、対人競技、集団競技などの区分も可能である。これらのスポーツを構成する動き方の特徴を中心に、スポーツ運動学の内容を、テキスト『教師のための運動学』の後半部分を基本として、配付資料を加えて講義する。

〔講義内容〕

『教師のための運動学』の第IV章新しい運動理論を生かした運動指導の内容を中核として講義する。また受講者の運動経験を生かして種目を選んで班別を作り、研究発表をする機会をもうける。

〔講義のすすめ方〕

基本的にはテキストを解説し、質問事項に回答するなど、運動学Iと同様に進める。さらに、各種目の詳細については、班別の研究発表を予定する。

〔教 材〕

運動学Iと同様のテキストを使用する。
『教師のための運動学』
大修館、吉田、三木編著

〔成績評価の方法・基準〕

班別の研究発表の成果とレポートにより評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

テキストの予習と研究テーマを決めてグループで協力して研究すること。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。教員免許のための必要単位。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

運動学Iを履修している必要がある。

31 [V群]	スポーツコーチング総論	2単位	吉田 茂
------------	-------------	-----	------

〔講義目的〕

種々のスポーツ種目において、競技力の向上は、誰もが望むものである。コーチングとは、競技力の向上を目的として計画的、意図的に行われる行為として、指導者が、また選手自身が行う目的々な行為である。

コーチング総論では、これらの目的々行為が、どのように計画され、実行され、評価されるのかを知るものである。

〔講義内容〕

講義内容としては以下の内容が含まれる：

1. コーチングの目的と機能
2. コーチング計画
3. コーチングの内容
4. コーチング能力の育成
5. コーチングの評価

特に、コーチングの能力の育成については、自主的に、研修する必要がある。

〔講義のすすめ方〕

上記の内容について、順次講義を行うとともに、課題研究の発表も行う。

〔教 材〕

配布資料をもとに講義を行う。また適当な著書を紹介するので興味のある人は購入してほしい。

〔成績評価の方法・基準〕

平素のレポートの評価及び記述式テストを行う。

〔履修のポイント・注意点〕

自主的な調査研究、レポートなどの提出を積極的に行うこと。

〔科目内容の位置付け〕

選択必要科目

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

各種の実技・実習、運動学の履修を前提として、自主的に取り組むこと。

32 IV期	レクリエーション理論Ⅰ	2単位	藤井和彦
-----------	-------------	-----	------

〔講義目的〕

「レクリエーション理論Ⅰ」は概論編として位置づける。今日、「レクリエーション」という用語は様々な場所や機会に使用されるようになったが、改めて考えてみるとその概念の多義性や曖昧性に気づく。

そもそも「レクリエーション」とは何か？「レクリエーション」をめぐる理論的な定義、現代における社会的要請・意義、制度的側面、事業を遂行する各種組織や団体の役割や機能といった側面から、「レクリエーション」の意味に迫り、解説や議論を通して理解を深めることをねらいとする。

〔講義内容〕

- ①レクリエーションの基礎理論(1)
「レクリエーション」概念とレクリエーションをめぐる現状
 - ②レクリエーションの基礎理論(2)
レクリエーション運動の歴史と今後の方向性
 - ③レクリエーション支援の理論(1)
「支援」の考え方とレクリエーション支援の領域
 - ④レクリエーション支援の理論(2)
レクリエーション支援の理念とプロセス
 - ⑤レクリエーション支援の理論(3)
レクリエーション支援者を考える
 - ⑥レクリエーション組織の経営論(1)
「経営」の考え方と構造
 - ⑦レクリエーション組織の経営論(2)
レクリエーションをめぐる制度と関連団体の役割・機能
 - ⑧レクリエーション組織の経営論(3)
「21世紀型」の経営を考える
 - ⑨レクリエーション事業論(1)
レクリエーション「事業」と「サービス」の考え方
 - ⑩レクリエーション事業論(2)
レクリエーション事業の種類と特性
 - ⑪レクリエーション事業論(3)
レクリエーション事業の提供プロセス
企画～評価まで
 - ⑫レクリエーション事業論(4)
安全対策と危機管理
 - ⑬レクリエーション種目の実際
 - ⑭まとめと試験対策 現代社会における「レクリエーション」の意味
 - ⑮試験
- ※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕

一般的な講義形式を中心として進める。下記の指定テキストの内容に対応した講義ノート（資料）を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。主要な感想や質問については次回の講義の冒頭で再度取り上げ、解説する。その他、2～3度のレポートを課す。

〔教 材〕

レクリエーション・インストラクター養成テキスト「やさしいレクリエーション実践 たのしいをつくる」(財)日本レクリエーション協会編 2100円

〔成績評価の方法・基準〕

テスト1回（期末）、レポート学期2～3回。

レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点（70%）＋出席点（30%）を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。

試験は、持込は不可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。

出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回3点満点で加算し評価の材料とする。

〔履修のポイント・注意点〕

レクリエーションの楽しさは誰にでも味わうことができるが、その楽しさを最大限に発揮させ他者に楽しんでもらう役割を担う場合には、ある程度の理論的な土台と技術が必要である。この講座は「理論編」でありその意味では「楽しさを提供できるようになるための土台づくり」でもある。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

履修年次は2年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕

レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

レクリエーション理論Ⅱ、レクリエーション実技など

33 IV期	レクリエーション理論Ⅱ	2単位	藤井和彦
-----------	-------------	-----	------

〔講義目的〕

「レクリエーション理論Ⅱ」は理論発展・実用編として位置づける。「理論Ⅰ」では、基礎理論を土台に「レクリエーション」の社会的要請を背景に、その今日的意味について理解を深めた。理念的に理解されるレクリエーションの必要性について、「理論Ⅱ」ではその根拠を、より専門的な理論から、深く考えていく。これに加えて、様々な領域で展開される「レクリエーション支援」活動を丁寧に分析し実用的な考え方の視点を身につける。「レクリエーション支援者」としての「行為」を支える、より深い「知識」を、自ら考えることを通して理解していくことをねらいとする。

〔講義内容〕

- ①オリエンテーション
レクリエーションの基礎理論の復習と科目の位置づけ
- ②社会環境の変化とレクリエーションをめぐる行政や制度の問題
行政や制度の機能と作用
- ③レクリエーション実践者をめぐる問題
より「豊かな」レクリエーションとの関わりとは
- ④レクリエーション支援者をめぐる問題
「市民論」や「ボランティア論」を手がかりに
- ⑤レクリエーション組織をめぐる問題
「自立した組織」の考え方と求められる根拠
- ⑥各領域におけるレクリエーションの考え方(1)
学校教育とレクリエーション
- ⑦各領域におけるレクリエーションの考え方(2)
地域社会とレクリエーション
- ⑧各領域におけるレクリエーションの考え方(3)
高齢者・障害者とレクリエーション
- ⑨各領域におけるレクリエーションの考え方(4)
各領域を統合するレクリエーション実践のシステムを考える
- ⑩レクリエーション財の解析(1)
ニュースポーツ、ウォークラリー系プログラム
- ⑪レクリエーション財の解析(2)
コミュニケーションゲーム
- ⑫レクリエーション財の解析(3)
動的プログラム、静的プログラム、その他
- ⑬レクリエーション財の開発・アレンジ方法
- ⑭まとめと試験対策 改めて「レクリエーション」の意味を問う
- ⑮試験

※上記の内容を中心に構成するが時間(時限)の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕

講義形式を中心とするが、特に後半は履修者の人数等をみながらできるだけ話し合いなどの演習形式も取り入れるよう努める。下記の指定テキストの内容に対応した講義ノート(資料)を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。主要な感想や質問については次回の講義の冒頭で再度取り上げ、解説する。この他、2～3度のレポートを課す。

〔教 材〕

レクリエーション・インストラクター養成テキスト「やさしいレクリエーション実践たのしいをつくる」(財)日本レクリエーション協会編 2100円

〔成績評価の方法・基準〕

テスト1回(期末)、レポート学期2～3回。

レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点(70%)＋出席点(30%)を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。

試験は、持込は不可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。

出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回3点満点で加算し評価の材料とする。

〔履修のポイント・注意点〕

この科目を履修する者は、レクリエーション・インストラクター資格取得の申請を行う者であることを原則と考えている。履修年次は2年次を標準とする。

〔科目内容の位置付け〕

レクリエーション理論の中級編であり、関連科目との関係ではレクリエーション理論Ⅰの発展編であるため、理論Ⅰを履修していることを前提とする。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

レクリエーション理論Ⅰ、レクリエーション実技など。

34	競技スポーツ理論	2単位	竹島克己
IV群			

〔講義目的〕

勝敗を争う競技スポーツについて学ぶ。競技は身体的要素、精神的要素両面を鍛えることによって自分自身に勝ち、競う相手に勝とうというものである。競技で勝つために必要なあらゆることを学ぶ。

〔講義内容〕

- 1) 競技スポーツの歴史
- 2) コーチング理論
- 3) トレーニング理論
- 4) 生理学
- 5) 運動生理学
- 6) 栄養学
- 7) 運動力学
- 8) スポーツ関連の仕事

など競技に役に立つ話題を抜粋し、最新のスポーツにおける出来事を含めて講義する。

〔講義のすすめ方〕

専門的立場から陸上競技長距離の話題は多くなるが、学生からも自分自身の経験をふまえて発表の機会を与える。広く他の経験、知識を自分のために役立てるようにしてほしい。競技スポーツに関するレポートを作成する。

〔教材〕

特になし。資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

- 1) 参加度 出席を評価する
授業への取り組む姿勢
- 2) 授業目的達成度
競技スポーツに関するレポート
完成度
授業ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕

本授業を受講し理解、応用、実施する姿勢を望む。特に指導する側の観点で思考する姿勢を望む。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目。1～4年の選択科目。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特になし。

35	体育測定評価	2単位	野間明紀
IV群			

〔講義目的〕

スポーツを行う上で身体の動き、体力、運動能力を知ることが大切なことであり、そのためには、それぞれの測定項目に合った方法を知ることが必要である。また科学的な測定、分析を行い個人の情報を多く知れば、個別の指導にも大変役立つと考えられる。また体育の授業においても上記のことが必要と考えられる。このことから本授業においては、形態から運動能力等までの測定方法及び評価方法を講義する。

〔講義内容〕〔講義のすすめ方〕

- (1) 形態の測定評価
- (2) 呼吸、循環機能の測定評価
- (3) 筋力の測定評価
- (4) 基礎運動能力の測定評価
- (5) 体力、運動能力の測定評価

この中には、肥満に関係する体脂肪の測定方法や、血糖値、乳酸、骨密度などの測定方法及び評価なども含まれている。また講義内容は場合によって変更する場合がある。

〔教材〕

授業中に資料を配布する。

○参考図書

体力測定法（松浦義行） 朝倉書店
 体力、運動能力測定法（西園秀嗣他） 大修館書店

〔成績評価の方法・基準〕

〔履修のポイント・注意点〕

- テスト1回及び出欠席で評価する。場合によってはレポートの提出もある。
- 遅刻は2回で欠席1回となる。
- 2/3の以上の出席がテストを受験する条件である。

〔科目内容の位置付け〕

2～4年次の選択科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

運動生理学Ⅰ、Ⅱ及び解剖学

36	生 理 学	2単位	金 田 健 史
IV群			

〔講義目的〕

本講義では、体育科学、健康科学を学ぶために必要となる生命活動の基礎と本質を学習するとともに、身体運動と身体諸機能との関連を理解するための基礎学問としての生理学の重要性も理解する。したがって、神経、筋、呼吸、循環、血液、内分泌などの基礎となる生理機能について概説し、今後必要とされる学校体育の授業や健康・スポーツ関連の現場において、欠くことのできないベースとなる知識の確立を目指す。

〔講義内容〕

1. 生理学の概要、導入
2. 神経の構造と機能
3. 筋の機能（筋肉の構造、骨格筋の収縮）
4. 筋の機能（興奮収縮連関）
5. 筋の機能（筋収縮と筋力発揮）
6. 呼吸循環系の機能（心臓の構造、機能）
7. 呼吸循環系の機能（循環調節、末梢循環）
8. 呼吸循環系の機能（呼吸器の構造、機能）
9. 神経系の機能（中枢神経系の役割、運動単位）
10. 神経系の機能（反射、感覚機能）
11. 神経系の機能（自律神経系の機能）
12. 血液の役割、体液の調節
13. 内分泌系の機能
14. 代謝（基礎代謝、安静時代謝）
15. 試験

〔講義のすすめ方〕

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

〔教 材〕

- 生理学テキスト 第4版（文光堂）
- 生理学 Minor textbook 第6版（金芳堂）

〔成績評価の方法・基準〕

出席および、学期末試験において評価する。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目、教員免許取得に必要な単位

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

運動生理学Ⅰ、運動生理学Ⅱ

37 IV期	運動生理学Ⅰ	2単位	金田健史
-----------	--------	-----	------

〔講義目的〕

生理学で学習した内容を基礎として、神経系、骨格筋系、呼吸循環系などの諸機能が運動・スポーツをすることに對してどのように関わっているか、また体育・スポーツ場面において実際に関連している応用的知識について、基礎的知識の確認も行ないながらしっかりと理解する。

上記の目的は運動生理学Ⅰ、Ⅱを通じて同一と考えている。

〔講義内容〕

1. 運動生理学の概要。我々人間にとって、運動はどのような役割を果たしているか？運動の必要性について考える。
2. 運動発現と神経系の関わり
3. 筋線維の種類とその分類
4. 筋収縮とエネルギー供給系
5. 運動・トレーニングと骨格筋
6. 運動と循環系（心臓の機能）
7. 運動と循環系（血流調節の機能）
8. 運動と呼吸系（最大酸素摂取量、乳酸性作業閾値（LT））
9. 運動と中枢神経系の変化
10. 運動と感覚情報、運動の記憶、運動の自動化
11. 運動と自律神経系
12. 運動による血液性状の変化
13. 睡眠覚醒の発現機構
14. 体温調節機能
15. 試験

〔講義のすすめ方〕

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

〔教材〕

- 運動生理学20講 第2版（朝倉書店）
- トレーニング生理学（杏林書院）
- 運動適応の科学（杏林書院）

〔成績評価の方法・基準〕

出席および、学期末試験において評価する。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目、教員免許取得に必要となる単位

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

生理学、運動生理学Ⅱ

38 IV群	運動生理学Ⅱ	2単位	金田健史
-----------	--------	-----	------

〔講義目的〕

生理学で学習した内容を基礎として、神経系、骨格筋系、呼吸循環系などの諸機能が運動・スポーツをすることに對してどのように関わっているか、また体育・スポーツ場面において実際に関連している応用的知識について、基礎的知識の確認も行ないながらしっかりと理解する。

上記の目的は運動生理学Ⅰ、Ⅱを通じて同一と考えている。

〔講義内容〕

1. 運動生理学の概要、運動といろいろな要素との関わり
2. 持久的運動とからだ
(呼吸循環機能を中心に)
3. レジスタンス運動とからだ
(骨格筋を中心に)
4. 運動・スポーツと疲労、休養
5. 運動・スポーツと栄養
6. 運動・スポーツと水分補給
7. 運動・スポーツと体温調節
8. 運動・スポーツと環境
9. 運動・スポーツと骨代謝
10. 運動・スポーツとホルモン
11. 女性と運動・スポーツ
12. 運動・スポーツと発育発達・加齢
13. 健康生活の維持と運動・スポーツ、
運動処方
14. 運動学習と中枢神経系
15. 試験

〔講義のすすめ方〕

授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

〔教材〕

- 運動生理学20講 第2版(朝倉書店)
- トレーニング生理学(杏林書院)
- 運動適応の科学(杏林書院)

〔成績評価の方法・基準〕

出席および、学期末試験において評価する。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目、教員免許取得に必要となる単位

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

生理学、運動生理学Ⅰ

39 IV群	公衆衛生学	2単位	益子詔次
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

人間はとりまく環境とのかかわり合いの中で生きている。個人の健康状態は集団の健康状態に影響し及ぼし、集団の健康は個人の健康に影響を及ぼしている。環境破壊が叫ばれて久しくなる。科学が進歩しているにもかかわらず、地球環境が取り返しのつかない事態を引き起こしつつある。「科学は何のために、誰のために」が問われている。この授業は環境や生活に関わる基本的知識を学習する。人間が生きてゆくうえで、住みやすい環境について考える契機としたい。

必要があって調べた事は忘れません。

〔講義内容〕

主な内容は以下の内容を取り扱う予定である。

- ・環境衛生について（空気、上水・下水、住居、衣服、気候、廃棄物）
- ・疫学について（感染症、性病、エイズ、予防接種、消毒）
- ・栄養・食品衛生について（栄養所要量、給食、食品添加物、）
- ・労働衛生について（作業環境、疲労、産業災害、職業病）
- ・成人保健について（少子・高齢化社会、老化現象、脳卒中、ガン、心臓病）

〔講義のすすめ方〕

基本的に講義形式で進める。できるだけパワーポイントなどの映像や資料を用いて行いたい。

〔教 材〕

現在、できるだけ資料を作成配布して授業を進める予定であるが、参考書を購入利用する場合もある。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況およびテストにより総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

地球温暖化、ハンセン病、エイズなどニュースになっている社会問題はどれ1つとっても解決するには難しい問題があります。ニュースになっている社会問題を自分とのかかわりで捉えてみて下さい。そのとき関連する基礎知識が必要になって調べる必要が出てきます。

40	学 校 保 健 I	2 単 位	岩 城 淳 子
----	-----------	-------	---------

〔講義目的〕

この講義は、学校保健IIとともに1年かけて、学校保健の意義、構造、内容および方法や考え方、展開方法を学ぶ。児童、生徒の健康は学校という枠の中でみるばかりでなく、生涯健康生活の基盤として、さらに教育との関連の中で考えていくのが適切ではないかと思われる。そこで、学校保健の内容に入る前にまず児童・生徒の健康状態や問題点を把握し、それらに健康学的アプローチを試みる。さらに学校教育現場の現状と課題を教育健康学の手法で明らかにしていく。それらを学ばなかで、学生自身の健康観、学校保健への考え方を確立していくことが、この講義の目的である。

〔講義内容〕

1. 学校保健の背景
人口動態、児童・生徒数の動向、学校保健行政とその活動をみる。
2. 児童・生徒の健康状態の現状と課題
発育、性成熟、体力、運動能力、栄養、疾病から子どもをみる。
3. 学校教育現場の現状と課題
4. 健康教育と学校保健
5. 児童・生徒の主体管理

〔講義のすすめ方〕

主として講義形式にする。

〔教 材〕

授業の中で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

テストは学期末に1回行う。欠席回数が4回以上の者は受験することができない。その他、トピックスについて簡単なレポートを数回課す。判定基準は、定期テスト50%・小レポート30%・出席20%の配分とし、総合点で60%以上を合格とする。

〔科目内容の位置付け〕

中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）取得を目指す者の必修科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

公衆衛生学

41 IV期	学 校 保 健 II	2単位	岩 城 淳 子
-----------	------------	-----	---------

〔講義目的〕

この講義の目的は、学校保健Ⅰの履修後、特に学校保健管理、学校保健教育、学校保健施設、学校保健組織、関係団体などについてより深く理解することである。

〔講義内容〕

1. 保健管理の現状と課題
疾病予防、健康診断、健康相談、歯科保健、環境衛生、学校安全、学校給食
2. 保健教育の現状と課題
3. 保健施設の現状と課題
4. 保健組織の現状と課題
保健主事、養護教諭、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、学校栄養職員
5. 関係団体の活動
日本学校保健会、日本体育、学校健康センター、日本医師会、日本学校歯科医師会、日本学校薬剤師会など

〔講義のすすめ方〕

毎回講義の後、最新のトピックについてのグループディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れていく。なお、学校医、学校歯科医、養護教諭などゲストスピーカーの講義を予定している。

〔教 材〕

授業の中で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

テストは学期末に1回行う。欠席回数が4回以上の者は受験することができない。その他、トピックスについて簡単なレポートを数回課す。判定基準は、定期テスト50%・小レポート30%・出席20%の配分とし、総合点で60%以上を合格とする。

〔科目内容の位置付け〕

中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）取得を目指す者の必修科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

公衆衛生学

42 IV群	精神保健学	2単位	伊崎純子
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

- 1) 精神保健の意味するものを理解する
- 2) 発達段階に応じた成長と生じやすい問題を理解し、対応について学ぶ
- 3) 精神障害の人々やその家族の人権と福祉について考える

『これからのメンタルヘルス』

安藤延男、村田豊久著

ナカニシヤ出版

〔成績評価の方法・基準〕

出席10% 期末テスト90%で評価する。

〔講義内容〕

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 総論としての精神保健
- 第3回 思春期の発達の様子と高機能自閉症
- 第4回 勉強ができない
- 第5回 精神的な混乱
- 第6回 摂食障害と心身症
- 第7回 非社会的な問題行動：不登校、ひきこもり
- 第8回 反社会的な問題行動
：性的な問題、いじめ、嘘や盗み
- 第9回 養護学校、特殊学級で気になること
- 第10回 関係性の問題
- 第11回 大学生になって
- 第12回 成人期以降：地域精神保健
- 第13回 落ち穂拾いのなまとめ
：薬、インターネット、自殺の予防
- 第14回～第15回 総括

〔履修のポイント・注意点〕

特になし

〔科目内容の位置付け〕

中学校教諭一種免許状（保健体育）・高等学校教諭一種免許状（保健体育）必修科目
【学校保健（小児保健、精神保健、学校安全および救急処置を含む）】である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

最終的には、選択科目である「発育発達学」や必修科目である「教育心理学」「生徒指導」とあわせて受講するとより理解が深まると思われる。

〔講義のすすめ方〕

この講義は、中・高の教職に関連する科目であることから、各発達段階のうち、主に思春期以降の精神保健について注目する。思春期以前の発達および精神保健については概説にとどめ、総論、思春期以降に生じやすい諸問題（摂食障害、強度強迫障害、不登校、ひきこもりなど）の理解とその対応について学ぶ。特に、自閉症のなかでも「高機能自閉症」や知的障害の中でも「境界知能」など、幼少期には目立たなかった諸問題に関しても触れていく。

〔教材〕

教科書は、講義中に使用するので必ず購入すること。

教科書 『可能性のある子どもたちの医学と心理学』石川道子ほか著
ブレーン出版・2800円＋税

参考書 『教育・保育双書 精神保健』
秋山和夫ほか監修・北大路書房

43	発 育 発 達 学	2単位	岩 城 淳 子
IV群			

〔講義目的〕

この講義の目的は、人間の成長を様々な角度から捉えることにより、より深く理解できるようにすることである。加えて発育、発達研究の基礎を知ることである。

〔講義内容〕

対象は、胎児期から老年期までとし、「加齢」という観点で一生涯をみていく。そこへ2種類のアプローチを試みる。1つは遺伝と環境およびその相互作用、もう1つは身体的発育や各機能的発達などである。

- 1 成長とは何か
- 2 身体的発育の特徴
- 3 形態の変化、順序性、臨界期、個人差について
- 4 生理機能の発達（呼吸、循環、睡眠、体温・排尿、消化など）
- 5 運動機能の発達（動作、運動スキルなど）
- 6 感覚機能の発達（視覚、聴覚、味覚、臭覚、平衡覚、触覚、痛覚、温度覚、固有覚など）
- 7 認知的な領域からみる
- 8 情緒、社会性の領域からみる
- 9 発育、発達研究の視点、方法、問題点

〔講義のすすめ方〕

配布する資料を参考に講義形式ですすめる。

〔教 材〕

授業の中で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

テストは学期末に1回行なう。欠席回数が4回以上の者は受験することができない。判定基準は、定期テスト60%、出席および授業態度40%の配分とし、総合点で60%以上を合格とする。

〔履修のポイント・注意点〕

知識を得るだけでなく、事象の見方、考え方、捉え方のレパートリーを拡げていく機会になるようにしたいと考えている。

44 IV期	トレーニング論	2単位	齊藤 武利
-----------	---------	-----	-------

〔講義目的〕

スポーツ場面における様々なトレーニングについて、多角的（体力的、精神的、技術的）に捉えてトレーニング全般を概説し、スポーツ現場における具体的なトレーニングの方法等についても言及する。また、スポーツ指導者における体力トレーニングの意義やあり方について解説する。

〔講義内容〕

体力トレーニングのあり方について

- ・競技力向上のためのトレーニング
- ・コンディショニングとしてのトレーニング

具体的なトレーニングの方法について

- ・体力トレーニング
- ・技術トレーニング
- ・戦術トレーニング
- ・メンタルトレーニング

トレーニング用語の整理

トレーニングの実際について

- ・トレーニングの目標について
- ・トレーニングの手段
- ・トレーニング計画
- ・トレーニングの評価、効果
- ・トレーニング環境
- ・発育期のトレーニング
- ・中高年のトレーニング
- ・競技種目別のトレーニング

〔講義のすすめ方〕

教科書は、特に指定しない。

参考となる図書等については、その都度、授業中に紹介する。

〔教 材〕

OHP、VTRなど視聴覚教材を使用する。

また、必要に応じてプリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

全体の2/3以上の出席が 試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。2/3以上、出席した学生のみ、最後に、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。

評価基準（出席30% テストおよびレポート60% 総合評価10%）

45 V#	トレーニング実習Ⅰ	1単位	竹島克己(齊藤武利)
-----------	-----------	-----	------------

〔講義目的〕

トレーニングとは体力を向上させるためである。体力は次のように分類される。

- 1) 行動体力
 1. 行動を起こす能力
 2. 行動を持続する能力
 3. 行動を調節する能力
- 2) 防衛体力
 1. 物理化学的ストレスに対する抵抗力
 2. 生物的ストレスに対する抵抗力
 3. 生理的ストレスに対する抵抗力
 4. 精神的ストレスに対する抵抗力

人間の体は適切なトレーニングによってこれらの能力は改善される。トレーニングの目的は高度の競技スポーツから健康維持のためとおおきな幅がある。また自分自身の体力向上と指導者となったときに適切な指導ができるよう、本授業に取り組み、トレーニングに対する知識と経験を身につけてほしい。

〔講義内容〕

- 1) ガイダンス
- 2) 体操の方法
- 3) マッサージの方法
- 4) 体格の測定
- 5) 自重を使った体カトレーニングの方法
- 6) サーキットトレーニングの方法
- 7) 動きのトレーニング
- 8) ウエイトトレーニングの基礎
- 9) 遊びを取り入れた体カトレーニングの方法
- 10) 体力の測定・評価

〔講義のすすめ方〕

授業ノートを作成し体格の変化・体力の変化・トレーニングの進行度を自己点検しながら自分に適したトレーニング強度を探る。様々なトレーニングを体験しながらトレーニング・準備運動・アフターケアの方法を体得する。

〔教材〕

筆記用具。トレーニングノート。

〔成績評価の方法・基準〕

- 1) 参加度 出席を評価する
授業への取り組み・態度・参加の程度
- 2) 貢献度 授業の準備・かたづけ・デモン
ストレーションへの貢献度
- 3) 技能・運動水準
技能・能力の到達度
- 4) 授業目的達成度
トレーニング科学に関するレポート・実習ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕

正しいトレーニングの技術を体得するためには、安全と健康に留意し慎重に何事も取り組む必要がある。けがをする事なく、させることなく服装・履物などにも気を配って参加してほしい。アクセサリは、はずしてすること。

〔科目内容の位置付け〕

専門科目、2～4年の選択科目

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

トレーニング論・トレーニング実習Ⅱ

46	スポーツリハビリテーション論	2単位	齊藤 武利
IV群			

〔講義目的〕

スポーツにおけるリハビリテーションの意義、役割を学習し、その実践的な方法やあり方を考え、実際のスポーツ現場のリハビリテーション活動について検証する。

〔講義内容〕

- 1 スポーツ現場におけるリハビリテーションとは、(アスレティックリハビリテーション)
- 2 わが国におけるトレーナー活動について
- 3 スポーツリハビリテーションに従事する人たちについて
- 4 競技力向上におけるスポーツリハビリテーションの実際について
- 5 生涯スポーツにおけるスポーツリハビリテーションについて
- 6 障害者のスポーツリハビリテーションについて
- 7 具体的な方法論の検討
 - ・テーピングについて
 - ・スポーツマッサージについて
 - ・アイシングについて
 - ・ストレッチングについて
 - ・応急処置について
 - ・理学療法について
 - ・鍼灸について
 - ・柔道整復および整体について
 - ・その他
- 8 コンディショニングとリハビリテーションの関係について

〔講義のすすめ方〕

必要な資料は、毎回配布し、特に教科書は指定しない。

〔教材〕

OHP、VTRなど視聴覚教材を使用する。
参考書、および参考資料については、講義で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕

全体の2/3以上の出席が試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。2/3以上、出席した学生のみ、最後に、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。

評価基準（出席30% テストおよびレポート60% 総合評価10%）

47 IV群	造形文化論	2単位	飯田昌平
-----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

家や庭、壺や器、橋や船、ピラミッドや寺院など自然界には存在しない形を作り出すことによって、人類は生活を豊かに美的に楽しむ知識や技術を獲得してきました。その創造活動を追体験することにより、美的体験を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活をより楽しく、より美しく、より豊かにするために工夫する態度を育て、造形文化を愛好する精神を養うことを主な講義目的とします。

〔講義内容〕

「形」とか「形式」がなぜ生まれ、どのようにして伝達されてきたか、また、人間にとって形とはなにか、などを知るために、文化史、美術史に現れる造形物（ピラミッド、聖堂、神社仏閣、壺、彫刻など）を例に挙げ、次のような事柄を検討してゆきます。

1. 形の意味・象徴性
2. シンメトリー
3. 造形の基本
4. 立体の解釈
5. 形態の必然
6. プラトンの立体
7. 美的形式原理
8. 美の働き

〔講義のすすめ方〕

上記の事柄を理解するために、毎回折り紙などを使用して具体的な形を作り、検討してゆきます。例えば「折り鶴」における造形の基本、シンメトリー、折り鶴にはどんな意味があり、どんな願いが込められているか、などを受講生と共に考えていきます。折り紙で作る物としては、日本の伝承折り紙（つる・ふうせん・にそうぶね・やっこさん・さんぼう・たからぶね・つのこうばこ・かぶとなど）、多面体の折り紙（くすだま）、創作折り紙などのなかから、テーマに合わせて選んでいく予定です。

〔教 材〕

折り紙（15×15cmの普通の折り紙）・ハサミ・ノリ・色鉛筆・定規など。折り紙に関する本・造形文化に関する本は特に指定しません。子供のころ遊んだ折り紙の本、中学、高

校のときに使用した社会、美術の教科書、百科辞典などは授業をより理解するために役立つと思います。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況・授業中の課題に取り組む態度・授業内の小レポート・期末に提出するレポートなどを参考にして総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

授業の最初にその日の講義の要点を述べる人が多いので、遅刻しないこと。各授業は関連性があるので欠席しないこと。折り紙・ハサミ・ノリなどを忘れないで持ってくること。

〔科目内容の位置付け〕

授業中に行う折り紙は初級程度。文化史、美術史は高校程度。それらの知識をもととして深く考える習慣を身に付けてほしい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はありません。関連科目としては哲学・美学など。

48	児 童 文 学	2単位	横 田 順 子
IV#			

〔講義目的〕

アメリカの代表的な児童文学作家E. L. カニグズバーグの作品を中心に、世界の現代児童文学作品を扱い、そのなかに描かれている子ども像を探りながら、今の子どもたちがどんな問題をかかえているかを考える。また同様のテーマをもつ様々なジャンルの作品を比較することにより、児童文学にどんなジャンルがあり、それぞれどんな特徴をもっているかを理解する。

〔講義内容〕

1. 紹介授業
2. 自分とは何か～E. L. カニグズバーグ『クロディアの秘密』
3. アウトサイダーとしての子どもの眼～E.L.カニグズバーグ『ぼくと(ジョージ)』
4. 子どもと大人の関係～ロアルド・ダール『マチルダは小さな大天才』
5. 子どものエネルギー1～モーリス・センダック『かいじゅうたちのいるところ』
6. 子どものエネルギー2～矢玉四郎『はれときどきぶた』
7. 家族について考える～E. L.カニグズバーグ『なぞの娘キャロライン』
8. 様々な人々の共生1～トーベ・ヤンソン「ムーミン」シリーズ
9. 様々な人々の共生2～藤野千夜『少年と少女のポルカ』

〔講義のすすめ方〕

作者・作品解説と作品講読（抜粋）によって進める。映像なども用い、理解を深めたい。基本的には講義形式だが、できるだけ受講者が意見を述べる機会をもちたい。

〔教 材〕

- 教科書 『E. L. カニグズバーグ』
横田順子・KTC中央出版
1600円
- 参考書 『暗くなるまで夢中で読んで』
神宮輝夫、野上暁編・原書房
1800円
- 『だから読まずにいられない』
神宮輝夫編・原書房・1800円

〔成績評価の方法・基準〕

テスト（前期試験期間に1回）、出席状況、平常点の総合評価。テストは80点満点、出席は1回につき2点に換算して計算する。平常点については、授業時に課すアンケートを考慮に入れる。

〔履修のポイント・注意点〕

予習と復習をとくに課すことはないが、授業で扱った作品をじっさいに読んで楽しんでほしい。

遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用などは厳禁。授業妨害がはなはだしい場合は、退出させる場合もある。だが良識を守っていれば難しいことではないので、お互いにマナーを守って、楽しく実りある授業にしたい。

49 IV期	おもちゃ論	2単位	中谷陽子
-----------	-------	-----	------

科目履修前に以下の注意を読むこと

- ①「おもちゃ論」を言い換えれば「人間はどのように遊んできたのか」という遊びの文化論である。もし保育園・幼稚園で役立つ便利なおもちゃの話だと期待した学生は、シラバスを読み直してから考えて欲しい。
- ②本講は初めて開設される授業なので、半期授業としては教材選びの関係上、かなり量的に多い特別サービスの内容を想定している。遊び半分の学生はお断り！して、意欲のある仲間と授業・資料選び・作業がしたい。

〔講義目的〕

遊びは地球上の地域・人々の年齢・時代を問わない大切な人間の精神・身体の活動である。次の各分野に視野を広げて、意欲的に人間の遊びとその媒体を果たしてきた「おもちゃ」について学ぶことを目指している。

- ①歴史性：人類の知の歴史を遊びやおもちゃの中に発見する
- ②文化性：自ら地球市民の感覚で遊びを考察
- ③伝承性：遊びは重要な伝承文化の一分野
- ④自然性：自然が育む豊かな遊びの再発見

〔講義内容〕

- ・遊びは精神の開放をもたらすものであるから、将来保育や教育現場で活躍を期する学生にとっては価値や効用の高い活動であることを認識する。(ポイント1)
- ・「遊びやおもちゃ」に対する一般の概念や認識が、子どものせつなな活動または「教育玩具」へのこだわりなど狭義的であることを一掃して、改めて「定義づけ」に挑戦する。(ポイント2)
- ・本来「遊び」は広く充実した内容を持つ人間の営みであり、「遊び」は創意工夫の実験の場であり、知恵の貯蔵庫でもある。その上で多くの遊びを検証・体験する。(ポイント3)
- ・「遊び」を媒体にした人の交わりの世界には境界線がないことを実感する。(ポイント4)

〔講義のすすめ方〕

講義は〔講義内容〕に示される4つのポイントを検証する意味で、次のように進める：

- ①受講生の持つ遊びやおもちゃに対する意識はかなりバラバラだと想定されるので、それを把握する作業からはじめる。
- ②遊びの概念を多方面から研究する。方法は体験、聞き取り、資料分析などから。
- ③実際におもちゃ（主に中谷コレクションから）に接して、「講義目的」に示された4分野が確認できるように努力し、そこからあらためて「おもちゃや遊びの定義づけ」を皆で行う。
- ④恐らく受講生の既知の範囲を超える遊びやおもちゃとの出会いがあると思われる。それらを遊び体験することによって、より広い遊びの魅力を把握して欲しい。
- ⑤遊びやおもちゃに国境のない世界が存在することを改めて知ってほしい。
- ⑥最後に遊びやおもちゃが保育・教育の現場でどのような存在意味を発揮するのか、存分に話し合いたい。

〔成績評価の方法・基準〕

未定であるが、多分平常点と期末試験の双方。

遊びと真剣に向き合わない学生は、学期の途中でも「不可」評価することがある。

〔科目内容の位置付け〕

学生の自主的研究態度と、遊びを堪能し、時にはおもちゃを作成することの出来る次元の高い営みを持てる人物を期待する。全体を通して他の科目と具体的に重なることはまだ無い。

〔教材〕

未定
参考資料は多数紹介する。

50	野 外 運 動 A	2単位	齋 藤 一 人
IV群			

〔講義目的〕

教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気づきを助長することを目的とする。

〔講義内容〕

キャンプの幅広い教育効果を理解するように体験学習し、指導的な立場から企画立案し、実施する。キャンプの捉え方は各分野や方面によって多岐にわたるが、組織キャンプの多くの目的は、大自然の中で「原体験」や共同生活を通して、人間形成を図ろうとするものと考えられる。すなわち、自然と野外を最大限活用しなければ、その教育目的は達成されない。したがって、下記を狙いとし実践活動をこの実習で行う。

- ①自然の中で集団的、自立的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同生活を体験し送ること。
- ②キャンプ生活の技術を学びつつ、生活全体の諸活動を通して自分の心身を鍛えること。
- ③将来キャンピングを指導する立場におかれたとき、企画立案でき、民主的運営ができること。

〔講義のすすめ方〕

野外体験系宿泊集中授業形式で行う。プログラムについては、「困難」「挑戦」「課題解決」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。

- ①普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
- ②普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
- ③困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
- ④仲間との協力によって、「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
- ⑤経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する体験（新しい技能の獲得）

上記のねらいを達成するための具体的方策としてのプログラムは以下の4点に留意して

行う。

- ①通常の時間枠では行うことのできない活動。
- ②意味のある活動であるのにも関わらず活動の機会が得られにくい活動。
- ③集団の協力によって成立する要素の高い活動。
- ④地域文化と接点のある活動。

〔教 材〕

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

出席、レポート、グループ貢献度によって総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕

場所・日程については4月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。

専攻別で夏期休業期間に集中で行います。（児童教育専攻・スポーツ健康専攻それぞれ別々）

事前説明会や事前指導講義が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）

また、宿泊集中授業なので実習費がかかります。

〔科目内容の位置付け〕

より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

課題研究A B、野外運動B

51 Ver	野 外 運 動 B	2単位	齋 藤 一 人
------------	-----------	-----	---------

〔講義目的〕

教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気付きを助長することを目的とする。

〔講義内容〕

野外体験系宿泊集中授業形式で行う。アウトドアスポーツとして、学校体育のみならず生涯スポーツとしても今も幅広く社会全体に親しまれているスキー・スノーボードについて、その運動特性、技術、指導法及び生涯スポーツとしてのあり方、自然との親しみの心を持つことを習得し、団体行動・生活を通じてそのあり方をも研修する。また、基礎技術、応用技術、発展技術だけでなく救急処置についても講義を行う。

〔講義のすすめ方〕

プログラムについては、「挑戦」「課題解決」「成功体験」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。

- ① 普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
- ② 普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
- ③ 困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
- ④ 「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
- ⑤ 経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する体験（新しい技能の獲得）

〔教 材〕

特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート、スキルテストによって総合的に評価します。バッジテストも計画中です。

〔履修のポイント・注意点〕

場所・日程については4月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。

児童教育専攻・スポーツ健康専攻同時開講で冬期休業もしくは春期休業に行われます。

事前説明会や事前指導が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）

また、宿泊集中授業なので実習費がかかります。

〔科目内容の位置付け〕

より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

課題研究A B、野外運動A

52	救 急 法	2単位	福 嶋 稔
IV#			

〔講義目的〕

日本赤十字社救急法救急員の認定資格取得を目標として、心配蘇生法の実際と自動体外式除細動器（AED）使用法と正しい救急処置の理論と実地を学ぶことである。

〔講義内容〕

心配蘇生法、AED使用法、きずと止血、骨折、脱臼、捻挫などの応急処置や固定法、急病人の搬送と救護など。

〔講義のすすめ方〕

1. 心肺蘇生法の理論と実際、AEDの使用法（モデル人形を使って実地に訓練）
2. きずと止血、包帯法、骨折、脱臼、捻挫などの固定法（応急）の実際
3. 急病人の搬送と救護の実際

〔教 材〕

1. [心肺（脳）蘇生法の実際]
心停止、呼吸停止における緊急処置
小濱啓次著 ヘルス出版
2. [CPRインストラクターズガイド]
第2版 監修 小濱啓次 医学書院
3. AEDを用いた救急蘇生法の指針
（一般市民のために）ヘルス出版

〔成績評価の方法・基準〕

出席率と授業中の修学状況により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕

テキストを良く理解し、実地に訓練する。

〔科目内容の位置付け〕

日本赤十字社の救急法救急員の検定を合格するための基礎知識を学ぶこととAEDの正しい使用法を学ぶこと。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目：なし

関連科目：メディカルコントロール

53 IV期	レクリエーション実技	1単位	藤井和彦
-----------	------------	-----	------

〔講義目的〕

多様なレクリエーション活動の展開のために必要な実践技能を身につけることをねらいとする。

対象者の中にある「楽しさ」や「喜び」を最大限に引き出す活動を展開するということを常に意識しつつ、その為の計画の作成から実践、評価までを実習・演習形式で体験する。まずは与えられた時間的条件下で、「レクリエーション支援者」として立ち振る舞えることを目標に各種活動に挑戦する。より高度な到達目標としては対象者の特性に応じて、工夫されたオリジナリティあふれる支援計画を作成できるようになることを目指す。

実技科目ではあるが、授業は必要に応じて教室での支援案作成なども織りまぜながらグループ活動を中心に進めていく。

〔講義内容〕

- ①オリエンテーション～アイスブレイキング(1)
 - ②アイスブレイキング(2)
 - ③ホスピタリティとホスピタリティ・トレーニング
 - ④コミュニケーション・ワーク(1)
 - ⑤コミュニケーション・ワーク(2)
 - ⑥レクリエーション種目(1) フライングディスク
 - ⑦レクリエーション種目(2) ティーボール
 - ⑧レクリエーション種目(3) ネイチャーゲーム
 - ⑨レクリエーション種目(4) フォークダンス
 - ⑩ニュースポーツ(1)
 - ⑪ニュースポーツ(2)
 - ⑫コミュニケーション・ワーク(3)
 - ⑬支援プログラム案の作成
 - ⑭支援場面を設定したロールプレイング(プログラム発表会)
 - ⑮まとめとレポート課題発表
- ※上記の内容を中心に構成するが時間(時限)の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕

実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。特に後半からまとめにかけては、実際のレクリエーション活動のシュミレーションとして、自分たちで場の設定、プログラムの考案、進行ができるような形を目指す。適

宜実技の感想やレポートを課す。

〔教 材〕

レクリエーション・インストラクター養成テキスト「やさしいレクリエーション実践演習ノート」、(勸)日本レクリエーション協会編、840円

この他、グループワーク・ゲーム集のテキストを1冊選定する(1500円程度)。

〔成績評価の方法・基準〕

期末のレポート課題、学期中の感想やレポート提出回数。

成績評価は期末のレポート得点(50%)＋出席点(20%)＋日常的な授業への参加姿勢(30%)を勘案して総合的に判定する。日常的な授業への参加姿勢は、学期中に適宜課す感想やレポートの提出も含む。

期末レポートは、レクリエーション実技に関する論述2題程度と支援プログラム作成等の内容で考えている。

〔履修のポイント・注意点〕

この科目を履修する者は、レクリエーション・インストラクター資格取得の申請を行う者であることを原則と考えている。その意味では科目名は「実技」であるが、各々の自発的・自律的取り組みが非常に重要であり演習・実習的な科目と捉えても差し支えない。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。

履修年次は2年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕

レクリエーション実技の初級編であるが、唯一の科目であり、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

レクリエーション理論Ⅰ・Ⅱなど

54 √群	教育本質論	2単位	石堂常世
----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

- 1、本講義では、教育の本質的問題について講義する。その際、教育に関する現実的関心や現象的理解から入って、次第に人間形成の原理的な課題に触れるようにはからう。
- 2、本講義では、翻訳を用いてできるだけ古典的教育論に触れさせ、それら理論にみられる多様な価値観について考察させ、ときには対立している教育論の意味について理解させ、最終的に、教育という問題を根底から考えることのできる能力を養う。その基幹的テーマは、「自然」である。
- 3、前半には理論的考察を、後半には生活実践学的考察をさせ、スポーツ健康専攻の学生として、教育の本質的意義と心身の健康の意義を考えることのできる考察を展開させる。

〔講義内容〕

- 第1回 本授業の教務上のポイントの提示、序論 教育の本質と教育の現実
- 第2回 導入：自己体験としての教育からⅠ：家庭教育
- 第3回 導入：自己体験としての教育からⅡ：学校教育
- 第4回 ギリシャ・ローマ期の教育論にみる「自然」概念
- 第5回 キリスト教時代の教育論にみる「自然」概念
- 第6回 近代教育思想にみる「自然」概念Ⅰ
- 第7回 近代教育思想にみる「自然」概念Ⅱ
- 第8回 20世紀の教育論にみる「自然」概念
- 第9回 現代文明のなかの子ども・青少年の健全性の問題
- 第10回 学校教育と教育の本質
- 第11回 その1. 教育課程の観点からみた教育の本質
- 第12回 その2. 教師論の観点からみた教育の本質
- 第13回 子ども・青少年が「大人になる」ということの意味
- 第14回 地域社会の教育的協力体制とこれからの人間形成
- 第15回 学期末試験（教場）論文形式

〔講義のすすめ方〕

分かりやすい説明の講義形式、プリント（講義レジュメ）の配布。

古典研究を基礎とした教育原理の理解から、現代の教育考察へ。
随時レポートを提出させる。

〔教材〕

- ・山崎・石堂監修『教育哲学へのいざない』学術出版、2005（後期に掲示）
- ・その他の文献は、プリントを配布する。読むべき参考文献は、授業中に教示する。
- ・図書館などを活用すること。

〔成績評価の方法・基準〕

総合点

- ①授業中にテーマを出すレポートの評価（後期2回）（20%）
- ②学期末試験（50%）
- ③出席状況（半分以上欠席の場合は自動的に不可）（30%）

〔科目内容の位置付け〕

教職科目の中では、教育原理を履修していれば理想的である。

55 V群	教育心理学	2単位	神戸文朗
----------	-------	-----	------

〔講義目的〕

教育心理学教育心理学の範疇の中で取り上げられるテーマは多岐にわたるが、本講義では人間の発達がどのように進行するかに焦点を当てた内容としようと思う。現代日本社会には発達現象への無知に由来する教育観が根強く存在するだけでなく、誤った（あるいは外的な）教育的介入の結果としての親による乳幼児への虐待や青少年における規範力の低下を示す例には事欠かない。実際、我々は様々な場面で直面する問題を検証されていない「常識的判断」や「自己の価値観」に頼って対処しがちである。しかし、その常識や価値観も決して十分に根拠のあるものとは限らないとしたら、基本に立ち返って発達とはどのような現象なのか、それはどのように進行するのかを正しく理解する必要がある。我々は安直なマニュアル的知識を求めようとするべきではなく、正しい理解とそれに基づく幅広い応用能力を獲得するよう努力するべきである。

本講義では、ピアジェの認知的発達段階説とエリクソンの人生周期説とを発達理論の柱に置く。この2説の理論的立場は必ずしも適合的ではないが、対象領域に関しては相互補完的であり人間の発達を総合的に捉えるのに資すると考える。また、社会化の問題に一項を設け、規範の内化、道徳性の発達、能力感・自尊心・探索行動の関連について考察したい。最後に、いじめ、非行、思春期痩せ症といった応用的側面にも触れたい。

〔講義内容〕

1. 教育心理学とは何か
応用の学問としての教育心理学
教育と発達の原理（環境・遺伝・学習、学習可能性、発達の目的及び方向性、愛着と自立）
2. 認知的発達
ピアジェの理論
感覚運動期
前操作期（前操作的段階・直感的段階）
具体操作期と形式的操作期
同化と調節（循環反応、遊び、模倣）
3. 人格発達
フロイトの理論
精神・性的発達段階
エリクソンのライフサイクル理論

乳児期

幼児期

児童期

青年期（自我同一性、同一性混乱、否定的同一性）

4. 社会化

自我と超自我（母子共生からの離脱・欲求の意識化・社会的規範）

能力感と探索行動・対人交渉能力

道徳性の発達

5. 思春期・青年期の危機

無気力と不登校

いじめ・いじめの構造（攻撃性、社会的順位、社会的学習）

家庭内の葛藤（暴力・思春期痩せ症）

非行

〔講義のすすめ方〕

主として黒板及び口頭での説明を行っていく予定である。

〔教 材〕

一部図表も用意する予定であるが、資料提示は基本的には黒板への書き込みによる。

〔成績評価の方法・基準〕

定期試験の結果に基づき成績評価を行う。出席率は受験資格を満たしているかどうかの判定にのみ使用し、出席率を成績に反映させることはない。得られた得点分布に基づき各人の得点はカテゴリー分類され、それを成績とする。

〔履修のポイント・注意点〕

口頭及び黒板を使つての説明が主となるので諸君は効率よくノートを取って欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

特になし。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提の科目はないが、私の「発達心理学」は関連した内容を含む。

56 V群	体づくり運動指導法	2単位	近藤 智靖
----------	-----------	-----	-------

〔講義目的〕

本科目の目的は、学習指導要領に明示されている「体づくり運動」に関する指導法を学ぶことである。

〔講義内容〕

本科目の内容は概ね二つの柱から成り立っている。

一つは、小学校、中学校、高等学校での「体づくり運動」の授業実践とその理論を検討することである。ビデオ撮影された授業実践について分析を行う。具体的には、学習指導要領で示されている「体力を高める運動」と「体ほぐしの運動」に関して検討を行う。

二つ目は、上記で学んだこと、さらには、「実技理論・実習 体づくり運動」の中で得られた経験を下に、体づくり運動の模擬授業を行い、実践力を培うことである。

〔講義のすすめ方〕

前期の数回は、授業実践の検討と理論を中心に行う。具体的には、縄跳び、Gボール、チャレンジ運動、体気づきの運動等を授業として行う場合、どの点が問題となるのかについて解説をしていく。しかし、単に座学による解説だけでは、具体的なイメージをもてない可能性がある。そのため、運動をしながら学習する場合もある。

後半は、模擬授業を数時間行い、実践力を培う。具体的には、グループ別に活動を行い、簡単な授業の指導案を作成する。学生の中で教師役、生徒役、観察役を決定し、教師役は実際に授業を行う。模擬授業の過程を反省するために、観察者は、ある一定の分析法を用いて授業分析を行う。ただし、3年次以降、体育科教育法においても、模擬授業を行うことを予定している。そのため、本科目においては、できるだけ簡易化した指導案を作成し、模擬授業もあくまで体づくり運動に限定したものとす。

〔教材〕

参考図書 体づくり運動 授業の考え方と進め方 学校体育実技指導資料第7集
文部省編 東洋館出版社 945円

〔成績評価の方法・基準〕

出席(遅刻は減点) 30%
レポート 25%
ポートフォリオ(学習の記録) 25%
毎時間の報告シート 20%

〔履修のポイント・注意点〕

体づくり運動は、現在の学習指導要領においてはじめて位置付いた活動である。そのため、今年度の履修者の多くは、中学校や高等学校時代にこうした内容を経験していない可能性が高い。自らの経験が乏しいにもかかわらず、教育実習で指導をしなくてはならない可能性がある。教育実習等の場面で、困惑しないためにも、さらには教員免許に関わる内容であるということを念頭に置き、真摯な態度で取り組むことを強く要望する。

また、第2時間目以降は、実技を兼ねて行う場合があるので、運動着で来ること。

〔科目内容の位置付け〕

体づくり運動は、中学校、高等学校の保健体育分野の中で必修となる領域であり、どの体育教師であっても指導できなくてはならない。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

本科目は、「実技理論・実践 体づくり運動」(2年次履修)との関連性を持っている。特に、本科目では、どのように指導するのかといった指導方法に焦点化している。

57	道徳教育の研究 (豊かに生きる力を共に探求する)	2単位	斉藤浩一
V群			

〔講義目的〕

日本における心の教育問題を中心として、現状を基本的事項について、事例を示しつつ概説する。

〔講義内容〕

特に以下の各点について、力点を置く。

- 1 心の教育に関する教育改革の歴史
- 2 心の教育の内容
- 3 道徳とは
- 4 生きる力について
- 5 今後の社会の中での問題解決力
- 6 道徳教育の授業の実践と指導案
- 7 「心のノート」の意味と使い方
- 8 まとめ

〔講義のすすめ方〕

アンケートや質問を中心とした対話型の講義。

〔教材〕

本年度は資料を教員が用意することを前提に特になし。

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況を含む平常点、通常のレポート。

〔履修のポイント・注意点〕

真摯な学習態度に心掛けて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕

教職教養試験の準備としての位置づけより、今後、教師としての生き方、児童との係わりを豊かにするための講義として理解していただきたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

心の教育という点で、生徒指導論と連続して履修することが望まれる。

58	特別活動の研究	2単位	生野金三
V群			

〔講義目的〕

特別活動は、各教科、道徳、総合的な学習の時間と共に小学校、中学校、高等学校の教育課程の一領域を占めているが、21世紀を主体的に生きる人間形成を志向する我が国の学校教育において重要視されている。平成10年7月の教育課程審議会答申の特別活動の「改善の基本方針」に「集団の一員としての自覚を深め、児童生徒の個性の伸長と調和のとれた豊かな人間性を育成」「好ましい人間関係の醸成」「協力してよりよい生活を築く」等の「生きる力」を育む重要な要素が掲げられている。

好ましい人間関係の醸成、協力してよりよい生活の構築等を特別活動において強調しているが、それは他者を思いやる心、そして互いに認め合い共に生きていく態度等の豊かな心を持った人間性を育成する中で育まれると言及されている。この豊かな人間性の育成は、「生きる力」の心の教育の側面として極めて重要視されている内容である。

上記のことを踏まえ、本科目では、特別活動の成立と発展、特別活動の内容、特別活動指導法について研究することを目的とする。

〔講義内容〕

本科目では、以下の内容について研究する。

- 1 特別活動の成立と発展
- 2 特別活動の内容
 - ・特別活動の目標の基本的な性格
 - ・特別活動の各内容の特色
 - A 学級活動
 - B 生徒会活動
 - C 学校行事
- 3 特別活動の指導
 - ・特別活動の指導計画
 - ・学習指導案の形式
- 4 学級活動の指導
 - ・学習指導案を基に
- 5 生徒会活動の指導
 - ・学習指導案を基に
- 6 学校行事の指導
 - ・学習指導案を基に

〔講義のすすめ方〕

講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。本科目では、毎回の授業が次の授業へ継続発展していくので、そのことを念頭においておくこと。

〔教 材〕

テキスト 文部省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」ぎょうせい
豊澤弘伸・生野金三「特別活動の研究」学教図書出版会

〔成績評価の方法・基準〕

出席、ポートフォリオ、ミニ課題、ミニテストの四者で評価する。ポートフォリオ、ミニ課題の提出は、予め決められた締め切り日までに生野の研究室に直接持参すること。

〔履修のポイント・注意点〕

出席をとる。授業の3分の2以上出席した受講生を評価対象者とする。

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。

期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録のこと。又は、これまでの学習を凝縮したオリジナルのテキストのこと。）を作成するので、授業内容は随時メモしておく。

〔科目内容の位置付け〕

教職に関する科目として位置付けられている。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

各教科の指導法の科目、道徳教育の研究、教育方法論 I

59 V群	教 育 工 学	2単位	樋口和彦
----------	---------	-----	------

〔講義目的〕

教育の各要素に対して、コンピュータをどのように役立てればよいのかを考えていく。教育パフォーマンスをどのようにして、定量把握するのか、教育データの分析と評価の仕方、コンピュータを活用した教育の在り方、マルチメディア教材活用、DTPR、等を考察する。

〔授業内容〕

次の内容に関して、コンピュータの活用も含めて学んで行く。

- (1) 教育とコンピュータとの関わり
- (2) 教育データの把握と情報処理
- (3) 教育データの基本統計量の処理
- (4) 教育データ間の関連性
- (5) 教育データ間の因果性
- (6) マルチメディア教材とDTPR。

〔授業のすすめ方〕

情報化社会の特徴、教育への影響などの現実を先ず認識する。

つぎにコンピュータを教育のいろいろな場面にいかに活用していくかについての基本的知識技術を学ぶ。このときに実際にコンピュータを操作し、その内容・考え方を確認しながらすすめていく。

〔教 材〕

教科書、指定図書、参考書に関しては、後に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕

毎回の授業への取り組み姿勢を第一に重要視する。

ほぼ毎回授業時間内レポートを提出すること。

レポートは、原則として各テーマ（各項目）に対して提出する。

レポートは、半年に10回程度を予定。

これらに定期試験の結果を加えて総合的に判断する。未提出のレポートがひとつでも有る場合には単位は認定しない。単位認定時のウエイトは以下の様である。

毎回の授業への取り組み姿勢にプラス

レポート： 60%

定期試験： 40%

〔履修のポイント・注意点〕

具体的数値例を多く用いて、授業を進めていくので、各自計算用具を準備し、必ず計算をして、確認しながらまとめていくこと。

将来教職に就くことを希望している諸君に必要な科目であることは当然だが、教育データのコンピュータによる処理と分析を主要テーマとしているので、経営情報コースの内容に最も関連が深い。

〔科目内容の位置付け〕

教員資格の取得を目指している学生にとっての必修科目であり、また今日の教育現場において、教員に対してその理解と実際の能力が益々大きく要求されている事に深い関連がある内容を取り上げる科目である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

特に関連が深い科目として、経営数学、統計学、数理統計学等があげられる。

またコンピュータの活用（プログラムを開発して、教育データを具体的に処理してみる）も取り上げるので、その関連科目とも密接な関連がある。アプリケーションとして、スプレッドシートや開発言語系を使用する。

60 V群	生徒指導Ⅰ (生徒指導の理論)	2単位	中谷陽子
----------	--------------------	-----	------

〔講義目的〕

学校教育の中で、「生徒指導」の分担する領域は徐々に増えつつある。

- ① 誰もが漠然と学校に危機感をつのらせている中での生徒指導の実際について理論と実践を学ぶ。
- ② 誰もが長く就学する時代、直接就労の実際を指導するのではなく、思春期・自分を意識するところから、多角的な就労観や職業観などを盛り込む進路指導の実際を学ぶ。

〔講義内容〕

- ① 生徒指導および教育相談の理論と方法を教育臨床的な立場から主に教師が行う各種相談として学ぶことにする。
- ② 進路指導は、かつての職業指導が中心のあり方から大きく変容し、学校の教育活動全体を通じて行う、現代の青少年の特性を意識した就労観と職業観である。そこには、生徒たちの自己理解から始まる将来にむけての進路指導がみられる。

〔講義のすすめ方〕

- A 生徒指導・教育相談・進路指導について
- B 生徒理解
- C 生徒指導
- D 教育相談
- E 問題行動の理解と対応
- F 進路指導とその進め方

〔教材〕

テキスト 「生徒指導・進路指導」
高橋・石井・熊谷編著
ミネルバ書房（¥2500+tax）

〔成績評価の方法・基準〕

- ① 出席状況
- ② 期末テスト
- ③ その他：授業中に実施する課題に取り組むことによる通常点。

〔履修のポイント・注意点〕

教育職員とは免許状があれば誰でもなれると云うものではない。教職に対する自己の適性を十分に考えて履修することが望ましい。生徒指導の重要性を十分に理解すること。

〔科目内容の位置付け〕

特になし

学生に関心の高い問題の診断やカウンセリングなどの内容は、「生徒指導Ⅱ」（後期）において「教育相談（学校カウンセリングと称して）」実践する。

61 V群	生徒指導Ⅱ (学校カウンセリングの実際)	2単位	中谷陽子
----------	-------------------------	-----	------

〔講義目的〕

- ① 社会の急激な価値観の変化に起因する多くの問題・課題が学校とそこに学ぶ児童・生徒の上に発生してきていることを知る。
- ② 最も発達激しい段階を児童・生徒として過ごす子ども達のストレス・心身の不調・不適応状態を正確に、具体的にとらえる。
- ③ 子どもの苦しみを受け取り、相談に乗り、こころの傷を癒す機能を、地域・家庭以上に「学校と教師」が引き受けなければならないことから、教師の持つ資質と学校教育相談を行う教師の臨床的能力を育てる。

〔講義内容〕

制度化された《学校カウンセリングの場（専門のスクールカウンセラーが受持つ）》には生徒達がやや追い詰められないとやって来ない。しかし一方では、日常的に教師が丁寧に手助けする機会があれば、生徒達の悩みが深刻化するのを防ぐことができる。

講義はこの点を重視する。

〔講義のすすめ方〕

- A 生徒達が抱えてくる多様な問題について対応できることが求められる。
- ・学業や健康上の相談
 - ・家族、友達、いじめなど人間関係上の問題
 - ・不登校など非社会的な問題
 - ・心身症的、神経症的な問題
- B 問題行動に対する理解とその内容に見合った助言・相談・指導が出来ることが求められる。特に反社会的な行動には、慎重に関わることが求められる。
- * 授業では次のようなトレーニングを実施する：
- a カウンセリングマインドの理解
 - b ソーシャルスキルのトレーニング
 - c 教師と生徒の日常生活を再現させ、カウンセリシカかわりや助言の実習をロールプレイの形式で練習する。

〔教材〕

- * 生徒指導Ⅱ用のテキストは指定しない。
- * 指定参考書として
「学校教育相談」丸藤・菅野編著
ミネルヴァ書房
を勧める。

* 教育相談には多様な生徒の状況と事例が存在するので、その一つ一つに対応させて資料をプリントの形で用意するので、《相談の手引き》と称して編集し、自分で使いやすい資料集を作成して実際の相談に役立てて欲しい。

〔成績評価の方法・基準〕

- * 相談力・理解力を授業実習の中で評価。
- * 期末にはレポートの提出を求める。

〔履修のポイント・注意点〕

「技術を学ぶのだ」と思う人が多いが、相談はその精神を十分に理解することが大切である。受講生の人数にもよるが、実習（トレーニングやロールプレイなど）を恥ずかしがったり、嫌がったりして体験しない学生は、単位が取得できないこともあるので、注意して欲しい。

62 V群	総合演習	2単位	近藤智靖
----------	------	-----	------

〔講義目的〕

本科目では、我が国で現在直面する様々な社会的問題、あるいは教育的問題に関わるテーマを設定し、調査、発表、討論を行う。一連の活動を通じて、総合的な問題解決能力の育成、あるいは、その解決方法の学習を目的とする。

〔講義内容〕

〔講義のすすめ方〕

本科目は、教職員免許取得にあたって必修科目となっている。

前期は一人一人が異なった課題を設定し、その課題解決を図ることを中心に据える。その際、パートナー（相談役）との関わりの中で課題設定を行う（ペア学習）。課題設定にあたっては、社会的・教育的問題と大きく関連し、なおかつ将来的な個人の問題と大きく関わるようなテーマを設定する。例えば、異文化理解というテーマを選択した場合、ただ単に英語が話せることがすばらしい、あるいは、海外旅行をたくさんして見聞を広める、海外の珍しい料理を食べるといった表層的な結論を導き出すことでは決してない。異文化を理解することが、自らの生活とどのように直結していくのかについて迫っていくことが必要となる。隣に引っ越してきた外国人が日本の何に疑問を持ち、何を必要としているのか。文化や習慣の違いで悩んでいることは何か。あるいは、なぜ多くの家主が外国人に対してアパートを貸そうとしないのか、といった奥深い社会問題にまで接近する。そして自分ではこの問題に対して何ができるのかといった視点をもってこそはじめて異文化交流の意図が実現できると考える。

後期は、グループ別になり、前期になかった問題、あるいは前期で挙げられていたテーマであっても、さらに調査が必要と思われる共通の課題を設定する。その調査結果を持ち寄り、グループ単位で発表したり、ディベートを行う。

年間を通じて、問題の設定の仕方、調査方法、発表の仕方、討議の仕方など、卒業研究や今後社会人となる上で必要とされる技術を学んでいく。

〔教材〕

インターネット、雑誌等の出版物、聞き取り調査（アンケート・インタビュー）など、個々のテーマによって用いるものが異なる。

〔成績評価の方法・基準〕

出席（遅刻は減点） 30%
 ポートフォリオ（学習記録） 40%
 毎時間の報告シート 15%
 発表 15%
 ※テストは行わない。

〔履修のポイント・注意点〕

本科目は、1時間の授業に対して、数時間の自宅学習が必要となる。そのため、免許取得を希望しない者は履修を避けて欲しい。本科目は、教員免許に関わる内容であるということ念頭に置き、真摯な態度で取り組むことを強く要望する。

学外での調査を必ず行うことを予定している。白鷗大学の学生として多くの社会人の方にインタビューやアンケートを行う。そのため、事前に言葉遣い、礼儀作法、文書の書き方、服装に関しても適宜指導していく。

〔科目内容の位置付け〕

本科目では、履修以前に前提となる知識は特にない。大切なことは自らの問題意識と、その問題を探求する執着心である。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

他科目とは直接的間接的に関連性がある。しかし、他科目の履修から得られた知見を丸写しすることを厳しく禁ずる。



63 V群	日本国憲法 (国家の基本的な法秩序)	2単位	渡邊 亙
----------	-----------------------	-----	------

〔講義目的〕

日本国憲法は、日本という国家の基本的な価値観、政治制度、国民の基本的な権利などについて定めた法である。諸君のほとんどは、学校の授業やマスメディアなどを通じて、日本国憲法についてすでに大なり小なり知識をもっているが、本講義ではそれを確認しながら、つぎの3つの目的を達成したいと考えている。第1は、現在の憲法に関する知識をより豊富で正確なものにすることである。ここでは、憲法の定めている様々な制度、価値観、権利に関する正確な知識を身につけることが目的となる。第2に、憲法の文言には、抽象的で、一読しただけでは意味の分からないものが数多くある(たとえば「主権」、「公共の福祉」)。これらの文言のもつ意味を理解すること、これがつぎの目的である。最後に、憲法の条文の解釈については、専門家の間でもしばしば意見が分かれることがあるが、それがどのようなものであり、なぜ、こうした違いが生じるのかを理解することが目的となる。ここでは、とくに最高裁判所の判例の検討が重要なテーマとなる。この講義を通じて、ひとりの「公民」として必要な知識や教養を身につけ、また、日本国憲法をめぐって生じているさまざまな問題について、自分なりの意見を持てるようになることを目指したい。

〔講義内容〕

基本的に教科書の内容に従って講義をすすめるが、適宜、内容について補足する。講義のテーマは以下のとおりであるが、これに加えてレポートを提出してもらうことを予定している(詳細については、講義のなかで指示する)。

1. 憲法と国家
2. 立憲主義
3. 日本憲法史
4. 戦争放棄
5. 天皇
6. 国会
7. 内閣
8. 裁判所
9. 地方自治
10. 財政
11. 基本的人権
12. 憲法改正

〔講義のすすめ方〕

講義は、上記のテーマについて、その理解のために必要な事項を解説し、受講者がノートを作成する、という形で進められる。そして、ほぼ毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容に関する確認・復習のために、問題演習を行う。問題演習は、前回の授業のノートを参照しながら解答するという形で行われる。

〔教 材〕

【教科書】野畑健太郎ほか編著『テキストブック日本国憲法』(嵯峨野書院、平成17年4月刊行予定)。

その他の文献は、講義中に適宜、指示する。なお、六法を毎回かならず持参すること。

〔成績評価の方法・基準〕

小テスト(20%)、学期末試験(60%)およびレポート(20%)を総合して評価する。単位を取得するレベルに達するためには、ほぼ毎回の授業で行う問題演習で実力を養っておくことが不可欠である。

〔履修のポイント・注意点〕

受講者は、問題演習を通じて、自分の理解できていなかった点、疑問点などを明らかにすることができるので、これらの点を必ず解決するようにしてほしい。

〔科目内容の位置付け〕

社会人(公民)となる上で最低限必要な、国家に関する教養を身につけてもらいたい。

〔前提・関連科目(科目間関連の内容)〕

前提科目はとくにないが、日本史および世界史のなかの、とくに近代に関する知識があることが望ましい。

担当教員別科目索引 (50音順)

担当教員名	科 目 名	頁 区 分	担当教員名	科 目 名	頁 区 分
【あ 行】			岩 城 淳 子	フレッシュマンセミナー……131	児
朝比奈朋子	公 的 扶 助 論……168	児	学 校 保 健 I ……255	ス	
安 達 賢 二	実技理論・実習 サッカー……237	ス	学 校 保 健 II ……256	ス	
荒 井 洸	フレッシュマンセミナー……131	児	発 育 発 達 学……258	ス	
	保 育 原 理 I ……161	児	上 田 高 嘉	生 物 学 A ……124	共
	幼 児 教 育 論……201	児	生 物 学 B ……125	共	
荒 井 弘 高	ソ ル フ ェ ー ジ ュ ……143	児	W. ス ミ ダ	英 語 VI ……76	共
	歌 唱 表 現 ……144	児	内 山 須 美 子	子 ど も の 体 育 ……153	児
飯 田 昌 平	造 形 文 化 論 ……193	児	実技理論・実習 ダンスI ……230	ス	
	造 形 文 化 論 ……262	ス	実技理論・実習 ダンスII ……231	ス	
五 十 嵐 敦 子	教 師 論 ……200	児	大 島 實	社 会 福 祉 援 助 技 術 論 I ……158	児
	教 育 方 法 論 I ……204	児	社 会 福 祉 援 助 技 術 論 II ……159	児	
	教 育 方 法 論 II ……205	児	社 会 福 祉 援 助 技 術 演 習 ……160	児	
	総 合 演 習 ……208	児	大 関 孝 雄	実技理論・実習 バレーボール……233	ス
伊 崎 純 子	精 神 保 健 学 ……180	児	沖 津 直	統 計 学 A ……109	共
	親 子 関 係 の 心 理 ……181	児	統 計 学 B ……110	共	
	心 理 学 基 礎 実 験 ……182	児	奥 澤 信 行	地 理 学 A ……95	共
	心 理 測 定 法 ……183	児	地 理 学 B ……96	共	
	心 理 学 研 究 法 ……184	児	フ レ ッ シ ュ マ ン セ ミ ナ ー ……131	児	
	教 育 相 談 ……207	児	社 会 科 概 説 ……187	児	
	精 神 保 健 学 ……257	ス	落 合 昭 二	算 数 概 説 ……188	児
石 川 悦 久	ド イ ツ 語 II ……80	共	落 合 崇 志	児 童 福 祉 ……156	児
	ド イ ツ 語 III ……81	共	地 域 福 祉 ……171	児	
石 堂 常 世	教 育 原 理 ……133	児	【か 行】		
	教 育 哲 学 ……136	児	何 秋 平	中 国 語 I ……89	共
	教 育 原 理 ……218	ス	粕 谷 圭 司	造 形 ……148	児
	教 育 哲 学 ……221	ス	造 形 教 材 研 究 ……150	児	
	教 育 本 質 論 ……269	ス	加 藤 悦 雄	福 祉 計 画 論 ……174	児
伊 東 孝 郎	心 理 学 A ……111	共	金 田 健 史	フ レ ッ シ ュ マ ン セ ミ ナ ー ……216	ス
	心 理 学 B ……114	共	(実技理論・実習 バスケットボール)……232	ス	
	フ レ ッ シ ュ マ ン セ ミ ナ ー ……131	児	(実技理論・実習 サッカー)……237	ス	
	青 年 心 理 学 ……176	児	生 理 学 ……251	ス	
	臨 床 心 理 学 ……179	児	運 動 生 理 学 I ……252	ス	
	心 理 学 研 究 法 ……184	児	運 動 生 理 学 II ……253	ス	
伊 藤 裕 美	歌 唱 表 現 ……144	児	川 瀬 善 美	フ レ ッ シ ュ マ ン セ ミ ナ ー ……131	児
	音 楽 実 技 I (基 礎) ……145	児	社 会 福 祉 B ……155	児	
今 田 政 成	音 楽 実 技 I (基 礎) ……145	児	福 祉 施 設 経 営 論 ……172	児	
	音 楽 実 技 II (こ だ も の 音 楽) ……146	児	保 育 実 習 の 事 前 事 後 指 導 ……211	児	



担当教員名	科 目 名	頁 区分
	保 育 実 習 I	……212 児
河 原 文 敬	法 学 A	……107 共
川 村 肇	小 児 保 健	……166 児
神 戸 文 朗	心 理 学 A	……112 共
	心 理 学 B	……115 共
	発 達 心 理 学	……175 児
	認 知 心 理 学	……178 児
	心 理 学 研 究 法	……184 児
	教 育 心 理 学	……270 ス
櫛 田 眞 澄	家 庭 科 概 説	……191 児
栗 山 英 樹	競 球(ソフトボール)	……234 ス
C. アマン	フ ラ ン ス 語 I	…… 83 共
	フ ラ ン ス 語 II	…… 84 共
	フ ラ ン ス 語 III	…… 85 共
	フ ラ ン ス 語 IV	…… 85 共
G.T.ハマダ	英 会 話 I	…… 62 共
	英 会 話 II	…… 68 共
黒 澤 和 人	数 学 A	……121 共
小 久 保 裕	絵 画 表 現 法	……149 児
小 林 正 人	英 語 VII	…… 77 共
近 藤 智 靖	実 技 理 論・実 習 体 づ くり 運 動	……238 ス
	体 づ くり 運 動 指 導 法	……271 ス
	総 合 演 習	……277 ス

【さ 行】

齋 藤 一 人	ス ポ ー ツ と 健 康	……152 児
	野 外 運 動 A	……196 児
	野 外 運 動 B	……197 児
	実 技 理 論・実 習 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	……232 ス
	野 外 運 動 A	……265 ス
	野 外 運 動 B	……266 ス
斉 藤 浩 一	道 徳 教 育 の 研 究	……202 児
	生 徒 指 導 論	……206 児
	道 徳 教 育 の 研 究	……272 ス
齊 藤 武 利	フ レ ッ シ ュ マ ン セ ミ ナ ー	……216 ス
	(実 技 理 論・実 習 テ ニ ス)	……235 ス
	実 技 理 論・実 習 ラ グ ビ ー	……236 ス
	ト レ ー ニ ング 論	……259 ス
	(ト レ ー ニ ング 実 習 I)	……260 ス

担当教員名	科 目 名	頁 区分
	ス ポ ー ツ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 論	……261 ス
J.カーシャンマン	英 会 話 I	…… 67 共
	英 会 話 II	…… 72 共
渋 川 美 紀	コ ン ピ ュ ー タ 実 習	……138 児
	コ ン ピ ュ ー タ 実 習	……223 ス
生 野 金 三	国 語 概 説	……186 児
	特 別 活 動 の 研 究	……203 児
	総 合 演 習	……209 児
	特 別 活 動 の 研 究	……273 ス
ジョイス S. ツノダ	英 会 話 I	…… 64 共
	英 語 III	…… 73 共
新 川 清 治	英 語 VIII	…… 78 共
宋 台 植	コ リ ア 語	…… 92 共

【た 行】

高 橋 節 子	ス ペ イ ン 語 I	…… 86 共
	ス ペ イ ン 語 II	…… 87 共
	ス ペ イ ン 語 III	…… 88 共
	ス ペ イ ン 語 IV	…… 88 共
高 橋 美 保	フ レ ッ シ ュ マ ン セ ミ ナ ー	……131 児
	乳 児 保 育	……165 児
竹 島 克 己	フ レ ッ シ ュ マ ン セ ミ ナ ー	……216 ス
	実 技 理 論・実 習 陸 上 運 動 I	……224 ス
	実 技 理 論・実 習 陸 上 運 動 II	……225 ス
	競 技 ス ポ ー ツ 理 論	……249 ス
	ト レ ー ニ ング 実 習 I	……260 ス
都 築 淳	保 育 内 容 研 究 (身 体 表 現)	……140 児
	保 育 内 容 演 習 (身 体 表 現)	……142 児
椿 本 昇 三	実 技 理 論・実 習 水 泳	……228 ス
富 田 英 也	音 楽 実 技 I (基 礎)	……145 児
	音 楽 実 技 II (こ だ も の 音 楽)	……146 児

【な 行】

中 谷 陽 子	心 理 学 A	……113 共
	心 理 学 B	……116 共
	心 理 学 研 究 法	……184 児
	お も ち や 論	……195 児
	お も ち や 論	……264 ス
	生 徒 指 導 I	……275 ス



担当教員名	科目名	頁	区分
	生徒指導Ⅱ	276	ス
中村祐司	体育社会学	242	ス
	スポーツ行政論	243	ス
中山昌樹	保育内容研(人間関係)	139	児
	保育内容演習(人間関係)	141	児
中山万里子	養護内容	164	児
根岸洋人	障害者福祉論	169	児
野田俊太郎	基礎デザイン	151	児
	福祉デザイン	173	児
野間明紀	実技理論・実習 テニス	235	ス
	体育測定評価	250	ス

【は行】

P. Nawa I u	実技理論・実習 ラグビー	236	ス
馬場将光	教育総論	132	児
	教育制度論	134	児
	比較教育論	135	児
	教育総論	217	ス
	教育制度論	219	ス
	比較教育論	220	ス
早田一子	小児保健実習	167	児
針生進	文学 B	102	共
樋口和彦	教育工学	274	ス
平木真快	中国語Ⅱ	90	共
	中国語Ⅲ	91	共
	中国語Ⅳ	91	共
平田乃美	フレッシュマンセミナー	131	児
	教育心理学概論	137	児
	環境心理学	177	児
	心理学研究法	184	児
	心理学実験調査法	185	児
	教育心理学概論	222	ス
福崎淳子	保育原理Ⅱ	162	児
福嶋稔	救急法	198	児
	救急法	267	ス
福田由紀子	音楽実技Ⅰ(基礎)	145	児
藤井和彦	レクリエーション実技	199	児
	フレッシュマンセミナー	216	ス
	(実技理論・実習 陸上運動Ⅰ)	224	ス

担当教員名	科目名	頁	区分
	(実技理論・実習 陸上運動Ⅱ)	225	ス
	体育経営管理学	241	ス
	レクリエーション理論Ⅰ	247	ス
	レクリエーション理論Ⅱ	248	ス
	レクリエーション実技	268	ス
細田一秋	社会心理学 A	117	共
	社会心理学 B	118	共
細野英夫	環境科学 A	119	共
	環境科学 B	120	共
	理科概説	189	児
堀江潤一	生活科概説	190	児
本多麻子	体育心理学	240	ス

【ま行】

M.M. リオン	英語 IV	74	共
益子州出男	音楽実技Ⅰ(基礎)	145	児
益子詔次	公衆衛生学	254	ス
益田勇一	美学 A	103	共
	美学 B	104	共
	フレッシュマンセミナー	131	児
	美術史	192	児
松本由美子	音楽実技Ⅰ(基礎)	145	児
的場哲朗	ドイツ語Ⅰ	79	共
	ドイツ語Ⅳ	82	共
	倫理学 A	97	共
	倫理学 B	98	共
三田寺裕治	老人福祉	170	児
宮里恭子	英語 V	75	共
宮原均	法学 B	108	共
向井千代子	文学 A	101	共
村尾元忠	歴史学 A	93	共
	歴史学 B	94	共
森田明美	社会福祉	154	児
師啓二	物理学 A	122	共
	物理学 B	123	共

【や行】

山中定雄	児童福祉 B	157	児
	養護原理	163	児



担当教員名	科 目 名	頁 区 分
山本厚太郎	社 会 学 A	……105 共
	社 会 学 B	……106 共
横田順子	児 童 文 学	……194 児
	児 童 文 学	……263 ス
吉田裕昭	リトミック入門	……147 児
吉田茂	実技理論・実習 器械運動Ⅰ	……226 ス
	実技理論・実習 器械運動Ⅱ	……227 ス
	体 育 原 理	……239 ス
	運 動 学 Ⅰ	……244 ス
	運 動 学 Ⅱ	……245 ス
	スポーツコーチング総論	……246 ス
蓬田正郎	実技理論・実習 柔道	……229 ス

【ら 行】

L.J.ラインボールド	英 会 話 Ⅰ	…… 65 共
	英 会 話 Ⅰ	…… 66 共
	英 会 話 Ⅱ	…… 70 共
	英 会 話 Ⅱ	…… 71 共

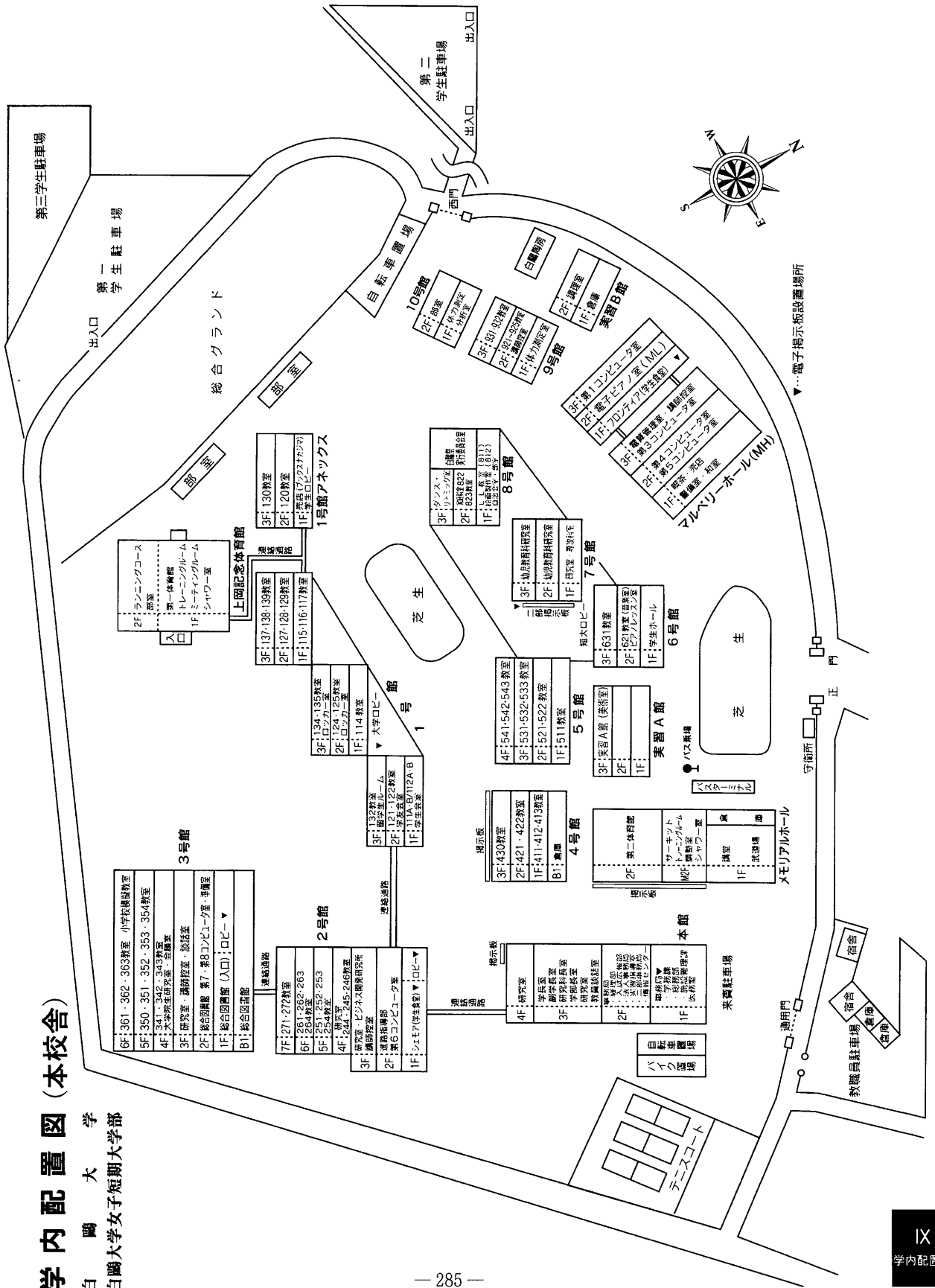
【わ 行】

渡辺 忠	哲 学 A	…… 99 共
	哲 学 B	……100 共
渡邊 亙	日 本 国 憲 法	……210 児
	日 本 国 憲 法	……278 ス

IX 学内配置図

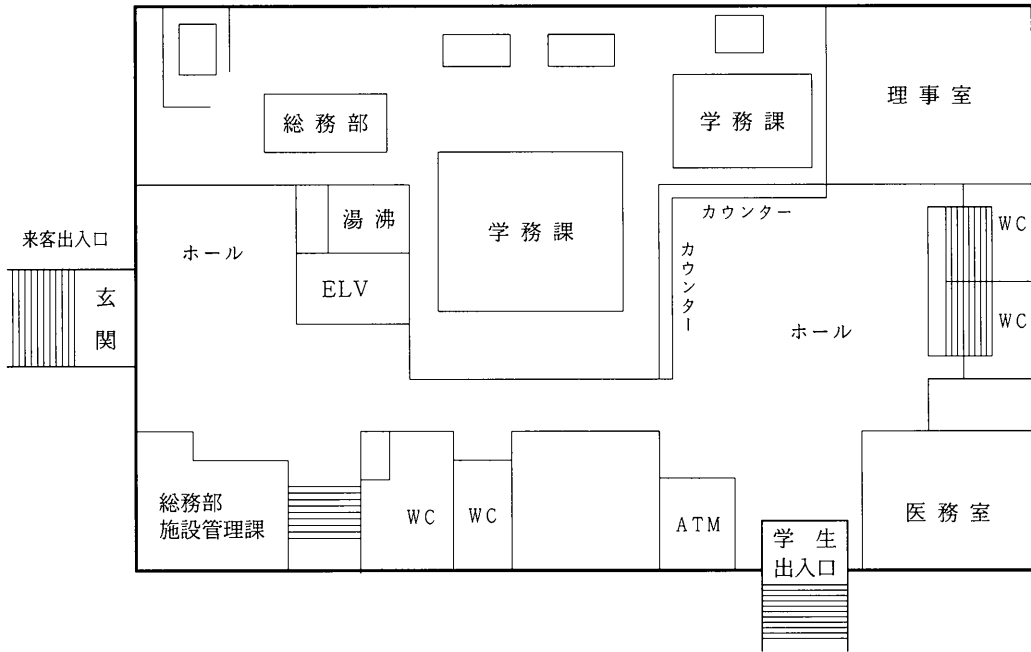
学内配置図 (本校舎)

白鷗大 学
白鷗大学女子短期大学部

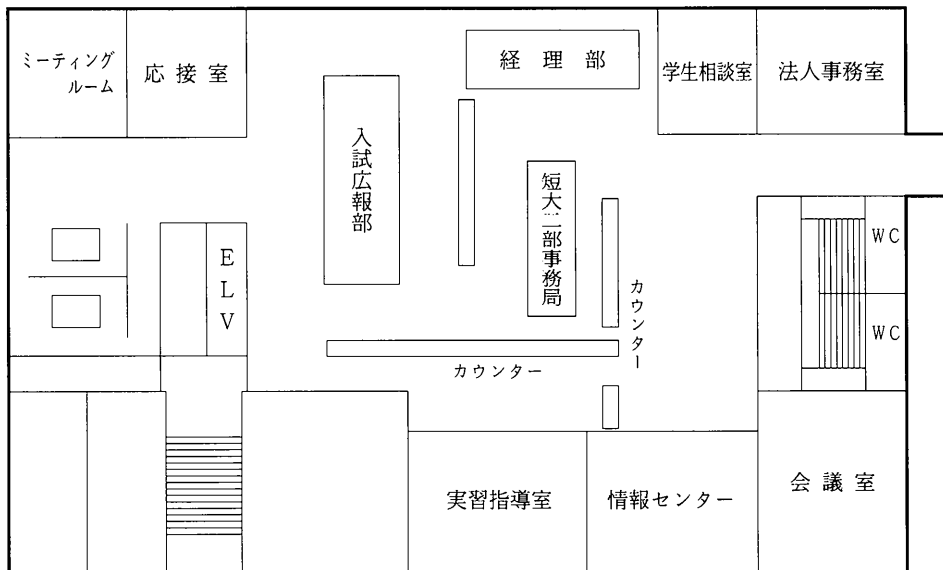


本館配置図

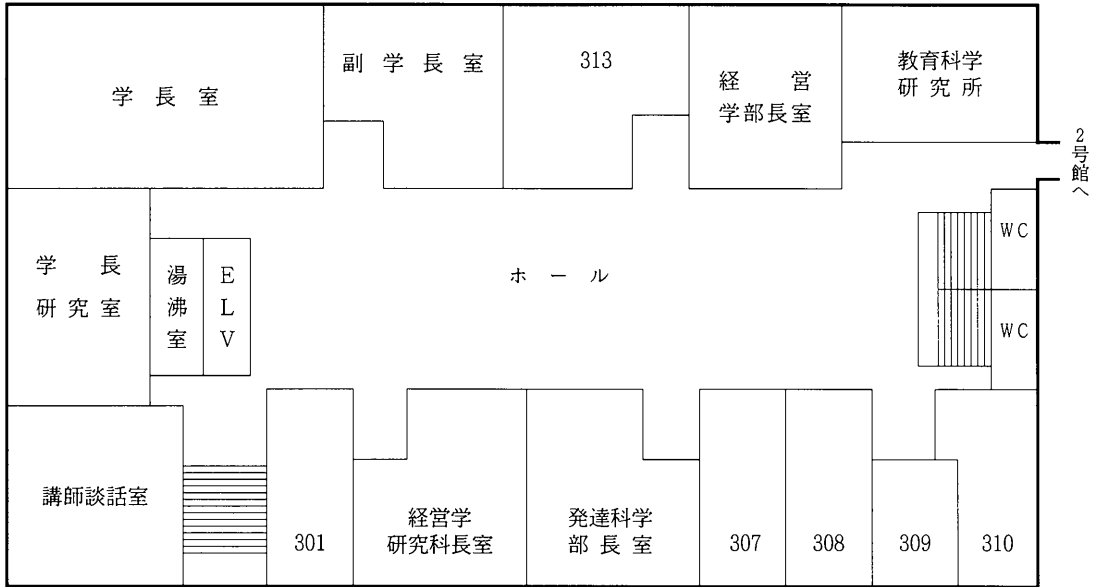
1 F : 事務局



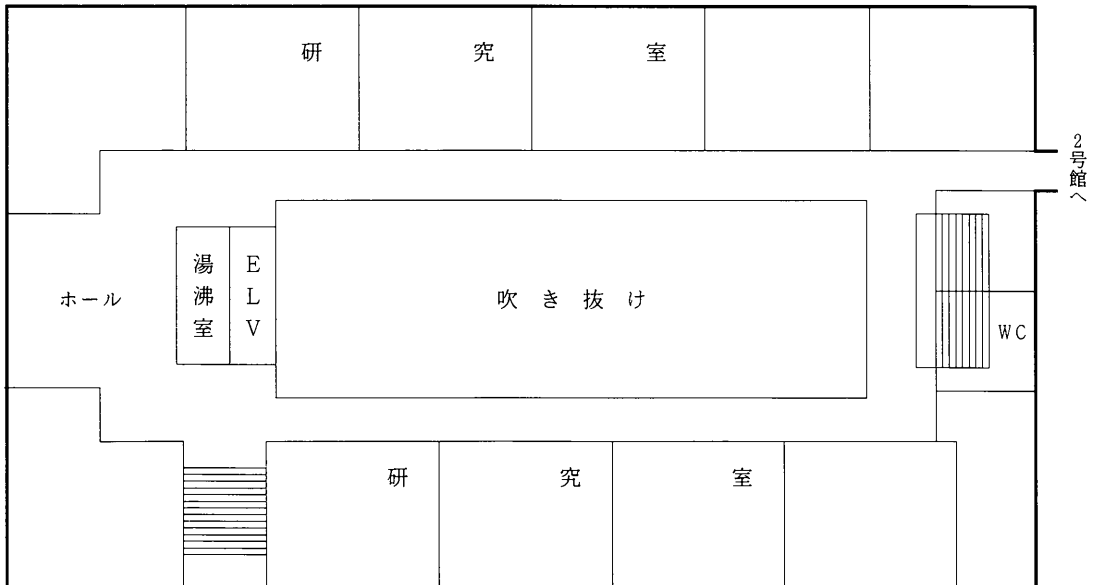
2 F : 事務局



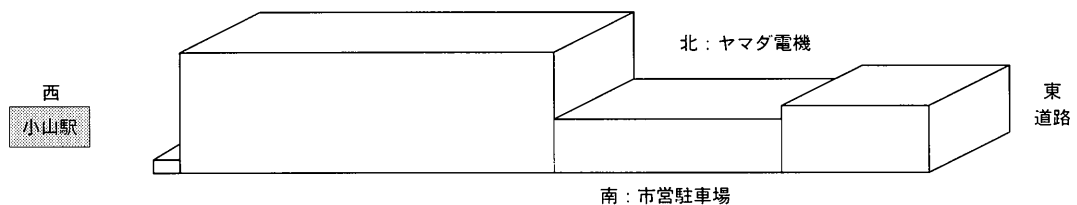
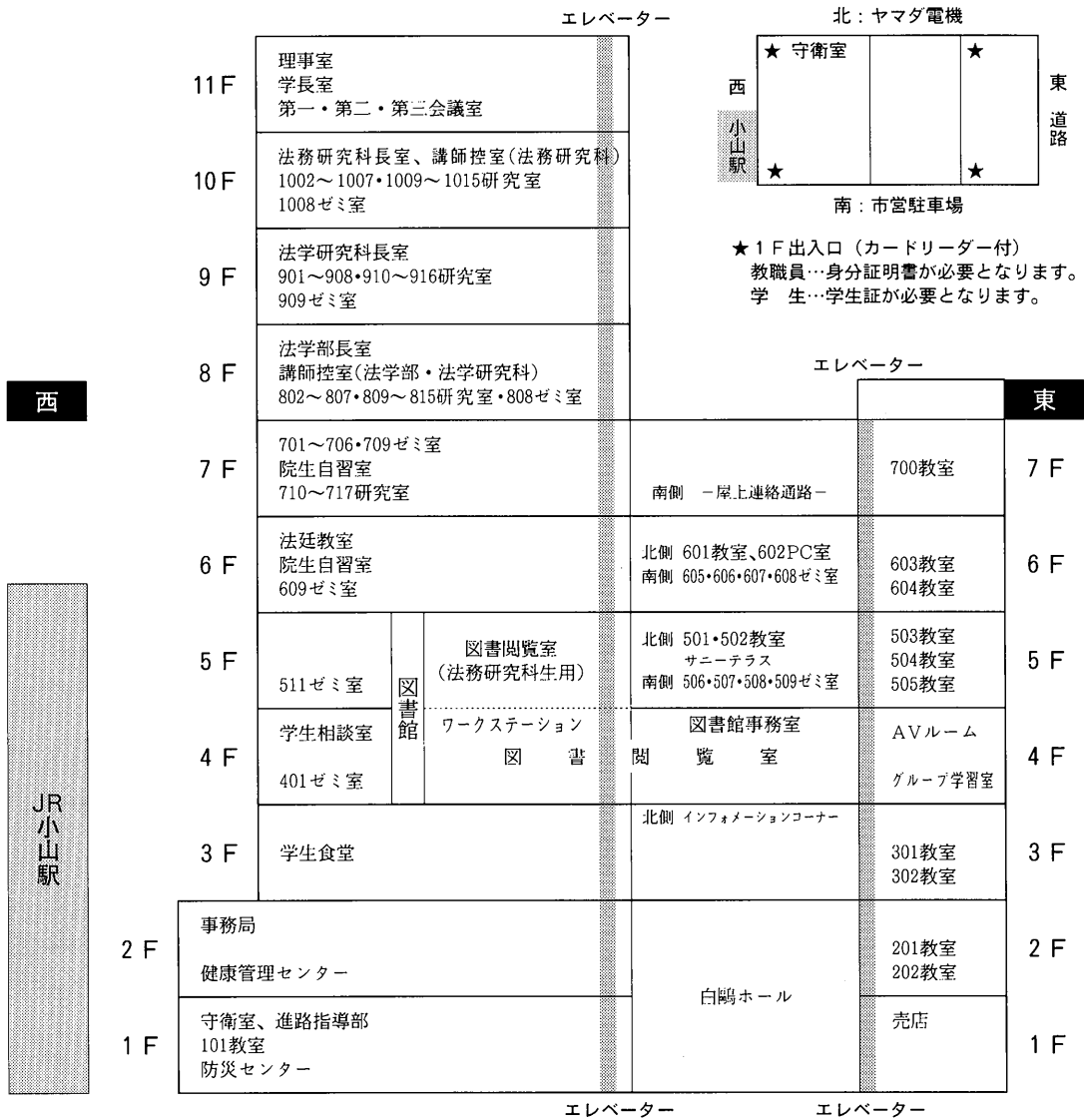
3 F



4 F



東キャンパス フロア案内図 (2005. 4. 1 現在)



2005(平成17)年度 時間割作成表

※同一日の本校舎と東キャンパスとの授業については、移動時間の必要上連続した時間の履修は不可能であるので、その場合の履修登録は認められない。ただし、昼休みをはさむ場合は、この「時間割作成表」は、各自作成し、オンライン履修登録時に必ず持参すること！

曜日	開講	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 時限 9:00~10:30	通年 前期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
	後期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
2 時限 10:40~12:10	通年 前期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
	後期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
3 時限 13:05~14:35	通年 前期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
	後期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
4 時限 14:45~16:15	通年 前期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
	後期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
5 時限 16:25~17:55	通年 前期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
	後期	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当	科目(本・東) 担当
集中科目	開講時期	科目(本・東)	科目(本・東)	科目(本・東)	科目(本・東)	科目(本・東)	科目(本・東)
	科目名称	科目(本・東)	科目(本・東)	科目(本・東)	科目(本・東)	科目(本・東)	科目(本・東)

2005年度 履修要綱

白鷗大学 発達科学部 発達科学科 児童教育専攻・スポーツ健康専攻

平成17年4月1日 発行

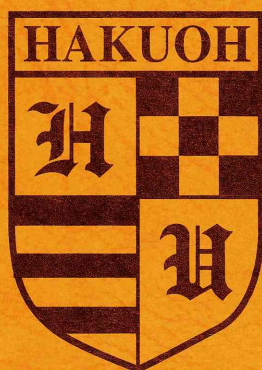
編集・発行 白鷗大学事務局

〒323-8585

栃木県小山市大行寺1117番地

電話 0285-22-1111(代表)

ホームページ <http://www.hakuoh.ac.jp/>



緑のチェッカーは五大陸を、
青いストライプは三大洋を表し、
広く世界を見つめる姿勢を表現しています。

白鷗大学 発達科学部

〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117番地

☎(0285)22-1111(代)

2005年度
(平成17年度)
vol.2